

平成24年度

B&G財団 活動実績報告書



目標を大幅に上回る寄付金が集まりました

寄付金総額 **9,510,984円**

皆様のご協力ありがとうございました

「エール FOR 日本」とは

広く国民から寄付を募り、被災地へのスポーツ用品の寄贈や被災地ジュニアアスリートのロンドンオリンピック招待、スポーツの力で被災地を笑顔にする活動、日本代表選手が練習するナショナルトレーニングセンター（NTC）の器材の充実などを行う日本オリンピック委員会と日本財団の東日本大震災の復興支援プロジェクトです。



チャリティーグッズのB&G TシャツをユニフォームにしてB&G全国大会に参加



日本財団の笹川会長からJOCの竹田会長に「エール FOR 日本」寄付金の目録が贈呈されました



ロンドン五輪ボクシングミドル級メダリストの村田諷太選手「NTCがなければ金メダルもなかったと思う」と語る。左はB&G財団 梶田会長



集った募金の全額を寄付

日本財団 笹川会長 に目録を贈呈

皆様にご協力いただきました「エール FOR 日本」～ロンドンに力を。被災地に笑顔を。～のチャリティーグッズにつきましては、多くの海洋センター・海洋クラブにご購入いただきました。B&G財団と海洋センター・海洋クラブから寄せられた寄付金の総額は9,510,984円となり、当初の予想を大きく上回りました。

H24年7月10日と9月12日には、B&G財団 広渡 理事長から日本財団 笹川 会長に目録を贈呈し、全額を日本財団の「エール FOR 日本」に寄付いたしました。



日本財団 笹川会長(右)に目録を贈呈するB&G財団 広渡理事長(左)

B&G財団理事 中村真衣氏が団長

～ 被災地のジュニアアスリート 20人がオリンピックで日本選手団を応援 ～

H24年8月1日から8日の日程で「エール FOR 日本」に集まった寄付金を活用し、茨城・福島・宮城・岩手の被災地4県から選出されたジュニアアスリート20人がロンドンオリンピックの視察団として派遣され、シドニーオリンピック女子100m背泳ぎ銀メダリストでB&G財団理事の中村真衣氏が団長を務めました。視察団は、女子トライアスロン、卓球女子団体準々決勝、女子マラソン、男子ハンマー投げ決勝、男子100m決勝、女子サッカー準決勝などの競技を観戦しました。



平成24年度

海洋センター・海洋クラブ重点事業

B&G財団は、平成24年4月1日から公益財団法人としてスタートしました。

B&G財団は、青い海（ブルーシー）と緑の大地（グリーンランド）を活動の場として、青少年の健全育成をはじめ、幼児から高齢者まで地域住民の皆様の“心とからだの健康づくり”を応援しています。（全国の海洋センター年間利用人数：1,029万人）

★は活動助成金対象事業

青少年の健全育成に関する事業

自然体験

海と自然と集団生活による体験学習活動

- ★●B&G体験クルーズ(小笠原)
- ★●B&G海洋体験セミナー(沖縄)

自然体験を通して親子の絆を深める活動

- ★●親子と子のふれあいキャンプ
 - 親子ふれあい体験セミナー
 - 野外体験活動レベルアップ研修会

水に親しむ活動

- アクセスディンギーフェスタ
- プールでOPヨット体験

大会・交流

大会・交流活動

- ★●2012B&G OP級ヨット大会
 - 東日本大会：愛知県蒲郡市
 - 西日本大会：大分県別府市
- ★●B&G杯 全国少年少女カヌー大会
 - 山梨県富士河口湖町(精進湖)
- ★●B&G 全国ジュニア水泳競技大会
 - 東京辰巳国際水泳場
- ★●全国ウォータースポーツ大会
 - 北日本大会：石川県七尾市
 - 南日本大会：鹿児島県天城町
- 国際ジュニア親善ヨット大会
～日本・韓国・中国～
※福岡・釜山・上海の持ち回り開催

自然環境・安全教育

学校教育と連携した普及活動

- ★●水に賢い子どもを育む年間型活動プログラム

水の安全教育・海事知識の普及活動

- 水辺の安全教室

新規 海の環境を守る植樹教育活動

- 海を守る植樹教育
(指導者の養成、育苗・植樹支援)

助成金の交付・支援活動

- 海洋センター施設修繕助成（通常災害）
- 舟艇器材の追加・再配備
- 事業活動助成

幼児から高齢者までの心身の健康づくりに関する事業

幼児運動プログラム

- ★●アクアリズム運動プログラム
- ★●フロアリズム運動プログラム

中高年齢運動プログラム

- 生活習慣病予防運動プログラム

高齢者運動プログラム

- ★●転倒・寝たきり予防プログラム

指導者の養成に関する事業

指導者養成

- アドバンス・インストラクター養成研修
- アクア・インストラクター養成研修

指導者研修

- ★●指導員研修会
- ★●レベルアップ研修会
- ★●帆船研修

B&G全国指導者会

- 第2回B&G全国指導者会総会

B&G人材バンク

- ★●人材バンク事業

ネットワーク活用事業

より高度な公益事業を目指す3大会議

- 第5回「B&G全国サミット」
- 第9回全国教育長会議
- ★●教育長・責任者
海洋センター・海洋クラブ活性化会議

第5回「B&G全国サミット」開催

(詳細は72頁)

今、海洋センターに求められていること

～ 東日本大震災からの復興・地域の活性化に向けて ～

全国334自治体から204人の首長をはじめ副首長・教育長など670人が出席

平成25年1月31日(木)

笹川記念会館 (東京都港区)

海洋センター所在392自治体の85%にあたる334市町村の首長や教育長などが出席。B&Gネットワークを通じて被災地の復興支援および地域の活性化を目指し連携協力する“共同宣言”が再確認された。

特別基調講演

「内向き思考の日本人」

日本財団 笹川 陽平 会長



「日本人の内向き思考は政治やマスコミに見られるもので、企業や国民は内向きではない。日本はもっと正しい情報を海外に発信するべきで、日本財団でもWEBを通じて積極的に対外発信に努めていく」と語った。



主催者挨拶

B&G財団 会長 梶田 功



「B&G財団は今年で40周年を迎える。これまでの活動成果と今後の事業について説明させていただくとともに、被災地の復興支援を継続していきたい」と挨拶し、出席者の協力を呼びかけた。

海洋センター施設修繕助成 (日本財団助成事業)

(詳細は47頁)

平成24年度は45海洋センター 47施設に対して

総額 6億3千2百40万円 を助成

★★★ 全国27ヵ所で「修繕助成決定書授与式」開催 ★★★

修繕助成金額が1,000万円を超える27の自治体に対して決定書の授与式を実施した。



平成24年5月16日、福島県本宮市に緊急復旧修繕助成金を交付。B&G財団広渡 英治 理事長(左)から高松 義行市長(右)に決定書が手渡された。

被災地への緊急復旧修繕

B&G財団では被災地支援として、平成23年度から修繕費用の70%を助成する緊急復旧修繕を実施。これまでに5県8自治体に助成金を交付した。



写真：大震災における原発災害で放射線数値が高くなったことによる“プール上屋シートの全面張替”を行った福島県本宮市白沢B&G海洋センター

日本財団をはじめボートレース業界のご理解により、平成21年度から海洋センター修繕助成の“助成率と助成金限度額”を大幅に拡大して実施している。

第9回「B&G全国教育長会議」 ～ ブロック幹事・道府県代表者 ～ 開催

(詳細は76頁)

子どもたちに今、求められる力 ～ 知育・徳育・体育 バランスのとれた教育から ～ 全国の44道府県から44人の教育長など83人が出席

44道府県連絡協議会を代表する教育長および全国10ブロック連絡協議会の新旧幹事自治体の教育長・担当者を対象に開催。地域の教育事例とともに“体罰問題”を共有し、子どもたちの生きる力の育成など「B&Gプラン」を推進する提言が採択された。



主催者挨拶

B&G財団 会長 梶田 功



「いじめや体罰などの社会問題とともに、子どもの生きる力の育成も喫緊の課題となっている。教育長の皆様の忌憚のないご意見をいただきたい」

平成25年2月14日(木)
15日(金)
日本財団ビル(東京都港区)

基調講演：「教育再生の課題」

明星大学 教授 高橋 史朗 氏



「教育再生の取組みは、国家百年の大計に立ち、家庭教育と幼児教育という教育再生の根と幹に焦点を当てた抜本的改革が必要である」

「教育長・責任者 海洋センター・海洋クラブ活性化会議」開催

(詳細は79頁)

子どもたちに生きる力を ～ 海洋センター・海洋クラブの役割 ～ 全国10ブロックで開催、184人の教育長を含む801人が参加

次年度に向けて情報を共有し、効果的に事業を推進することが目的。子どもたちの生きる力の育成をテーマとした教育長による事例発表をはじめ、次年度の財団事業説明やB&G全国指導者会からの報告、優良海洋クラブの表彰ほか、講演会や研修会などが行われた。



平成24年10月11・12日 関東ブロックを皮切りに全国で開催

首長2人、教育長19人を含む69人が出席して開催された関東ブロックの会議

主催者挨拶



B&G財団
理事長 広渡 英治

来賓挨拶



関東ブロックB&G地域海洋
センター連絡協議会 会長
栃木県芳賀町 豊田 征夫 町長



埼玉県嵐山町
岩澤 勝 町長

第2回 B&G全国指導者会総会 開催

(詳細は67頁)

育てよう生きる力、届けよう笑顔と元気 未来を担う子どもたちのために、B&G指導者が力を結集

平成25年1月26日(土)
笹川記念会館(東京都港区)

全国1万7千人のB&G指導員による日本一の海洋性レクリエーション指導者組織「B&G全国指導者会」。その第2回目の総会を開催し、活動報告・事例発表や優良指導者会および指導者の表彰とともに今後の活動に向け結束を誓った。



511人の指導者が参加

主催者挨拶

B&G財団 会長 梶田 功



「熱い心と志を持ってB&Gプランの推進にお力添えをいただきたい」

B&G全国指導者会会長

青森県南部町長 工藤 祐直



「地域の指導者が事業に取り組みやすい環境を整えていきます」

基調講演：「B&G指導員に期待すること」

ロンドン五輪セーリング競技日本代表コーチ
B&G財団テクニカルアドバイザー

小松 一憲 氏



「アドバンスト／アクア・インストラクター養成研修」開催

(詳細は58頁)

新たに81人の指導者が誕生！！

青少年育成、地域住民の健康づくりを目指しスタートラインに立った指導者たち

全国の海洋センターで「B&Gプラン」推進の核となる指導者を養成。全国の海洋センター(自治体)から推薦された81人が、水泳やマリンスポーツをはじめ、安全教育から環境学習までの幅広い知識と指導技術を習得、「青少年健全育成」および「地域住民の健康づくり」に活躍が期待される。

アドバンスト・インストラクター： 41人 H24年6月1日～7月5日(35日間)

アクア・インストラクター： 38人 H24年6月1日～23日(23日間)

※インストラクター養成研修(10日間)も同時に開催、2人のインストラクターが誕生



この研修は「環境保全活動・環境教育推進法」に基づく「人材認定事業」として、環境大臣と国土交通大臣から認定されている。

指導者研修会

(詳細は63頁)

指導技術・ノウハウや最新情報を提供し指導者の資質を向上 「指導員研修」「レベルアップ研修」「帆船研修」に310人が参加

「B&G指導員研修会」

全国215海洋センターから
257人が参加



H25年1月25日・26日
笹川記念会館（東京都港区）

— 実践で役立つ様々な講義・講演 —

基調講演：

「スポーツで子どもたちの夢を育もう」

講義：

「スポーツ施設の安全管理」

「超高齢社会におけるロコモティブシンドローム

と認知症の予防を目指した身体運動」

「水辺の事故防止と安全普及活動の継続」

B&G財団では、指導者の養成とともに資格取得後も指導員の資質向上のための研修を行っている。平成24年度は「B&G指導員研修」「B&Gレベルアップ研修」「帆船研修」に合計310人のB&G指導員が参加、最新の知識・情報、指導技術などを学んだ。

「B&Gレベルアップ研修会」

カヌー・ヨット・水泳など幅広い
種目に3カ所合計44人が参加



「帆船研修」

世界最大級の帆船「海王丸」
5日間の研修に9人が参加



兵庫県神戸港から香川県高松港までの航海を通じて、海の大自然を体感する貴重な研修となった。

「B&Gドリームキャンプ」開催

(詳細は44頁)

将来のオリンピック選手の育成目指し4カ所で開催 B&G全国大会優勝チームの所在県に一流講師を派遣し直接指導

H24年度から「カヌー」「OPヨット（東日本・西日本）」「水泳」のB&G全国大会で優勝したチームの所在地に講師を派遣し開催。選手および指導者112人が参加した。

OPヨット：小松 一憲 氏（ロンドン五輪セーリング競技日本代表コーチ）
講 師 水 泳：中村 真衣 氏（シドニー五輪 100m背泳ぎ銀メダリスト）
カヌー：持田 雅誠（アトランタ五輪日本代表、B&G財団職員）

ヨット

H24年10月6・7日
津市伊勢湾海洋スポーツセンター
（三重県）



ヨット

H24年12月1日
松山市堀江海岸（愛媛県）



水泳

H24年10月13・14日
姫路市家島B&G海洋センター
（兵庫県）



カヌー

H24年11月24・25日
飯塚市立大分小学校
クラブハウス（福岡県）



全国に広がる水の事故ゼロ運動

(詳細は24頁)

「水の事故ゼロ」を目指して首都圏で“水の安全教育” 東京臨海副都心と都内の小学校13校で「水辺の安全教室」開催

親子連れなど200人が
マリンスポーツを楽しみ“水辺の安全”を学ぶ

平成24年7月7日、東京お台場海浜公園でカヌーやウィンドサーフィンなどのマリンスポーツをはじめ“水辺の安全教室”ほか生物観察などが行われ、親子など約200人が参加した。



マリンスポーツ体験



海上保安庁による救助デモンストレーション

都内13の小学校で
1,123人の児童が“水辺の安全教室”に参加

B&G財団では、都内の小学校のプールを活用してカヌー体験やライフジャケット浮遊、紙芝居などによる“水辺の安全教室”を実施、平成24年度は1,123人の児童が参加した。



カヌー



ライフジャケット浮遊



紙芝居

全国の海洋センター・海洋クラブで「水辺の安全教室」開催 平成24年度は全国で1,956教室が開催され6万1千人が参加

全国の海洋センター・海洋クラブ、ブロックおよび道府県連絡協議会や指導者会などで“水の事故ゼロ運動”の一環として「水辺の安全教室」を開催した。

	海洋センター	海洋クラブ	合計
実施カ所数	237カ所	162カ所	399カ所
実施教室数	733教室	1,223教室	1,956教室
参加者総数	33,113人	28,232人	61,345人



北海道古平町



愛媛県愛南町御荘



熊本県玉名市岱明



青森県南部町名川



日本の“水の事故ゼロ”に向けて オーストラリアン・ウォーターセーフティー協議会(AWSC)と業務提携を締結 昨年度の事前協議を経て実現、相互情報交換とAWSC主催の国際会議に出席

(詳細は24頁)



業務提携の調印
左：AWSC ロブ・ブラッドリー 議長
右：広渡 英治 WSN代表幹事



AWSCが主催する
「水の安全会議」に出席

主な視察先

- ・ロイヤルライフセービング協会
- ・サーフライフセービング協会
- ・シドニーオリンピックパークアクアティックセンターほか

新たに植樹教育事業がスタート

(詳細は35頁)

“海を守り、人の命を守る 森づくり” を推進する体験型環境学習
平成24年度は全国22カ所（19海洋センター・3海洋クラブ）で実施

この事業は、日本の次代を担う子ども達への自然環境・防災教育の普及が主な目的。大きな特徴は「宮脇方式」と呼ばれる“その土地本来の樹木による森づくり”で、津波や地震・火災などの災害に強い“海と人の命を守る本来の森づくり”を推進する“体験型学習事業”にある。



岩手県普代村「植樹祭」



事業の指導を依頼している
横浜国立大学名誉教授
(公財)地球環境戦略研究機関
国際生態学センター長
宮脇 昭氏

徳島市植樹祭には地元のボート
レース選手4人が参加



日本モーターボート選手会 徳島支部
左から
島村 隆幸選手・赤池 修平選手
坂田 麻衣選手・支部長 岡部 浩選手

「植樹リーダー研修会」を開催し指導者を養成



H24年5月17・18日
神奈川県平塚市

事業を導入する海洋セン
ター・海洋クラブから27
人が参加。
植樹に関する様々なノウ
ハウを学んだ。

B&G親と子のふれあいキャンプ

(詳細は20頁)

親子で学び楽しむ 野外の共通体験

全国10ブロック 30カ所で開催したキャンプに190組670人が参加

H24年7月～H25年3月

各10ブロックに所在するキャンプ場など

(財)小野田自然塾の協力を得て開催。日常生活では体験できない、自然と触れ合うさまざまな野外プログラムを通じて感動を共有し、親子の絆を深めた。



茨城県大子町



テントを張る親子
(大分県杵築市)



ナイフの使い方を学ぶ
(埼玉県松伏町)

「野外体験活動 レベルアップ研修会」を開催



H24年4月23・24日
秋川渓谷（東京都）

全国から参加した10人の
指導員が様々な技術やノ
ウハウを学んだ。

「B&G 全国ジュニア水泳競技大会」開催

(詳細は37頁)



水泳の聖地「東京辰巳国際水泳場」で練習成果発揮
25道県から508人のジュニアスイマーが参加、11種目で大会新記録誕生

平成24年8月18日
東京辰巳国際水泳場（東京都江東区）

参加者

全国25道県連絡協議会
78海洋センター
選手総数508人

兵庫県2連覇を達成!!



総合優勝：兵庫県 2位：埼玉県 3位：栃木県
※B&G財団 広渡 英治 理事長（左）から優勝杯が手渡された



昨年優勝した兵庫県チームの森田幸佑君、濱田凜さんが元気に選手宣誓を行った

“模範泳法”と「水辺の安全教室」

シドニーオリンピック女子100m背泳ぎ銀メダリストの中村真衣氏が模範泳法を披露。またペットボトルや棒を使った救助法なども紹介。



「B&G杯 全国少年少女カヌー大会2012」開催

(詳細は39頁)



オリンピック選手も小学生時代に活躍した全国大会
21都府県から32チーム122人のジュニア選手が参加!

平成24年7月28日・29日
山梨県 富士河口湖町 精進湖

日本で唯一の小学生カヌーの全国大会

参加者

B&G海洋センター・海洋クラブ
からは12チーム52人が参加



ドリームキャンプの切符は5・6年生普及艇の部で優秀な成績を収めたB&G穂波海洋クラブが手にした。B&G財団 古山 常務理事（左）からドリームキャンプ開催地決定書が手渡された



“水辺の安全教室”や“ワンポイントレッスン”“試乗会”も開催



元オリンピック選手で財団職員の持田雅誠のレッスン



体験試乗会にも多くの子どもたちが参加



「水辺の安全教室」にも家族で参加

「2012 B&G OP級ヨット大会」開催

(詳細は40頁)



初心者から上級者まで、ジュニアセーラーがヨットレースを満喫
東日本・西日本大会に22府県、海外1カ国から196人が参加



東日本大会

平成24年7月14日・15日
愛知県蒲郡市「海陽ヨットハーバー」
参加者：10府県21クラブ、97人

ヨットを通じた子どもたちの交流を目的とするこの大会は、初心者から世界を目指す上級者まで、誰もがヨット技術のレベルに応じたレースに参加できることが大きな特徴である。
西日本大会では韓国の「B&G釜山海洋クラブ」からも参加し国際交流の輪が広がった。



西日本大会

平成24年7月15日・16日
大分県別府市「北浜ヨットハーバー」
参加者：12県16クラブ、99人
※B&G釜山海洋クラブ3人



～「水辺の安全教室」～
ペットボトル救助体験



B&G釜山海洋クラブの参加者たち
写真左は
B&G財団 広渡 英治 理事長



～「水辺の安全教室」～
紙芝居で水の安全を学ぶ

「全国ウォータースポーツ大会」開催

(詳細は42頁)



大自然の中、親子が助け合いながら3種目の競技に挑戦
第3回目を迎えた北日本・南日本大会に 親子85組 170人が参加

第3回 北日本大会

ひよっこり能登島ななお大会



平成24年7月28日・29日
石川県七尾市
参加者：親子48組96人

“親子の絆 ^{ひか}輝る汗”をテーマとするこの大会は、地元自治体の主催、日本トライアスロン連合・日本ライフセービング協会・B&G財団の共催により開催。第3回大会では、北日本大会・南日本大会合わせて85組の親子170人が、心地良い汗を流しながら、絆を深めた。

第3回 南日本大会

あまぎフェスティバル



平成24年8月11日・12日
鹿児島県天城町
参加者：親子37組、74人



ペアマラソン



ペアカヌー



バディレスキュー

「B&G体験クルーズ（小笠原）」

（詳細は16頁）



世界自然遺産の小笠原へ、ラストクルーズ！

東日本大震災の被災地から14人の子どもたちを招待

全国から集まった488人が寝食をともにしながら小笠原の海と自然を満喫

平成25年3月25日～30日（5泊6日）

行程：東京晴海～小笠原諸島父島

参加者：全国の小学4年生～中学3年生

チャーター客船“ふじ丸”の引退に伴い、今回が最後のクルーズとなった。被災地から招待した14人を含む488人の子どもたちが、洋上研修や小笠原の自然にふれる様々な体験活動を通じて友情を育んだ。



小笠原の澄み切った海でマリンスポーツを体験する子どもたち



洋上から鳥島の自然を観察



念願のザトウクジラにも会えました

「2012 B&G広報大賞」

（詳細は86頁）

応募総数1,999件の中から広報大賞と優秀賞を決定

積極的な広報活動を実践している海洋センターや海洋クラブを表彰

10回目となる今回は、1,999件の応募の中から優秀賞として、4部門14センター、1クラブ、5人が受賞。その中から2012広報大賞に1ヵ所が選ばれた。



各分野の専門家により厳正な審査会が行われた

「2012B&G広報大賞」に輝いたのは

『和歌山県 B&G和歌浦海洋クラブ』（テレビの部）



第5回「B&G全国サミット」で表彰された和歌浦海洋クラブ 中村 和哉代表（右）
左は 岸 ユキ 審査委員長

テレビ和歌山「あっと！テレわか」の番組（H24年10月15日放送）で、海洋クラブの子どもたちが自分たちの活動を6分間にわたり熱心に紹介。笑顔あふれたその内容が高い評価を得た。

受賞部門・受賞数

部門	優秀賞	大賞
「テレビの部」	5ヵ所	1ヵ所
「新聞の部」	5ヵ所	
「地域広報の部」	2ヵ所	
ケーブルテレビ	(1ヵ所)	
地域広報誌	(1ヵ所)	
「ホームページの部」	3ヵ所	
「特派員の部」	5人	

※審査員特別賞として2ヵ所が受賞した

B&G海洋クラブの話題

(詳細は114頁)

新たに3カ所の海洋クラブが誕生！ 全国の登録総数は281

「B&G恵那海洋クラブ」

豊かな自然が残る岐阜県のダム湖を拠点に、カヌーを中心として活動しているクラブ。

- クラブ員数：30人
- 活動場所：阿木川ダム湖



「B&G新居浜海洋クラブ」

愛媛県の新居浜マリーナを拠点に、ジュニアクラスのOP級のヨットを中心に活動しているクラブ。

- クラブ員数：30人
- 活動場所：新居浜マリーナ



「B&G長洲海洋クラブ」

熊本県の有明海に面し、雲仙普賢岳を眺めながらカヌーとヨットの活動を行っているクラブ。

- クラブ員数：34人
- 活動場所：姫が浦



国際交流活動!!

海外にある海洋クラブとの国際交流

「B&G釜山海洋クラブ」(韓国)が国際ジュニアヨットレースを通じて日本のジュニアセーラーと国際交流を実施。



2012福岡・上海・釜山ジュニア親善ヨット大会



2012 OP級ヨット大会(西日本)大会に釜山クラブ員が参加、交流を深めた

全国で年間延べ約1,029万人が利用

(詳細は97頁)

“東日本大震災”の復興とともに総利用人数が昨年度より6万人増加

平成24年度の総利用人数は 10,287,166人で、前年度より6万人(+0.6%)の増加となった。艇庫は約2万1千人(-6.9%)減少したが、プールおよび体育館は天候が比較的安定したこと、大震災による被災地海洋センターの復興などもあり、プールが対前年度約4万4千人(+1.1%)、体育館が対前年度約3万8千人(+0.6%)増加した。

★★★ 施設別利用人数上位海洋センター (ベスト3) ★★★

艇庫：29万人(288,281人)
 プール：406万人(4,058,812人)
 体育館：594万人(5,940,073人)
 総合計：1,029万人(10,287,166人)

施設名	第1位	第2位	第3位
艇庫	本部町(沖縄県)	滝川市(北海道)	宮津市(京都府)
プール	芦屋市(兵庫県)	坂井市丸岡(福井県)	芳賀町(栃木県)
体育館	上郡町(兵庫県)	石狩市(北海道)	徳島市(徳島県)

第1章 事業報告編

第1 青少年の健全育成に関する事業	16
1. 自然体験・環境教育活動	16
(1) B&G「体験クルーズ」	16
(2) B&G「海洋体験セミナー」「親子ふれあい体験セミナー」	18
(3) 親子ふれあいプログラム	19
(4) 水に親しむ活動	22
(5) 水の安全教育・海事知識の普及	24
(6) 学校教育等と連携した水辺での体験プログラムの普及	32
(7) 海を守る植樹教育の普及	35
(8) B&Gクリーンフェスティバル	37
2. 大会・交流活動	37
(1) B&G全国スポーツ大会	37
(2) B&G「ドリームキャンプ」	44
(3) 交流支援	46
3. 助成・活動支援	47
(1) 海洋センター施設整備等	47
(2) 海洋クラブ登録と器材配備等	50
(3) 事業活動助成	53
(4) その他支援	53
第2 幼児から高齢者までの心身の健康づくりに関する事業	55
1. 幼児の心身の健康づくりを目指した運動プログラムの普及	55
(1) 幼児運動プログラム講習会	55
(2) 運動能力測定システムの運用	56
(3) 幼児運動プログラムモデル・導入センター講習会	56
2. 中高年の生活習慣病予防を目指した運動プログラムの提供	56
3. 高齢者の健康づくりを目指した運動プログラムの普及	57
(1) 転倒・寝たきり予防プログラム講習会	57
(2) 転倒・寝たきり予防プログラムモデルセンター講習会	57
第3 指導者の養成に関する事業	58
1. 指導者養成	58
(1) アドバンスト・インストラクター養成	58
(2) アクア・インストラクター養成	60
(3) インストラクター養成	62
(4) リーダーおよびジュニアリーダー養成委託	62
2. 指導者研修会	63
(1) 指導員研修会	63
(2) レベルアップ研修会	64
(3) 帆船研修	64
(4) 指導者会の活動促進	65
3. B&G人材バンク	70
講師・指導者の派遣	70

第4 ネットワーク構築と調査研究事業 72

1. ネットワーク構築 72
 - (1) 情報ネットワークに係る活動 72
 - (2) 人的ネットワークに係る活動 72
 - (3) 海洋性レクリエーション団体との協力事業構築のための調査 82
 - (4) 職員相互の派遣研修 83
2. 調査研究等の活動 84
 - (1) 先駆的な事業等に対する支援協力 84
 - (2) 事業成果の分析・評価 84
 - (3) B&G財団中長期事業計画策定の調査研究 84
3. 広報活動 85
 - (1) マスメディアによる広報 85
 - (2) ウォーターセーフティニッポンと連携した広報 85
 - (3) 自治体・海洋センター職員「B&G特派員」による情報発信 85
 - (4) インターネットを活用した情報の発信 86
 - (5) 「B&G広報大賞」の選出と表彰 86
 - (6) 広報誌「アンドリーニュース」の発行 90
 - (7) B&Gオリジナルグッズの製作・販売 90

第2章 統計データ編

第1 海洋センターの運営・活動状況 92

1. 海洋センターの活動状況 92
2. 海洋センター評価 93
 - (1) 平成24年度「年間評価」(前年度対比) 94
 - (2) 海洋センター年間評価5カ年の推移 94
 - (3) 平成24年度「年間評価」(類型別) 95
3. 利用人数 97
 - (1) 利用人数(施設全体) 97
 - (2) 施設別利用人数(艇庫/プール/体育館) 97
4. 利用人数の各種統計データ(詳細) 99
 - (1) 平成24年度 施設別・県別 年間利用人数(前年度比較) 99
 - (2) 年度別・県別・ブロック別 年間利用人数(過去5年間比較) 100
 - (3) 平成24年度 海洋センター施設別利用人数(ベスト50) 101
 - (4) 海洋センター月別利用人数(全国合計) 102
 - (5) 平成24年度「海洋センター利用者 施設別利用形態」(全国合計) 104
 - (6) 平成24年度「海洋センター施設別・利用形態別利用人数」(ベスト10) 105
5. 「本部町B&G海洋センター」の活動 106

第2 海洋クラブの運営・活動状況 108

1. 海洋クラブの活動状況 108
 - (1) 海洋クラブ数 108
 - (2) 海洋クラブ員数 109
 - (3) 海洋クラブ活動人数 109
 - (4) 海洋クラブ活動日数 110
 - (5) ブロック別海洋クラブデータ 110
2. 海洋クラブ評価 111
平成25年度「海洋クラブ評価」(H24年度実績) 112
3. 平成24年度 海洋クラブ活動人数(ベスト50) 113
4. 新規海洋クラブ紹介 114

第3 海洋センター・ブロック連絡協議会の運営・活動状況…… 116

1. ブロック連絡協議会の活動状況 ……………	116
(1) 「ブロック連絡協議会総会」への海洋センター参加率 ……………	116
(2) 「ブロック連絡協議会」運営費等の状況 ……………	117
(3) 「B&G全国スポーツ大会」参加状況 ……………	118
(4) 「親と子のふれあいキャンプ」参加状況 ……………	118
(5) ブロック別「指導者会」設置状況 ……………	119
(6) 広報活動状況（B&G特派員） ……………	119
2. 利用人数 ……………	120
(1) 平成24年度「海洋センター利用人数」のブロック別傾向 ……………	120
(2) 平成24年度「海洋センター利用形態」のブロック別傾向 ……………	121
3. 評価の傾向 ……………	123
(1) 平成24年度「年間評価」のブロック別傾向 ……………	123
(2) ブロック別「海洋センター年間評価」の推移（過去7年間） ……………	126

1. 海の日アンケート調査 ……………	128
2. B&G財団役員一覧 ……………	132
3. 平成24年度「地域海洋センター修繕助成」一覧 ……………	134
4. 平成24年度「舟艇等の追加・再配備」一覧 ……………	136
5. 平成24年度「活動助成金」一覧 ……………	138
6. 「B&G指導者会」県別一覧 ……………	145
7. 「B&G人材バンク」登録者一覧 ……………	146
8. 平成24年度 AD・AQ養成研修 参加者一覧 ……………	148
9. 平成24年度「B&G全国大会」等参加一覧 ……………	149
10. 平成24年度 海洋センター現況調査地ほか ……………	151

平成24年度 主な新聞等掲載記事 ……………	153
------------------------	-----

「B&G全国指導者会」活動方針・活動目標（平成25年～平成27年） ……………	160
---	-----

第9回「B&G全国教育長会議」の提言

第5回「B&G全国サミット」共同宣言

第3章 参考資料編

凡 例

本書における法人の略称は以下のとおり

公益財団法人：（公財）

公益社団法人：（公社）

一般財団法人：（一財）

一般社団法人：（一社）

特定非営利活動法人：NPO法人

第1章 事業報告編



第1 青少年の健全育成に関する事業

自然体験の多い小・中学生ほど、道徳観や正義感が身につく傾向にあり(注1)、自主性や自立心、社会性や学習意欲の向上にも良い影響がある(注2)ことが明らかになっている。B&G財団は“礼と節”を身につけた青少年の豊かな人間性を養うため、海や緑の自然体験の機会を提供するとともに、自分の命を自分で守る“自助意識”を高める「水の安全教育」を推進している。また、「B&Gプラン」を推進する全国の海洋センター・海洋クラブなどに対して、当財団が建設した施設の修繕や海洋性レクリエーション器材の配備などのハード、活動プログラムなどを提供するソフトの両面から様々な助成・支援を行っている。

(注1) 独立行政法人国立青少年教育振興機構による調査 (注2) B&G財団「海洋教育事業 自然体験活動の効果に関する調査」

1. 自然体験・環境教育活動

(1) B&G「体験クルーズ」(日本財団助成事業)

大型客船による航海や寄港地での海洋性レクリエーション活動を通じて、「海・船・自然」を体験させ、環境保全等への意識の高揚および海事知識の普及とともに、団体生活を通じて協調性や社会性を育み豊かな人間形成を図ることを目的に実施した。

37年間にわたって続けられてきたこのB&G体験クルーズ事業は、チャーター客船“ふじ丸”の引退に伴い、平成24年度をもって事業を休止することになった。

最後のクルーズには、東日本大震災の被災地から招待した14人の子どもたちや小笠原で合流した現地の子どもたち12人を含め、計488人が参加。天候にも恵まれる中、子どもたちは、船内研修や洋上研修、寄港地小笠原での海と緑の自然に触れる活動など、6日間にわたる貴重な体験をした。

期 間：平成25年3月25日(月)～3月30日(土) 6日間

場 所：小笠原諸島 父島(東京都小笠原村)

後 援：内閣府・文部科学省・国土交通省・東京都・
ウォーターセーフティー ニッポン(WSN)・
一般社団法人共同通信社

対 象：全国の小学4年生～中学3年生

人 数：488人

※小笠原村の児童12人、東日本大震災の被災地児童14人、B&Gブロックスポーツ大会優秀選手25人、および「水に賢い子どもを育む年間型活動プログラム」導入小学校児童8人の計59人を招待した。

ボランティアスタッフ：24人

・ボランティアリーダー 12人(20歳以上の成人)
・ジュニアボランティアリーダー 12人(乗船経験のある16歳から19歳)

内 容：船内での「海」「船」「自然」に関する学習、寄港地である世界自然遺産小笠原諸島 父島ではカヌーやスノーケリングなどの海洋性レクリエーション活動および自然体験活動など。平成24年度は、前年度に引き続いて、東日本大震災で甚大な被害を受け、未だ海での活動が困難なB&G海洋センター所在の5自治体から14名の児童を招待し、「子どもたちに笑顔を～日本元気復活事業～」と位置づけて実施した。



クルーズならではのデッキウォッシュも体験



東日本大震災被災地から参加した14人には、仲間が寄せ書きしたTシャツがプレゼントされた

日 程	
1日目	結団式・海洋観察・ウエルカムパーティー他
2日目	レクリエーション・デッキランチ・海洋観察・小笠原の自然学習他
3・4 日目	(寄港地活動) ○自然体験：ホエールウォッチング・ウミガメ学習・トレッキング・東日本大震災復興祈念植樹 ○マリンスポーツ体験：スノーケリング・ライフセービング・カヌー他
5日目	船内活動：海洋観察・船長講話・ワークショップ・フェアウエルパーティー他
6日目	海洋観察・解団式

3月25日（1日目）

ふじ丸の船内で結団式が行われた



東京都晴海(中央区)のターミナルに
全国から子どもたちが集合

3月26日（2日目）

鳥島に生息するアホウ鳥を観察



大海原を見ながらの
デッキランチで交流を深めた

3月27日～28日（3～4日目）

“マリンスポーツ” や “トレッキング”、“ウミガメ学習” など様々な自然体験を行った。



スノーケリング



カヌー



ライフセービング



参加者全員で
「震災復興祈念植樹」を行った



漁船に乗ってザトウ
クジラを真近で観察

3月29日（5日目）

クルーズの振り返りを漢字の作字で表現する
ワークショップ



フェアウエルパーティーで
別れを惜しんで涙する子どもたち

3月30日（6日目）

ワークショップで最優秀賞を獲得した12組の「光海」:
“航海”とお互いの気持ちの“公開”の意味が含まれている



解団式で参加メンバーを代表して、
お礼の言葉を述べる8組の内田樹里さん

(2) B&G「海洋体験セミナー」「親子ふれあい体験セミナー」

(日本財団助成事業)

沖縄での海洋性レクリエーションや自然体験活動および規律ある集団生活を通じて、友情や親子の絆を深めるとともに、ルール・マナー、礼節などの社会性を育むことを目的に実施した。

平成24年度は「海洋体験セミナー」を4行程(A～D行程)実施。また、「親子ふれあい体験セミナー」は台風9号及び11号の影響により予定していたプログラムの一部を変更して実施した。全国から312人の青少年と15組31人の親子が参加した。

期 間：平成24年7月25日(水)～8月21日(火) 5行程 各4泊5日

※親子行程は3泊4日の予定であったが延泊により4泊5日

場 所：沖縄県 本部町B&G海洋センター(マリンピアザオキナワ) および本島中北部地区

後 援：国土交通省・文部科学省・沖縄県教育委員会・ウォーターセーフティーニッポン(WSN)

対 象：【海洋体験セミナー】小学5年生～中学3年生の男女 /計312人

【親子ふれあい体験セミナー】小学3年生～6年生とその保護者 / 15組31人

内 容：カヌーやヨット、スノーケリングなどの海洋性レクリエーション、マングローブ林の観察などの自然体験学習、沖縄ものづくりなどの文化・水辺の安全学習体験を実施。また、平成24年度新規プログラムには沖縄の文化学習として備瀬のフクギ並木見学、環境学習としてサンゴの植え付け、マングローブの植樹を行った。

※昨年度と同様に、東日本大震災の復興支援として、「子どもたちに笑顔を～日本元氣復活事業～」と位置づけて実施し「復興祈念植樹」を行った。

行 程

行程	時 期	発着空港	参加者
A	平成24年7月25日(水)～7月29日(日)	羽田・伊丹・高松空港	76人
B	平成24年7月29日(日)～8月 2日(木)	新千歳・中部国際・福岡空港	77人
親子	平成24年8月 2日(木)～8月 6日(月) ※台風11号の影響により一部行程変更 ※復路便が欠航のため1日延泊(6日解散)	羽田・那覇空港	31人
C	平成24年8月 7日(火)～8月11日(土)	旭川・仙台・鹿児島空港	83人
D	平成24年8月17日(金)～8月21日(火)	羽田・広島・伊丹空港	76人
合 計			343人

実施概要

【海洋体験セミナー】

日程	主 な 研 修 内 容	行 程	宿泊
1日目	<ul style="list-style-type: none"> ▶沖縄紹介・オリエンテーション ▶フク木並木見学 	各空港→那覇空港→マリンピアザ オキナワ	ホテル マリ ン ピ ア ザ オ キ ナ ワ
2日目	<ul style="list-style-type: none"> ▶ヨット・カヌー・バナナボート・半潜水艇・イルカプログラム ▶沖縄ものづくり体験 ジェルキャンドル等、3種類より選択 ▶海洋生物の専門家によるゼミナール 	マリンピアザ オキナワ	
3日目	<ul style="list-style-type: none"> ▶美ら海水族館見学 ▶スノーケリング・サンゴ植付・水辺の安全教室等 ▶環境専門家によるゼミナール 	美ら海水族館 マリンピアザ オキナワ	
4日目	<ul style="list-style-type: none"> ▶マングローブの自然観察・カヌー体験、東日本大震災復興祈念植樹 ▶沖縄伝統芸能「エイサー」体験等 	ネイチャーみらい館(金武町) マリンピアザ オキナワ	
5日目	▶首里城公園見学・ショッピング	マリンピアザ オキナワ→那覇→那覇空港→各空港	

【親子ふれあい体験セミナー】

日程	主な研修内容	行程	宿泊
1日目	<ul style="list-style-type: none"> ▶沖縄ものづくり体験 ジェルキャンドル等、3種類より選択 ※台風9号の影響で伊江島行きフェリー欠航のため予定を変更してものづくり体験を実施 	羽田空港→那覇空港→マリニピアザオキナワ (伊江島宿泊からマリニピアザオキナワに変更)	ホテル マリニピアザオキナワ
2日目	<ul style="list-style-type: none"> ▶沖縄料理づくり体験 ▶古宇利島観光 ▶美ら海水族館見学・沖縄フルーツランド見学 	マリニピアザオキナワ	
3日目	<ul style="list-style-type: none"> ▶ヨット・カヌー・バナナボート・半潜水艇 ▶イルカプログラム ▶沖縄伝統芸能「エイサー」体験等 	美ら海水族館 マリニピアザオキナワ	
4日目	那覇国際通り自由行動・ショッピング	マリニピアザオキナワ→那覇国際通り→那覇セントラルホテル ※台風11号の影響で航空便が欠航したため那覇セントラルホテルにて延泊	セ ン ト ラ ル ホ テ ル
5日目	延泊	那覇セントラルホテル→那覇空港→羽田空港	



海洋性レクリエーション活動
(バナナボート)



東日本大震災復興祈念植樹



「水辺の安全教室」
(ペットボトル浮遊体験)



沖縄ものづくり体験



親子で沖縄料理づくり



親子カヌー体験

(3) 親子ふれあいプログラム

“親と子の絆”を通じた青少年問題への取組みとして、青少年への自然教育で実績のある財団法人 小野田自然塾の協力により、全国10ブロックで開催した「親と子のふれあいキャンプ」への支援を行った。また、プログラム展開の担い手となる指導者の資質向上のための研修会を実施した。

ア. 野外体験活動「レベルアップ研修会」の開催

キャンプにおけるプログラムの目的や理念、全体の指導法について再確認するとともに、事業で活用できるアイテムづくり等を通して指導の資質向上を図った。

期 間：平成24年4月23日(月)～24日(火)
場 所：日本財団ビル2階 会議室（東京都港区）、
秋川渓谷 コテージ森林村

参加者：10人

内 容：講演（講師：財団法人小野田自然塾 理事 原 充男 氏）

講義（講師：財団法人小野田自然塾 三輪 浩尉 氏）

事業説明、指導用教材の作成、事業の企画・立案、助成金申請方法等説明



イ. 「親と子のふれあいキャンプ」の開催支援

親子を対象に全国10ブロックで「親と子のふれあいキャンプ」を開催し、(財)小野田自然塾の指導者および財団職員の派遣等の支援を行った。また、全国8ブロック連絡協議会に対し、運営助成金383,886円の助成を行った。

H23年度「親と子のふれあいキャンプ」実施一覧

ブロック	開催日	開催場所	参加者数
北海道	8/ 9(火)～ 8/10(水)	北海道小平町「望洋台キャンプ場」	5組 10人
	7/ 7(土)～ 7/ 8(日)	北海道美幌町「みどりの村キャンプ場」	7組 16人
	8/18(土)～ 8/19(日)	北海道「大樹町海洋センター艇庫」	3組 7人
東北	8/ 7(火)～ 8/ 8(水)	青森県六戸町「小川原湖青年の家」	7組 34人
	8/ 4(土)～ 8/ 5(日)	宮城県川崎町「みやぎ蔵王セントメリースキー場」	6組 18人
	8/18(土)～ 8/19(日)	秋田県「能代市海洋センター艇庫」	4組 9人
関東	11/23(金)～11/24(土)	埼玉県「松伏町海洋センター」	31人
	8/11(土)～ 8/12(日)	栃木県那須塩原市「塩原グリーンビレッジ」	6組 20人
	10/13(土)～10/14(日)	茨城県大子町「グリーンヴィラ」	6組 14人
北陸	9/ 8(土)～ 9/ 9(日)	富山県砺波市「上和田緑地キャンプ場」	6組101人
	3/ 9(土)～ 3/10(日)	石川県「白山市鶴来海洋センター」	23人
	9/29(土)～ 9/30(日)	福井県あわら市「吉崎小学校」	6組 17人
中部	11/25(土)	静岡県川根本町「三ツ星キャンプ場」	7組 18人
	10/6(土)	三重県菰野町「尾高高原キャンプ場」	9組 21人
	9/ 8(土)～ 8/ 9(日)	三重県熊野市「瀨流荘対岸の河根の川原(北山川)」	9組 22人
近畿	9/15(土)～ 9/16(日)	兵庫県「姫路市家島海洋センター」	6組 12人
	7/14(土)～ 7/15(日)	兵庫県「南あわじ市南淡海洋センター艇庫」	8組 19人
	10/13(土)～10/14(日)	和歌山県串本町「潮岬青少年自然の家」	4組 8人

ブロック	開催日	開催場所	参加者数
中国	8/ 3 (金)～ 8/ 5 (日)	島根県雲南市「中央公園ふれあいの丘」	10組 26人
	9/15 (土)～ 9/16 (日)	岡山県瀬戸内市「長船美しい森」	2組 8人
	9/22 (土)～ 9/23 (日)	鳥取県日野町「せせらぎ水辺公園」	3組 14人
四国	8/25 (土)～ 8/26 (日)	愛媛県松山市 「姫ヶ浜ビーチ 長師海の駅 中島味館鉄人の里」	10組 24人
	9/ 1 (土)～ 9/ 2 (日)	香川県小豆島町「ふるさと村キャンプ場」	9組 23人
	10/27 (土)～10/28 (日)	徳島県海陽町「まぜのおかオートキャンプ場」	4組 20人
北九州	10/20 (土)～10/21 (日)	大分県杵築市「横岳自然公園」	5組 11人
	8/ 4 (土)～ 8/ 5 (日)	長崎県佐世保市 「長崎県立世知原少年自然の家 (キャンプ場)」	10組 26人
	8/25 (土)～ 8/26 (日)	佐賀県神埼市「仁比山公園キャンプ村」	3組 7人
南九州	7/28 (土)～ 7/29 (日)	宮崎県日南市「栄松ビーチ」	6組 36人
	7/26 (土)～ 7/29 (日)	熊本県「美里町砥用海洋センター」	18組 44人
	3/ 9 (土)～ 3/10 (日)	沖縄県本部町「もとぶ元気村」	11組 31人
合 計			190組670人 (30ヵ所)



テントを張る親子
(徳島県海陽町)



ロープワークを学ぶ
(茨城県大子町)



食事の準備をする親子
(埼玉県松伏町)



カナディアンカヌーも
体験 (静岡県川根本町)

「親と子のふれあいキャンプ」実績

年度	回数	参加人数	
		組	人数
平成19年度	1	8	16
平成20年度	10	73	172
平成21年度	19	138	372
平成22年度	29	179	443
平成23年度	24	178	461
平成24年度	30	190	670
累計	113	766	2,134

(4) 水に親しむ活動

安全教育の一環として、レスキューの要素を取り入れた競技やヨットの初心者を対象とした各種イベントを開催し、海洋センター・海洋クラブの活性化とセーリングの普及を図った。

また、日本トリアスロン連合、日本ライフセービング協会との連携により、海洋センターおよび周辺施設を活用し、水泳を含む複合スポーツ教室を開催した。

ア. 「チャレンジレスキュー 2012」

平成24年度は海洋センターの自主開催として実施した。

時 期：平成24年6月1日～8月31日
場 所：全国の海洋センタープール等
人 数：873人（30海洋センター、211チーム）
内 容：レスキュー種目を主体とした競技会

イ. 「プールでOPヨット体験会」

（公財）日本セーリング連盟、日本オプティミストディンギー協会との連携事業として、海洋センター・海洋クラブが主催するプールでの「OPヨット体験会」に対し、器材（大型扇風機等）および資料提供等の支援を行った。

対 象：小学3年生～中学生（ヨット未経験者・初心者）
参加者：555人（17海洋センター・2海洋クラブ）



扇風機を使って帆走の練習

No	実施センター・クラブ	実施日	人 数
1	兵庫県 猪名川町センター	平成24年4月22日(日)	55人
2	北海道 室蘭市センター	平成24年4月23日(月)	25人
3	富山県 砺波市センター	平成24年5月20日(日)、26日(土)	27人
4	愛媛県 愛南町御荘センター	平成24年5月19日(土)	25人
5	北海道 名寄市風連センター	平成24年5月19日(土)	17人
6	富山県 南砺市福野センター	平成24年5月30日(水)	24人
7	鹿児島県 いちき串木野市センター	平成24年6月 3日、14日、17日	85人
8	北海道 せたな町センター	平成24年6月16日(土)	17人
9	山口県 周防大島町センター	平成24年6月23日(土)	40人
10	岡山県 瀬戸内市長船センター	平成24年6月24日(日)	30人
11	和歌山県 和歌浦クラブ	平成24年6月30日(土)	51人
12	福岡県 みやま市瀬高センター	平成24年7月 9日(月)	19人
13	高知県 香美市香北センター	平成24年8月 8日(水)	18人
14	新潟県 長岡市和島センター	平成24年8月18日(土)	11人
15	新潟県 長岡市越路センター		
16	静岡県 掛川市大須賀センター	平成24年8月23日(木)	20人
17	兵庫県 伊丹海洋クラブ	平成24年9月 9日(日)	60人
18	香川県 高松市国分寺センター	平成24年9月16日(日)	12人
19	島根県 雲南市加茂センター	平成24年9月16日(日)	19人
合 計（17海洋センター・2海洋クラブ）			555人

ウ. 第3回「アクセスディンギーフェスタ in 江の島」

NPO法人セイラビリティ江の島およびB&G江の島海洋クラブとの共催で、ヨット初心者や障害者を対象にユニバーサルデザインのアクセスディンギーによるヨット試乗会やクルーザー乗船会、水辺の安全紙芝居、ロープワーク等の「水辺の安全教室」を実施した。

期 日：平成24年6月30日(土)～7月1日(日)

場 所：江の島ヨットハーバー（神奈川県 藤沢市）

人 数：1日目 54人

2日目 55人 合 計 109人



アクセスディンギーで出港する参加者



参加者全員で記念撮影

エ. 「ウォータースポーツプロジェクト」

“大自然とスポーツで親子の絆、^{ひか}輝る汗”をテーマに、日本トリアスロン連合、日本ライフセービング協会、B&G財団の3団体連携により、小学生以上の親子を対象とした複合スポーツ教室（水泳・カヌー・自転車・ランなど）を全国の海洋センター8カ所で開催した。

No	開催地	実施日	人 数
1	北海道 室蘭市	平成24年 8月 4日(土)	29人
2	栃木県 下野市国分寺	平成24年 7月14日(土)	25人
3	石川県 七尾市	平成24年 7月14日(土)	19人
4	滋賀県 高島市今津	平成24年11月 4日(日)	14人
5	鳥取県 伯耆町岸本	平成24年 7月22日(日)	18人
6	徳島県 海陽町海南(徳島県連協)	平成24年10月27日(日)	28人
7	愛媛県 松山市中島	平成24年 7月14日(土)	37人
8	鹿児島県 天城町	平成24年 8月11日(土)	28人
合 計：198人（8海洋センター）			



ラン



ライフセービング



自転車

(5) 水の安全教育・海事知識の普及（日本財団助成事業）

多感な青少年期における「道徳観や正義感」を育む“自然体験活動”の普及・定着と、水の事故を防止する“水の安全教育活動”を両輪とした「水の事故ゼロ運動」を展開した。

また、本運動の推進にあたっては、『教育』『体験』『啓発・普及』の3つの活動分野を基に、効果的・効率的な活動を実施。海洋基本法と学校教育法に謳われる「国民の海洋への理解促進」と「自然体験活動」の全国普及に努めた。

ア. 教育活動

「水の事故ゼロ運動」の教育的視点から、国内外の様々な情報を収集し安全指導等に活用するとともに、安全学習教材・器材の配布や貸与ほか講師の派遣などの支援を行った。

(ア) 水辺の安全講習会

ウォーターセーフティー ニッポンの幹事団体およびパートナー等の関係者を対象に、ボートの曳航方法など、海洋性レクリエーション活動に必要な安全指導に関する講習会を実施した。

期 間：平成24年6月16日(土)

場 所：講義：商工会議所研修センター（浜松市）

実技：浜名湖「むらくし海の駅」（浜松市）

参加者：26人（マリーナや県立三ヶ日青年の家関係者など）

内 容：

講 義	気象・海象、自然災害に対する安全教育、海上保安庁による事故状況と安全対策、ライフセービングの活動から見る事故防止ポイント
実 技	ボートの曳航実習、救命クッションの使い方、スモールボートの取り扱い方、パーソナルウォータークラフトによる救助法



PWCレスキュー



安全なボートの曳航方法を確認

(イ) 海外先進地の安全教育等の活動調査

～ 日本の“水の事故ゼロ”に向け業務提携を締結 ～

オーストラリアン ウォーターセーフティー協議会（AWSC）との業務提携

「オーストラリアン ウォーターセーフティー協議会（AWSC）」との業務提携および情報交換等を行うとともに、AWSCが主催する「水の安全会議」に出席するため、オーストラリアを訪問した。

- 目 的：①オーストラリアンウォーターセーフティー協議会（AWSC）との業務提携
 ②AWSC主催の国際会議出席
 ③海洋関係団体・プールプログラム等の視察
 ④オーストラリア国内や国際的な団体との情報交換および関係を構築するため



AWSCとの業務提携で握手する関係者
 左から、AWSC ロブ・ブラッドリー議長、オーストスイム ゴードン・マレットCEO、千葉県香取市 宇井 成一 市長、WSN 広渡 英治 代表幹事(B&G財団理事長)

AWSCとWSNとの「業務提携締結」の背景

1. 平成23年10月のアメリカ視察において、「水の安全教育の先進国はオーストラリアであり、“WSN”に類似した『オーストラリアン ウォーターセーフティー協議会(AWSC)』の活動が今後のWSN活動の参考になる」との情報を取得
2. 事前の調査・連絡を経て、平成24年1月にWSNとAWSCとによる「相互の情報交換」および「相互のプログラム等の提供」などについて業務提携の交渉のためAWSCを訪問
3. 業務提携締結の了解を得るとともに、6月にAWSCが主催する「水の安全会議」の席上で調印式を実施することとなった

期 日：平成24年6月2日～6月8日(5泊7日)

訪問地：ニューサウスウェールズ(NSW)州 シドニー / ヴィクトリア(VIC)州 メルボルン

訪問者：広渡 英治 (ウォーターセーフティー ニッポン代表幹事、B&G財団 理事長)

宇井 成一氏 (千葉県香取市長、B&G全国サミット副会長)

中村 真衣氏 (B&G財団 理事)

遠藤 卓男 (ウォーターセーフティー ニッポン事務局次長)

加藤 有沙 (〃 〃 事務局)

林 未来 (B&G財団 職員)

視察先 (概略)

ロイヤル ライフセービング協会オーストラリア【Royal Life Saving Society Australia】

1891年にイギリスで設立され、1894年初めてオーストラリアNSW州に支局が誕生。SLSAがビーチに特化しているのに対し、その他すべての水辺の安全に関して責任を持つ非営利組織。AWSC幹事団体であり、国内の水辺安全教育の中心的存在であるため表敬訪問を行う。

オーストラリアン ウォーター セーフティー協議会【Australian Water Safety Council】

1998年に設立されたフォーラム・ロビー団体で、水辺の安全に関わる13団体が加盟。この度、WSNとの業務提携を行った。

サーフライフセービング協会オーストラリア【Surf Life Saving Australia】

1907年に設立されたボランティア団体で、307のサーフクラブ、17の地域支局により構成される。AWSC幹事団体であり、表敬訪問および海辺の水難防止教育の調査のため訪問。

シドニー オリンピックパーク アクアティックセンター【Sydney Olympic Park Aquatic Centre】

1994年10月オープン、月間10万人の利用者有り、NSW州最大。水泳教室としては、4,000人の生徒と1,000人のヘルス・フィットネス会員有り。夏場と学校休暇中は、1日7,000人の利用者。2000年シドニーオリンピック会場。NSW州最大のプール施設。

イアンソーブ アクアティック センター【Ian Thorpe Aquatic Centre】

施設内には、オリンピックサイズの温水プールのほか、レジャー用プールやプログラム・プール、スパ、サウナ・スチームルーム、フィットネスセンター、カフェなどが完備されている。シドニー市の公共施設のため、メンバー料金は大変リーズナブルで、ビジターでも利用も可能。最先端の設備を取り入れたプール施設を視察。

ハーストビル アクアティックセンター【Hurstville Aquatic Leisure Centre】

年間43万人以上が利用しており、内、75%がハーストビル市民で、25%が近隣の町からの利用者。RLSSA スイム・アンド・サバイブ プログラムを視察。



水泳教室では安全教育として救助ロープの投き練習も行っている



サーフライフセービング協会でもWSNの活動説明を行った



オーストラリアのテレビ局の取材を受けるWSN 広渡 代表幹事

(ウ) 水の安全教育の推進

a. 「水辺の安全教育映像」放映推進

被災地で安全教育に取り組んできた2つの小学校が、津波の際に行った避難活動について紹介した「自然災害・津波に対する安全教育」映像を制作し、全国の自治体等が運営するケーブルテレビで放映された。

放映件数：23自治体、延べ595回放映

NO.	放映自治体名	NO.	放映自治体名	NO.	放映自治体名
1	北海道枝幸町	9	三重県志摩市	17	徳島県徳島市
2	秋田県由利本荘市	10	兵庫県南あわじ市	18	愛媛県松山市
3	新潟県糸魚川市	11	鳥取県北栄町	19	愛媛県鬼北町
4	石川県志賀町	12	岡山県備前市	20	愛媛県愛南町
5	石川県七尾市	13	岡山県鏡野町	21	佐賀県太良町
6	山梨県南アルプス市	14	山口県周防大島町	22	佐賀県江北町
7	長野県白馬村	15	徳島県阿南市	23	長崎県五島市
8	長野県山形村	16	徳島県那賀町		

b. 器材の配付・貸し出し等

パートナー等が実施する「水辺の安全教室」参加者並びに「水辺の安全教室」の実施団体、学校等へ学習教材及び安全器材等の配付・貸出を行った。また、「水辺の安全教室」実施校に対して、「水辺の安全教育推進校」の認定を行い、認定証を交付した。

教材等貸与件数：65団体

水辺の安全教育推進校：44校（都内12校、地方32校）

c. 講師等の派遣・斡旋

パートナー等が実施する「水辺の安全教室」等に対して、WSN職員を講師として派遣した。

主催	事業名	期日	場所	参加者
南九州ブロック 連絡協議会	指導者研修会	5月24日	熊本県熊本市	50人
北海道積丹町	水の事故ゼロ運動	6月23日	北海道積丹町美国港	約4,100人
B & G 財団	B&G OP級ヨット東日本大会	7月14日～15日	愛知県蒲郡市	35人
	B&G OP級ヨット西日本大会	7月15日～16日	大分県別府市	25人
	B&G杯全国少年少女カヌー大会	7月28日～29日	山梨県富士河口湖町	45人
	WSP北日本大会	7月28日～29日	石川県七尾市	130人
	WSP南日本大会	8月11日～12日	鹿児島県天城町	104人
	B&G全国ジュニア水泳競技大会	8月18日	東京都辰巳国際水泳場	1,800人
北海道東神楽町	スポーツフェスティバル	8月19日	北海道東神楽町	60人
三重県志摩市	志摩市教職員防災研修	8月8日	三重県志摩市	44人

イ. 体験活動

全国の海洋センター・海洋クラブをはじめ小学校や教育委員会、水に関わる各種団体等と連携し「水辺の安全教室」を実施した。

(ア) 都内小学校における「水辺の安全教室」の実施

東京都区内の小学校またはPTAなど保護者の要請を受け、小学校プールを活用したカヌー体験とライフジャケットやペットボトルによる落水時の対処法・水の安全紙芝居などの「水辺の安全教育」活動を組み合わせて実施した。

場 所：都内小学校プール 13校

参加者：1,123人

NO	実施場所	実施日	参加児童	教諭 保護者	合計
1	中央区立月島第三小学校	6月29日(金)	71人	6	77
2	江東区立第一大島小学校	7月 2日(月)	90人	3	93
3	江東区立亀高小学校	7月 3日(火)	33人	13	46
4	江東区立第二辰巳小学校	7月 9日(月)	84人	2	86
5	中央区立月島第三小学校	7月10日(火)	311人	17	328
6	中央区立月島第二小学校	7月12日(木)	61人	4	65
7	江東区立第二亀戸小学校	7月17日(火)	51人	3	54
8	江戸川区立南篠崎小学校	7月18日(水)	115人	4	119
9	江戸川区立大杉第二小学校	7月19日(木)	106人	5	111
10	杉並区立八成小学校	7月21日(土)	15人	9	24
11	江戸川区立清新第二小学校	7月23日(月)	68人	9	77
12	荒川区立第七峡田小学校	8月25日(土)	19人	5	24
13	杉並区立四宮小学校	8月26日(日)	11人	8	19
合計：1,123人					



背浮きの練習

ライフジャケット浮遊体験



カヌー体験



紙芝居を使った安全教室

(イ) 臨海副都心「水辺の安全教室」

東京における「水の事故ゼロ運動」の実践活動として、カヌー体験と水辺の安全教育、および防災学習を組み合わせた「水辺の安全教室」を実施した。

期 日：平成24年7月7日(土)

場 所：東京都お台場海浜公園

人 数：小学生とその保護者等 延べ216人

主 催：B&G財団

日本海事科学振興財団（船の科学館）



ライフセービング体験

共 催：臨海副都心まちづくり協議会
 後 援：東京都港湾局
 協 力：ウォーターセーフティー ニッポン（水の事故ゼロ運動推進協議会）
 海上保安庁、日本海洋レジャー安全・振興協会、
 日本ライフセービング協会、海なでしこ

内 容：

実施種目	実施団体
カヌー体験会	B&G財団
セールボード体験	
救助実演	海上保安庁
組紐作り	日本海洋レジャー安全・振興協会
ライフセービング体験	日本ライフセービング協会
東京湾生物観察説明	海洋政策研究財団 日本海事科学振興財団



海上保安庁による
救助の実演



カヌー体験



セールボード体験



海の生物の説明



組紐づくり

（ウ） 都内水域を活用した「水辺の安全教室」

江東区と運河のかかわりを学び郷土の発展を知るとともに、運河（河川）でカヌーの乗船を通じて、水辺の楽しさと水の事故防止を学んだ。

期 日：平成24年9月8日（土）

場 所：江東区大島「中川船番所資料館」および
「江東区カヌー乗降場」（旧中川水域）

人 数：36人（定員30人）



紙芝居で「水辺の安全」を学ぶ



ペットボトル救助



カヌー体験

（エ） 海上保安庁と連携した「水辺の安全教室」

海上保安庁が推進する「ライフジャケット着用推進事業」に連携して、B&G海洋センターが実施する「水辺の安全教室」と協力関係を構築した。

場 所：①北海道積丹町（6月24日）

②東京都お台場海浜公園（7月7日）

③山口県周防大島町（7月14日～16日）

対 象：学童他

内 容：ライフジャケット着用体験・カヌー体験、
水辺の安全学習など



北海道積丹町の「水辺の安全教室」

B&G財団関係団体の実施状況

- 「水辺の安全教室」実施件数：1,956件
- 〃 〃 実施団体数：399団体
- 〃 〃 参加者総数：61,345人

項目	海洋センター	海洋クラブ	合計
実施団体数	237団体	162団体	399団体
実施教室数	733件	1,223件	1,956件
参加者数	33,113人	28,232人	61,345人
子ども	24,239人	17,142人	41,381人
大人	8,874人	11,090人	19,964人

※子ども：高校生以下 大人：19歳以上

年代別参加者の傾向

順位	年代	参加者比率	
		センター	クラブ
1	小学生	71%	53%
2	成人	15%	29%
3	中学生	8%	8%
4	幼児	5%	7%
5	高校生	1%	3%

年代別参加者の傾向

※複数種目の組み合わせを含む

種目	種目の比率	
	センター	クラブ
ライフジャケット浮遊	20%	66%
安全紙芝居	16%	48%
ペットボトル浮遊	18%	45%
カヌー	14%	48%
着衣泳	13%	37%
ロープワーク	5%	18%
その他	4%	18%
自然・生物観察	3%	14%
ヨット	3%	12%
ライフセービング	3%	10%
キャンプ	1%	4%

※その他：水上スキー、カッター、カヌーボロ、サーフィン、ローボート、川遊びなど

実施場所の傾向

※複数場所の組み合わせを含む

順位	場所	場所の比率	
		センター	クラブ
1	海洋センター	50%	32%
2	プール	20%	21%
3	艇庫	11%	14%
4	川・湖沼	9%	12%
5	学校	5%	12%
6	海	5%	11%

ウ. 啓発・普及活動

「水の事故ゼロ運動」を共に推進するパートナーおよびサポーターの募集をはじめ、本運動に関わる各種情報の収集を行い、教育映像の制作や、標語の募集、水の事故ゼロの日などの啓発・普及活動を行った。

(ア) 「水の事故ゼロの日」および「強化期間の設定」

「水の事故ゼロの日」および「水の事故ゼロ運動強化期間」をWSNで設定し、WSNホームページ等を通じて、「水の安全活動」実施の呼び掛けを行った。

「水の事故ゼロの日」	平成24年7月1日
「水の事故ゼロ運動強化期間」	平成24年7月1日～16日

(イ) 水の安全標語の募集と表彰

全国の小学生を対象に「水の事故ゼロ運動」標語として、「水の安全・事故防止」をテーマとした標語を募集し表彰した。

募集期間：平成24年11月15日～平成25年1月31日

応募総数：2,491点

入選点数：最優秀賞1点、優秀賞3点、佳作10点以内

審査方法：1次審査 WSN事務局・実務者会議により79点を選考

2次審査 WSN役員により、19点を選考

最終審査として有識者により入選作を選出

最終審査員

(敬称略・順不同)

審査員名		所属等
審査員長	広渡 英治	ウォーターセーフティー ニッポン 代表幹事 B&G財団 理事長
審査員	植村 昌則	一般社団法人 共同通信社 業務局次長
	秋沢 淳子	株式会社TBSテレビ アナウンサー
	松本 浩司	NHK 解説委員
	近藤 豊和	産経新聞 東京本社 編集局 編集長
	中村 真衣	株式会社ジェイエスエス スイミングアドバイザー
	大島 康雄	B&G財団 常務理事

表 彰：平成25年3月29日(金)に最優秀賞の表彰をB&G財団会議室で実施。

また、優秀賞・佳作は作品応募者居住の市町村教育長または在学の小学校校長を通じて表彰した。

入賞作品：

(敬称略)

種別	受賞者名	学校名・学年	標語
最優秀賞	須郷 美聖	北海道美幌町立旭小学校5年	ペットボトル あなたの身近な 救助隊！
優秀賞	渡辺 瀬奈	愛媛県今治市立吉海小学校5年	水遊び ライフジャケット 海の服
	中村 綺奈	青森県南部町立名川南小学校4年	落ち着けば 身近なものに 浮く力
	内田 明香里	栃木県那須烏山市立荒川小学校4年	あぶないよ 自然はいつでも そうていがい
佳作	西村 駿徳	大阪府大阪市立明治小学校5年	あんしんと えがおをとどける きゅうめいぐ
	上妻 新	岡山県美作市立美作北小学校2年	きゅうめいぐ つけて楽しい 水あそび
	長谷川 未来	静岡県藤枝市立岡部小学校2年	声かけて みんなでなくす 水のじこ
	福島 美海	鹿児島県長島町立伊唐小学校1年	きめようね かぞくみんなの ひなんばしょ
	石山 伶偉	秋田県大仙市立神岡小学校2年	わすれない つなみといのちの たいせつさ
	菅原 大地	岩手県一関市立新沼小学校5年	わすれない 水のこわさも たのしさも
	坂井 未波	静岡県焼津市立東益津小学校6年	大津波 来ないと決めず 高台へ
	忠地 伶実	富山県富山市立保内小学校5年	「だいじょうぶ！」その気持ちが だいじょうぶ？
	沼畑 朱莉	青森県六戸町立大曲小学校6年	ふだんから 家族で訓練 事故防止

(ウ) 活動報告会

第3回WSN活動報告会を開催する予定であったが、3年間の成果報告会とするため、当初予定していた時期を変更し、次年度に開催することとした。

(エ) 啓発・普及に関わるその他の活動

実施項目名	内 容
映像の制作	<p>水辺の安全教育を推進するための映像を制作した。 (主な映像内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶「自助と救助」 Part1 <ul style="list-style-type: none"> ・ 天気の変化に備える3つのポイント ・ 落水時の対処 ・ 身近な物を使った救助の仕方 ・ ペットボトルでの救助と練習 ・ ライフジャケットの有効性 ▶「自助と救助」 Part2 <ul style="list-style-type: none"> ・ 海の危険ポイントと安全対策 ・ 川の危険ポイントと安全対策 ・ 救助の手順 ・ サバイバルスイムの基本 ・ ゴムボートの転覆と対処法 ▶「自助と救助」 WEB版 <ul style="list-style-type: none"> ・ レスキューチューブの使い方 ・ ニッパーボードの使い方 ・ カヌーレスキュー  
パートナー・サポーターの登録状況	<p>「水の事故ゼロ運動」推進のため、各種団体にパートナー登録の説明を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶登録数（H25年3月31日現在） <ul style="list-style-type: none"> パートナー：637団体（累計 1,239 団体） サポーター：376人（累計 9,259 人）
WSNホームページ等の充実	<p>「水の安全教育」の普及を図るため、「安全教育映像コーナー」の充実とフェイスブックを開設した。</p>  

(6) 学校教育等と連携した水辺での体験プログラムの普及（日本財団助成事業）

学校教育と連携し「水に賢い子どもを育む年間型活動プログラム」（略称：「水プロ」）の普及・定着を図るため、研修会や財団職員派遣等の支援を行った。また、自然環境への理解と関心を深める有効な指導法である「水辺のインタープリテーション」（略称：「水プリ」）を普及するため指導者の養成を行った。

インタープリテーションとは

自然や文化などの題材を活用して、単に見るだけでは気づいたり知ることができないことを、参加者の感覚に訴えて気づかせ、興味を刺激しながら知識や情報を提供するための教育的手法で、「環境教育」の分野で広く用いられる。

ア. 「水に賢い子どもを育む年間型活動プログラム」（水プロ）の普及

通年で学校授業に「水プロ」を導入する「通年型導入校」と、年に1回以上プログラムを実施する「普及校」の2形式で普及展開を行った。今年度から新たに5校が加わり、水プロの「通年型導入校」は全国で18校となった。

NO.	自治体名	学校名
1	北海道せたな町	瀬棚小学校
2	北海道厚岸町	厚岸小学校（新規通年型導入校）
3	青森県南部町	名久井小学校
4	青森県南部町	名川南小学校（新規通年型導入校）
5	新潟県胎内市	黒川小学校（新規通年型導入校）
6	富山県高岡市	福岡小学校
7	静岡県川根本町	中川根南部小学校（新規通年型導入校）
8	三重県伊賀市	大山田小学校
9	三重県いなべ市	石樽小学校
10	滋賀県高島市	マキノ西小学校
11	島根県出雲市	東小学校
12	山口県周防大島町	沖浦小学校
13	徳島県美波町	由岐小学校
14	愛媛県今治市	吉海小学校
15	愛媛県松山市	中島小学校
16	愛媛県愛南町	平城小学校（新規通年型導入校）
17	高知県津野町	葉山小学校
18	鹿児島県南大隅町	大泊小学校

「水プロ」で蓄積したプログラムをまとめた『水辺体験ナビ』をWEBで紹介し、希望のあった小学校等に提供した。



イ. 「水に賢い子どもを育む年間型活動プログラム」（水プロ）研修会の開催

「水プロ」を導入している小学校教諭と海洋センター担当者を対象に、プログラム実施に係わる問題点の抽出・解決および新任教諭の水辺プログラム体験を主な目的として、海でのフィールドプログラムを含む研修会を実施した。

期 間：平成24年4月21日(土)～22日(日)

場 所：(16日) 座学・意見交換／日本財団ビル
(17日) 実技・実習／葛西臨海公園
(東京都江戸川区)



対 象：「水プロ」通年導入海洋センター指導員および導入小学校教諭

人 数：29人

内 容：干潟プログラム・生物採取・事例発表・プログラムの展開方法・安全学習・ディスカッションなど

講 師：(株)自然教育研究センター 取締役 古瀬 浩史 氏



落ち葉を使った「観察」の練習



インタープリテーションの説明



野鳥の観察

ウ. 「水プロ」実施校の活動支援

「新規通年型導入校」および「普及校」の活動を支援するため、財団職員および外部講師を学校に派遣し「水プロ」実施の支援をするとともに、学習器材などの配備を行った。



水辺の生物観察

(ア) 財団職員および外部講師の派遣

区分	学校名	時 期	人 数	内 容
新規通年型導入校	静岡県川根本町立 中川根南部小学校	平成24年 7月12日(木)	3~6年生 33人	着衣泳
		平成24年10月16日(火)	3・4年生 11人	水辺の生物観察
	北海道厚岸町立 厚岸小学校	平成24年 7月13日(金)	4年生 29人	着衣泳
	新潟県胎内市立 黒川小学校	平成24年 9月18日(火)	4年生 31人	カヌー体験
	愛媛県愛南町立 平城小学校	平成24年11月30日(金)	5年生 58人	水辺の生物観察
青森県南部町立 名川南小学校	平成25年 2月 6日(水)	全学年生 20人	海藻おしは教室	
普及校	三重県いなべ市立 阿下喜小学校	平成24年 6月26日(火)	2・4・6年生 79人	着衣泳
	岡山県瀬戸内市立 裳掛小学校	平成25年 1月28日(月)	5・6年生 12人	海藻おしは教室
合 計			273人	

※導入を検討する愛媛県久万高原町において、活動場所の視察や担当者のヒアリングを行った



水辺の生物観察



海藻おしは教室



海藻おしは教室

(イ) 通年型導入校の授業・学習会の視察

「水プロ」通年型導入校を対象に、事業の成果および教育的効果を確認するため「水プロ」授業および学習発表会を視察した。

導入校	時期	人数
山口県周防大島町立 沖浦小学校	平成25年1月19日(土)	全学年 23人
愛媛県松山市立 中島小学校	平成25年2月26日(火)	3・4年生 28人
高知県津野町立 葉山小学校	平成25年3月 4日(月)	全学年 111人
島根県出雲市立 東小学校	平成25年3月 6日(水)	3年生 23人 5年生 33人
合計		218人

(ウ) 器材配備

配備先	器材等
新規通年型導入校（観察用器材等の配備）	
厚岸町B&G海洋センター (厚岸町立厚岸小学校)	デジタルカメラ・送風機
南部町名川B&G海洋センター (南部町立名川南小学校)	ライフジャケット
胎内市中条B&G海洋センター (胎内市立黒川小学校)	デジタルカメラ・SDカード
川根本町本川根B&G海洋センター (川根本町立中川根南部小学校)	デジタルカメラ・観察器
愛南町御荘B&G海洋センター (愛南町立平城小学校)	防水デジタルカメラ
既存の通年型導入校（消耗品の提供）	
10海洋センター	薬品、生物観察用器材 等

エ. 「水辺のインタープリテーション」テキストの配付

インタープリテーションの指導法等を記載したテキスト（「海編」「川編」「湖沼+里山編」）をデータ化し、希望する団体等に配付した。



オ. B&G「水辺のインタープリテーション」研修会の実施

平成24年度のアドバンストおよびアクア・インストラクター養成研修カリキュラムのなかで、「インタープリテーション研修」を実施し、子どもたちへの効果的な環境教育を行う指導手法を学んだ。

期 日：平成24年6月17日(金)

場 所：沖縄県本部町B&G海洋センター
(マリニピアザオキナワ)

講 師：(株)自然教育研究センター 取締役 古瀬 浩史 氏

参加者：79人（アドバンスト・インストラクター 41人、アクア・インストラクター 38人）



(7) 海を守る植樹教育の普及

本事業は平成24年度から新たにスタートした事業である。一昨年の東日本大震災において、自然の脅威を改めて思い知らされたが、我々の生命・暮らしは自然との共生を基盤に成り立っている。日本の未来を担う子どもたちに“自然に対する恐れや重要な役割、素晴らしさを教え、自然を守り共に生きていく心を育む”ことを目的に、「体験型の環境教育」事業として、全国の海洋センター・海洋クラブ等で行われる育苗および植樹活動の支援等を行った。

ア. 植樹リーダー研修会

地域での育苗・植樹事業を推進するため研修会を実施し、指導者を養成するとともに人材を育成した。

期 間：平成24年5月17日(木)～18日(金)

場 所：神奈川県平塚市

社会福祉法人進和学園「しんわルネッサンス」

参加者：27人

内 容：講 義



(敬称略)

講師名	所 属 等	内 容
宮脇 昭	公益財団法人地球環境戦略研究機関 国際生態学センター センター長	基調講演： 「いのちを育むふるさとの森づくり」
高野 義武	NPO法人国際ふるさとの森づくり 協会 理事長	講義：「ドングリの育て方から植樹まで」
林 寿則	公益財団法人地球環境戦略研究機関 国際生態学センター 研究員	講義：「森の力について（環境教育）」 講義：「事前調査結果について」

事例発表 福井県大野市／熊本県湯前町

実 習 ドングリの育て方から植樹まで

植樹見学 会場建物周辺／万田ホーム／どんぐりハウス／国道脇 等



育苗・植樹の様々なノウハウを学んだ

イ. 育苗の支援

育苗を実施した海洋センターおよび海洋クラブ等22カ所に対し、事業経費の補助（1,476,000円）を行うとともに、情報の提供等協力を行った。



福井県勝山市

H24年度「育苗事業」実施一覧

No.	道府県	センター・クラブ	育苗 実施回数	参加 延べ人数	運営員 延べ人数
1	北海道	苫前町海洋センター	1回	27人	3人
2	岩手県	普代村海洋センター	3回	57人	6人
3	岡山県	美作市作東海洋センター	3回	101人	11人
4	徳島県	徳島市海洋センター	2回	100人	6人
5	北海道	せたな町海洋センター	2回	28人	5人
6	福島県	小野町海洋センター	1回	21人	3人

No.	道府県	センター・クラブ	育苗 実施回数	参加 延べ人数	運営員 延べ人数
7	埼玉県	松伏町海洋センター	1回	30人	13人
8	神奈川県	葉山海洋クラブ	5回	46人	16人
9	新潟県	胎内市中条海洋センター	1回	7人	5人
10	福井県	勝山市海洋センター	4回	114人	12人
11	福井県	大野市海洋センター	1回	201人	17人
12	三重県	いなべ市大安海洋センター	3回	96人	6人
13	滋賀県	長浜市浅井海洋センター	3回	90人	12人
14	兵庫県	豊岡市竹野海洋センター	4回	104人	18人
15	兵庫県	伊丹海洋クラブ	1回	126人	25人
16	鳥取県	鳥取市気高町海洋センター	4回	72人	10人
17	広島県	北広島町芸北海洋センター	3回	30人	15人
18	徳島県	牟岐町海洋センター	4回	18人	5人
19	愛媛県	愛南町御荘海洋センター	2回	24人	9人
20	香川県	池田海洋クラブ	2回	28人	2人
21	熊本県	湯前町海洋センター	3回	32人	9人
22	鹿児島県	与論町海洋センター	3回	95人	8人
合 計： 22ヵ所			56回	1,447人	216人



育苗の説明（福島県小野町センター）



拾ったどんぐりを入れる箱も自作した（兵庫県豊岡市竹野センター）



どんぐり拾い（徳島県徳島市センター）



どんぐりの蒔きつけ（愛媛県愛南町御荘センター）

ウ. 植樹の支援

植樹を実施した海洋センター等4ヵ所に対し、事業経費の補助（1,768,023円）を行うとともに、情報の提供、適正樹種決定のための専門家による植生調査等協力を行った。

H24年度「植樹事業」実施一覧

No.	道府県	センター・クラブ	植樹日	植樹本数	参加 延べ人数	運営員 延べ人数
1	北海道	苫前町海洋センター	9月22日	386本	67人	13人
2	岩手県	普代村海洋センター	8月 7日	1,880本	242人	24人
3	岡山県	美作市作東海洋センター	3月20日	524本	150人	30人
4	徳島県	徳島市海洋センター	11月25日	600本	120人	10人
合 計： 4ヵ所				3,390本	579人	77人



北海道苫前町「植樹祭」



徳島県徳島市「植樹祭」



岡山県美作市「植樹祭」

エ. 植樹映像の制作

植樹の趣旨、重要性を解説した映像を制作し、インターネットで公開した。また、植樹ブログを立ち上げ、育苗・植樹情報を広く提供するとともに、植樹指導者との情報共有を行った。



「植樹教育」映像（5分33秒）



植樹ブログ

(8) B&Gクリーンフェスティバル

海洋センター・海洋クラブによる海洋性レクリエーション普及イベントと併せて、日頃の活動水域での清掃やゴミ拾いなどのクリーン活動を推進し、環境保全の意識付を行った。

また、平成24年度は、昨年に引き続き「水辺の安全教室」を重点実施するとともに、海洋センター・海洋クラブの要望に応え、対象期間を通年とした。



B&G池田海洋クラブ（香川県）

期 間：平成24年4月1日～平成25年3月31日（通年）

実施数：71海洋センター、7海洋クラブ、2道府県連絡協議会

人 数：合計11,870人（クリーン活動3,726人／海レク活動1,626人／水辺の安全教室6,518人）

クリーン活動成果：ゴミ回収量7,000kg

2. 大会・交流活動

(1) B&G全国スポーツ大会

海洋センター・海洋クラブの利用者を対象に、日頃の練習の成果発表と参加者の相互交流を図るため、海洋性レクリエーション等の全国大会を開催した。

ア. 「2012 B&G全国ジュニア水泳競技大会」の開催

～ 25道県から508人のジュニアスイマーが参加 ～

小・中学生を対象に道府県別の団体対抗戦として、種目別・男女別の水泳競技大会を開催したほか、シドニーオリンピック競泳銀メダリスト中村真衣氏によるデモンストレーションを行った。（参加センター一覧は149頁）

期 日：平成24年8月18日（土）

（前日17日に「東京辰巳国際水泳場」で交流会を開催）

場 所：東京辰巳国際水泳場

人 数：508人（全国25道府県連絡協議会、78海洋センター）

※「インターネット水泳記録会」の記録上位者、男女6名を本大会に招待した



水泳の聖地「東京辰巳国際水泳場」で熱戦を展開

種 目：年齢区分／小学3・4年生、小学5・6年生、中学生の3区分
 競技種目／自由形、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライ、メドレーリレー、フリーリレーの6種目
 距離／50m、100m、200m（男女別）
 種 目 数／個人26種目、リレー 4種目 計30種目

(敬称略)

結 果：	総合順位	1位：兵庫県 2位：埼玉県 3位：栃木県
	男 子	1位：兵庫県 2位：石川県 3位：滋賀県
	女 子	1位：埼玉県 2位：栃木県 3位：兵庫県
	最優秀選手	阪本 祐也（中1・男子）三重県大紀町大内山B&G海洋センター 日高 雅子（中1・女子）石川県志賀町富来B&G海洋センター
	優秀選手	森田 遥大（小3・男子）兵庫県上郡町B&G海洋センター 野口 温大（小6・男子）兵庫県宍粟市波賀B&G海洋センター 中村 海渡（中3・男子）滋賀県高島市高島B&G海洋センター 猪股 萌々花（小4・女子）静岡県袋井市袋井B&G海洋センター 森中 優花（小5・女子）兵庫県上郡町B&G海洋センター 千葉 美捺穂（中2・女子）埼玉県嵐山町B&G海洋センター
	ドリームキャンプ 開催権利	総合優勝：兵庫県
	大会記録更新数	個人種目（予選・決勝）11種目11個

後 援：（一社）共同通信社、読売新聞社、（公財）日本財団、（公財）日本ゲートボール連合
 （公財）笹川スポーツ財団、（財）日本海事科学振興財団、（特定非営利活動法人）日
 本ライフセービング協会、（社）日本トライアスロン連合、B&G全国市長会議、B&G
 全国町村長会議、B&G全国教育長会議、B&G全国指導者会

協 賛：大塚製薬株式会社、BOAT RACE振興会

協 力：ミズノ株式会社、江崎グリコ株式会社、関東ブロック地域海洋センター連絡協議会、
 水の事故ゼロ運動推進協議会



昨年優勝の兵庫県チーム
森田幸佑君、濱田凜さん
が選手宣誓



最優秀選手賞を受賞した阪本裕也君
（中央）と日高雅子さん（右）
左はB&G財団 広渡英治 理事長



2連覇を達成した兵庫県チーム 中央左：シドニー五輪100m背泳銀メダリスト 中村 真衣 氏
中央右：B&G財団 広渡 英治 理事長

イ. B&G杯全国青少年カヌー大会2012

小学生を対象とする日本で唯一の全国大会で、全国の小学校をはじめ海洋センター・海洋クラブ、各地のカヌークラブ等で練習している子どもたちの成果発表の場として開催。また、カヌーの普及と水の事故ゼロ運動の推進を目的に、「カヌー体験会」「スラロームワンポイントレッスン」および「水辺の安全教室」を行った。



白熱した普及艇のレース

期 間：平成24年7月28日(土)～7月29日(日)

場 所：精進湖カヌー競技場（山梨県 富士河口湖町）

人 数：①大会参加者 122人（21都府県32チーム）

※海洋センター・海洋クラブからは12チーム52人が参加（参加センター・クラブは149頁）

②カヌー体験会 55人

③スラロームワンポイントレッスン 14人

共 催：(公社)日本カヌー連盟

種 目：4年生以下普及艇、5・6年生普及艇、K-1・K-2（各200m）、
フラットスラローム

(敬称略)

結 果：

4年生以下 普及艇	男子	1位：細島 凜（B&G香取市小見川海洋クラブ） 2位：ミンデルマーカス 廣記（B&G穂波海洋クラブだいが支部） 3位：山下 颯太（B&Gかけはし海洋クラブ）
	女子	1位：村野 由奈（B&G穂波海洋クラブだいが支部） 2位：越田 彩華（B&Gかけはし海洋クラブ） 3位：大戸 章花（戸田ドルフィンカヌースポーツ少年団）
5・6年生 普及艇	男子	1位：斎藤 康祐（萌明幼児館カヌークラブ） 2位：鈴木 遼太郎（オーパルカヌーチーム） 3位：竹内 祐太郎（倉吉市関金B&G海洋センター イルカカヌークラブ）
	女子	1位：近藤 優花（B&G穂波海洋クラブだいが支部） 2位：吉本 蒼空（B&Gかけはし海洋クラブ） 3位：塚本 真美加（B&G穂波海洋クラブだいが支部）
カヤック シングル (K-1)	男子	1位：稲田 直大（早乙女湖カヌークラブ） 2位：遠藤 環太（オーパルカヌーチーム） 3位：森黒 大（府中湖カヌークラブ）
	女子	1位：中田 舞絢（早乙女湖カヌークラブ） 2位：柳堀 あいり（B&G香取市小見川海洋クラブ） 3位：本宿 滯（湘南カヌースポーツクラブ）
カヤック ペア (K-2)	男子	1位：稲田 直大・松崎 巧実（早乙女湖カヌークラブ） 2位：鈴木 遼太郎・遠藤 環太（オーパルカヌーチーム） 3位：菱田 圭吾・平井 兵馬（早乙女湖カヌークラブ）
	女子	1位：近藤 優花・塚本 真美加（B&G穂波海洋クラブだいが支部） 2位：黒川 明花・中田 舞絢（早乙女湖カヌークラブ） 3位：本宿 滯・平岩 美季菜（湘南カヌースポーツクラブ）
フラット スラローム	男子	1位：斎藤 康祐（萌明幼児館カヌークラブ） 2位：芥川 隆博（マホロバホンダカヌースクール） 3位：蒔田 遥也（湘南カヌースポーツクラブ）
	女子	1位：八木 優芽（萌明幼児館カヌークラブ） 2位：吉本 蒼空（B&Gかけはし海洋クラブ） 3位：本宿 滯（湘南カヌースポーツクラブ）
ドリームキャンプ	今年度で7回目を数える「B&Gドリームキャンプ」は、一人でも多くの子供たちに一流講師による直接指導を体験してもらうため、B&G普及艇5・6年生の部において、多数の選手エントリーと優秀な成績を収めたセンター・クラブ等へ、一流講師を派遣して開催する形へ変更。B&Gドリームキャンプの開催地に決定した“B&G穂波海洋クラブだいが支部”へ決定書が贈られた。	



122人の選手による開会式



スラローム競技



元オリンピック代表 持田雅誠(B&G財団職員)による「ワンポイントレッスン」



大会終了後に全員で記念撮影

ウ. 2012 B&G OP級ヨット大会

セーリングの普及と海洋センター・海洋クラブ間の交流を目的に、初心者から世界大会を目指す上級者まで、全ての青少年セーラーが参加可能な習熟度別のOP級ヨットレースの東日本大会および西日本大会を開催するとともに、併せて“水辺の安全教室”を実施した。

また、両大会のAクラス上位者各3人には「第44回日本オプティミストセーリング選手権大会」の出場権が与えられたほか、Bクラスの最上位小学生各2人に、所属地での「B&Gドリームキャンプ」実施権利が与えられた。

(ア) 「2012 B&G OP級ヨット大会」東日本大会

期 日：平成24年7月14日(土)・15日(日)

場 所：愛知県蒲郡市 海陽ヨットハーバー

共 催：愛知県ヨット連盟、名古屋市ヨット連盟、B&Gなごや海洋クラブ

後 援：文部科学省、国土交通省、日本財団、愛知県、愛知県教育委員会、蒲郡市、蒲郡市教育委員会、中日新聞社、日本経済新聞社名古屋支社、東海テレビ放送株式会社、テレビ愛知株式会社、東海ラジオ放送株式会社、株式会社ZIP-FM

協 力：第四管区海上保安本部、日本OP協会、(社)日本ジュニアヨットクラブ連盟、中部ブロックB&G地域海洋センター連絡協議会、愛知県B&G海洋センター連絡協議会、水の事故ゼロ運動推進協議会、B&G全国指導者会



練習の成果を發揮、全力で帆走する選手たち

協 賛：大塚製薬株式会社、ハーケンジャパン株式会社

人 数：97人（1府9県21クラブ）

（敬称略）

結 果：

クラス	1位	2位	3位
A	小木 曾 涼（中2・男） 江の島ヨットクラブジュニア	倉橋 直暉（小6・男） 海陽海洋クラブ	玉山 裕登（中3・男） 丸玉セーリングクラブ
B	大西 海斗（中2・男） 三重県ヨット連盟ジュニア ヨットクラブ	山田 大夢（小5・男） 海陽海洋クラブ	須田 英実子（小5・女） 琵琶湖ジュニアヨットクラブ
C	須田 智也（小4・男） 琵琶湖ジュニアヨットクラブ	岡田 爽良（小3・男） 横浜市民YHJYC	蜂須賀 啓介（小2・男） B&Gなごや海洋クラブ 伊藤 誠雪（小5・男） 琵琶湖ジュニアヨットクラブ



97人のジュニアセーラーが参加した東日本大会



大会前に「水辺の安全教室」
（ペットボトルを使って救助）
を実施

（イ）「2012 B&G OP級ヨット大会」西日本大会

期 日：平成24年7月15日（日）～16日（祝）

場 所：大分県別府市 北浜ヨットハーバー

共 催：大分県セーリング連盟、B&G別府海
洋クラブ

後 援：文部科学省、国土交通省、日本財団、
大分県、大分県教育委員会、別府市、
別府市教育委員会、JFおおいた別府
支店、大分合同新聞社、NHK大分放
送局、OBS大分放送、TOSテレビ大分、OAB大分朝日放送、FM大分

協 力：日本OP協会、（社）日本ジュニアヨットクラブ連盟、北九州ブロックB&G地域
海洋センター連絡協議会、大分県B&G財団地域海洋センター連絡協議会、水の
事故ゼロ運動推進協議会、B&G全国指導者会

協 賛：大塚製薬株式会社、ハーケンジャパン株式会社

人 数：99人（12県、1カ国、16クラブ）

（敬称略）

結 果：

クラス	1位	2位	3位
A	花田 義弘（小6・男） 光セーリングクラブ	下石 熙（中1・男） 熊本ジュニアヨットクラブ	高原 みすず（中3・女） B&G別府海洋クラブ
B	中川 晃（小5・男） B&G松山海洋クラブ	水田 隆文（小6・男） B&G兵庫ジュニア海洋クラブ	上園田 心太浪（小3・男） B&G別府海洋クラブ
C	花田 馨（小2・女） 光セーリングクラブ	小池 駿耀（小3・男） B&G津屋崎海洋クラブ	増田 一樹（小4・男） B&G高松海洋クラブ



熱いレースが展開された



99人のジュニアセーラーが参加した西日本大会



大会の合間には“ヨット教室”も開催

エ. 全国ウォータースポーツ大会

日本トライアスロン連合、日本ライフセービング協会、B&G財団の3団体協働事業「ウォータースポーツプロジェクト」設立3年（H21年度）を契機として、親子で参加するマラソン・カヌー・レスキューを混合させた独自の全国大会を開催。

今年度は、石川県七尾市（北日本大会）および鹿児島県天城町（南日本大会）で開催。

（ア）「第3回全国ウォータースポーツ北日本大会」

期 日：平成24年7月28日（土）～29日（日）

場 所：石川県七尾市能登島 マリンパーク海族公園

人 数：親子48組96人

種 目：ペアマラソン、ペアカヌー、バディレスキュー

結 果：総合順位

（敬称略）

部 門	1位	2位	3位
低学年	石川県中能登町 定塚 利明・利心	富山県南砺市 大村 貴則・遥隼	富山県氷見市 太田 大介・壱平
高学年	石川県七尾市 中田 誠・瑞菜	石川県白山市 山寺 信昭・和哉	石川県七尾市 横山 伸二・りな



バディレスキュー



ペアマラソン



ペアカヌー



96人の親子が参加した“北日本大会”

(イ) 「第3回全国ウォータースポーツ南日本大会」

期 日：平成24年8月11日(土)～12日(日)

場 所：鹿児島県天城町 天城クロスカントリーパーク・サンセットビーチ

人 数：親子37組74人

種 目：ペアマラソン、ペアカヌー、パディレスキュー

結 果：総合順位

(敬称略)

部 門	1位	2位	3位
低学年	熊本県湯前町 椎葉 泰裕・陽斗	鹿児島県奄美市 登尾 誠司・長谷川 蒼大	大分県佐伯市 高橋 和考・宥人
高学年	熊本県宇城市 沖田 利喜・彩華	鹿児島県天城町 宮田 正行・太陽	鹿児島県天城町 中江 美鈴 優由



ペアカヌー



パディレスキュー



ペアマラソン



74人の親子が参加した“南日本大会”

～大自然とスポーツで親子の絆 ^{ひか} 輝る汗～

“ウォータースポーツ プロジェクト”とは……

日本トライアスロン連合 (JTU)、日本ライフセービング協会 (JLA)、B&G財団の3団体協働事業として、平成19年に立ち上げたプロジェクト。目的は「自然と触れ合いながら安全で正しいスポーツ習慣 (トライアスロンとライフセービング、マリンスポーツ等) を身につけ、子どもの心身の育成と親子の絆を深める」こと。

平成24年度までの6年間に、海洋センターなど53ヵ所で教室が開催され、親子など1,339人が参加した。

「全国ウォータースポーツ大会」は、“ウォータースポーツプロジェクト”の全国大会として、開催地自治体の主催およびJTU・JLA・B&Gの3団体共催により開催している。



H19年6月の記者発表会で握手する各団体の代表者

左から、小峯 力 JLA理事長
梶田 功 B&G財団会長
猪谷 千春 JTU会長

※役職名はH19年6月当時のもの

(2) B&G「ドリームキャンプ」

「B&G 全国スポーツ大会」(ヨット、カヌー、水泳)の成績優秀者が所属するセンター・クラブ等に、著名な講師を派遣し、選手の競技力、指導者の指導力向上等を図る目的に全4ヶ所で実施した。

ア. 「2012 B&Gドリームキャンプ in 津」の開催

開催地：B&G OP級ヨット東日本大会(7月14日・15日)において、Bクラスの優勝者が所属する三重県ヨット連盟ジュニアヨットクラブの活動場所に決定。

期 間：平成24年10月6日(土)・7日(日) 2日間
場 所：三重県 津市 伊勢湾海洋スポーツセンター
(津ヨットハーバー)

人 数：16人(クラブ員12人・指導者4人)

協 賛：大塚製薬(株)

指 導：ヨット講師

小松 一憲 氏 B&G財団テクニカルアドバイザー

ロンドンオリンピックセーリング競技日本代表コーチ

内 容：スタート指導、方向転換指導等



イ. 「2012 B&Gドリームキャンプ in 家島」の開催

開催地：B&G全国ジュニア水泳競技大会(8月18日)において、総合優勝した兵庫県チームが所属する姫路市家島B&G海洋センターを開催場所に決定。

期 間：平成24年10月13日(土)・14日(日) 2日間
場 所：兵庫県 姫路市家島B&G海洋センター
(プール)

人 数：48人(クラブ員37人・指導者11人)

協 賛：大塚製薬(株)

指 導：水泳講師

中村 真衣 氏 (株)JSSスイミングアドバイザー

シドニーオリンピック女子100m背泳ぎ銀メダリスト

森 隆弘 氏 MPS代表(アテネオリンピック200m個人メドレー 6位入賞)

内 容：講義(目標の自覚、基本姿勢等)、実技(トレーニング法指導、泳法アドバイス等)



ウ. 「2012 B&Gドリームキャンプ in 穂波」の開催

開催地：B&G杯全国少年少女カヌー大会 2012（7月28日・29日）のB&G普及艇5・6年生の部において、数多くの選手がエントリーするとともに優秀な成績を収めたB&G穂波海洋クラブの活動場所に決定。

期 間：平成24年11月24日（土）・25日（日）2日間
場 所：福岡県飯塚市 大分小学校クラブハウス（うぐいす塚ため池）

人 数：19人（クラブ員15人・指導者4人）

協 賛：大塚製菓（株）

指 導：カヌー講師

持田 雅誠 アトランタオリンピックカヌー日本代表（B&G財団職員）

内 容：パドリング指導他



エ. 「2012 B&Gドリームキャンプ in 松山」の開催

開催地：B&G OP級ヨット東日本大会（7月14日・15日）において、Bクラスの優勝者が所属するB&G松山海洋クラブを開催地に決定。

期 間：平成24年12月1日（土）・2日（日）2日間

場 所：愛媛県 B&G松山海洋クラブ（「堀江海岸」沖）

人 数：28人（クラブ員15人・指導者13人）

協 賛：大塚製菓（株）

指 導：ヨット講師

小松 一憲 氏 B&G財団テクニカルアドバイザー

ロンドンオリンピックセーリング競技日本代表コーチ

内 容：スタート指導、方向転換指導等



(3) 交流支援

海洋性スポーツ・レクリエーション活動等を通じた日本と諸外国との青少年の交流を通じて、相互の理解と友好を深めるため次の事業を実施した。

ア. 海外海洋クラブとの交流

「2012 B&G OP級ヨット大会 西日本大会」の開催に併せ、釜山市（韓国）のB&G海洋クラブからジュニアセーラー3人が参加し、B&G海洋クラブをはじめとする日本の子どもたちと、ヨットレースを通じた国際交流を実施した。

時 期：平成24年7月15日(日)～17日(火)

場 所：大分県別府市 北浜ヨットハーバー

内 容：「2012B&G OP級ヨット大会 西日本大会」を通じた日本、韓国の2カ国による国際交流を行った。



釜山海洋クラブから参加した選手とスタッフ
左はB&G財団 広渡 理事長



レース前に艦装する釜山のジュニア選手

イ. 国際ジュニア親善ヨット大会による交流

日本・韓国・中国の3カ国のジュニアセーラーによるOPヨットレース大会「2012 第18回 上海・釜山・福岡ジュニア親善ヨット大会」を支援、ヨットを通じた国際交流活動の活性化を図った。

持ち回りで行われるこの大会は、今年度は中国上海市での開催となった。

時 期：平成24年8月17日(金)～20日(月)

場 所：中国 上海市 浦東新区臨港新城 地区「滴水湖」

人 数：選手80人（日本選手11人）

内 容：日本・韓国・中国の3カ国参加のOPヨットレース大会を通じ、ジュニアセーラーをはじめとする家族ぐるみの国際交流活動を行った。



帆走技術を競う3カ国のジュニアセーラーたち



11人のジュニアセーラーが参加した日本チーム

国際ジュニア親善ヨット大会は、1995年（平成7年）から毎年B&G福岡Jr.ヨット海洋クラブとB&G釜山海洋クラブの母体となる釜山広域市ヨット協会が合同で開催しているもの。2006年（平成18年）からは中国上海市水上スポーツセンター・クラブも参加し、日本・韓国・中国の3カ国によるジュニアヨットの国際交流活動を行っている。

3. 助成・活動支援

(1) 海洋センター施設整備等（日本財団助成事業）

海洋センター建設後10年を経過し「海洋センター評価」が原則B評価以上で、施設の機能保全および機能向上（バリアフリー化など）を目的とする修繕、並びに自然災害（地震、台風等）により被害を受けた海洋センター施設の原状復帰修繕等に対し、助成金の交付を行った。

ア. 平成24年度 海洋センター修繕助成

平成24年度に通常修繕が完了した45施設に対して、総額617,100,000円の助成を行った。

また、『東日本大震災』における原発災害の影響で放射線の値が高いことによるプールの上屋シートの全面張替（福島県本宮市）と、年度内に突発的に発生した竜巻の被害（沖縄県伊江村）に対して、年度内の緊急復旧修繕として、総額15,300,000円の助成を行った。（詳細は134頁）

修繕項目	市町村数	海洋センター数	施設数	助成金額
通常修繕	43	43	45	617,100,000円
災害復旧修繕 (東日本大震災等)	2	2	2	15,300,000円
合計	45	45	47	632,400,000円

☆☆☆ 平成24年度 修繕助成決定書の授与式を開催 ☆☆☆

平成24年度の修繕助成金額が1,000万円以上となる27ヵ所の自治体に対して、修繕助成金決定書授与式を実施。8社の新聞社と2社のテレビ局の取材を受け、ポートルースの収益金の有効活用と施設のリニューアルを住民に周知した。

また、『東日本大震災』により被害を受けた1ヵ所の自治体に対して、災害復旧助成金決定書授与式を行った。

全国27自治体で決定書授与式を実施



B&G財団 大島 常務理事 (左)
群馬県玉村町 貴井 町長 (右)



B&G財団 古山 常務理事 (左)
高知県四万十町 高瀬 町長 (右)



B&G財団 吉田 常務理事 (左)
岡山県井原市 瀧本 市長 (右)



外壁全面塗装、照明自動昇降装置など、
新しく生まれ変わった 四万十町窪川B&G海洋センター(左)と工事前の写真(右)



長野県白馬村B&G海洋センターのプールリニューアルオープンでは、
B&G財団理事でシドニーオリンピック背泳銀メダリストの中村 真衣氏
による水泳教室が開催された

イ. 平成25年度修繕助成の決定

平成25年度に修繕を計画している44市町村、44海洋センター、45施設に対し、海洋センター施設整備委員会の審議を経て、総額627,900,000円の助成を決定した。



施設整備委員会を年2回開催

修繕項目	市町村数	海洋センター数	施設数	助成金額
通常修繕	44	44	45	519,900,000円

これまでの修繕助成金総額（H13～H24年度）

種別	助成金額	種別	助成金額
通常修繕	3,919,800,000円	災害復旧	262,590,000円
艇庫	138,200,000円	艇庫特別施設整備	96,800,000円
プール	2,602,300,000円	特例修繕	56,600,000円
体育館	1,174,500,000円	特別施設整備	13,400,000円
グラウンド	4,800,000円	助成金額 総額	4,349,190,000円

ウ. 平成24年度 海洋センターの現状調査等

45ヵ所の海洋センターを対象に、市町村長や教育長との面談のほか、海洋センターの管理・運営状況および問題点等の確認を行った。

エ. 海洋センターの評価と表彰

海洋センターの管理・運営面での現状を把握し、今後の活動の活性化に役立てるとともに、財団が行う公正な支援活動の“指標”として、統一された評価基準による評価を実施。

また、評価結果を公表し優良海洋センターの表彰を行うとともに、改善点等の指導を行った。



10年連続「特A」評価で、特別表彰された北海道滝川市 前田康吉 市長(右)とB&G財団 梶田功 会長(左)

(ア) 評価

海洋センター評価は、年間評価（対象期間：4月～3月）および中間評価（対象期間：4月～9月）の2回を実施し公表した。平成23年度の年間評価（H24年4月度評価）の結果は次のとおり。なお、平成24年度年間評価（H25年4月度評価）の詳細は94頁に記載。

評価別 海洋センター数（平成23年度実績）

特A	A	B	C	D	E
172	129	119	40	8	1

(イ) 表彰

平成23年度の年間評価（H24年4月度評価）において、A評価以上の優良海洋センター 301センターを「第5回B&G全国サミット」で表彰した。

ブロック名	表彰海洋センター名	
	特A	A
北海道 32センター	砂川市・小平町・厚岸町・せたな町・剣淵町・大樹町・斜里町・鷹栖町・愛別町・積丹町・大空町東藻琴・名寄市風連・大空町女満別・美幌町・石狩市・浦臼町・苫前町・沼田町・滝川市・古平町	遠別町・北竜町・枝幸町歌登・下川町・東神楽町・名寄市・和寒町・芦別市・長万部町・上富良野町・東川町・室蘭市
東北 39センター	青森県：弘前市・南部町名川・六戸町 岩手県：久慈市山形・岩泉町・八幡平市松尾・一関市藤沢 宮城県：登米市中田・登米市米山・栗原市築館・亘理町・川崎町・大郷町・蔵王町	青森県：東北町・鶴田町・中泊町中里・弘前市岩木 岩手県：一関市東山・大船渡市三陸・普代村 宮城県：涌谷町・仙台市泉・登米市迫

ブロック名	表彰海洋センター名	
	特A	A
東北 39センター	秋田県：能代市・由利本荘市由利・にかほ市象潟 山形県：酒田市平田 福島県：小野町	秋田県：男鹿市・大仙市神岡・潟上市天王・ 八郎潟町・大潟村 山形県：舟形町 福島県：柳津町・塙町・田村市滝根・石川町
関東 29センター	茨城県：かすみがうら市千代田・石岡市・五霞町 栃木県：下野市国分寺・那須烏山市南那須・芳賀町 群馬県：明和町・玉村町 埼玉県：吉見町・久喜市栗橋・松伏町・白岡市 千葉県：御宿町・南房総市千倉・横芝光町横芝・ 香取市小見川・大多喜町・香取市栗源・ 鋸南町・横芝光町光	茨城県：行方市玉造・小美玉市玉里・北茨城市・ 常陸太田市水府 栃木県：那須塩原市塩原 埼玉県：鶴ヶ島市・嵐山町 千葉県：長南町・香取市山田
北陸 21センター	新潟県：胎内市中条・長岡市和島・佐渡市小木・ 阿賀野市安田・佐渡市羽茂 富山県：砺波市・南砺市福野・高岡市福岡 石川県：穴水町・七尾市・志賀町富来・白山市鶴来 福井県：あわら市金津・大野市	新潟県：燕市・長岡市越路・阿賀町三川・ 糸魚川市能生 富山県：氷見市・富山市八尾 福井県：若狭町三方
中部 50センター	山梨県：甲斐市敷島・山梨市牧丘・ 南アルプス市白根・甲斐市双葉・ 甲州市塩山 長野県：大町市・松本市波田 岐阜県：可児市・川辺町・八百津町・高山市国府・ 御嵩町・富加町・中津川市加子母・ 中津川市付知 静岡県：掛川市・川根本町本川根・牧之原市相良・ 袋井市袋井・浜松市三ヶ日 愛知県：新城市作手・東栄町・西尾市一色・ 豊川市小坂井 三重県：いなべ市大安・桑名市長島・菰野町・ 熊野市紀和・志摩市志摩・伊賀市大山田・ 亀山市関・志摩市浜島	長野県：飯綱町牟礼・白馬村・飯島町・ 飯綱町三水・山形村 岐阜県：恵那市明智・恵那市山岡・高山市清見 静岡県：磐田市竜洋・松崎町・掛川市大須賀・ 袋井市浅羽・御前崎市・浜松市天竜 愛知県：清須市春日 三重県：大台町・伊賀市阿山・松阪市飯高
近畿 27センター	滋賀県：野洲市中主・米原市山東・米原市伊吹・ 甲賀市甲賀・高島市高島・高島市今津 大阪府：堺市美原・千早赤阪村 兵庫県：南あわじ市南淡・新温泉町浜坂・上郡町・ 香美町香住・姫路市家島・猪名川町 和歌山県：串本町・広川町	滋賀県：多賀町・長浜市浅井 京都府：宮津市・南丹市八木 兵庫県：豊岡市出石・神河町神崎・豊岡市竹野・ 養父市おおや・芦屋市 奈良県：山添村・曾爾村
中国 37センター	鳥取県：鳥取市鳥取・倉敷市関金・北栄町北条・ 伯耆町岸本 島根県：江津市桜江・浜田市三隅・雲南市加茂 岡山県：岡山市建部・奈義町・瀬戸内市長船・ 瀬戸内市邑久・井原市井原・井原市美星・ 矢掛町・鏡野町・赤磐市吉井 広島県：府中市 山口県：周防大島町	鳥取県：鳥取市佐治・鳥取市気高・鳥取市鹿野 島根県：松江市松江・松江市宍道・出雲市平田 岡山県：笠岡市・備前市吉永・浅口市鴨方・ 津山市加茂・美作市作東・浅口市寄島・ 和気町佐伯 広島県：東広島市黒瀬・呉市蒲刈・ 安芸高田市高宮・尾道市向島・ 三原市久井・尾道市瀬戸田
四国 22センター	徳島県：徳島市・牟岐町・那賀町鷲敷・ 美波町由岐 香川県：小豆島町内海・三豊市高瀬・三豊市財田 愛媛県：今治市大三島・松山市中島・愛南町御荘・ 鬼北町広見 高知県：津野町東津野・四万十町窪川	徳島県：海陽町海南・阿南市 香川県：綾川町綾上・高松市国分寺・三木町 愛媛県：今治市吉海・今治市朝倉・久万高原町久万 高知県：香美市香北
北九州 22センター	福岡県：朝倉市甘木・築上町築城・みやま市瀬高 佐賀県：太良町・神埼市 長崎県：平戸市生月・時津町	福岡県：みやこ町豊津・宗像市玄海・ 久留米市三瀬・福智町金田・築上町椎田 佐賀県：江北町 長崎県：佐世保市小佐々・五島市岐宿・ 南島原市西有家・南島原市加津佐 大分県：由布市湯布院・宇佐市安心院・ 中津市耶馬溪・日田市中津江・玖珠町
南九州 22センター	熊本県：長洲町・津奈木町・湯前町・宇城市三角 鹿児島県：いちき串木野市・長島町・さつま町・ 鹿屋市串良・日置市東市来・与論町・ 天城町・志布志市有明 沖縄県：伊江村	熊本県：熊本市城南・美里町砥用・南阿蘇村白水 鹿児島県：霧島市牧園・阿久根市・湧水町栗野・ 奄美市笠利 沖縄県：名護市・本部町

(ウ) 海洋センター運営等に係わる協議

海洋センター評価に基づき、2年連続でC評価以下となった2海洋センターに対し、自治体執行部（首長・副首長等）と財団役員による海洋センター存続等に関する協議・指導を行った。

(2) 海洋クラブ登録と器材配備等（日本財団助成事業）

B&Gプランの趣旨に賛同し、地域に根付いた海洋性レクリエーション活動を組織的・継続的に実施する団体を「B&G海洋クラブ」として登録するとともに、海洋センター・海洋クラブに対して舟艇器材配備などの活動支援を行い、海洋性レクリエーションおよび海事思想の普及振興を図った。

【舟艇器材等の追加・再配備】

ア. 舟艇器材等の追加・再配備

29海洋センター・10海洋クラブ 計39ヵ所からの申請を受け、活動状況等を審査し、救助艇やライフジャケット等459点の安全器材等を主体とする舟艇器材（約725万円相当）の配備に係る助成を行った。（詳細は136頁）

配備舟艇器材

ライフジャケット、カヌー、OPヨット、レスキューチューブ、救助艇、船外機など



イ. 海洋クラブ設立支援に係る舟艇器材の貸与

平成24年度におためし海洋クラブの登録を行った「福井県 大野市B&G海洋センター」に対し、下記の舟艇を貸与した。

舟艇の名称	数量	備 考
B&Gカヌー（1人乗り）	7	おためし海洋クラブとして設置をしていた愛知県 豊川市一色海洋センターが登録を断念したため、貸与していたカヌーを大野市に再貸与した。
B&Gカヌー（2人乗り）	2	

ウ. 海洋クラブ登録に係る舟艇器材の新規配備

平成24年度に登録された、3海洋クラブ（長洲、新居浜、恵那）に対し、カヌー・救助艇等の舟艇器材（約430万円相当）を配備した。

新規海洋クラブ名	県名	主な新規配備舟艇類
B&G長洲海洋クラブ （海洋センター付き艇庫あり）	熊本県	救命胴衣（大25着、小35着）
B&G新居浜海洋クラブ（一般）	愛媛県	救助艇2艇、船外機2台、OPヨット2艇、救命胴衣（大11着、小15着）
B&G恵那海洋クラブ （海洋センター付き艇庫なし）	岐阜県	レーシングカヌー 2艇、レクカヌー 6艇、シットオントップカヌー（2.5人乗り）2艇、スラローム艇1艇、救命胴衣（大16着、小30着）

エ. 海洋クラブ活動継続のための特別配備

配備申請のあった1海洋センター・2海洋クラブに対し、安全かつ円滑な海洋性レクリエーションの継続的活動に必要な舟艇器材217万円相当を特別配備として配備した。

配備先	配備舟艇器材等
新潟県 胎内市中条B&G海洋センター	カヌー5艇、救命胴衣20着
愛知県 名古屋市 B&Gなごや海洋クラブ	船外機1台、ヨット3艇
愛知県 蒲郡市 B&G蒲郡海洋クラブ	ヨット備品1種14器材、ボート備品4種15器材

【海洋クラブの登録及び活動促進】

ア. 海洋クラブの登録

新たに3ヵ所を「B&G海洋クラブ」として登録した。 ※新規登録海洋クラブの詳細は114頁

登録No	名称	登録日	クラブ員数
1350	B&G長洲海洋クラブ（熊本県長洲町）	平成25年2月15日	34人
1351	B&G新居浜海洋クラブ（愛媛県新居浜市）	平成25年2月15日	30人
1352	B&G恵那海洋クラブ（岐阜県恵那市）	平成25年3月14日	30人

イ. 海洋センターへの海洋クラブ設立支援

B&G海洋クラブの設立を希望する「福井県 大野市B&G海洋センター」に対し、試験的な活動ができる“おためし海洋クラブ”の設置を行った。

ウ. 海洋クラブの評価と表彰

海洋クラブの管理・運営面での現状を把握し、今後の活動の活性化に役立てるとともに、財団が行う公正な支援活動の“指標”として、統一された評価基準による評価を実施した。また、評価結果を公表し優良海洋クラブの表彰を行うとともに、改善点等の指導を行った。

(ア) 評価

海洋クラブ評価は、年1回の評価を実施している。平成23年度（H23年4月～H24年3月）の活動実績を基に、平成24年度「海洋クラブ評価」を実施・公表した。

なお、平成25年度「海洋クラブ評価」（H24年度実績）の詳細は112頁に記載。

評価別海洋クラブ数(H23年度実績)

特A	A	B	C	D	E
27	43	86	48	7	37



「教育長・責任者 海洋センター・海洋クラブ活性化会議」（南九州ブロック）では6海洋クラブが表彰された。前列左から2人目：B&G財団古山常務理事

(イ) 表彰

平成24年度「海洋クラブ評価」（H23年度実績）において、A評価以上の優良海洋クラブ70クラブを「教育長・責任者 海洋センター・海洋クラブ活性化会議」で表彰した。

ブロック名	表彰海洋クラブ名	
	特A	A
北海道 9クラブ	—	小樽・小平・室蘭・滝川・鷹栖・美幌・瀬棚・積丹・砂川
東北 7クラブ	山形県：平田 秋田県：天王	青森県：東北・鶴田 宮城県：米山 山形県：舟形 福島県：塙

ブロック名	表彰海洋クラブ名	
	特A	A
関東 3クラブ	千葉県：香取市小見川 神奈川県：江の島・葉山	——
北陸 9クラブ	富山県：砺波 石川県：ななお	新潟県：新潟 富山県：福野 石川県：松任はまなす・金沢・富来・かけはし 福井県：あわら
中部 6クラブ	静岡県：竜洋 愛知県：なごや	山梨県：やまなし 長野県：飯綱 静岡県：松崎 三重県：大安
近畿 4クラブ	兵庫県：伊丹・家島・兵庫ジュニア 和歌山県：和歌浦	——
中国 10クラブ	島根県：桜江・三隅 岡山県：瀬戸内・建部	岡山県：吉永・浅口・美星・奈義・矢掛 山口県：大島
四国 8クラブ	香川県：池田・高松 愛媛県：吉海・大三島・御荘・松山	徳島県：由岐 香川県：高瀬
北九州 8クラブ	福岡県：福岡ジュニアヨット・津屋崎 佐賀県：神埼 大分県：別府	佐賀県：虹の松原 長崎県：時津・ハウステンボス 大分県：湯布院
南九州 6クラブ	——	熊本県：津奈木・湯前 鹿児島県：鹿屋・与論・川内 沖縄県：伊江

(ウ) 海洋クラブの現況調査

優良海洋クラブの活動状況を視察するとともに、特に評価が低く活動が不振な海洋クラブに対して、運営上の問題点等の確認や運営継続に関する協議・改善指導を行った。

No	クラブ名（道府県市町村）	調査日	調査目的
1	掛川（静岡県）	5月14日～15日	中部ブロック事業開催予定クラブの現況調査
2	大安（三重県）	6月 2日～ 3日	OPヨット講習会と併せた現況調査
3	別府（大分県）	6月 2日	OPヨット講習会と併せた現況調査
4	由岐（徳島県）	6月15日～17日	リーダー研修会と併せた現況調査
5	八百津（岐阜県）	6月15日～16日	OP講習会と併せた現況調査
6	江の島（神奈川県）	6月29日～7月1日	B&GアクセスディンギーフェスタIN江の島と併せた現況調査
7	やまなし（山梨県）	7月27日～29日	B&G全国少年少女カヌー大会と併せた現況調査
8	砺波（富山県）	9月 8日	北陸ブロックB&Gスポーツ交流会と併せた現況調査
9	たいない（新潟県）	9月17日～18日	舟艇器材器材配備式と併せた現況調査
10	福岡ジュニアヨット（福岡県）	10月29日～30日	レベルアップ講習会（ヨット）と併せた現況調査
11	恵那（岐阜県 おためし）	11月15日	おためし海洋クラブの現況調査
12	松山（愛媛県）	H24年2月5日	優良クラブの現況調査
13	清水三保（静岡県）	H24年3月6日～7日	市営施設閉鎖に伴うクラブ現況調査

(3) 事業活動助成

ブロックおよび道府県連絡協議会、海洋センター・海洋クラブおよび指導者会の活動の活性化を目的に、助成事業審査委員会を2回開催し、海洋スポーツ大会や研修会等、全289事業に対して総額31,493,000円の助成金を交付した。(詳細は138頁)

対 象	事業数	事業費総額	助成額
海洋センターブロック連絡協議会	31	9,811,188円	4,689,000円
海洋センター道府県連絡協議会	73	19,086,651円	8,198,000円
海洋センター	72	15,022,016円	6,005,000円
海洋クラブ	68	12,031,555円	8,295,000円
指導者会	45	6,059,517円	4,306,000円
合 計	289	62,010,927円	31,493,000円

助成事業審査委員会

(敬称略)

委員長	福永 達夫	(公社) 日本モーターボート選手会 会長 (前)
委 員	東 正樹	(公財) 日本レクリエーション協会 専門委員
	岩浅 嘉仁	徳島県阿南市長
	大口 秀和	三重県志摩市長
	小早川 ゆり	日本体育大学 運動方法水泳研究室 教授
	山岸 敬幸	慶應義塾大学 医学部小児科 専任講師
	善岡 雅文	北海道砂川市長



助成事業審査委員会を年2回開催した

H24年度 ブロック別活動助成金

ブロック	申請件数	事業費総額	助成額	ブロック	申請件数	事業費総額	助成額
北海道	10	3,496,492	1,791,000	近畿	32	10,199,388	4,348,000
東北	31	4,747,953	2,666,000	中国	35	7,692,526	3,732,000
関東	24	3,627,797	1,839,000	四国	27	5,607,796	2,681,000
北陸	38	8,257,924	4,570,000	北九州	25	7,271,477	3,918,000
中部	41	6,108,570	3,092,000	南九州	26	5,001,004	2,856,000

(4) その他支援

ア. マリンスポーツ技能認定

海洋センター利用者および海洋クラブ員に対しカヌー、ヨット、水泳の技術を認定する技能認定テストを海洋センター・海洋クラブに委託して実施した。

平成24年度は、全国29海洋センターで実施され、4,279人の申請があった。

技能認定種類	概 要
カヌー	技術レベルに応じて1級から5級を認定
OPヨット	
水 泳	〃 〃 1級から10級を認定
総 合	全種目の総合的な技術レベルとして1級から5級を認定



イ. 会長賞・賞状等の交付

海洋センター・海洋クラブが開催する「B&G財団会長賞」(大会)、ブロックおよび道府県連絡協議会で開催する「マリンスポーツ大会」に賞状を交付した。

H24年度 交付数

種別	交付対象事業数	交付数(賞状)
B&G財団会長賞	83海洋センター 130事業	1,762枚
マリンスポーツ大会	18道府県および5ブロック連絡協議会32事業	2,760枚

ウ. 第44回「日本オプティミストセーリング選手権大会」への協賛

「B&G OP級ヨット大会」の上位者に出場権が与えられている第44回「日本オプティミストセーリング選手権大会」に協賛し、初出場で最上位となった選手に『B&G新人賞』を贈呈した。

期日：平成24年8月23日(木)～26日(日)、4日間

主催：日本オプティミストディンギー協会

場所：神奈川県葉山町 葉山港

人数：140人(小・中学生)

受賞者：“B&G新人賞”

(敬称略)

部門	氏名	所属
男子の部	玉山 義規	丸玉セーリングクラブ
女子の部	竹本 朱理亜	和歌山ジュニアヨットクラブ



迫力あるレースが展開された



B&G財団 古山 常務理事から
新人賞が手渡された

エ. 財団事業への招待

(ア) B&G「体験クルーズ」への招待

「海洋センターブロック連絡協議会」が主催するスポーツ大会成績優秀者25人をB&G「体験クルーズ」に招待した。また、東日本大震災の発生を受け、被災地支援として岩手県・宮城県から児童14人を招待した。

(イ) B&G「親子ふれあい体験セミナー」への招待

「第2回 全国ウォータースポーツ大会北日本大会」(平成23年7月、石川県七尾市で開催)の成績優秀者(親子1組)をB&G「親子ふれあい体験セミナー」(平成24年8月2日～6日)に招待した。

オ. 海洋センターブロック連絡協議会への運営助成金の交付

全国の10ブロック連絡協議会に対し、円滑な運営を図るため、運営助成金として1ブロックにつき100,000円を交付した。

第2 幼児から高齢者までの心身の健康づくりに関する事業

少子・高齢化が進む中、全ての人々が健康でゆとりと楽しみのある地域社会を実現するためには、幼児から高齢者までが適切な運動を通じて健康を維持することが何よりも重要である。B&G財団は、それぞれの年齢層に適した運動プログラムを医療機関などと連携して開発し、全国の海洋センターや海洋センター所在自治体などに無償で提供し普及に取り組んでいる。

1. 幼児の心身の健康づくりを目指した運動プログラムの普及

生活習慣病を防ぎ、一生を健康で明るく過ごすためには、幼児期からの無理のない身体活動と正しい生活習慣を身に付けることが重要であり、究極の介護予防につながる。地域住民の健康づくりとともに明るい地域社会づくりを目指し、幼児期の心と体の発育・発達に適した運動プログラムを全国に普及・推進している。

(1) 幼児運動プログラム講習会

幼児運動プログラムの普及のため、講師派遣依頼を受け財団職員を派遣した。

ア. 幼児アクアリズム運動プログラム

場 所	実施時期	人 数
岐阜県 中津川市付知	平成24年9月10日(月)	指導者14人 幼 児32人
富山県 富山市八尾	平成25年3月20日(水)	指導者12人 幼 児22人
合 計		指導者26人 幼 児54人



イ. 幼児フロアリズム運動プログラム

場 所	実施時期	人 数
島根県 雲南市加茂	平成24年11月30日(木)	指導者16人 幼 児47人
栃木県 下野市国分寺	平成25年 2月 7日(木)	指導者30人 幼 児21人
合 計		指導者46人 幼 児68人



アクア・インストラクター養成研修生38人が「幼児運動プログラム」指導者に!!

平成24年度のアクア・インストラクター養成研修カリキュラムのなかで、「幼児運動プログラム」指導者研修会を実施し、新たに38人の指導者が誕生した。

期 間：平成24年6月15日(木)

場 所：本部町B&G海洋センター
(マリンピアザオキナワ)

対 象：アクア・インストラクター

人 数：38人

内 容：講義（理論編）
実技（各種プログラムの紹介・幫助法）、
指導実習ほか



(2) 運動能力測定システムの運用

幼児プログラム導入海洋センターなどを対象に開発した、B&Gコンパスによる「運動能力測定システム」を通じて、幼児の運動能力データを収集するとともに、個人測定結果（統計データ）を提供した。

各種目の測定値を入力すると、個人の測定結果のグラフが作成され、B&Gのネットワークを通じた全国の測定値とも比較しながら、子どもの発育・発達状態を正しく把握することができる。



(3) 幼児運動プログラムモデル・導入センター講習会

幼児アクアリズム運動プログラムと幼児フロアリズム運動プログラムのモデルセンターや導入しているセンター、これから導入を検討しているセンターを対象に、実技を中心に担当者の資質向上に向けた講習会を開催した。

期 間：平成25年3月15日(金)～16日(土)
 場 所：戸越台中学校温水プール／笹川記念会館4F会議室
 対 象：モデルセンター・導入センターの担当者、運動指導員、保健福祉関係者等
 人 数：アクアリズム14人（13センター）／フロアリズム21人（19センター）
 内 容：「幼児プログラム」実技・講義、事例発表、グループディスカッション

(敬称略)

講師名	所属等	内容
木尾 克己	株式会社JSS ゼネラルアドバイザー	アクアリズム実技：「幼児の水慣れから導入へのプログラム」
杉本 明	リトミック研究センター	フロアリズム実技：「リトミック」
柳澤 弘樹	運動保育師会 代表	講義：「運動遊びで脳を育む」



アクアリズム実技



フロアリズム実技



講義：「運動遊びで脳を育む」

2. 中高年の生活習慣病予防を目指した運動プログラムの提供

海洋センターを利用する中高年者の健康づくりを促進するため、「中高年対象の運動プログラム」を活用し、海洋センター利用者の健康づくりを促進するため、プログラムの動画配信と周知を行った。

Webでの運動プログラムの動画の配信

水中で行う「水でらくらく体操」と陸上で行なう「元気はつらつ体操」の運動プログラム各「基本編・症状別編」（動画）をホームページを通じて配信した。



水でらくらく体操



元気はつらつ体操

3. 高齢者の健康づくりを目指した運動プログラムの普及

健康に対する意識の低い高齢者を対象に、保健師や地元の関係組織等との連携を通して、運動処方を含めた総合的なプログラムを普及するとともに、地域に根付いた“転倒予防事業”を推進した。

(1) 転倒・寝たきり予防プログラム講習会

転倒・寝たきり予防プログラムの普及のため、講師派遣依頼を受け財団職員を派遣した。

場 所	実施時期	人 数
富山県 上市町	平成24年10月16日(火)	指導者 18人 高齢者 13人
山口県 周防大島町	平成24年11月30日(金)	指導者 15人 高齢者 30人
香川県 三木町	平成24年12月13日(木)	指導者 8人 高齢者 24人
合 計		指導者 41人 高齢者 67人



山口県 周防大島町

アドバンスト／アクア・インストラクター養成研修生79人が「転プロ」指導者に!!

平成24年度のアドバンストおよびアクア・インストラクター養成研修カリキュラムのなかで、「転倒・寝たきり予防プログラム」指導者養成研修会を実施し、新たに79人の指導者が誕生した。

- 期 間：平成24年6月17日(日)
- 場 所：沖縄県本部町B&G海洋センター
(マリンピアザオキナワ)
- 対 象：アドバンスト・インストラクター、
アクア・インストラクター
- 人 数：79人 (アドバンスト・インストラクター 41人、
アクア・インストラクター 38人)
- 内 容：転倒予防の基礎知識、健脚度測定の実際と
評価、運動プログラム紹介、指導実習等



(2) 転倒・寝たきり予防プログラムモデルセンター講習会

「転倒・寝たきり予防プログラム」モデルセンターや導入しているセンター、これから導入を検討しているセンターを対象に、実技を中心に担当者の資質向上に向けた講習会を開催した。

- 期 間：平成25年3月5日(火)～6日(水)
- 場 所：笹川記念会館 4F会議室
- 対 象：モデルセンター・導入センターの担当者、
運動指導員、保健福祉関係者等
- 人 数：31人 (25センター)
- 内 容：「転倒・寝たきり予防プログラム」
実技・講義、事例発表



(敬称略)

講師名	所 属 等	内 容
上岡 洋晴	東京農業大学地域環境科学部 教授	講義・実技： 「転倒・寝たきり予防プログラムの基本」
東 正樹	日本レクリエーション協会 専門委員	実技： 「高齢者のためのレクリエーションプログラム」

第3 指導者の養成に関する事業

青少年の健全育成をはじめ、幼児から高齢者まで、地域住民の健康づくりを推進するには優れた指導者が不可欠。B&G財団では、積極的な指導者の養成に取り組むとともに、これまでに養成した指導者の貴重な人的資源を有効に活用するため、ボランティアによる指導者組織「B&G指導者会」を全国に設置、活動を促進している。また、「B&G人材バンク」制度により、優秀な指導者を登録し、講師として全国に派遣している。

1. 指導者養成

(1) アドバンスト・インストラクター養成

主として、海洋性レクリエーション活動の実技指導に携わり、海事知識および海洋性レクリエーションの普及に努める指導員を養成した。これまでの養成者総数は2,054人。

期 間：平成24年6月1日(金)～7月5日(木) 35日間

場 所：沖縄県 本部町B&G海洋センター（マリンピアザ オキナワ）

対 象：地方自治体または財団が認める団体等から推薦された20歳以上の者

人 数：41人（38海洋センターおよび財団職員）（参加者名簿は148頁）

内 容：海洋性レクリエーション活動に係わる総合的な知識・技能および安全管理を中心とした研修。B&G財団概要、指導員概要、海洋性レクリエーション理論・実技・実習、水泳実技、運動生理学、安全管理、海洋センター管理・運営、健康増進プログラム、環境教育、心肺蘇生法等



海洋性レクリエーションを代表する“ヨット”と“カヌー”の基本を学ぶ



規律正しい合宿研修で心身を練磨



連日厳しいトレーニングが続く
(注) AD：アドバンスト AQ：アクア



AD・AQ共通科目「水辺の安全教室」



AD・AQ共通科目の「環境学習」
(インタープリテーション)



新たに誕生した41人の アドバンスト・インストラクター

主な講師

(敬称略/日程順)

講師名	所属等	科目
田代 大輔	気象キャスターネットワーク 事務局長	気象・海象
野口 智博	日本大学 教授	水泳理論と実技
海野 義明	オーシャンファミリー 代表理事 B&G葉山海洋クラブ代表	海洋教育と海洋環境
小林 元一	(株)松田平田設計 大阪事務所副所長	施設の保守管理
柳 敏晴	名城大学 教授	海洋性レクリエーション総論
北川 薫	中京大学 学長	運動生理学
上野 真宏 兵後 有亮 尾辻 章 横倉 厚 篠崎 充洋	日本ライフセービング協会 公認インストラクター	心肺蘇生法 (CPR) 講習会 (日本ライフセービング協会認定)
谷川 真理	(株)アチーブメント	ウォーキング・ジョギング
工藤 祐直	青森県 南部町 町長	町長講話「指導者の重要性」
中村 真衣	(株)ジェイエスエス スイミングアドバイザー シドニー五輪100m背泳ぎ銀メダリスト	水泳理論・水泳実技
木尾 克己	(株)ジェイエスエス ゼネラルアドバイザー	水泳理論・水泳実技
椿本 昇三	筑波大学 教授	着衣泳
小峯 力	日本ライフセービング協会 理事長 流通経済大学 教授	海洋性レクリエーション活動と安全
古瀬 浩史	(株)自然教育研究センター取締役	インタープリテーション
渡辺 未知 千野 精一郎	(株)自然教育研究センター	
小松 一憲	B&G財団テクニカルアドバイザー ロンドン五輪セーリング競技日本代表コーチ	ヨット学科・実技
濱本 徹夫	B&G別府海洋クラブ 代表	ヨット実技
高良 文雄	沖縄県本部町 町長	修了記念講話

サポートスタッフ

(敬称略/日程順)

講師名	所属等	科目
大内 義崇	北海道鷹栖町B&G海洋センター (アドバンスト・インストラクター)	先輩指導者講話、マリン実技
工藤 陽平	熊本県湯前町B&G海洋センター (アドバンスト・インストラクター)	マリン実技
飛鳥馬 昇	埼玉県松伏町B&G海洋センター (アドバンスト・インストラクター)	水泳実技、マリン実技
金久 博	徳島県阿南市B&G海洋センター (アドバンスト/アクア・インストラクター)	水泳実技・カヌー実技

(2) アクア・インストラクター養成

主として、プール活動の実技に携わり、海洋性レクリエーションの普及に努める指導者を養成した。これまでの養成者総数は1,371人。

期 間：平成24年6月1日(金)～23日(土) 23日間

場 所：沖縄県 本部町B&G海洋センター（マリニピアザ オキナワ）

対 象：地方自治体または財団が認める団体等から推薦された20歳以上の者

人 数：38人（37海洋センター）（参加者名簿は148頁）

内 容：海洋性レクリエーション活動の基礎となる水泳の知識・技能および安全管理を中心とした研修。B&G財団概要、指導員概要、水泳理論・実技・実習、海洋性レクリエーション理論・実技、運動生理学、安全管理、海洋センター管理・運営、健康増進プログラム、環境教育、心肺蘇生法等



中村 真衣 氏の指導で
水泳の基礎を習得



幼児のアクアリズム運動
プログラム実習



AD・AQ共通科目「着衣泳」の
講義と実技



AD・AQ共通科目「CPR講習」



筑波大学 教授 椿本 昌三 氏



新たに誕生した38人の アクア・インストラクター

主な講師

(敬称略/日程順)

講師名	所属等	科目
田代 大輔	気象キャスターネットワーク 事務局長	気象・海象
野口 智博	日本大学 教授	水泳理論と実技
海野 義明	オーシャンファミリー 代表理事 B&G葉山海洋クラブ代表	海洋教育と海洋環境
小林 元一	(株)松田平田設計 大阪事務所副所長	施設の保守管理
柳 敏晴	名城大学 教授	海洋性レクリエーション総論
北川 薫	中京大学 学長	運動生理学

講師名	所属等	科目
上野 真宏 兵後 有亮 尾辻 章 横倉 厚 篠崎 充洋	日本ライフセービング協会 公認インストラクター	心肺蘇生法（CPR）講習会 （日本ライフセービング協会認定）
谷川 真理	（株）アチーブメント	ウォーキング・ジョギング
工藤 祐直	青森県 南部町 町長	町長講話「指導者の重要性」
中村 真衣	（株）ジェイエスエス スイミングアドバイザー シドニー五輪100m背泳ぎ銀メダリスト	水泳理論・水泳実技
木尾 克己	（株）ジェイエスエス ゼネラルアドバイザー	水泳理論・水泳実技
椿本 昇三	筑波大学 教授	着衣泳
小峯 力	日本ライフセービング協会 理事長 流通経済大学 教授	海洋性レクリエーション活動と安全
古瀬 浩史	（株）自然教育研究センター取締役	インタープリテーション
渡辺 未知 千野 精一郎	（株）自然教育研究センター	
岸 ユキ	女優 評議員	修了記念講話

サポートスタッフ

(敬称略)

講師名	所属等	科目
鈴木 亜貴子	千葉県鋸南町B&G海洋センター （アクア・インストラクター）	水泳実技
大越 利夫	広島県府中市B&G海洋センター （アドバンスト・インストラクター）	水泳実技
木村 貴虎	栃木県芳賀町B&G海洋センター （アクア・インストラクター）	水泳実技

充実した講師陣 アドバンスト／アクア・インストラクター養成研修



気象・海象
気象キャスターネットワーク
事務局長
田代 大輔 氏



運動生理学
中京大学 学長
北川 薫 氏



運動実技
1991年 東京国際女子マラ
ソン優勝 B&G財団評議員
谷川 真理 氏



水泳実技
シドニー五輪女子100m 背泳ぎ
銀メダリスト B&G財団理事
中村 真衣 氏



ヨット実技
ロンドン五輪ヨット日本代表コーチ
B&G財団テクニカルアドバイザー
小松 一憲 氏

修了記念講話特別講師



アクア・インストラクター養成研修
「人、仲間、そして明日へ」
女優・B&G財団 評議員
岸 ユキ 氏



アドバンスト・インストラクター養成研修
「指導者に期待すること」
本部町長・B&G財団理事
高良 文雄 氏

(3) インストラクター養成

海洋センター・海洋クラブ等において、アドバンスト・インストラクターをサポートし、海洋性レクリエーションの基礎指導等に携わる指導員を養成した。これまでの養成者総数は729人。

- 期 間：平成24年6月1日(金)～13日(月) 11日間
- 場 所：沖縄県 本部町B&G海洋センター（マリンピアザ オキナワ）
- 対 象：地方自治体または財団が認める団体等から推薦された20歳以上の者
- 人 数：2人（2海洋センター）
- 内 容：海洋性レクリエーション活動の基礎となる知識・技能および安全管理を中心とした研修。B&G財団概要、指導員概要、海洋性レクリエーション理論・実技・実習等
- 講 師：栗山 剛（B&G財団職員）

(4) リーダーおよびジュニアリーダー養成委託

アドバンスト／アクア・インストラクターの実技指導等を補佐するボランティア指導者として、リーダーおよびジュニアリーダーの養成を海洋センター等へ委託するとともに、同資格失効者の再登録研修を委託実施した。これまでの養成者総数は13,658人。

- 期 間：3～4日間（随時）
 - 場 所：全国の海洋センター・海洋クラブ
 - 対 象：海洋センター・海洋クラブ等において、海洋性レクリエーションまたは水泳指導に携わる者（リーダーは20歳以上、ジュニアリーダーは13歳以上20歳未満）
 - 人 数：新規養成181人（33海洋センター、7海洋センター連絡協議会）
再登録16人（3海洋センター）
 - 内 容：海洋性レクリエーションまたは水泳の基礎的な理論および実技・安全管理等
- 開催件数および参加者数：

項 目	開催件数	参加者数
リーダー・アクアリーダー およびジュニアリーダー研修	道府県連絡協議会 7件	181人
	海洋センター 33件	
合 計	40件	181人

項 目	開催件数	参加者数
リーダーおよびジュニア リーダー再登録研修	海洋センター 3件	16人

B&G指導者資格の概要と養成人数

資格名	研修期間	対象者	養成人数
アドバンスト・インストラクター	約35日間	地方公共団体または財団が認める団体の推薦があった20歳以上	2,054人
アクア・インストラクター	約23日間		1,371人
インストラクター	約10日間	20歳以上	729人
リーダー、アクアリーダー	28時間		12,743人
ジュニアリーダー	28時間	13歳以上20歳未満	915人
合 計			17,812人

2. 指導者研修会

B&G指導員を対象に、資格取得後のフォローアップとして、著名な講師等による最新知識・情報の提供や技術講習のための研修会を行い、指導員の資質向上を図った。

(1) 指導員研修会

新しいプログラムや情報の提供、安全管理等を中心とした研修会を開催するとともに、全国の指導者の相互交流、情報交換を行った。

期 間：平成25年1月25日(木)～26日(金) 2日間
 場 所：笹川記念会館4階会議室（東京都港区）
 対 象：B&G指導員資格登録者、資格失効者および海洋センター担当者
 人 数：257人（215海洋センター）
 講 師



(敬称略)

講師名	内 容
中村 真衣 ((株)ジェイエスエス スイミング アドバイザー)	基調講演 「スポーツで子どもたちの夢を育もう」
柘 巖 ((公財)日本体育施設協会 専務理事)	講義「スポーツ施設の安全管理」
大藏 倫博 (筑波大学体育系体育科専攻 准教授)	講義「超高齢社会におけるロコモティブシンドロームと認知症の予防を目指した身体運動」
城田 守 (WSN遠州ネット事務局 事務局長)	講義「水辺の事故防止と安全普及活動の継続」



中村 真衣 講師



柘 巖 講師



大藏 倫博 講師



城田 守 講師

活 動 事 例 紹 介

(艇 庫)
 「指導者会などの協力体制による利用向上」



岐阜県八百津町
 B&G海洋センター
 山田 丈寿 氏

(プールの)
 「多種にわたるプログラムの実施による利用向上」



栃木県芳賀町
 B&G海洋センター
 木村 貴虎 氏

(体育館)
 「総合型地域スポーツクラブの活性化による利用向上」



埼玉県松伏町
 B&G海洋センター
 高鹿 健士 氏

(2) レベルアップ研修会

新しいプログラムや情報の提供、安全管理等を中心としたカヌーおよびヨットの実技研修会を行った。

ア. カヌー

期 間：平成24年8月23日(木)
場 所：岐阜県 川辺町B&G海洋センター
対 象：アドバンスト・インストラクター
人 数：15人 (8海洋センター)
講 師：持田 雅誠 (財団職員、B&G人材バンク
特別講師)



イ. 水 泳

期 間：平成24年9月16日(日)
場 所：青森県 南部町名川B&G海洋センター プール
対 象：アクア/アドバンスト・インストラクター
人 数：16人 (7海洋センター)
講 師：野口 智博 氏 (日本大学 教授)



ウ. ヨット

期 間：平成24年10月30日(金)
場 所：福岡県 福岡市ヨットハーバー 福岡ジュニア
ヨット海洋クラブ活動拠点
対 象：アドバンスト・インストラクター
人 数：13人 (5海洋センター・1海洋クラブ)
講 師：石橋 顕 氏 (北京オリンピックヨット49er日本
代表)



(3) 帆船研修

帆船での外洋体験と船内研修を通じて、海・船への理解を深めるとともに、海洋性レクリエーション指導員の知識・資質の向上を図り、海洋性レクリエーション活動の幅を広げることを目的とした研修を行った。

期 間：平成24年10月23日(火)～26日(金) 3泊4日
場 所：兵庫県 神戸港～香川県 高松港
対 象：B&G海洋性レクリエーション指導員
人 数：9人 (4海洋センターおよび財団職員)
内 容：海王丸での体験航海と船内研修



(4) 指導者会の活動促進

ブロックおよび道府県連絡協議会、海洋センター・海洋クラブの活動の活性化を図るため、「B&G海洋性レクリエーション指導員」を中心とするボランティア組織「B&G指導者会」の組織化を推進するとともに、平成21年度に設立した「B&G全国指導者会」の各ブロック責任者を対象とする会議を開催し、指導者会活動の強化を図った。

ア. 指導者会の登録

41ヵ所（52海洋センター）の指導者会を新たに登録し、指導者会登録数は354ヵ所（354海洋センター、297自治体）登録人数は2,896人となった。（指導者会登録一覧145頁）

NO	県名	センター名	NO	県名	センター名
1	北海道	北竜町	27	静岡	浜松市三ヶ日
2		枝幸町歌登	28	三重	大紀町大内山
3		石狩市	29	滋賀	多賀町
4	青森	七戸町	30	京都	京丹波町瑞穂
5		弘前市岩木	31	京都	京丹波町和知
6		平内町	32	大阪	能勢町
7	岩手	盛岡市玉山	33	兵庫	市川町
8		奥州市前沢	34	島根	松江市松江
9		花巻市東和	35		美郷町邑智
10	秋田	由利本庄市大内	36		真庭市蒜山
11	千葉	成田市大栄	37	岡山	真庭市北房
12	新潟	南魚沼市大和	38		笠岡市
13		新潟市中之口	39		鏡野町
14		新潟市味方	40	広島	北広島市大朝
15	新潟市新津	41	北広島市芸北		
16	石川	志賀町富来	42	山口	長門市日置
17	山梨	中央市玉穂	43		岩国市美和
18		富士河口湖町上九一色	44	徳島	東みよし町三加茂
19	長野	飯綱町牟礼	45	愛媛	海陽町海南
20		飯綱町三水	46	西条市丹原	
21		飯島町	47	高知	東洋町
22		伊那市高遠	48	福岡	福智町金田
23		長和町和田	49	長崎	南島原市加津佐
24	岐阜	中津川市福岡	50		南島原市西有家
25	静岡	袋井市浅羽	51	熊本	天草市新和
26		浜松市天竜	52		あさぎり町免田

☆☆☆ 県別「B&G指導者会」登録数 ☆☆☆

ブロック	県名	登録数	ブロック	県名	登録数	ブロック	県名	登録数
北海道 (31)	北海道	31	北陸	福井	5	中国	岡山	18
東北 (51)	青森	12	中部 (57)	山梨	8		広島	10
	岩手	12		長野	10	山口	4	
	宮城	11		岐阜	12	四国 (28)	徳島	8
	秋田	9		静岡	10		香川	8
	山形	2		愛知	5		愛媛	8
関東 (32)	福島	5	近畿 (31)	三重	12	高知	4	
	茨城	9		滋賀	6	北九州 (26)	福岡	12
	栃木	3		京都	5		佐賀	3
	群馬	3		大阪	3	長崎	6	
	埼玉	6		兵庫	13	大分	5	
北陸 (25)	千葉	11	中国 (47)	奈良	2	南九州 (26)	熊本	10
	新潟	12		和歌山	2		宮崎	0
	富山	4		鳥取	7		鹿児島	14
	石川	4		島根	8		沖縄	2
合計							354	

イ. 第4回「B&G全国指導者会」ブロック責任者会議

「B&G全国指導者会」は、平成23年9月に全国1万7千人のB&G指導員の力を結集して設立した日本最大の海洋性レクリエーション指導者組織。その全国10ブロックの責任者を対象とした会議を開催した。

会議では、指導者会の運営・活動状況や問題点、次年度事業計画、指導者会設置100%に向けた各ブロックの取り組み、広報展開や今後への展望ほか、ウォーターセーフティーニッポン（WSN）の活動報告など幅広い内容で行われ、活発な意見が交わされた。



期 日	平成24年9月25日～26日
場 所	虎ノ門35森ビル 財団会議室（東京都港区）
内 容	<p>【1日目】 14：00～17：50</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.平成23年度事業報告、決算 2.全国指導者会規則改正 3.平成24年度事業計画・予算 4.全国指導者会の事業推進 <p>【2日目】 9：00～15：00</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.第2回全国指導者会 総会について 2.今後3か年の活動基本方針について 3.正副会長・ブロック責任者の選任
参加者	<p>13人 全国指導者会 正副会長3人 ブロック責任者10人</p> <p>※代理出席者 近畿ブロック： 馬場俊文氏（京都府宮津市） 北九州ブロック： 古賀博隆氏（福岡県朝倉市）</p>

ブロック責任者（平成25年1月以降）（敬称略）

ブロック名	責任者
北海道	丹場 康雄（北海道積丹町）
東 北	千葉 桂志（宮城県登米市）
関 東	白戸 重行（茨城県石岡市）
北 陸	多田 朗（石川県七尾市）
中 部	赤塚 誠（岐阜県八百津町）
近 畿	種継 武（兵庫県上郡町）
中 国	古崎 敏雄（山口県周防大島町）
四 国	藤原 元久（愛媛県今治市）
北九州	古賀 博隆（福岡県朝倉市）
南九州	柳田 孝志（鹿児島県与論町）

B&G全国指導者会「かわら版」発行

平成23年度から、全国指導者会の情報紙として「かわら版」を発行。様々な活動情報などを発信している。



第4回B&G全国指導者会 正副会長会議

平成24年11月26日・27日の両日、B&G財団会議室（東京都港区虎ノ門）において、B&G全国指導者会の正副会長による会議を開催し、「第2回「B&G全国指導者会総会」」についての協議が行われた。



B&G全国指導者会 会長
青森県南部町長
工藤 祐直 氏



B&G全国指導者会 副会長
埼玉県久喜市
川島 正光 氏



B&G全国指導者会 副会長
徳島県阿南市
金久 博 氏



ウ. 第2回「B&G全国指導者会総会」

B&G指導者が一致団結し、未来を担う子ども達のために力を結集！！
 全国10ブロックから511人の指導者が出席

テーマ：「育てよう生きる力、とどけよう笑顔と元気」

B&G財団では、これまで養成してきたB&G指導員の貴重な人的資源を有効活用するため、ボランティア活動組織となる“B&G指導者会”の登録を推進。平成22年度に全国1万7千人のB&G指導員を対象に、“B&G指導者会”の全国組織となる「B&G全国指導者会」を設立した。その目的は「日本の未来を担う子ども達のために、全国のB&G指導員の力を結集して“自然体験活動”と“水の安全教育”を推進し、“子ども達の生きる力”を育み社会に貢献することである。

第2回目となる本総会では、特に、東日本大震災を教訓として「育てよう生きる力 とどけよう笑顔と元気」をテーマに、これまでの活動報告および全国10ブロックの各指導者会代表による“活動事例発表”をはじめ、優良指導者会・優良指導員の表彰などが行われた。また、B&G指導員が一致団結して未来を担う子ども達の育成に取り組むための、今後の「活動方針・活動目標」が全参加者の賛同を得て承認された。

主催者挨拶

B&G財団 会長
 梶田 功



「日本の未来を担う子ども達のためにB&G指導者の皆様の“熱い心と志”をもってB&Gプランの推進にお力をいただきたい」

主催者挨拶

B&G全国指導者会会長
 青森県南部町
 工藤 祐直 町長



「全国指導者会は、地域指導者が事業に取り組みやすい環境を整えていきます」

来賓祝辞



B&G全国教育長会議会長
 栃木県那須烏山市
 池澤 進 教育長



女優
 B&G財団 評議員
 岸 ユキ 氏

応援メッセージ



アトランタ五輪ヨット女子470級
 銀メダリスト
 B&G財団 理事
 重 由美子 氏



シドニー五輪100m背泳ぎ
 銀メダリスト
 B&G財団 理事
 中村 真衣 氏

日時	平成25年1月26日(土) 総会 14:00~17:30 交流会 17:30~19:00		
場所	笹川記念国際会議場 (東京都港区三田)		
参加者	地区	AD・AQ(他)	合計
	北海道	17人(16人)	33人
	東北	27人(42人)	69人
	関東	27人(33人)	60人
	北陸	19人(13人)	32人
	中部	48人(43人)	91人
	近畿	13人(25人)	38人
	中国	27人(18人)	45人
	四国	18人(21人)	39人
	北九州	18人(16人)	34人
	南九州	18人(19人)	37人
総計	—	—	511人
	B&G財団 役・職員	33人	33人

全国から
511人の指導者が参加



基調講演

「B&G指導員に期待すること」
ロンドン五輪セーリング競技日本代表コーチ
B&G財団テクニカルアドバイザー

小松 一憲 氏



「全国の指導員の強い連携で海洋センターが楽しさの発信源になることを期待します」

B&G財団からの説明

B&G財団 理事長

WSN代表幹事 広渡 英治



「B&Gプランの推進にはB&G指導員が不可欠です。定期的な指導員養成研修会への参加をお願いします」

役員を選任

正副会長が選任され、各ブロック責任者が決定された。

会 長	青森県南部町 工藤 祐直 町長
副会長	徳島県阿南市 金久 博 氏
	埼玉県久喜市 川島 正光 氏



左から川島副会長、工藤会長、金久副会長

優良指導員 優良指導者会 を表彰

優良指導員（ゴールド褒賞）



11人が表彰された

優良指導員（シルバー褒賞）



24人が表彰された

優良指導者会



5ヵ所の指導者会が表彰された

事例発表

全国10ブロックの各代表により事例発表が行われた。

(北海道ブロック)	(東北ブロック)	(関東ブロック)	(北陸ブロック)	(中部ブロック)
				
北海道新篠津村 B&G指導者会 発表：宮田 和彦 氏	宮城県亘理町 B&G指導者会 発表：佐々木 利久 氏	埼玉県松伏町 B&G指導者会 発表：飛鳥馬 昇 氏	富山県砺波市 B&G指導者会 発表：金平 裕 氏	三重県いなべ市 B&G指導者会 発表：土岐 竜馬 氏
(近畿ブロック)	(中国ブロック)	(四国ブロック)	(北九州ブロック)	(南九州ブロック)
				
兵庫県南あわじ市 B&G指導者会 発表：久留米 三四郎 氏	岡山県岡山市建部町 B&G指導者会 発表：大谷 浩二 氏	愛媛県愛南町御荘 B&G指導者会 発表：浜岡 邦之 氏	佐賀県太良町 B&G指導者会 発表：織田 渉良 氏	鹿児島県長島町 B&G指導者会 発表：脇田 高洋 氏

ブロック	発表テーマ	ブロック	発表テーマ
北海道	北海道ブロック広域連携体制	近 畿	地域にうねりを
東 北	仮設住宅巡回いきいき運動教室	中 国	指導員の個性や指導力を発揮「指導員研修会」
関 東	出張「水辺の安全教室・カヌー教室」	四 国	第1回愛南町いやしのトライアスロン大会
北 陸	第24回B&Gマリーナフェスティバルin砺波	北九州	クリーンキャンペーン in 太良
中 部	海洋クラブとの連携 ヨット・カヌー教室	南九州	長島海峡横断大会と指導員協力体制

次 第

テーマ：未来を担う子ども達のために“育てよう生きる力”“とどけよう 笑顔と元気”

- 主催者挨拶…………… B&G財団 会長 梶田 功
B&G全国指導者会 会長 工藤 祐直
- 来賓祝辞 …… B&G全国教育長会議 会長 栃木県那須烏山市教育長 池澤 進 氏
B&G財団 評議員 岸 ユキ 氏
- 応援メッセージ…………… B&G財団 理事 重 由美子 氏
B&G財団 評議員 中村 真衣 氏
- 来賓紹介・祝電披露
- 全国指導者会 議案審議および諸報告
報告事項 3年間の事業報告・規則の一部改正について
議案1 役員の選任について
議案2 今後の活動方針・活動目標（案）の承認について
- 「優良指導員」ならびに「優良指導者会」褒賞
- 感謝状贈呈
- シンボルマーク 優秀作品表彰
- B&G指導員・指導者会の必要性和ウォーターセーフティーニッポンの活動について
…………… B&G財団理事長/WSN代表幹事 広渡 英治
- 基調講演「B&G指導員に期待すること」
…………… ロンドン五輪セーリング競技日本代表コーチ 小松 一憲 氏
- 指導者会事例発表…………… 全国10ブロック代表

〈シンボルマーク優秀作品表彰〉



最優秀賞
埼玉県久喜市
栗橋B&G海洋センター
松田 喜和 氏 (右)



受賞作品

3. B&G人材バンク

海洋センター等の活性化および財団事業の効率的・効果的な普及推進のため、財団が認定する指導者「B&G人材バンク」登録を、各種財団オリジナルプログラム普及の担い手として海洋センター等が実施する研修会等に派遣した。

講師・指導者の派遣

海洋センター等が実施する研修会等に対して、人材バンクに登録されている指導者を派遣した。

ア. 海洋性レクリエーション活動／武道活動

(敬称略)

派遣者	内容	派遣先	人数
野中 直美	プールでカヌー体験会 平成24年6月28日(木)	大阪府千早赤坂村	81人
依田 伸一郎	カヌー教室 平成24年8月2日(木)	鹿児島県長島町	30人
(特別講師) 中村 真衣	講演・水泳教室(プール修繕事業) 平成24年8月25日(土)	岩手県久慈市	100人
(特別講師) 谷川 真理	「第50回記念北茨城駅伝競走大会」 平成24年12月2日(日)	茨城県北茨城市	1,000人
(特別講師) 眞喜志 慶治	「香取広域中学校柔道交流会」 平成25年2月9日(土)	千葉県香取市	59人
(特別講師) 中村 真衣	講演・水泳教室(プール修繕事業) 平成25年3月2日(土)	群馬県玉村町	47人
(特別講師) 眞喜志 慶治	少年少女柔道教室 平成24年3月17日	石川県七尾市	80人
(特別講師) 太田 忠徳	特別剣道教室(体育館修繕事業) 平成25年3月23日(土)	青森県弘前市	100人
合 計 : 8ヵ所 1,497人			



中村 真衣 氏



谷川 真理 氏



野中 直美 氏



眞喜志 慶治 氏



太田 忠徳 氏



依田 伸一郎 氏

イ. 転倒・寝たきり予防プログラム

(敬称略)

派遣者	内 容	派 遣 先	人数
伏木 文秀	転倒・寝たきり予防プログラム1日体験会 平成24年11月24日(土)	滋賀県野洲市中主	20人

ウ. 幼児フロアリズム運動プログラム

(敬称略)

派遣者	内 容	派 遣 先	人数
大関 真理子	「フロアリズムレベルアップ研修会」 平成24年11月30日(金)	島根県雲南市加茂	49人
秋山 稔美	「アフロリズム一日体験会」 平成25年3月23日(土)	滋賀県野洲市中主	10人
合 計 : 2ヵ所 59人			

エ. 幼児アクアリズム運動プログラム

(敬称略)

派遣者	内 容	派 遣 先	人数
竹内 浩子	幼児アクアリズム運動プログラム指導者 研修会 平成24年7月5日(木)	徳島県牟岐町	33人
神谷 法子	幼児アクアリズム運動プログラム 平成24年8月29日(水)	岐阜県恵那市	30人
合 計 : 2ヵ所 63人			

オ. 親と子のふれあいキャンプ

(敬称略)

派遣者	内 容	場 所	人数
川島 正光	親と子のふれあいキャンプ 平成24年8月11日(土)~12日(日)	茨城県下野市	7組20人

転倒・寝たきり予防プログラム



滋賀県長浜市浅井
伏木 文秀 氏



親と子のふれあいキャンプ



埼玉県久喜市栗橋
川島 正光 氏



幼児フロアリズム運動プログラム



B&G財団職員
大関 真理子 氏



三重県伊賀市大山田
秋山 稔美 氏

幼児アクアリズム運動プログラム



高知県四万十町窪川
竹内 浩子 氏



愛知県西尾市一色
神谷 法子 氏

第4 ネットワーク構築と調査研究事業

少子・高齢化をはじめ経済・行政・教育・情報など、地域社会を取り巻く環境は目まぐるしく変化している。B&G財団は、常に世の中の変化に対応し、多様化する地域住民や自治体のニーズに合った事業の推進に努めている。全国にはりめぐらされた“ネットワーク”を通じてノウハウを共有するとともに、自治体の首長や教育長を対象とする「B&G全国サミット」などの全国会議を開催し、地域の要望を事業に反映した公益性の高い事業を提供している。また、「B&Gプラン」の推進に係る様々な情報をインターネットを通じて広く社会に発信している。

1. ネットワーク構築

(1) 情報ネットワークに係る活動

全国の海洋センター・海洋クラブ、海洋センター所在自治体等との連携を強化するとともに、財団事業の効果的な推進を図るため、インターネットを活用した情報共有を推進した。

ア. 業務の効率化を図る情報処理システムの整備

内部ネットワークの安定した運用に努めるとともに、電子記録媒体のセキュリティ強化を図った。

イ. 「B&Gコンパス」リニューアル調査

平成25年度に予定しているB&Gコンパスのリニューアルに伴い、システムの基本仕様等の策定を行った。

ウ. インターネットを活用した大会の提供

主に海洋センター利用者を対象に、日々の練習や活動の成果を競う場として、インターネットを活用した2大会を提供した。なお、今年度はウォーターマラソン参加者数の増加を図るため、夏の期間に「サマーチャレンジ賞」を設定した。

大会等名称	申請件数
インターネット水泳記録会	10,376件
ウォーターマラソン (サマーチャレンジ賞)	5,854件 (1,145件)

(2) 人的ネットワークに係る活動

ア. 第5回「B&G全国サミット」の開催（日本財団助成事業）

今、海洋センターに求められていること！
～東日本大震災からの復興・地域の活性化に向けて～
334自治体から204人の首長はじめ副首長・教育長など670人が出席



B&G全国サミットは、全国の海洋センター所在自治体の首長と教育長を対象に開催するもので、当財団と自治体、自治体間相互の情報を共有しながら連携を強化し、一丸となって地域住民の「スポーツ・健康・人づくり」を推進することが目的。

従来は3年に1度の開催であったが、市町村長の総意により、平成23年度から毎年の開催となった。

5回目となる今回は「今、海洋センターに求められていること～東日本大震災からの復興・地域の活性化に向けて～」をテーマに開催し、全392市町村の85%にあたる、45道府県334自治体から204人の首長をはじめ副首長や教育長など577人が出席（前回比102%）。来賓やボートレース関係者、マスコミ関係者を含め、合計670人が来場した。

当日は、日本財団 笹川 陽平 会長による特別基調講演をはじめ、「東日本大震災」からの復興と地域の活性化についての発表、B&G財団40年の成果と今後の財団支援内容の発表などを行った。

最後に、B&Gネットワークを活用し出席者全員で東日本大震災の被災地支援や「水の事故ゼロ運動」の推進、活動情報・ノウハウの共有などに力を合わせて取り組む“共同宣言”が再確認された。また、会議終了後には“優良海洋センターの表彰”や“2012広報大賞の表彰”などが行われた。

主催者挨拶

「被災地への支援を継続し、地域の活性化に取り組みます」

B&G財団 会長 梶田 功



「B&G全国サミットは昨年から皆様方の総意により毎年開催となりました。日本財団・ボートレース業界の理解を得ながら被災地への復興支援を継続し、“健康で豊かな地域社会”の実現を目指します」

特別基調講演

「内向き思考の日本人」

日本財団 笹川 陽平 会長



「昨今言われる日本人の内向き思考は、政治やマスコミに見られるもので、国民が元気をなくしたわけではない。日本財団は独自のウェブサイトを通じて日本の正しい情報を発信していきます」

日時	平成25年1月31日(木) 14:00~17:30		
場所	笹川記念会館国際会議場 (東京都港区三田)		
参加者	海洋センター関係	現職首長	204人
		副首長	33人
		教育長	171人
		代理	36人
		随行者	133人
	来賓	ボートレース関係者 関連団体等	54人
	報道	マスコミ関係者	39人
合計		670人	



B&G財団の生い立ち (VTR)
故 笹川良一 初代会長の理念を聞く参加者たち

次 第

テーマ：今、海洋センターに求められていること
～東日本大震災からの復興・地域の活性化に向けて～

(第1部)

1. B&G財団の生い立ちとB&Gプラン (VTR放映)
2. 主催者挨拶…………… B&G財団会長 梶田 功
3. 来賓紹介
4. 特別基調講演「内向き思考の日本人」…………… 日本財団 笹川 陽平 会長

(第2部)

5. 正副会長の紹介・挨拶
6. 40年の成果と今後の財団支援事業…………… B&G財団 理事長 広渡 英治
7. 東日本大震災からの復興と地域の活性化
 - ▶ 海洋センターの再建と海に親しむまちづくり … 岩手県洋野町 副町長 水上 信宏 氏
 - ▶ 震災からの復興への道 安心して暮らせるための取組 … 福島県本宮市 市長 高松 義行 氏
 - ▶ 新しい里海創生によるまちづくり…………… 三重県志摩市 市長 大口 秀和 氏
 - ▶ 海洋性スポーツの普及振興とボートピアの基金を活用した地域の活性化…………… 長崎県時津町 町長 吉田 義徳 氏
8. 第5回B&G全国サミット共同宣言の確認

(第3部)

9. 「2012広報大賞」表彰
10. 優良海洋センター表彰

(交流会) 4階ホール

= 正・副会長の紹介・挨拶 =

前回より任期中である「B&G全国サミット」正副会長が紹介され挨拶した。

会 長	新潟県胎内市 吉田 和夫 市長
副会長	鳥取県鳥取市 竹内 功 市長
	青森県南部町 工藤 祐直 町長
	徳島県海陽町 五軒家 憲次 町長
	奈良県曽爾村 岡田 泰昌 村長
	千葉県香取市 宇井 成一 市長

※ 宇井市長は都合により欠席



左から：工藤 副会長、竹内 副会長、吉田 会長
五軒家 副会長、岡田 副会長

40年の成果と今後の財団支援事業

「海洋センター修繕助成事業」の継続、“水の安全教育や水プロ、植樹教育”などの各事業をはじめ、指導者養成の重要性や地域指導者会の必要性などを説明。また、水の事故ゼロ運動」の成果や今後の展開について報告した。



B&G財団 理事長 広渡 英治

東日本大震災からの復興・地域の活性化にむけて

海洋センターに甚大な被害を受けた2自治体が、復興の現状と今後の計画について説明した後、独自の発想で地域の活性化に取り組む事例を2自治体が発表した。

= 海洋センターの再建と海に親しむまちづくり =



岩手県洋野町
日當 博治 副町長
「海に親しむまちづくりのシンボルとして、津波で全壊した艇庫を再建する案が出ています」

= 新しい里海創生によるまちづくり =



三重県志摩市
大口 秀和 市長
「地域の海と共生しながら、住んでよし、訪れてよしの志摩市づくりを目指します」

= 震災からの復興への道 =



福島県本宮市
高松 義行 市長
「B&G財団の助成でリニューアルした施設を活用して子どもたちの元気を取り戻したい」

= 海洋性スポーツの普及振興とポートピアの基金を活用した地域の活性化 =



長崎県時津町
吉田 義徳 町長
「ポートピアの売上金の一部で基金を設け、子どもたちの夢を育てています」

「共同宣言」確認

吉田会長の進行により、今後も出席者全員で「東日本大震災」の被災地支援を継続するとともに、財団事業を活用し地域活性化に取り組む「共同宣言」が再確認された。



第5回B&G全国サミット共同宣言

- 1. 海洋センターとの連携
- 1. 施設の運営と管理
- 1. 積極的な事業の推進
- 1. 情報・ノウハウの共有
- 1. 「水の事故ゼロ運動」の推進
- 1. 「東日本大震災」の復旧・復興

★★★ 優良海洋センター表彰 ★★★

平成24年度4月評価（H23年度年間評価）で「特A」評価となった172海洋センターおよび「A」評価となった129海洋センターをブロックごとに表彰。このなかで10年連続「特A」評価を受けた滝川市B&G海洋センターが特別表彰に輝いた。



B&G財団梶田会長（左）から特別表彰された北海道 滝川市B&G海洋センター

★★「2012 B&G広報大賞」表彰★★

大賞に選ばれたB&G和歌浦海洋クラブの中村和哉代表に、審査委員長の岸ユキ氏より賞状と賞品目録が贈られた。



岸 審査委員長（左）から和歌浦海洋クラブ中村代表に賞状と賞品目録が手渡された

★★★★ 特別表彰 ★★★★

ロンドンオリンピックに出場した海洋センター・クラブ出身者4人を代表して、カヌー競技で活躍した大村朱澄さん（川根本町本川根B&G海洋センター）が特別表彰された。



交 流 会

会議終了後には“交流会”が開かれ、各自自治体や海洋センターの活動など様々な情報交換が行われ、交流を深めた。また、B&G財団評議員の岸ユキ氏や谷川真理氏、TBSアナウンサーの秋沢淳子氏も参加し来賓挨拶を行った。



B&G財団評議員
岸 ユキ 氏



B&G財団評議員
谷川 真理 氏



TBSアナウンサー
「水の事故ゼロ運動」
標語審査員
秋沢 淳子 氏



イ. 第9回「B&G全国教育長会議」ブロック幹事・道府県代表者（日本財団助成事業）

44人の教育長を含む83人の海洋センター関係者が出席！！

テーマは“子どもたちに今、求められる力～知育・徳育・体育 バランスのとれた教育から～”

この会議は、44道府県連絡協議会を代表する教育長および全国10ブロック連絡協議会の新旧幹事自治体の教育長と担当者を対象に開催。その目的は“財団と自治体との教育面での連携・協力体制を深め、青少年の健全育成をはじめ地域住民の“スポーツ・健康・人づくり”＝「B&Gプラン」を推進する“ことにある。

第9回目今回は、“子どもたちに今、求められる力～知育・徳育・体育 バランスのとれた教育から～”をテーマに、明星大学 高橋教授による基調講演「教育再生の課題」をはじめ、4人の教育長による事例発表、教育課題に対する自由討議「体罰を考える」などを実施。最終日には、B&Gプランを推進する提言を採択し、2日間の日程を終了した。



主催者挨拶

「今日的課題を話し合い、子どもの健全育成と地域の活性化を図ります」

B&G財団 会長 梶田 功



「今、いじめや体罰が社会問題となっており、また、大震災を教訓に防災や子どもの生きる力の育成も喫緊の課題である。教育行政のトップである教育長の皆様の忌憚のないご意見をいただきたい」

基調講演

「教育再生の課題」

明星大学 教授 高橋 史朗 氏



「教育再生の取り組みは、目先の費用対効果で仕分けてはいけません。国家百年の大計に立って、家庭教育と幼児教育という教育再生の根と幹に焦点を当てた抜本的改革を望みたい」

日時	平成25年2月14日(木)14:00～17:30 ～ 2月15日(金) 9:00～11:30		
場所	日本財団ビル2F会議室（東京都港区）		
参加者	海洋センター関係	教育長	44人
		代理	11人
		担当者・随行者	28人
	来賓	ポートルース関係者 関係団体等	14人
	報道	マスコミ関係者	9人
合計			106人

来賓挨拶

B&G財団 評議員
谷川 真理 氏

B&G財団 理事
中村 真衣 氏



副会長の選任

本会議の副会長 岡山県矢掛町 武 泰稔 教育長の退任により、新たに岩手県普代村 熊坂 伸子 教育長が就任した。

会長	栃木県那須烏山市 池澤 進 教育長	
副会長	高知県津野町	川上 一郎 教育長
	岡山県矢掛町	武 泰稔 教育長(退任)
	岩手県普代村	熊坂 伸子 教育長(新任)



池澤 進 会長（中央）
川上 一郎 副会長（左）
熊坂 伸子 副会長（右）

B&G財団事業の成果報告

B&G財団 理事長 広渡 英治

「第5回B&G全国サミット」「第2回B&G全国指導者会総会」の開催報告とともに、“海洋センター施設修繕助成”や“指導者養成”、“水の事故ゼロ運動”など、40年の財団事業の成果について説明した。



教育長事例発表

地域の特性を活かした“青少年の健全育成の取組みについて”を発表した。

= 「自然体験活動から育む人間関係力」 =



北海道砂川市
井上 克也 教育長

「カヌー・ローボートを体験した子どもたちの感想から、仲間と協力することの大切さを感じ協調性を高めていることが分かりました」

= 「体験活動から育む社会を生き抜く力」 =



島根県雲南市
土江 博昭 教育長

「雲南市では、学校教育と社会教育の“協働”を目指しています。市の調査では、体験活動と学力調査平均点とに有意な関連がみられました」

= 「徳育から育む豊かな人間性」 =



徳島県徳島市
石井 博 教育長

「徳島市では食育推進計画を策定し、全ての幼稚園・学校で、食を通して「命」・「人」・「地域」のつながりを学び、感謝の心を育む取組みを進めています」

= 「生きる力を育む徳育教育」 =



静岡県掛川市
浅井 正人 教育長

「掛川市には、大日本報徳社があり、二宮尊徳との関係の深い地域です。尊徳の報徳の教え（至誠・勤労・分度・推譲）を学校教育に取り入れています」

次 第

テーマ：子どもたちに今、求められる力
～知育・徳育・体育 バランスのとれた教育から～

【1日目】 2月14日(木)

(第1部)

1. B&G財団の生い立ちとB&Gプラン (VTR放映)
2. 主催者挨拶 B&G財団会長 梶田 功
3. 来賓挨拶・紹介
4. 基調講演 「教育再生の課題」 明星大学 教授 高橋 史朗 氏

(第2部)

5. 正副会長挨拶
6. B&G財団事業の成果報告 B&G財団 理事長 広渡 英治
7. 教育長事例発表
 - ▶ 自然体験活動から育む人間関係力 ... 北海道砂川市 教育長 井上 克也 氏
 - ▶ 体験活動から育む社会を生き抜く力 ... 島根県雲南市 教育長 土江 博昭 氏
 - ▶ 徳育から育む豊かな人間性 徳島県徳島市 教育長 石井 博 氏
 - ▶ 生きる力を育む徳育教育 静岡県掛川市 教育長 浅井 正人 氏

(交流会)

【2日目】 2月15日(金)

8. 副会長選任
9. 連絡協議会活性化に向けた取組み
 - ▶ 連絡協議会事業事例紹介 ... 各ブロック連絡協議会代表者（担当者）等
 - ▶ 活性化に向けたディスカッション ... 各ブロック連絡協議会によるディスカッション
10. 教育課題に対する自由討議「体罰を考える」
11. B&G全国教育長会議「提言」

交流会

第1日目の会議終了後には交流会が開催され、参加者相互による情報交換を行いながら親睦が図られた。



連絡協議会活性化に向けたディスカッション

ブロック事業の事例発表が行われた後、ブロック内における様々な課題が討議された。

<関東ブロック連絡協議会>

栃木県芳賀町B&G海洋センター



木村 貴虎 氏

関東ブロック事業として実施した「親と子のふれあいキャンプ in 栃木、in 茨城、in 埼玉」の事業概要が発表された。



<近畿ブロック連絡協議会>

滋賀県米原市伊吹B&G海洋センター



岩山 幸太郎 氏

近畿ブロック事業として実施した同ブロック連絡協議会「担当者研修会」の事業概要が発表された。

教育課題に対する自由討議「体罰を考える」

学校現場やスポーツ指導における体罰について、参加全教育長によって討議された。最後に池澤会長が「教育者や保護者が同じ土俵に立って教育の理念、体罰の定義を検討する時期が来たと思う。今日の討議を起点として、暴力による教育の根絶を目指しましょう」と締めくくった。



「B&G全国教育長会議」提言の採択

会議2日目のディスカッションおよび全体発表後、池澤会長の進行により、「B&G全国教育長会議」の提言が参加者一同の賛同を得て採択された。



「B&G全国教育長会議」提言

1. 自然体験活動を実践する「指導員の養成」と「B&G指導者会の設立」推進
1. 地域と学校との連携強化
1. 海洋性レクリエーション事業の推進
1. 親子・家族の絆の推進
1. 海洋センター・クラブの活用
1. 「水の事故ゼロ運動」の推進



ウ.「教育長・責任者 海洋センター・海洋クラブ活性化会議」開催（日本財団助成事業）

財団事業への認識を深め、効果的な活動を展開するため、海洋センター・海洋クラブの教育長および責任者を対象に全国10ブロックで開催。

B&G財団から役員および各ブロック担当職員などが出席し、平成25年度事業や海洋センター評価の説明をはじめ“水の事故ゼロ運動”への協力依頼、優良海洋クラブ表彰のほか、指導員研修会を併せて実施した。



「中部ブロック会議」（海洋クラブ「特A」表彰も行われ、なごや・竜洋の2海洋クラブが表彰された。
※写真はB&G財団 吉田 常務理事（左）となごや海洋クラブ石川氏（右）

No	ブロック	開催地・開催日・研修会	センター・クラブ数	出席者数
1	北海道	北海道 芦別市 10月25日(木)・26日(金) 教育長事例発表 ①「生きる力を育む自然体験活動」：北海道斜里町 村田 良介 教育長 ②「生きる力を育む防災・安全教育」：北海道神楽町 水野 和男 教育長 ③「生きる力を育む徳育教育」：北海道滝川市 小田 真人 教育長 研修会：久保田 敬二 氏（NPO法人気象キャスターネットワーク気象予報士） テーマ：「気象・海象と水辺の安全 ～天気予報・防災情報を活用する～」	36センター 1クラブ	66人 (教育長12人)
2	東北	岩手県 盛岡市 10月29日(月)・30日(火) 教育長事例発表 ①「生きる力を育む自然体験活動」：秋田県由利本荘市 佐々田 亨三 教育長 ②「生きる力を育む防災・安全教育」：岩手県普代村 熊坂 伸子 教育長 ③「生きる力を育む徳育教育」：福島県塙町 萩原 照夫 教育長 研修会1：小田嶋 孝一氏（盛岡地方気象台 気象情報官） テーマ1：「気象防災～気象情報の利活用～」 研修会2：藤原 昭三氏（盛岡地方気象台 地震津波防災官） テーマ2：「地震と津波防災 ～地震・津波から命を守るために～」	65センター	97人 (教育長21人)
3	関東	東京都 港区日本財団ビル 10月11日(木)・12日(金) 教育長事例発表 ①「生きる力を育む自然体験活動」：栃木県下野市 古口 紀夫 教育長 ②「生きる力を育む防災・安全教育」：茨城県北茨城市 松崎 三郎 教育長 ③「生きる力を育む徳育教育」：埼玉県吉見町 久保田 幸夫 教育長 研修会：林 寿則氏（(公財)地球環境戦略研究機関 国際生態学センター 研究員・博士） テーマ：「樹木や森の効果」	41センター 3クラブ	69人 (教育長19人)
4	北陸	富山県 富山市 11月7日(水)・8日(木) 教育長事例発表 ①「生きる力を育む自然体験活動」：福井県勝山市 梅田 幸重 教育長 ②「生きる力を育む防災・安全教育」：新潟県佐渡市 小林 祐玄 教育長 ③「生きる力を育む徳育教育」：福井県大野市 松田 公二 教育長 研修会：野尻 あずさ氏（マラソンランナー） テーマ：「スポーツを通じてあきらめないことを学んだ ～私の原点～」	38センター 3クラブ	74人 (教育長20人)

No	ブロック	開催地・開催日・研修会	センター・クラブ数	出席者数
5	中部	愛知県 名古屋市 11月14日(水)・15日(木) 教育長事例発表 ①「生きる力を育む自然体験活動」：三重県菟野町 川瀬 敏 教育長 ②「生きる力を育む防災・安全教育」：岐阜県八百津町 有賀 昌司 教育長 ③「生きる力を育む徳育教育」：静岡県掛川市 浅井 正人 教育長 研修会：大村 朱澄氏（ロンドンオリンピック カヌースプリント競技日本代表） テーマ：「たくさんの方の応援があるから夢を追いかけられる自分がいる」	71センター 2クラブ	130人 (教育長30人)
6	近畿	兵庫県 神戸市 11月14日(水)・15日(木) 教育長事例発表 ①「生きる力を育む自然体験活動」：兵庫県香美町 森脇 俊晴 教育長 ②「生きる力を育む防災・安全教育」：和歌山県串本町 野呂 正人 教育長 ③「生きる力を育む徳育教育」：兵庫県上郡町 三木 一司 教育長 研修会：木原 珠子氏(和気スイミングクラブ代表、海人くらぶコーチ) テーマ：「水を通じて子供に伝えたいこと」	41センター 4クラブ	75人 (教育長20人)
7	中国	岡山県 岡山市 11月7日(水)・8日(木) 教育長事例発表 ①「生きる力を育む自然体験活動」：島根県雲南市 土江 博昭 教育長 ②「生きる力を育む防災・安全教育」：岡山県奈義町 笠木 義孝 教育長 ③「生きる力を育む徳育教育」：鳥取県伯耆町 後藤 弥 教育長 研修会：藤井 正弘氏(日本ライフセービング協会 Junior Education Course Director) テーマ：「学校教育とライフセービング」	53センター	85人 (教育長22人)
8	四国	愛媛県 松山市 10月29日(月)・30日(火) 教育長事例発表 ①「生きる力を育む自然体験活動」：愛媛県愛南町 田村 茂雄 教育長 ②「生きる力を育む防災・安全教育」：徳島県美波町 寺内 康博 教育長 ③「生きる力を育む徳育教育」：高知県香美市 時久 恵子 教育長 研修会：椿本 昇三氏(筑波大学大学院教授) テーマ：「水中安全教育の意義―着衣泳について」(講義) 「着衣泳」(実技)	26センター 2クラブ	59人 (教育長11人)
9	北九州	長崎県 長崎市 11月21日(水)・22日(木) 教育長事例発表 ①「生きる力を育む自然体験活動」：佐賀県江北町 赤坂 章 教育長 ②「生きる力を育む防災・安全教育」：大分県中津市 廣畑 功 教育長 ③「生きる力を育む徳育教育」：佐賀県みやき町 大坪 春美 教育長 研修会：朝吹 保志氏(福岡県宮若市体育協会 事務局長) テーマ：「東日本大震災 災害派遣の経験から感じたスポーツの持つ力」	46センター 6クラブ	71人 (教育長14人)
10	南九州	熊本県 熊本市 11月21日(水)・22日(木) 教育長事例発表 ①「生きる力を育む自然体験活動」：鹿児島県与論町 田中 國重 教育長 ②「生きる力を育む防災・安全教育」：熊本県玉名市 森 義臣 教育長 ③「生きる力を育む徳育教育」：鹿児島県霧島市 高田 肥文 教育長 研修会：古瀬 浩史氏(自然教育研究センター 取締役) テーマ：「体験を重視した教育手法と『生きる力』」	37センター 2クラブ	75人 (教育長15人)
合 計			454センター 22クラブ	801人 首長 11人 副首長 1人 教育長 184人

エ. 「海洋センターブロック連絡協議会」 総会への出席

海洋センターブロック連絡協議会および海洋センター道府県連絡協議会の活動促進を図るため、全国10ブロック連絡協議会が主催する総会に、財団の役員およびブロック担当者が出席した。

No	ブロック	開催地	開催日	出席センター・クラブ数および人数
1	北海道	北海道 砂川市	4月27日(金)	36海洋センター・1海洋クラブ 63人 (含: 首長10人、副首長3人、教育長12人)
2	東北	福島県 本宮市	4月26日(木)	53海洋センター 76人 (含: 首長4人、教育長1人)
3	関東	東京都 港区	4月18日(水)	42海洋センター 65人 (含: 首長17人、副首長5人、教育長2人)
4	北陸	新潟県 胎内市	4月25日(水)	40海洋センター 56人 (含: 首長1人、副首長1人、教育長7人)
5	中部	静岡県 掛川市	5月14日(月)	69海洋センター 131人 (含: 首長9人、副首長8人、教育長10人)
6	近畿	滋賀県 米原市	5月23日(水)	41海洋センター・1海洋クラブ 65人 (含: 首長2人、副首長1人、教育長1人)
7	中国	岡山県 岡山市	5月18日(木)	52海洋センター 82人 (含: 首長6人、副首長5人、教育長6人)
8	四国	愛媛県 松山市	5月10日(木)	27海洋センター・2海洋クラブ 72人 (含: 首長8人、副首長2人、教育長7人)
9	北九州	福岡県 宮若市	5月23日(水)	39海洋センター 62人 (含: 首長5人、副首長1人、教育長2人)
10	南九州	熊本県 熊本市	5月24日(木)	37海洋センター 70人 (含: 首長5人、副首長5人、教育長6人)
合 計				436海洋センター・4海洋クラブ 742人 (含: 首長67人、副首長31人、教育長54人)

「海洋センターブロック連絡協議会」総会では、平成23年度の“施設別利用者ベスト30”の表彰も行われた。



22人の首長・副首長が出席した「関東ブロック総会」

平成24年度「ブロック連絡協議会」幹事センターおよび会長

No	ブロック名	海洋センター名	会長名
1	北海道	北海道 砂川市	砂川市 善岡 雅文 市長
2	東北	秋田県 大潟村	大潟村 高橋 浩人 村長
3	関東	栃木県 芳賀町	芳賀町 豊田 征夫 町長
4	北陸	富山県 富山市大山	富山市 森 雅志 市長
5	中部	静岡県 掛川市掛川	掛川市 松井 三郎 市長
6	近畿	滋賀県 米原市伊吹	米原市 泉 峰一 市長
7	中国	岡山県 瀬戸内市邑久	瀬戸内市 武久 顕也 市長
8	四国	愛媛県 今治市吉海	今治市 菅 良二 市長
9	北九州	福岡県 宮若市宮田	宮若市 有吉 哲信 市長
10	南九州	熊本県 南関町	南関町 上田 数吉 町長



「施設別利用人数ベスト30」で表彰された5海洋センター
中央: B&G財団 広渡 理事長

(3) 海洋性レクリエーション団体との協力事業構築のための調査

活動の優良なクラブを対象として会議を実施し、海洋クラブの活性化へ向けた方策を討議するとともに、海洋クラブが目指す役割や方向性を検討した。

ア. 「海洋クラブ会議」の開催

～ 会議のテーマは “B&G海洋クラブだから出来ること” ～

海洋クラブの活性化を目的に、平成23、24年度に登録した新しい海洋クラブの更なる財団への理解と、既存の優良海洋クラブとのネットワークの構築を目的に実施した。

日 時	平成25年3月16日(土) 13:00~17:30 ～17日(日) 9:00~14:00
場 所	B&G財団会議室 (東京都港区)
人 数	海洋クラブ代表者 7クラブ、7人



次 第

テーマ：B&G海洋クラブだから出来ること

【1日目】

1. B&G財団役員挨拶
2. B&Gプランについて
 - VTR放映：「B&Gプランの生い立ち」
 - VTR放映：「最新B&Gプラン」
3. 出席者自己紹介・活動紹介
4. VTR放映「広報大賞（和歌浦クラブ）」
5. H24年度クラブ目標の成果と連携事業の実績等
6. 議題
 - (1)クラブで実施したい事業の提案
 - (2)B&G全国スポーツ大会の魅力アップ
 - (3)海レク体験会、水辺の安全教室の実施
7. B&G新居浜海洋クラブ登録証交付式

【2日目】

8. 議題
 - (4)海洋クラブの連携・協力
 - (5)B&G海洋クラブだからできること
(海洋クラブ登録の要件)
 - (6)海洋クラブ運営の秘訣と工夫
9. 平成25年度海洋クラブ「活動目標」の設定

平成25年度「活動目標」

1. 活動日数を3日増やそう！
2. 地域住民を対象に「海レク体験会」・「水辺の安全教室」を実施しよう！
3. B&G海洋クラブとして情報発信を活発にしよう！

☆☆☆ 出席海洋クラブ ☆☆☆

(敬称略)

NO.	海洋クラブ名	都道府県名	市町村	活動主体	出席者
1	かすみがうらエンジョイ	茨城県	かすみがうら市	カヌー	金子 俊文
2	葉山	神奈川県	葉山町	多種目	海野 義明
3	なごや	愛知県	名古屋市	ヨット	水谷 斗男留
4	伊丹	兵庫県	伊丹市	ヨット	藤田 雅義
5	松山	愛媛県	松山市	ヨット	西村 博行
6	新居浜	愛媛県	新居浜市	ヨット	本田 龍朗
7	宮崎シーライオン	宮崎県	宮崎市	カヌー	藏本 政一

イ. 海洋クラブ指導者の派遣指導、指導プログラム作成「OP級ヨット教室」の実施

「B&G OP級ヨット大会」への参加を促進するため、中部ブロック内の海洋センター・海洋クラブを対象に、優良海洋クラブである「B&Gなごや海洋クラブ」指導者の協力を得て開催した。また、「水の事故ゼロ運動」プログラムを同講習会に組み入れて実施した。

開催場所	三重県いなべ市大安 B&G海洋センター	岐阜県八百津町 B&G海洋センター	大分県 B&G別府海洋クラブ
時期	平成24年6月2日(土) ～3日(日)	平成24年6月16日(土)	平成24年6月2日(土)
人数	大安海洋クラブ員17人 指導者5人	八百津・川辺海洋クラブ員17人 指導者8人	甘木海洋クラブ員3人 指導者4人
協力者	丹羽 英夫 氏 (B&Gなごや海洋クラブ副会長)		濱本 徹夫 氏 B&G別府海洋クラブ代表
OP大会 参加人数	大安海洋クラブ員 1人	川辺海洋クラブ員 1人 八百津海洋クラブ員1人	別府海洋クラブ員2人



OPヨット教室（八百津町）
丹羽氏に指導を受ける参加者



OPヨット教室（いなべ市）
帆走練習



OPヨット教室（別府市）
濱本氏に指導を受ける参加者

(4) 職員相互の派遣研修

ア. 自治体職員 派遣研修制度

海洋センター所在市町村から自治体職員を受け入れ、当財団事業への参画や“アドバンスト・インストラクター養成研修”をはじめ各種研修に参加し、財団への理解促進および自治体相互の協力体制の強化を図った。（平成15年度からこれまでに32人を受入）

平成24年度 自治体派遣研修参加者

(敬称略)

氏名	自治体名	期間
糀谷 哲史	埼玉県久喜市	平成24年4月1日 ～平成25年3月31日
鈴木 翔太	福井県大野市	
曾根 由多	静岡県牧之原市	



自治体派遣職員
左から 鈴木 翔太 氏、
曾根 由多 氏、
糀谷 哲史 氏

イ. 自治体への職員派遣

当財団職員を各担当ブロック内の受け入れ自治体に派遣して、海洋センターや担当部署に勤務する研修（2ヵ月間）、およびブロック内の複数の海洋センターを視察する研修（1ヵ月間）を実施。自治体や海洋センターの職務の体験・視察を通じて問題点を学ぶとともに、人事交流を促進した。（平成17年度から延べ21人を派遣）

平成24年度 財団職員派遣者

氏名	期間	勤務地	視察カ所数
岩井 正人	平成24年11月6日～11月31日	—	近畿ブロック内 23カ所
原田 文子	平成25年2月1日～平成25年3月31日	鳥取県鳥取市	—

「自治体職員派遣研修」参加者一覧（H15年度～）

年度	氏名	所属	期間	年度	氏名	所属	期間
H15	池田 茂喜	北海道滝川市	上期(6カ月間)	H20	寺島 和彦	山梨県北杜市	1年間
	米内 聡	青森県南部町	上期(6カ月間)		大門 英人	北海道大樹町	1年間
	川岡 定義	広島県呉市(旧蒲刈町)	上期(6カ月間)		磯川 由美子	青森県南部町	4月～10月
H16	小島 武史	北海道砂川市	1年間	H21	向後 智一	千葉県香取市	1年間
	島袋 一平	沖縄県名護市	上期(6カ月間)		山田 丈寿	岐阜県八百津町	1年間
H17	安里 孝夫	沖縄県本部町	1年間		藤田 幸一郎	長崎県佐世保市	1年間
	林 桂太郎	岐阜県可児市	上期(6カ月間)		和田 智磯	鹿児島県天城町	1年間
	丹場 康雄	北海道積丹町	下期(6カ月間)	大内 義崇	北海道鷹栖町	1年間	
H18	真砂 敏文	大分県杵築市	1年間	H22	山田 正直	新潟県胎内市	1年間
	猪岡 靖士	岡山県井原市	上期(6カ月間)		工藤 陽平	熊本県湯前町	1年間
	高田 知史	福岡県柳川市	上期(6カ月間)	H23	土岐 竜馬	三重県いなべ市	1年間
	川原 陽介	鹿児島県阿久根市	上期(6カ月間)		久留米 三四郎	兵庫県南あわじ市	1年間
H19	千葉 桂志	宮城県登米市	1年間		亀山 直記	大分県佐伯市	1年間
	山田 誠	徳島県徳島市	上期(6カ月間)	H24	糺谷 哲史	埼玉県久喜市	1年間
	濱田 宗厳	鹿児島県いちき串木野市	上期(6カ月間)		鈴木 翔太	福井県大野市	1年間
	額田 泰充	岡山県瀬戸内市	下期(6カ月間)		曾根 由多	静岡県牧之原市	1年間

2. 調査研究等の活動

B&G財団事業および海洋センター・海洋クラブの活動成果を取りまとめ、その活動の重要性や効果を検証し、B&Gプランの推進に係る調査研究を行った。

(1) 先駆的な事業等に対する支援協力

B&G財団では、B&Gプランの発展に向けて、海洋センター・海洋クラブや県・ブロック連絡協議会が実施する“特色ある事業”に対し、支援・協力を行っている。平成25年度以降の地域の特色ある事業への支援協力について検討した。

(2) 事業成果の分析・評価

平成23年度の財団事業および海洋センター・海洋クラブ活動状況の詳細について分析し検証を行うとともに、全体を取りまとめた「B&G財団活動実績報告書」を作成・発行し、情報の公開を行った。

時 期：平成24年7月1日発行

配付先：地域海洋センター所在市町村長・教育長、地域海洋センター・海洋クラブ、ポートレース関係者ほか

仕 様：A4版、無線綴じ、156頁（4色118頁、単色38頁）

部 数：2,200部



(3) B&G財団中長期事業計画策定の調査研究

次年度が40周年にあたるB&G財団は、事業の本質的な目的や成果を基本から見直し、公益財団法人として、更なる改善と改革を推進することが求められている。平成24年度は次年度に向けた調査研究のための準備等を行った。

3. 広報活動

「海と緑のふれあい ～スポーツ・健康・人づくり～」をスローガンに、当財団が推進する各種のソフト事業および全国の海洋センター・海洋クラブの活動を広く一般に周知するため、マスメディアによる広報をはじめとする各種の広報活動を積極的に展開するとともに、情報の提供を行った。

(1) マスメディアによる広報

新聞、テレビ等へのパブリシティ広報活動を積極的に行った結果、テレビ19局で放映されたほか、新聞134紙、雑誌10誌に記事が掲載された。

(2) ウォーターセーフティーニッポンと連携した広報

ウォーターセーフティーニッポンが実施した事業等に対し、プレスリリースの配信等の広報活動の協力を行った。

(3) 自治体・海洋センター職員「B&G特派員」による情報発信

ブロック連絡協議会および道府県連絡協議会、海洋センター・海洋クラブの活動内容等を積極的に広報するため、毎年、全国10ブロックにそれぞれ1人の「B&G特派員」（任期2年）を委嘱。平成24年度は、20人のB&G特派員が日本財団の「CANPANブログ」を活用し、198件の情報発信を行った。

「B&G特派員」研修会

B&G特派員の役割や業務内容、広報活動等について理解を深めるとともに、ブロック内の広報リーダーとしてのスキルアップを図るため、研修会を開催した。

期 日：平成24年6月7日(木)～8日(金)

場 所：日本財団会議室（第3・4）

対 象：ブロック連絡協議会から推薦された、B&G指導員有資格者または海洋センター・海洋クラブの担当者

人 数：19人

内 容：特派員の役割・意義、業務内容、広報活動について、記事の書き方、写真の撮り方、映像の撮影について、ディスカッションほか

(敬称略)

講 師：

講師名	所 属 等	内 容
山田 泰久	日本財団 経営支援グループ 情報コミュニケーションチーム チームリーダー	「SNSを使った情報発信について」
山下 勲	日本写真家協会会員 B&G広報大賞審査委員	「写真の撮り方」（基礎編・応用編）
市川 和彦	マリンジャーナリスト B&G財団特約ライター	「記事の書き方」（基礎編・応用編）
千葉 好則	フリー報道カメラマン B&G財団オフィシャルカメラマン	「映像の撮影について」

平成24年度 B&G特派員

NO.	ブロック	県	センター名	特派員名	任期(2年)		NO.	ブロック	県	センター名	特派員名	任期(2年)	
					H24 H25	H23 H24						H24 H25	H23 H24
1	北海道	北海道	厚岸町	森下 高	○		11	近畿	滋賀県	野洲市中主	中野 良博	○	
2		北海道	剣淵町	佐藤 聖弥		○	12		兵庫県	新温泉町浜坂	森田 和人		○
3	東北	岩手県	盛岡市玉山	鈴木 学	○		13	中国	岡山県	井原市美星	田邊 裕章	○	
4		福島県	石川町	遠藤 勇喜		○	14		広島県	府中市	大越 利夫		○
5	関東	茨城県	行方市玉造	野原 嘉典	○		15	四国	愛媛県	愛南町御荘	濱岡 邦之	○	
6		栃木県	下野市国分寺	近藤 隆博		○	16		香川県	三木町	筒井 政美		○
7	北陸	石川県	穴水町	和田出 勝則	○		17	北九州	長崎県	佐世保市小佐々	藤田 幸一郎	○	
8		新潟県	新潟市中之口	山田 智生		○	18		大分県	佐伯市上浦	高橋 和孝		○
9	中部	静岡県	掛川市大須賀	河原崎 貴広	○		19	南九州	沖縄県	伊江村	万寿 祥久	○	
10		長野県	長和町和田	坂田 真二		○	20		熊本県	湯前町	工藤 陽平		○

優 秀 賞

「テレビの部」

1	和歌浦海洋クラブ (和歌山県)	B&G旗を持った海洋クラブ員が海洋クラブの活動を6分間にわたり紹介。演出は素朴だが、出演した子ども達がしっかり目標を語っていることで、視聴者にも夢を与える内容となっており、強いインパクトがある。
2	胎内市中条 (新潟県)	「水に賢い子どもを育む年間型活動プログラム」で子ども達がカヌーを楽しむ様子が紹介された。海洋センターの艇庫もテロップ付きで紹介され、B&GのPR度が高い。
3	鳥取市 (鳥取県)	NHK鳥取の番組「いちおしNEWSとっとり」で約7分間放映された。指導者がOPヨットの乗り方を分かりやすく説明していて、ヨットの楽しさが伝わり、自分も乗れるのではないかと思う内容である。
4	周防大島町 (山口県)	子ども達がカヌーで沖合の無人島を目指す姿が、ニュース番組の中で約20分間ライブ中継された。指導員の帽子がB&Gのものであれば更に良かった。
5	今治市吉海 (愛媛県)	今までとは違った視点でB&G海洋センターが紹介されており、修繕助成の詳細を説明している。B&G財団の紹介もされているのも良い。

「新聞の部」

1	室蘭市 (北海道)	海洋センターの活動や松苗選手の活躍など、バラエティに富んだ話題を発信している点に評価が集まった。
2	熊野市紀和 (三重県)	大小合わせて27の記事を複数の地方紙が掲載。年間を通じて取材依頼に力を入れており、日々の細かい努力が記事の数となって表れている。
3	香美町香住 (兵庫県)	全国紙、県紙など複数の新聞にカラー写真付きの大きな記事が掲載されている。常に複数の記者に情報発信するなど努力している。
4	雲南市加茂 (島根県)	月の初めに事業の月間予定を報道機関にFAX等で送付。さまざまな話題が記事になっており、海洋センターと地域の高い密着度がうかがえる。今年で7回連続の受賞は見事。
5	愛南町御荘 (愛媛県)	県紙である愛媛新聞に9回中8回カラー写真付きで掲載されている。積極的に取材依頼をしている担当者の努力と熱意を感じる。

「地域広報の部」

ケーブルテレビの部

松伏町 (埼玉県)	B&G指導者が夢の貯金箱の紹介をしている。貯金箱は松伏町オリジナルデザインで、指導者の分かりやすい説明やB&G海洋センターの紹介もされていることが高い評価を得た。
-----------	---

地域広報誌の部

府中市 (広島県)	6,000部発行の「府中ニュース」と4,700部発行の「ふちゅうかわら版」に写真付きの大きな記事が10回掲載されている。担当者が事業を広報しようとする熱意が伝わってくる。
-----------	---

「ホームページの部」

1	袋井市袋井 (静岡県)	リニューアルして使い勝手が向上し、電話の問い合わせが激減するなど海洋センター運営にも効果が発揮されている。
2	高島市今津 (滋賀県)	facebookがサイト内に併設、Youtube、Twitter、Blogなど様々なコミュニケーションツールも導入され、非常に伝播しやすいサイトになっている。
3	与論町 (鹿児島県)	あらゆる視点からセンターを利用するにあたっての情報の入手がしやすく出来ている。以前に比べて、コミュニケーションツールも増え、様々なユーザーに対しての配慮を感じる。

「特派員の部」

1	関東ブロック特派員	栃木県下野市国分寺B&G海洋センター 近藤 隆博 氏
2	近畿ブロック特派員	滋賀県野洲市中主B&G海洋センター 中野 良博 氏
3	中国ブロック特派員	広島県府中市B&G海洋センター 大越 利夫 氏
4	四国ブロック特派員	愛媛県愛南町御荘B&G海洋センター 濱岡 邦之 氏
5	南九州ブロック特派員	熊本県湯前町B&G海洋センター 工藤 陽平 氏

審査員特別賞

新規事業「海を守る植樹教育事業」の積極的な広報展開が評価を得て、2ヵ所の海洋センターが審査員特別賞を受賞

1	普代村（岩手県）	「広報ふだい」の巻頭にカラー2ページで紹介。震災からの復興を目指し、植樹祭に小中学生300人が集まったことも高い評価。
2	徳島市（徳島県）	四国放送「徳島新聞ニュース」で植樹祭の様子が1分間にわたり放映された。

審査員のコメント

審査委員長

岸 ユキ 氏

女優、B&G財団 評議員



約2,000件の中から受賞された皆様おめでとうございます。今年は大変グレードが高く、広報に対する意識の高まりを感じました。地元マスメディアとの連携は、勿論、自分たちで作るwebでは新しい物に挑戦する意欲が感じられ、広報の原点である地域広報誌が元気なのは嬉しくなりました。B&Gの存在が地域に浸透してきている事を嬉しく思います。

田久保 雅己 氏

(株) 舵社 常務取締役、B&G財団 施設整備委員



大賞は昨年に引き続きテレビの部から選ばれ、和歌浦海洋クラブが獲得しました。海洋センターではなく、クラブとしては初の受賞となりました。番組に出演したジュニアセーラーたち一人一人のヨットに打ち込むひたむきさが前面に出て、見るものを惹きつける魅力的な内容でした。きっとたくさんの視聴者の心の中に、「ヨット、B&G、和歌浦クラブ」の名称が刻まれたことでしょう。全体としてはB&G財団の「海を守る植樹教育事業」など、新しい事業の広報活動が出始めたことが新鮮な印象を残しました。応募点数も毎年増加しており、いまから来年が楽しみです。

中井 一平 氏

(株) 読売新聞東京本社 常務取締役 労務担当



広報という観点から言えば、これほどストレートに効力を発揮しそうな出来ばえのものは珍しいだろう。大賞に輝いた和歌浦海洋クラブのテレビ企画は、B&G旗を真ん中に大きく据えて、それを取り囲む子供達の笑顔がはじけている。その画面が延々と5分以上も続くのだから、視聴者に強烈なインパクトを与えることは間違いない。むしろ審査員の心も瞬時に奪われた。各分野で活動の活発さがうかがえたが、新聞の部で優秀賞となった愛南町御荘は新しく特派員となった方の活躍が大きいという。記事を書くのも書かせるのも「足」次第と改めて痛感した。

山下 勲 氏



社団法人日本写真家協会 会員、B&G財団フォトアドバイザー

各事業の活動内容が5つの媒体を通して約2,000件の発信があったという。施設への助成金、そしてリニューアルオープン、新事業の森づくり等、立ち止まることが無い。そこで、新事業の審査には違った物差しを当てることも必要だと思った。特派員の部で選ばれた5人には何事も工夫するという共通点があった。人間は工夫して下から上に登るといふ松雲庵主の言葉を思いだした。

加藤 雅章 氏



(株) ロボット 執行役員 ウェブ・コミュニケーション部 部長

ブログはもちろんのこと、FacebookやTwitterなどソーシャルツールを積極的に導入されているところが多くなってきました。休館日や急なお知らせをソーシャルを活用したことで、施設に来場される方からのお問い合わせの量が減ったという報告も多くありました。今後のテーマはスマートフォン対応だと思いますので、デバイスを意識したウェブでの上手な広報活動が、これから大切になってくると思います。

藤川 務 氏



(株) 日本レジャーチャンネル 代表取締役社長

今回の大賞審査は意見が分かれたが、海洋クラブの活動と子供達が丁寧に紹介された和歌浦海洋クラブがクラブとして初の受賞となった。子供達の笑顔は気持ちを和やかにする。特別賞として普代村（地域広報の部）徳島市（TV部門）が受賞、従来の水中心の活動に植樹が加わり広報活動の幅も大いに広がりが期待される。ホームページの部はサイトによってページビュー、更新頻度にかかなり差があるので、数値目標を設けて見直すことも手だろう。広報活動全般にわたって、今一歩、二歩進めた活動を期待したい。

小谷 和彦 氏



(株) TBSテレビ 編成制作本部制作局
バラエティ制作センター担当部長 チーフプロデューサー

審査対象となったどれもが社会的意義に満ち溢れた内容でした。私は常々、皆さんの活動を未来の日本を担う子どもたちに向けて、しっかり届けることが重要だと考えています。今回の大賞は、テレビメディアの特性（動画、音、スーパー、1対N、接しやすさ）をどれもうまく活用し、かつ何より主役である子どもたちが飾らない表現で、きちんと夢を伝えられたことに大変価値があったと思います。皆さんの熱心な活動が広報を通じ、一人でも多くの方に届きますように！

谷川 真理 氏



タレント 流通経済大学 客員教授、B&G財団 評議員

昨年より300件以上も多い約2,000件の応募ということで部門審査での絞り込みのご苦労を感じました。昨年より引き続き広報大賞は、テレビの部からの選出に決まりましたが、初の海洋クラブからの受賞で海洋クラブの励みになったと思います。新聞の部では、昨年より約300件近くも多い応募というのは各地方でのイベント等々の活動ぶりを感じました。今後も広報活動をよろしくお願い致します。

広渡 英治 氏



B&G財団 理事長

各分野でご活躍いただいている専門家の皆様のご協力をいただき、今年も「B&G広報大賞」を開催できましたことに感謝申し上げます。今回は、和歌浦海洋クラブが海洋クラブとして初めての広報大賞を受賞されました。また、新規事業である「海を守る植樹教育事業」の積極的な広報展開が評価を得て、3年ぶりの審査員特別賞も選ばれました。今後も皆さまの活発な広報活動をお願いします。

(6) 広報誌「アンドリーニュース」の発行

財団の活動等を広く一般に周知するため、年2回発行し、海洋センター・海洋クラブほか関係団体等に配付した。



(7) B&Gオリジナルグッズの製作・販売

日本財団と日本オリンピック委員会が実施している「エール FOR 日本」に協賛し、JOCマークの入ったオリジナルグッズ製作とチャリティ販売を行い、その販売利益等を日本財団に寄付した。

販売グッズ	販売数	寄付金額
ポロシャツ	4,435枚	4,435,000円
Tシャツ	8,956枚	3,582,400円
タオル	8,964枚	1,344,600円
募金他	—	148,984円
合計	22,355枚	9,510,984円



チャリティー販売



B&GオリジナルTシャツをユニフォームにしてB&G全国大会に参加



B&G壁新聞

「アンドリーニュース」発行

平成24年度は全19号を発行、「B&Gコンパス」を通じて全国の海洋センター・海洋クラブに発信した。



書籍の制作

「小野田さんに学ぶ 親子で楽しむキャンプ術」

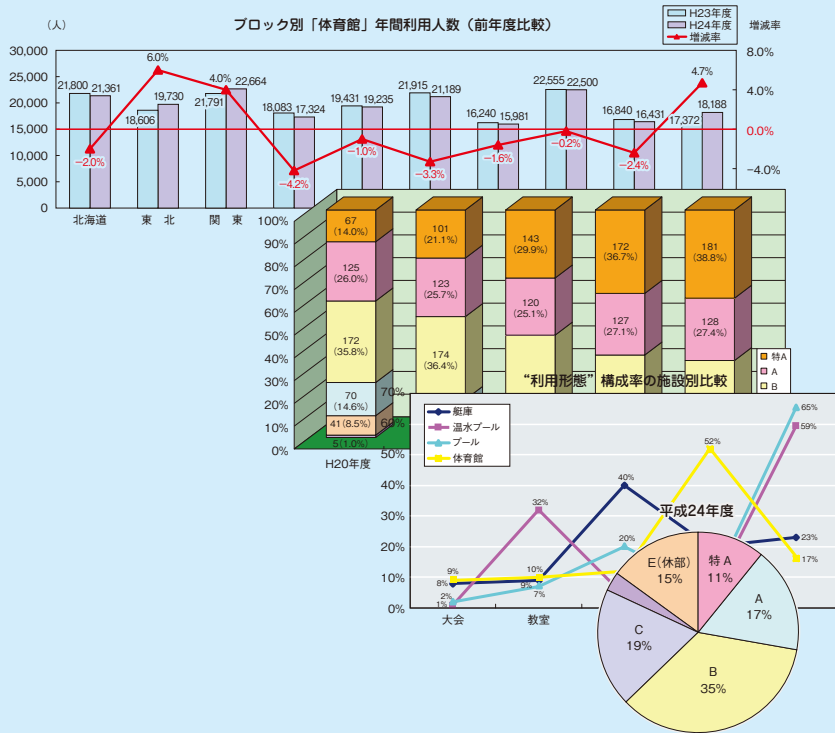
平成20年度から実施している『親子のふれあいキャンプ』のプログラムを広く一般に周知するため、キャンプマニュアルを書籍化した。



第2章

統計データ編

「地域海洋センター」および「海洋クラブ」、
「海洋センターブロック連絡協議会」の運営・活動状況等に
関する各種統計データの詳細を掲載する。



第1 海洋センターの運営・活動状況

1. 海洋センターの活動状況

平成24年度末の海洋センター所在自治体数は、218市、161町、13村で392自治体、474海洋センターとなった。海洋センター建設当初と比較すると、市の数が4.3倍に増え、海洋センター所在人口も760万人から2,568万人と約3.4倍に増加した。

また、B&G財団と海洋センター所在自治体との連携を強化し、各地域の実情にあった事業を提供するため、海洋センター所在市町村の首長や教育長を対象とする「B&G全国サミット」、「B&G全国教育長会議」ほか、「ブロック連絡協議会総会」や「教育長・責任者活性化会議」、自治体との「人事交流」などを実施。財団に対する自治体の理解が従来にも増して深まっているところである。

～ 東日本大震災の被災施設の再開等により利用人数が増加、海洋センター評価は高いレベルで安定 ～

海洋センターの活動状況では、“指導者の適正配置”や“効率的な管理・運営”、さらに“財団ソフト事業の積極的な活用”などにより利用促進が図られている。海洋センターの管理・運営状況の指標となる“海洋センター評価”では、評価「B」以上のセンターが全体の92%（前年度90%）を占めるとともに、その評価を維持している海洋センターが更に増加、海洋センターの評価が高いレベルで安定している状況にある。

平成24年度の海洋センターの利用人数は、記録的な豪雨などの自然災害による影響があったが、東日本大震災の被災地施設の再開などにより、昨年度を6万人上回る1,029万人となった。

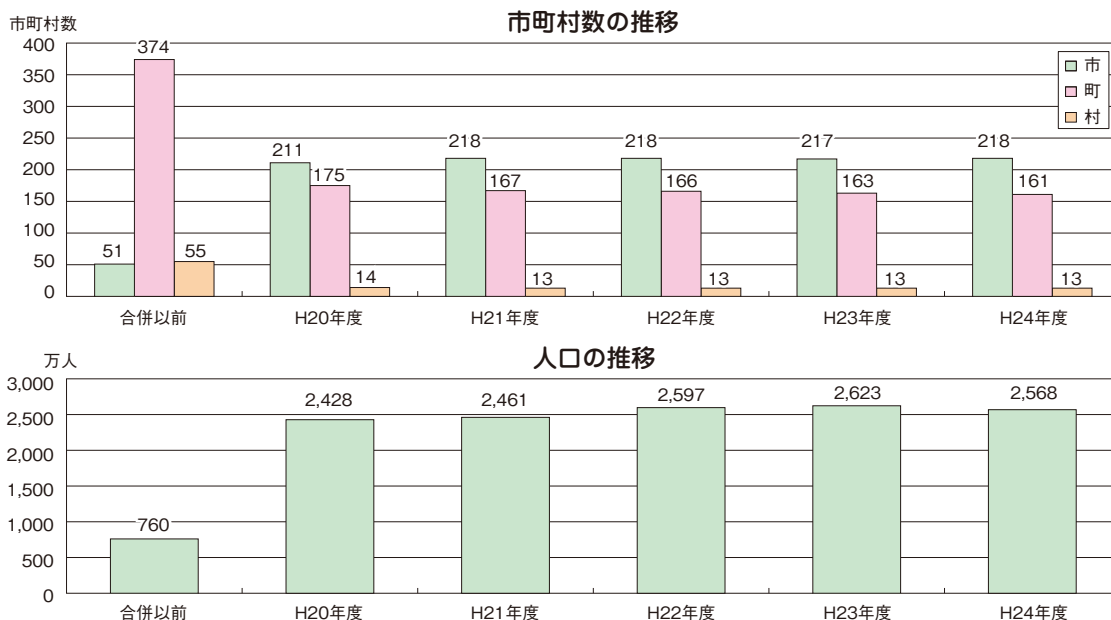
また、平成22年3月に設立したウォーターセーフティーニッポン（水の事故ゼロ運動推進協議会）が推進する「水の事故ゼロ運動」を、一幹事団体として積極的に展開。同運動の一環となる“水辺の安全教室”を全国の海洋センター・海洋クラブ、ブロックや県の各連絡協議会、指導者会などで、1,956教室開催し、延べ6万人の子どもたちが参加するなど、「B&Gプラン」推進関係者が一丸となって取り組んでいるところである。

なお、平成23年3月に発生した「東日本大震災」により被害を受けた海洋センター1施設および竜巻被害を受けた海洋センター1施設に対して、平成24年度内の緊急復旧修繕として総額1,530万円を助成した。

海洋センター所在市町村数・人口の推移

	合併以前	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
市	51	211	218	218	217	218
町	374	175	167	166	163	161
村	55	14	13	13	13	13
合計	480	400	398	397	393	392
人口	760万人	2,428万人	2,461万人	2,597万人	2,623万人	2,568万人

※海洋センター総数：H24年度まで6ヵ所閉鎖のため474カ所



2. 海洋センター評価

本評価は、「B&Gプラン」推進拠点である全国の地域海洋センターが、管理・運営面での現状を把握し、今後の更なる活動の活性化をはかるための“指標”であり、評価に応じた海洋センターへの公正な支援を行うためのものである。平成15年度から「海洋センター評価」を導入し、平成19年度から評価基準とともに結果の公表を行っている。

(評価方法)

海洋センターから提出される“運営状況報告書”等のほか、指導員の配置状況、財団事業の活用・参加状況などの評価基準による。

評価対象期間

年間評価	当該年度（4月～3月）の評価を翌年度はじめに各海洋センターに公表する
中間評価	各海洋センターが年間評価向上への対策を講じることができるよう、当該年度の上期（4月～9月）の評価を同年度下期はじめに公表する

評価の種類と財団支援等

評価	点数範囲（50点満点）	財団支援・指導等
特A	40点以上	修繕助成の対象となり、評価に応じた助成率が得られる。その他、評価ランクに応じた支援を行う
A	32点～39点	
B	20点～31点	
C	12点～19点	原則として、Cランク以下は修繕助成の対象外となる。上位ランクとなるよう改善に向けた指導を行う
D	0点～11点	運営指導を行う。改善が見られない場合は首長を含めた協議を行う
E	施設休止	首長を含めた協議を行う

海洋センター評価基準（概略）

評価項目と配点	評価の対象	
1. 指導員関係（計10点）	①指導員配置状況（7点）	配置基準による配置状況
	②指導者会設置状況（3点）	指導者会の登録および活動の有無
2. 海洋センター運営関係（計15点）	①利用人数（5点）	年間利用人数状況（「増加率」および「ランキング」による）
	②施設維持管理（5点）	財団修繕助成実績および自主修繕実績
	③大会・教室開催（5点）	大会・教室の開催状況
3. 財団事業関係（上限10点）	①財団事業の活用（上限7点）	財団事業（26事業）の実施・参加状況
	②会議等への出席（6点）	各種会議への出席状況
4. 情報提供関係（計5点）	①B&Gコンパスの活用（2点）	B&Gコンパスへの情報提供およびメッセージの未読状況
	②日報サービスの活用（3点）	利用人数の入力状況
5. 特別加点（上限10点）	17項目（計57点）	財団事業「B&Gプラン」推進への協力状況
合計（50点）		

(表 彰)

年間評価が「特A」、「A」ランクの優良海洋センターの表彰を行っている。

平成24年度は、「平成23年度 年間評価」（平成24年4月度評価）の優良海洋センター 301センターを表彰した。（詳細は48頁）



第5回B&G全国サミットでB&G財団 梶田会長（中央）から「A」表彰を受けた徳島県徳島市原市長（左）と沖縄県伊江村 大城村長（右）

(1) 平成24年度「年間評価」(前年度対比)

平成24年度の年間評価は、「C」「D」評価センターが減少し、「特A」評価センターが微増するなど、昨年度から更に評価が向上した。また、“海洋センター評価の変動状況”を見ると、前年度同様に、評価“向上”センターが減少し、評価“低下”センターが増加しているが、これは、H22年度に評価が大幅に向上し、H23年度からその高い評価を維持している傾向が続いていることを示している。H22年度の評価維持センター数が159カ所でH23年度が296カ所、H24年度が299カ所であることから、優良海洋センターが高い評価で安定していることが分かる。

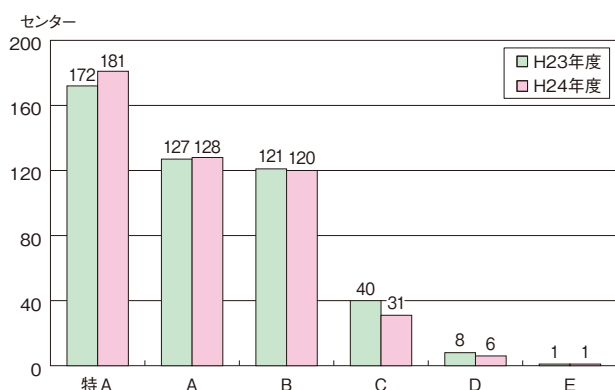
評価別海洋センター数 (前年度比較)

年度		特A	A	B	C	D	E	合計
H23	センター数	172	127	121	40	8	1	469
	(構成率)	(36.7%)	(27.1%)	(25.8%)	(8.5%)	(1.7%)	(0.2%)	(100%)
H24	センター数	181	128	120	31	6	1	467
	(構成率)	(38.8%)	(27.4%)	(25.7%)	(6.6%)	1.3%	(0.2%)	(100%)
増減数	センター数	9	1	-1	-9	-2	0	-
	(増減率)	(5.2%)	(0.8%)	(-0.8%)	(-22.5%)	(-25.0%)	(0%)	-

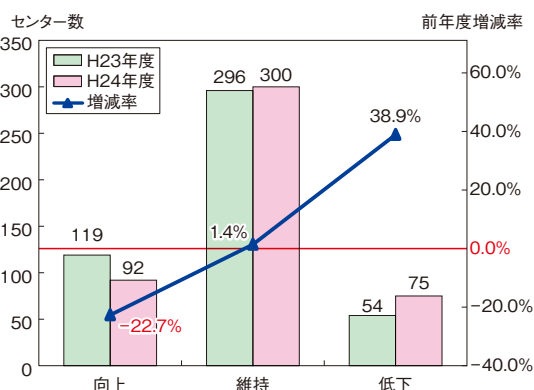
海洋センター評価 (前年度比較)

年度		評価向上	評価維持	評価低下	合計
H23	センター数 (構成率)	119 (25.4%)	296 (63.1%)	54 (11.5%)	469 (100%)
	増減率	-22.7%	1.4%	38.9%	-
H24	センター数 (構成率)	92 (19.7%)	300 (64.2%)	75 (16.1%)	467 (100%)
	増減率	-22.7%	1.4%	38.9%	-

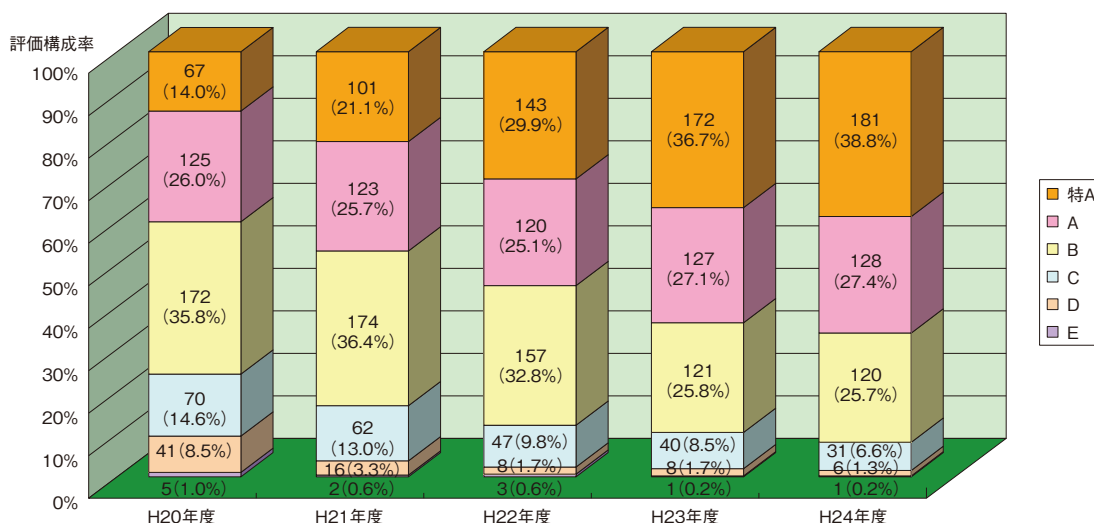
海洋センター評価 (前年度比較)



海洋センター評価の変動状況 (前年度比較)



(2) 海洋センター年間評価5カ年の推移



(3) 平成24年度「年間評価」(類型別)

※H25年4月度評価

各評価の割合(構成比率)を施設(類型)別に見ると、優良海洋センター(A評価以上)の構成比率が最も高い類型は「3類(艇庫・体育館):77%」で、次に「2類(プール・艇庫)」、「5類(艇庫・プール・体育館)」がともに73%、「4類(プール・体育館):67%」と続く。また、1類(艇庫orプール)施設の中では、「1類(屋内温水プール):82%」が最も優良海洋センターの割合が高い。

次頁のレーダーチャートは、「類型別の海洋センター評価点の平均値」を当該類型の評価点として、「全海洋センターの各評価点の平均値」との偏差を表したものの。青線が全海洋センターの平均値(50)、赤線が各類型の偏差値を示している。

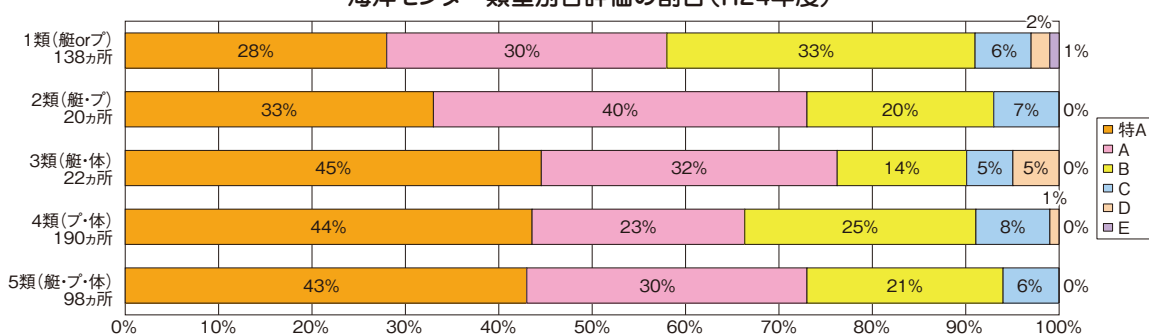
類型別 評価別 一覧 (H24年度 年間評価)

H25年4月度評価

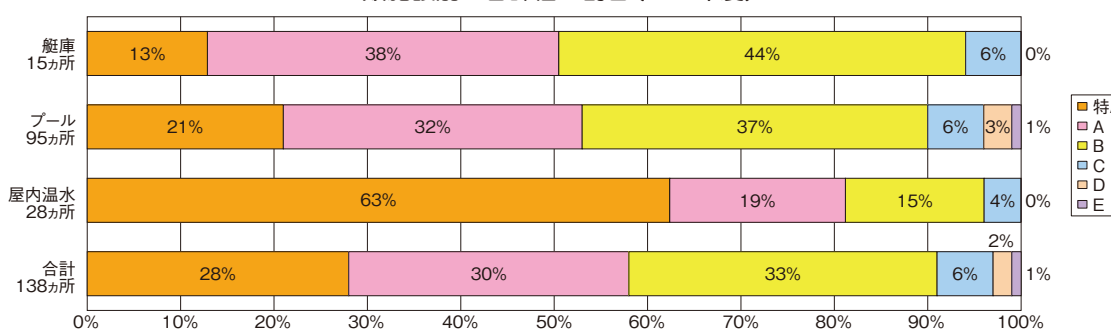
類型	施設名	特A	評価比率	A	評価比率	B	評価比率	C	評価比率	D	評価比率	E	評価比率	合計
1類	艇庫 (16カ所)	2	13%	6	38%	7	44%	1	6%	0	0%	0	0%	16
	プール (95カ所)	20	21%	30	32%	35	37%	6	6%	3	3%	1	1%	95
	屋内温水プール (27カ所)	17	63%	5	19%	4	15%	1	4%	0	0%	0	0%	27
	1類合計 (138カ所)	39	28%	41	30%	46	33%	8	6%	3	2%	1	1%	138
2類	プール 艇庫 (15カ所)	5	33%	6	40%	3	20%	1	7%	0	0%	0	0%	15
3類	体育館 艇庫 (22カ所)	10	45%	7	32%	3	14%	1	5%	1	5%	0	0%	22
4類	体育館 プール (195カ所)	85	44%	45	23%	48	25%	15	8%	2	1%	0	0%	195
5類	体育館 プール 艇庫 (97カ所)	42	43%	29	30%	20	21%	6	6%	0	0%	0	0%	97
合計	合計 467カ所	181	39%	128	27%	120	26%	31	7%	6	1%	1	0.2%	467

※用途変更等の海洋センター修繕により、現行の施設類型に該当しない海洋センターを除く

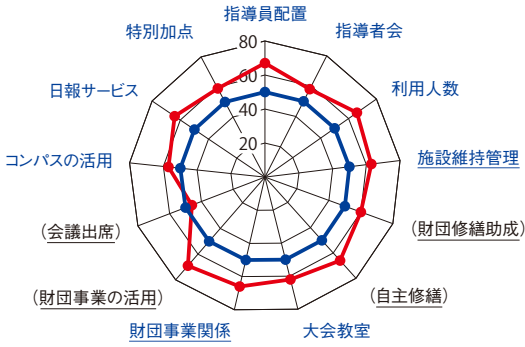
海洋センター類型別各評価の割合(H24年度)



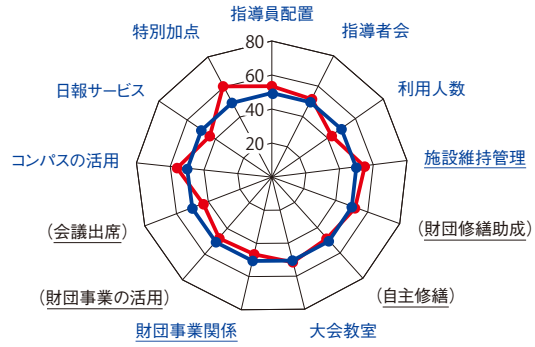
1類施設別の各評価の割合(H24年度)



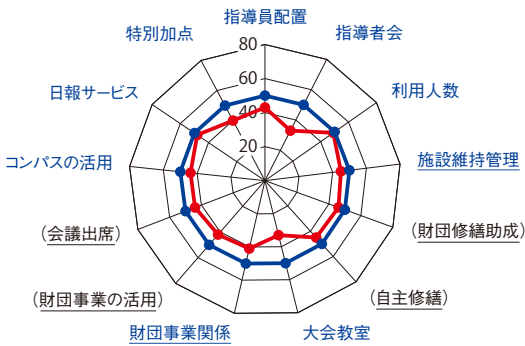
1類（屋内温水プール）



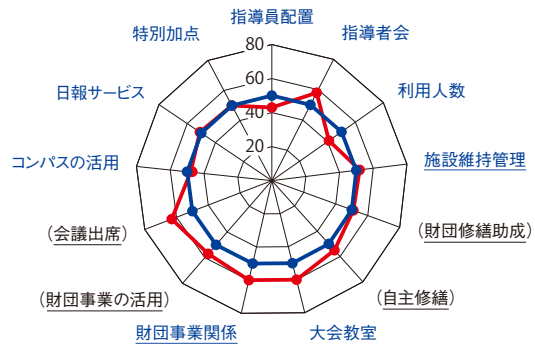
2類（プール・艇庫）



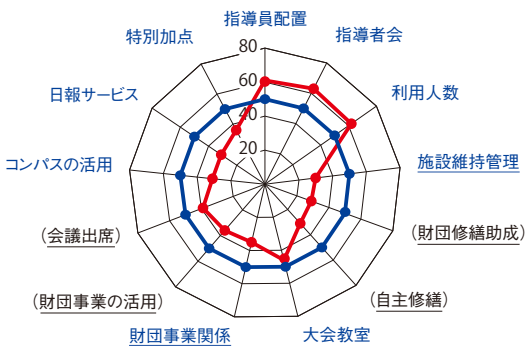
1類（プール）



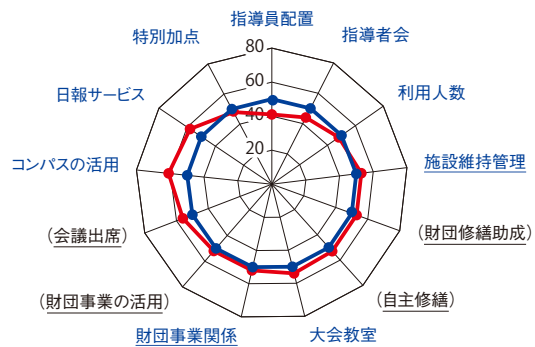
3類（艇庫・体育館）



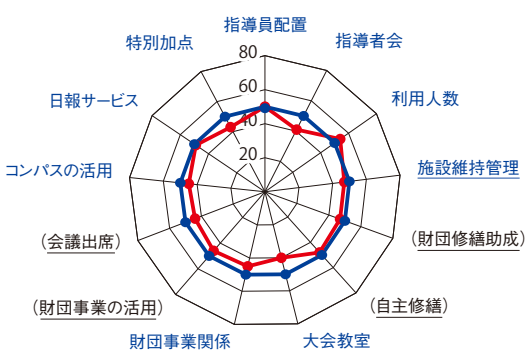
1類（艇庫）



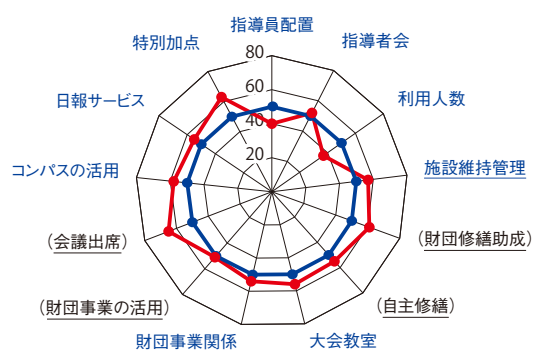
4類（プール・体育館）



1類合計



5類（艇庫・プール・体育館）



3. 利用人数

(1) 利用人数（施設全体）

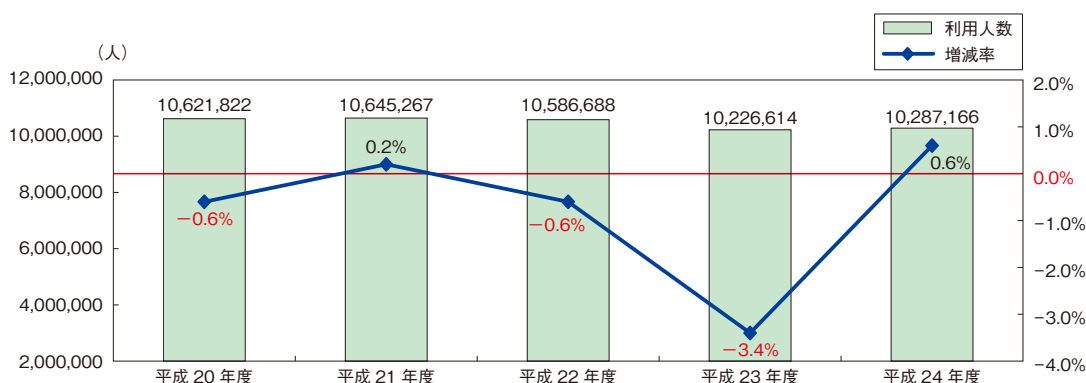
平成24年度は前年度より6万人（1%）の増加となった。平成24年度の利用状況を総括すると、台風やゲリラ豪雨の影響等により、艇庫の利用人数は減少したが、プール・体育館の利用人数は昨年を大幅に上回った。

※103頁の月別利用人数（－施設合計－）を参照

★★★ 総利用人数の推移 ★★★

（平成25年4月4日集計）

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
利用人数	10,621,822	10,645,267	10,586,688	10,226,614	10,287,166
増減数 （率）	-68,192 （-0.6%）	23,445 （0.2%）	-58,579 （-0.6%）	-360,074 （-3.4%）	60,552 （0.6%）



(2) 施設別利用人数（艇庫/プール/体育館）

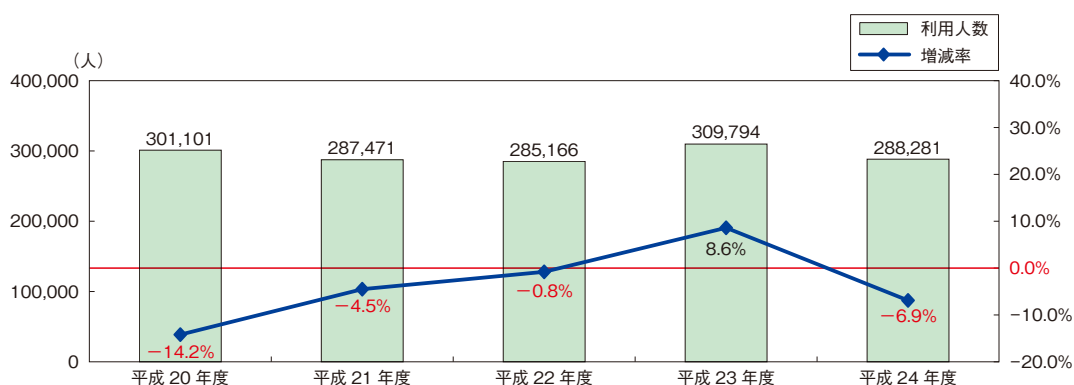
ア. 艇庫

平成24年度は前年度を約2万1千人下まわり約28万人となった。全国の海洋センターでは、平成21年度から「水の事故ゼロ運動」として“水辺の安全教室”を実施しており、年々同教室への参加者数が増加しているが、台風やゲリラ豪雨の影響等による大会・イベントの中止等が艇庫利用の減少につながったものと思われる。

※102頁の月別利用人数（－艇庫－）を参照

★★★ 艇庫利用人数の推移 ★★★

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
利用人数	301,101	287,471	285,166	309,794	288,281
増減数 （率）	-49,877 （-14.2%）	-13,630 （-4.5%）	-2,305 （-0.8%）	24,628 （8.6%）	-21,513 （-6.9%）



イ. プール

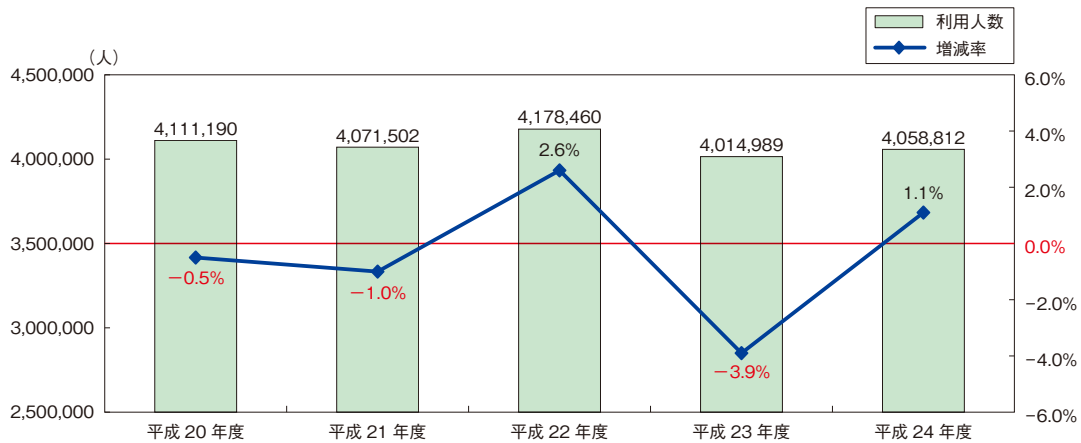
平成24年度は前年度を約4万人（1.1%）上回り、増加となった。

この大きな要因は、猛暑の影響により、関東・北陸ブロックの利用人数が約4万5千人増加したことなどが挙げられる。

※102頁の月別利用人数（－プール－）を参照

★★★ プール利用人数の推移 ★★★

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
利用人数	4,111,190	4,071,502	4,178,460	4,014,989	4,058,812
増減数 (率)	-21,346 (-0.5%)	-39,688 (-1.0%)	106,958 (2.6%)	-163,471 (-3.9%)	43,823 (1.1%)



ウ. 体育館

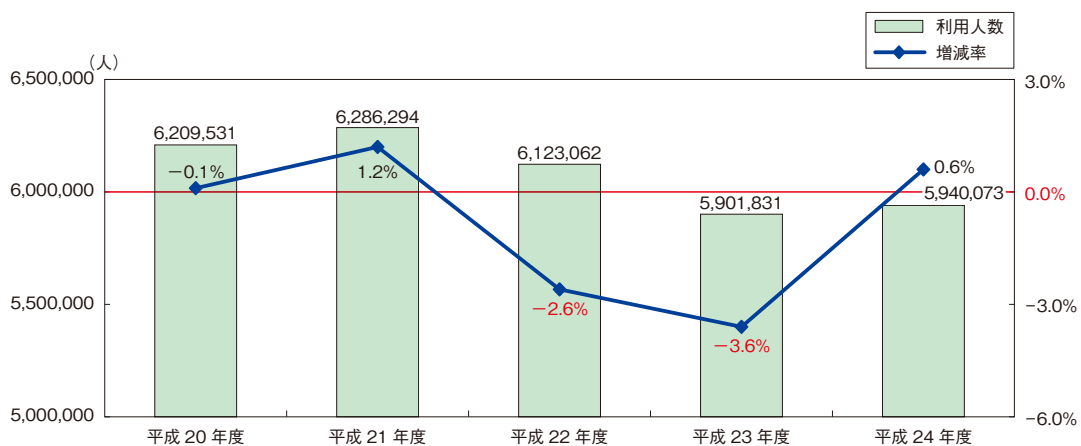
平成24年度は3.8万人（0.6%）の増加となった。

要因としては、「東日本大震災」の被災地となった東北6県の利用が再び開始され、6県合計で5万5千人増加したことが挙げられる。

※103頁の月別利用人数（－体育館－）を参照

★★★ 体育館利用人数の推移 ★★★

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
利用人数	6,209,531	6,286,294	6,123,062	5,901,831	5,940,073
増減数 (率)	3,031 (0.1%)	76,763 (1.2%)	-163,232 (-2.6%)	-221,231 (-3.6%)	38,242 (0.6%)



4. 利用人数の各種統計データ（詳細）

(1) 平成24年度 施設別・県別 年間利用人数（前年度比較）

※H25年4月4日集計（単位：人）

ブロック・道府県	人口	艇庫			プール			体育館			合計		
		23年度	24年度	増減	23年度	24年度	増減	23年度	24年度	増減	23年度	24年度	増減
北海道	551,349	33,256	38,885	5,629	148,553	145,993	-2,560	457,800	469,945	12,145	639,609	654,823	15,214
北海道ブロック	551,349	33,256	38,885	5,629	148,553	145,993	-2,560	457,800	469,945	12,145	639,609	654,823	15,214
青森県	448,292	1,726	1,701	-25	40,669	42,025	1,356	118,803	101,626	-17,177	161,198	145,352	-15,846
岩手県	751,717	34,294	13,430	-20,864	64,526	74,880	10,354	81,532	88,537	7,005	180,352	176,847	-3,505
宮城県	1,440,787	24,541	11,905	-12,636	43,026	38,073	-4,953	159,078	224,133	65,055	226,645	274,111	47,466
秋田県	817,802	1,701	1,621	-80	99,129	101,813	2,684	132,525	132,234	-291	233,355	235,668	2,313
山形県	1,169,910	1,008	1,083	75	4,060	3,829	-231	31,204	30,578	-626	36,272	35,490	-782
福島県	1,142,237	429	435	6	47,995	38,650	-9,345	72,258	73,971	1,713	120,682	113,056	-7,626
東北ブロック	3,689,745	63,699	30,175	-33,524	299,405	299,270	-135	595,400	651,079	55,679	958,504	980,524	22,020
茨城県	429,343	28	101	73	43,202	54,362	11,160	124,241	138,705	14,464	167,471	193,168	25,697
栃木県	368,227	0	0	0	128,948	128,820	-128	38,854	28,284	-10,570	167,802	157,104	-10,698
群馬県	85,407	625	178	-447	146,173	142,616	-3,557	25,956	25,282	-674	172,754	168,076	-4,678
埼玉県	555,768	0	0	0	81,654	96,702	15,048	267,778	289,628	21,850	349,432	386,330	36,898
千葉県	363,129	5,951	7,150	1,199	121,601	125,205	3,604	196,898	198,018	1,120	324,450	330,373	5,923
関東ブロック	1,801,874	6,604	7,429	825	521,578	547,705	26,127	653,727	679,917	26,190	1,181,909	1,235,051	53,142
新潟県	1,630,005	14,114	17,663	3,549	124,146	120,400	-3,746	149,298	124,564	-24,734	287,558	262,627	-24,931
富山県	770,779	2,357	2,803	446	83,438	102,065	18,627	122,092	132,367	10,275	207,887	237,235	29,348
石川県	203,365	3,828	4,576	748	123,681	122,736	-945	36,017	31,335	-4,682	163,526	158,647	-4,879
福井県	535,684	6,891	5,566	-1,325	131,660	135,753	4,093	144,668	144,838	170	283,219	286,157	2,938
北陸ブロック	3,139,833	27,190	30,608	3,418	462,925	480,954	18,029	452,075	433,104	-18,971	942,190	944,666	2,476
山梨県	323,000	0	0	0	104,522	106,731	2,209	66,347	69,623	3,276	170,869	176,354	5,485
長野県	966,100	1,502	1,485	-17	77,108	78,282	1,174	215,797	195,237	-20,560	294,407	275,004	-19,403
岐阜県	371,852	2,457	5,868	3,411	91,667	85,476	-6,191	279,754	269,774	-9,980	373,878	361,118	-12,760
静岡県	1,601,735	1,553	2,342	789	269,817	282,918	13,101	153,909	156,180	2,271	425,279	441,440	16,161
愛知県	462,447	1,090	683	-407	116,493	117,323	830	75,456	77,971	2,515	193,039	195,977	2,938
三重県	761,191	6,149	5,602	-547	105,221	104,931	-290	219,141	231,449	12,308	330,511	341,982	11,471
中部ブロック	4,486,325	12,751	15,980	3,229	764,828	775,661	10,833	1,010,404	1,000,234	-10,170	1,787,983	1,791,875	3,892
滋賀県	467,296	6,655	10,007	3,352	223,757	236,064	12,307	115,341	115,558	217	345,753	361,629	15,876
京都府	74,967	14,931	16,485	1,554	15,078	16,200	1,122	61,662	62,235	573	91,671	94,920	3,249
大阪府	856,610	193	272	79	26,135	27,678	1,543	64,610	62,324	-2,286	90,938	90,274	-664
兵庫県	1,130,676	3,601	2,803	-798	318,876	293,327	-25,549	326,443	306,862	-19,581	648,920	602,992	-45,928
奈良県	5,925	1,263	1,067	-196	4,078	3,722	-356	0	0	0	5,341	4,789	-552
和歌山県	125,186	209	142	-67	56,007	49,999	-6,008	23,654	25,128	1,474	79,870	75,269	-4,601
近畿ブロック	2,660,660	26,852	30,776	3,924	643,931	626,990	-16,941	591,710	572,107	-19,603	1,262,493	1,229,873	-32,620
鳥取県	271,719	4,594	5,090	496	24,019	24,400	381	86,047	85,836	-211	114,660	115,326	666
島根県	513,844	12,190	12,915	725	69,508	71,600	2,092	74,234	77,943	3,709	155,932	162,458	6,526
岡山県	1,118,925	4,355	5,623	1,268	194,174	182,662	-11,512	190,037	185,863	-4,174	388,566	374,148	-14,418
広島県	828,371	9,300	7,643	-1,657	102,591	108,295	5,704	213,105	209,033	-4,072	324,996	324,971	-25
山口県	270,830	2,168	2,439	271	13,653	13,445	-208	86,190	80,555	-5,635	102,011	96,439	-5,572
中国ブロック	3,003,689	32,607	33,710	1,103	403,945	400,402	-3,543	649,613	639,230	-10,383	1,086,165	1,073,342	-12,823
徳島県	383,801	2,388	2,636	248	69,801	64,820	-4,981	116,758	118,597	1,839	188,947	186,053	-2,894
香川県	617,119	4,550	6,222	1,672	37,113	38,515	1,402	179,194	180,178	984	220,857	224,915	4,058
愛媛県	843,838	3,363	2,837	-526	109,300	96,194	-13,106	126,774	118,627	-8,147	239,437	217,658	-21,779
高知県	56,435	0	0	0	23,738	32,676	8,938	28,367	32,599	4,232	52,105	65,275	13,170
四国ブロック	1,901,193	10,301	11,695	1,394	239,952	232,205	-7,747	451,093	450,001	-1,092	701,346	693,901	-7,445
福岡県	888,791	2,591	3,291	700	114,457	125,879	11,422	266,092	248,705	-17,387	383,140	377,875	-5,265
佐賀県	110,207	7,989	7,024	-965	39,882	40,288	406	52,989	50,003	-2,986	100,860	97,315	-3,545
長崎県	484,663	4,909	4,346	-563	28,142	28,405	263	121,996	120,659	-1,337	155,047	153,410	-1,637
大分県	460,313	7,849	7,539	-310	88,855	91,674	2,819	182,007	188,575	6,568	278,711	287,788	9,077
北九州ブロック	1,943,974	23,338	22,200	-1,138	271,336	286,246	14,910	623,084	607,942	-15,142	917,758	916,388	-1,370
熊本県	1,075,945	3,898	3,163	-735	63,868	66,654	2,786	216,716	210,196	-6,520	284,482	280,013	-4,469
宮崎県	460,875	0	105	105	7,651	7,678	27	21,046	19,301	-1,745	28,697	27,084	-1,613
鹿児島県	705,357	8,542	7,508	-1,034	123,341	132,120	8,779	138,073	163,117	25,044	269,956	302,745	32,789
沖縄県	261,906	60,756	56,047	-4,709	63,676	56,934	-6,742	41,090	43,900	2,810	165,522	156,881	-8,641
南九州ブロック	2,504,083	73,196	66,823	-6,373	258,536	263,386	4,850	416,925	436,514	19,589	748,657	766,723	18,066
合計	25,682,725	309,794	288,281	-21,513	4,014,989	4,058,812	43,823	5,901,831	5,940,073	38,242	10,226,614	10,287,166	60,552

※ プール利用人数はプールの多目的フロア利用を含む人数

(2) 年度別・県別・ブロック別 年間利用人数（過去5年間比較）

（単位：人）

道府県 ブロック	20年度	21年度	前年度 増減率	22年度	前年度 増減率	23年度	前年度 増減率	24年度	前年度 増減率	20年度対 24年度増減率
北海道	587,491	581,424	99%	615,141	106%	639,609	104%	654,823	102%	111%
北海道 ブロック	587,491	581,424	99%	615,141	106%	639,609	104%	654,823	102%	111%
青森県	176,671	170,523	97%	175,512	103%	161,198	92%	145,352	90%	82%
岩手県	235,263	235,990	100%	230,565	98%	180,352	78%	176,847	98%	75%
宮城県	324,111	320,756	99%	312,607	97%	226,645	73%	274,111	121%	85%
秋田県	244,793	242,917	99%	243,176	100%	233,355	96%	235,668	101%	96%
山形県	41,091	40,345	98%	40,758	101%	36,272	89%	35,490	98%	86%
福島県	102,679	103,689	101%	122,927	119%	120,682	98%	113,056	94%	110%
東北 ブロック	1,124,608	1,114,220	99%	1,125,545	101%	958,504	85%	980,524	102%	87%
茨城県	184,617	183,432	99%	189,420	103%	167,471	88%	193,168	115%	105%
栃木県	143,788	147,744	103%	144,171	98%	167,802	116%	157,104	94%	109%
群馬県	178,877	183,023	102%	176,354	96%	172,754	98%	168,076	97%	94%
埼玉県	360,567	372,668	103%	372,467	100%	349,432	94%	386,330	111%	107%
千葉県	368,331	341,396	93%	329,196	96%	324,450	99%	330,373	102%	90%
関東 ブロック	1,236,180	1,228,263	99%	1,211,608	99%	1,181,909	98%	1,235,051	104%	100%
新潟県	331,920	323,422	97%	321,514	99%	287,558	89%	262,627	91%	79%
富山県	213,775	212,641	99%	207,823	98%	207,887	100%	237,235	114%	111%
石川県	163,316	166,049	102%	165,613	100%	163,526	99%	158,647	97%	97%
福井県	261,421	276,372	106%	296,222	107%	283,219	96%	286,157	101%	109%
北陸 ブロック	970,432	978,484	101%	991,172	101%	942,190	95%	944,666	100%	97%
山梨県	151,400	151,715	100%	165,372	109%	170,869	103%	176,354	103%	116%
長野県	292,598	299,433	102%	284,195	95%	294,407	104%	275,004	93%	94%
岐阜県	377,208	392,089	104%	384,013	98%	373,878	97%	361,118	97%	96%
静岡県	416,130	444,266	107%	430,110	97%	425,279	99%	441,440	104%	106%
愛知県	203,853	190,433	93%	201,743	106%	193,039	96%	195,977	102%	96%
三重県	344,336	339,338	99%	342,831	101%	330,511	96%	341,982	103%	99%
中部 ブロック	1,785,525	1,817,274	102%	1,808,264	100%	1,787,983	99%	1,791,875	100%	100%
滋賀県	389,611	367,883	94%	340,914	93%	345,753	101%	361,629	105%	93%
京都府	91,191	92,640	102%	94,089	102%	91,671	97%	94,920	104%	104%
大阪府	90,062	98,555	109%	93,272	95%	90,938	97%	90,274	99%	100%
兵庫県	718,470	710,878	99%	678,834	95%	648,920	96%	602,992	93%	84%
奈良県	6,610	5,690	86%	6,219	109%	5,341	86%	4,789	90%	72%
和歌山県	76,840	77,571	101%	75,014	97%	79,870	106%	75,269	94%	98%
近畿 ブロック	1,372,784	1,353,217	99%	1,288,342	95%	1,262,493	98%	1,229,873	97%	90%
鳥取県	106,228	113,723	107%	114,268	100%	114,660	100%	115,326	101%	109%
島根県	150,432	158,702	105%	159,223	100%	155,932	98%	162,458	104%	108%
岡山県	358,709	389,570	109%	391,703	101%	388,566	99%	374,148	96%	104%
広島県	343,834	334,552	97%	324,930	97%	324,996	100%	324,971	100%	95%
山口県	92,846	99,960	108%	106,631	107%	102,011	96%	96,439	95%	104%
中国 ブロック	1,052,049	1,096,507	104%	1,096,755	100%	1,086,165	99%	1,073,342	99%	102%
徳島県	170,525	187,917	110%	192,561	102%	188,947	98%	186,053	98%	109%
香川県	254,307	247,011	97%	242,683	98%	220,857	91%	224,915	102%	88%
愛媛県	240,431	238,537	99%	232,629	98%	239,437	103%	217,658	91%	91%
高知県	67,671	63,611	94%	67,898	107%	52,105	77%	65,275	125%	96%
四国 ブロック	732,934	737,076	101%	735,771	100%	701,346	95%	693,901	99%	95%
福岡県	392,799	395,064	101%	395,515	100%	383,140	97%	377,875	99%	96%
佐賀県	106,655	95,456	89%	102,760	108%	100,860	98%	97,315	96%	91%
長崎県	172,868	166,855	97%	159,657	96%	155,047	97%	153,410	99%	89%
大分県	285,246	306,707	108%	285,805	93%	278,711	98%	287,788	103%	101%
北九州 ブロック	957,568	964,082	101%	943,737	98%	917,758	97%	916,388	100%	96%
熊本県	312,665	314,318	101%	298,600	95%	284,482	95%	280,013	98%	90%
宮崎県	28,292	24,845	88%	24,851	100%	28,697	115%	27,084	94%	96%
鹿児島県	292,071	277,907	95%	283,024	102%	269,956	95%	302,745	112%	104%
沖縄県	169,223	157,650	93%	163,878	104%	165,522	101%	156,881	95%	93%
南九州 ブロック	802,251	774,720	97%	770,353	99%	748,657	97%	766,723	102%	96%
合 計	10,621,822	10,645,267	100%	10,586,688	99%	10,226,614	97%	10,287,166	101%	97%

(3) 平成24年度 海洋センター施設別利用人数(ベスト50)

平成25年4月4日集計
施設数は閉鎖を除く(単位:人)

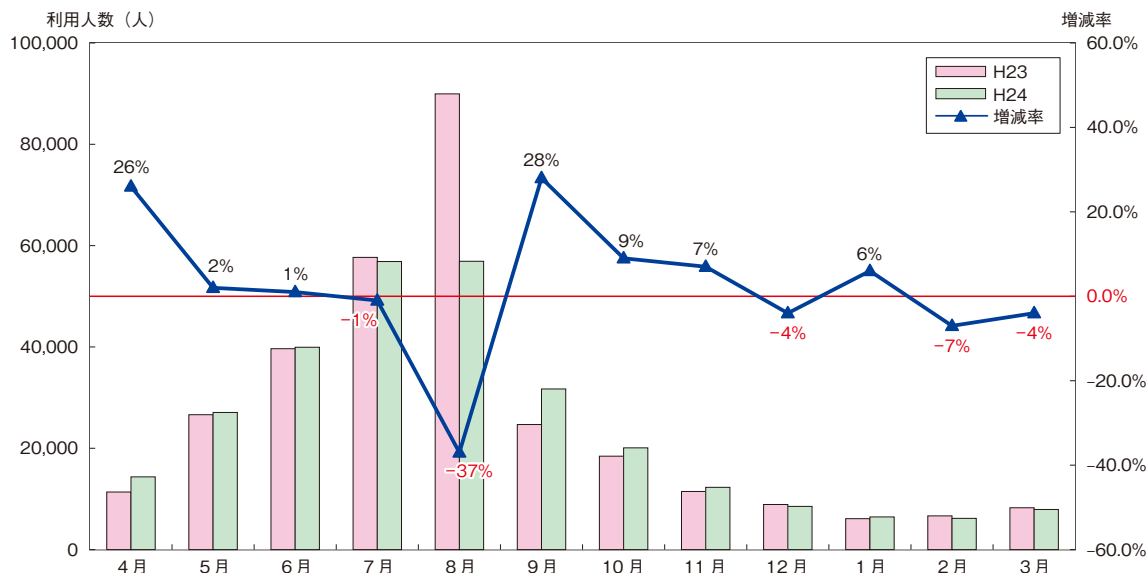
艇庫 135ヵ所				造年型温水プール(屋内・上屋加温) 105ヵ所			期間限定プール(上屋・屋外) 290ヵ所			体育館 307ヵ所					
順位	センター名	県名	利用人数	順位	センター名	県名	利用人数	順位	センター名	県名	利用人数	順位	センター名	県名	利用人数
1	本部町	沖縄県	55,760	1	芦屋市	兵庫県	128,170	1	磐田市竜洋	静岡県	28,372	1	上郡町	兵庫県	86,995
2	滝川市	北海道	18,668	2	坂井市丸岡	福井県	119,410	2	堺市美原	大阪府	22,441	2	石狩市	北海道	84,426
3	宮津市	京都府	13,968	3	芳賀町	栃木県	103,228	3	信濃山形村	長野県	11,809	3	徳島市	徳島県	81,158
4	花巻市東和	岩手県	13,430	4	袋井市袋井	静岡県	94,923	4	浅口市鴨方	岡山県	11,721	4	鶴ヶ島市	埼玉県	69,929
5	阿賀町津川	新潟県	10,808	5	猪名川町	兵庫県	85,062	5	南房総市千倉	千葉県	11,714	5	久喜市栗橋	埼玉県	69,168
6	加美町中新田	宮城県	9,257	6	白山市鶴来	石川県	78,710	6	徳島市	徳島県	11,640	6	可児市	岐阜県	67,189
7	室蘭市	北海道	7,566	7	白岡市	埼玉県	78,186	7	巨理町	宮城県	11,561	7	菟野町	三重県	52,870
8	香取市小見川	千葉県	7,070	8	浜松市天竜	静岡県	77,213	8	新潟市新津	新潟県	10,998	8	時津町	長崎県	48,119
9	豊後高田市真玉	大分県	6,970	9	玉村町	群馬県	76,574	9	田村市滝根	福島県	10,995	9	松伏町	埼玉県	47,629
10	砂川市	北海道	6,924	10	豊川市小坂井	愛知県	71,934	10	あさぎり町免田	熊本県	10,121	10	白馬村	長野県	47,351
11	神埼市	佐賀県	5,287	11	富山市八尾	富山県	70,229	11	高山市国府	岐阜県	10,026	11	柳川市大和	福岡県	46,484
12	胎内市中条	新潟県	5,249	12	高島市高島	滋賀県	68,412	12	川辺町	岐阜県	9,747	12	いちき串木野市	鹿児島県	46,354
13	美浜町	福井県	5,247	13	甲賀市甲賀	滋賀県	68,179	13	小野町	福島県	9,298	13	愛南町御荘	愛媛県	45,519
14	近江八幡市安土	滋賀県	5,163	14	明和町	群馬県	62,980	14	本宮市白沢	福島県	9,233	14	東川町	北海道	44,266
15	呉市蒲刈	広島県	5,147	15	日置市東市来	鹿児島県	62,942	15	いちき串木野市	鹿児島県	9,100	15	能代市	秋田県	42,471
16	三豊市高瀬	香川県	5,021	16	朝倉市甘木	福岡県	60,398	16	御嵩町	岐阜県	9,060	16	野洲市中主	滋賀県	42,042
17	八百津町	岐阜県	4,941	17	松江市穴道	島根県	57,927	17	宮津市	京都府	9,000	17	高松市園分寺	香川県	40,930
18	美郷町邑智	島根県	4,784	18	井原市井原	岡山県	54,858	18	甲斐市敷島	山梨県	8,988	18	玉名市岱明	熊本県	40,666
19	松江市松江	島根県	4,313	19	高島市今津	滋賀県	51,848	19	十和田市	青森県	8,902	19	神河町神崎	兵庫県	39,702
20	七尾市	石川県	4,203	20	横芝光町光	千葉県	50,374	20	熊本市城南	熊本県	8,886	20	小野町	福島県	39,302
21	野洲市中主	滋賀県	3,885	21	府中市	広島県	50,273	21	みやま市瀬高	福岡県	8,798	21	西尾市一色	愛知県	38,331
22	大台町	三重県	3,848	22	串本町	和歌山県	41,896	22	瀬戸内市長船	岡山県	8,766	22	南アルプス市白根	山梨県	38,239
23	与論町	鹿児島県	3,699	23	志賀町富来	石川県	41,212	23	軽米町	岩手県	8,748	23	香美町香住	兵庫県	38,125
24	鳥取市鳥取	鳥取県	2,925	24	矢掛町	岡山県	40,263	24	佐世保市小佐々	長崎県	8,626	24	田布施町	山口県	37,040
25	佐世保市小佐々	長崎県	2,698	25	にかほ市象潟	秋田県	40,062	25	湯前町	熊本県	8,536	25	高岡市福岡	富山県	36,968
26	今治市大三島	愛媛県	2,555	26	西条市丹原	愛媛県	38,524	26	長浜市浅井	滋賀県	8,470	26	新潟市新津	新潟県	35,788
27	砺波市	富山県	2,534	27	名護市	沖縄県	36,868	27	蔵王町	宮城県	8,443	27	熊本市城南	熊本県	35,709
28	京丹波町和知	京都府	2,517	28	由布市挾間	大分県	35,574	28	可児市	岐阜県	8,345	28	北栄町北条	鳥取県	35,616
29	西ノ島町	島根県	2,508	29	西尾市一色	愛知県	34,498	29	浅口市寄島	岡山県	8,162	29	いすみ市岬	千葉県	35,488
30	周防大島町	山口県	2,427	30	燕市	新潟県	32,036	30	高山市清見	岐阜県	8,108	30	鳥取市鳥取	鳥取県	35,021
31	小平町	北海道	2,211	31	みやき町北茂安	佐賀県	31,821	31	雲南市加茂	島根県	8,010	31	三木町	香川県	34,443
32	倉吉市関金	鳥取県	2,165	32	浜松市三ヶ日	静岡県	31,399	32	奥州市前沢	岩手県	7,788	32	みやこ町豊津	福岡県	33,964
33	瀬戸内市邑久	岡山県	1,847	33	桑名市長島	三重県	30,315	33	八郎潟町	秋田県	7,636	33	南砺市福野	富山県	33,580
34	太良町	佐賀県	1,716	34	甲州市塩山	山梨県	30,124	34	久留米市三瀬	福岡県	7,450	34	弘前市岩木	青森県	33,142
35	新温泉町浜坂	兵庫県	1,659	35	海陽町海南	徳島県	30,071	35	三豊市高瀬	香川県	7,384	35	宇城市三角	熊本県	31,785
36	登米市中田	宮城県	1,543	36	南アルプス市白根	山梨県	28,949	36	時津町	長崎県	7,247	36	日置市東市来	鹿児島県	31,766
37	せたな町	北海道	1,473	37	松本市波田	長野県	25,329	37	吉見町	埼玉県	7,237	37	松江市松江	島根県	31,467
38	那賀町鷲敷	徳島県	1,468	38	四万十町窪川	高知県	24,557	38	鬼北町広見	愛媛県	7,114	38	穴水町	石川県	31,335
39	津奈木町	熊本県	1,452	39	米原市山東	滋賀県	23,756	39	瀬戸内市邑久	岡山県	7,063	39	長洲町	熊本県	31,091
40	いなべ市大安	三重県	1,181	40	今治市朝倉	愛媛県	21,916	40	薩摩川内市樋脇	鹿児島県	6,942	40	周防大島町	山口県	31,080
41	和気町佐伯	岡山県	1,132	41	高岡市福岡	富山県	21,786	41	玉名市岱明	熊本県	6,904	41	御嵩町	岐阜県	30,962
42	徳島市	徳島県	1,089	42	一関市藤沢	岩手県	20,259	42	一関市東山	岩手県	6,885	42	大野市	福井県	30,774
43	酒田市平田	山形県	1,083	43	上越市頸城	新潟県	20,245	43	五所川原市金木	青森県	6,766	43	仙台市泉	宮城県	30,726
44	山添村	奈良県	1,067	44	福智町金田	福岡県	20,230	44	南関町	熊本県	6,716	44	石岡市	茨城県	30,713
45	掛川市	静岡県	1,030	45	鏡南町	千葉県	19,771	45	北栄町北条	鳥取県	6,707	45	山梨市牧丘	山梨県	30,449
46	磐田市竜洋	静岡県	1,029	46	鏡野町	岡山県	19,509	46	みやま市高田	福岡県	6,640	46	瀬戸内市邑久	岡山県	30,322
47	時津町	長崎県	997	47	阿久根市	鹿児島県	19,453	47	新潟市味方	新潟県	6,548	47	富加町	岐阜県	30,222
48	天城町	鹿児島県	946	48	愛南町御荘	愛媛県	18,213	48	坂町	広島県	6,441	48	牧之原市相良	静岡県	29,887
49	大町市	長野県	942	49	豊岡市出石	兵庫県	17,715	49	菊池市迎水	熊本県	6,398	49	雲南市加茂	島根県	29,823
50	川辺町	岐阜県	927	50	亀山市関	三重県	16,980	50	神河町神崎	兵庫県	6,242	50	坂井市春江	福井県	29,807

(4) 海洋センター月別利用人数（全国合計）

ア. 艇庫

※97頁の施設別利用人数（艇庫）を参照

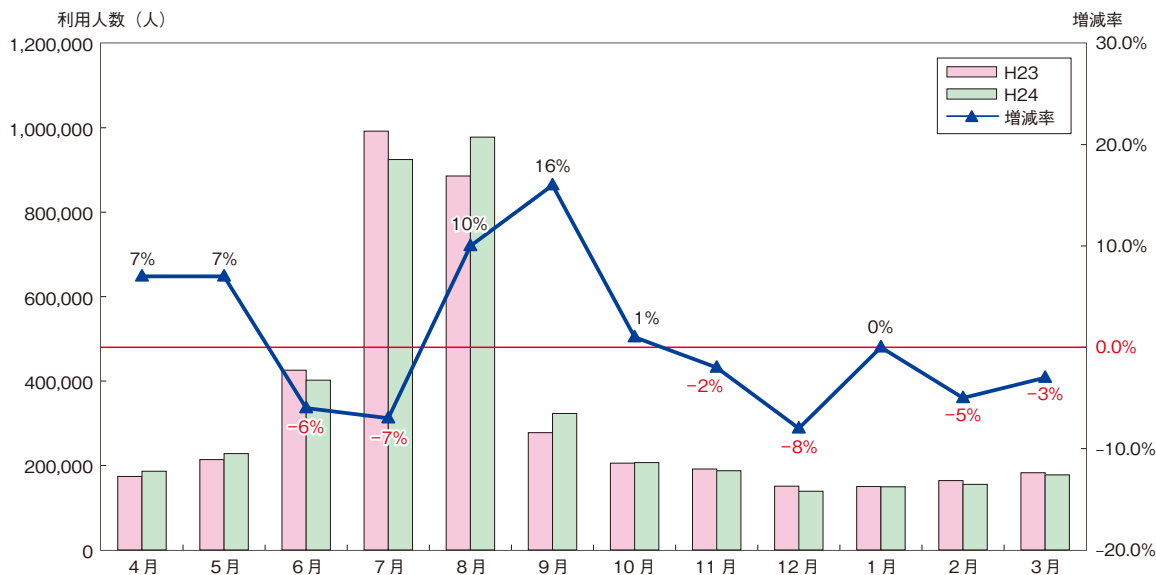
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
23年度	11,366	26,626	39,654	57,677	89,952	24,686	18,440	11,473	8,902	6,104	6,656	8,258	309,794
24年度	14,357	27,068	39,941	56,862	56,909	31,707	20,084	12,291	8,528	6,449	6,166	7,919	14,357
増減 (増減率)	2,991 (26%)	442 (2%)	287 (1%)	-815 (-1%)	-33,043 (-37%)	7,021 (28%)	1,644 (9%)	818 (7%)	-374 (-4%)	345 (6%)	-490 (-7%)	-339 (-4%)	-21,513 (-7%)



イ. プール

※98頁の施設別利用人数（プール）を参照

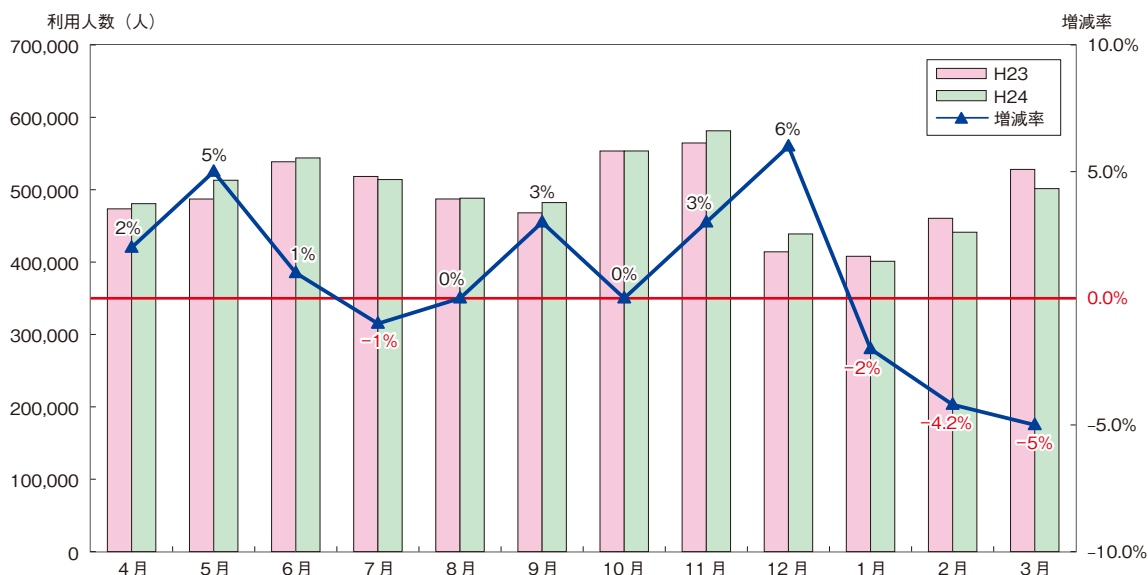
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
23年度	174,065	214,012	425,715	991,949	885,741	277,795	205,553	191,732	151,063	150,229	164,278	182,857	4,014,989
24年度	186,450	228,222	402,145	924,758	977,799	323,257	206,923	187,605	139,059	149,553	155,327	177,714	4,058,812
増減 (増減率)	12,385 (7%)	14,416 (7%)	-23,570 (-6%)	-67,191 (-7%)	92,058 (10%)	45,462 (16%)	1,370 (1%)	-4,127 (-2%)	-12,004 (-8%)	-676 (0%)	-8,951 (-5%)	-5,143 (-3%)	43,823(1%)



ウ. 体育館

※98頁の施設別利用人数〈体育館〉を参照

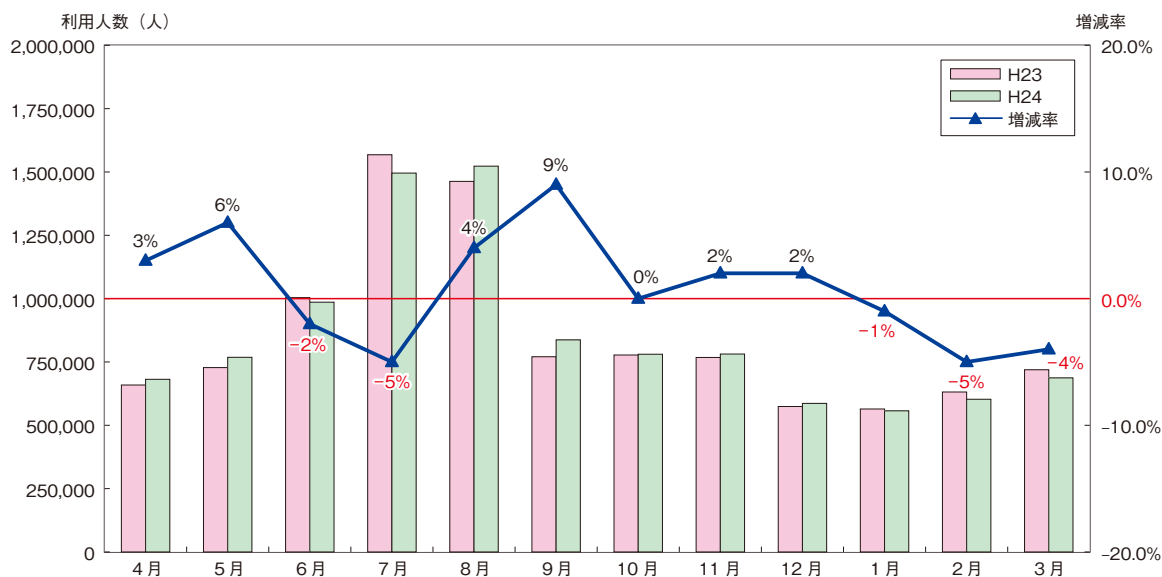
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
23年度	473,574	487,145	538,631	518,318	487,216	468,078	553,496	564,574	414,213	408,023	460,497	528,066	5,901,831
24年度	480,737	513,094	543,906	514,041	488,289	482,240	553,540	581,410	438,897	401,124	441,275	501,520	5,940,073
増減 (増減率)	7,163 (2%)	25,949 (5%)	5,275 (1%)	-4,277 (-1%)	1,073 (0%)	14,162 (3%)	44 (0%)	16,836 (3%)	24,684 (6%)	-6,899 (-2%)	-19,222 (-4.2%)	-26,546 (-5%)	38,242 (1%)



エ. 施設合計

※97頁の施設別利用人数〈施設全体〉を参照

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
23年度	659,005	727,783	1,004,000	1,567,944	1,462,909	770,559	777,489	767,779	574,178	564,356	631,431	719,181	10,226,614
24年度	681,544	768,384	985,992	1,495,661	1,522,997	837,204	780,547	781,306	586,484	557,126	602,768	687,153	10,287,166
増減 (増減率)	22,539 (3%)	40,601 (6%)	-18,008 (-2%)	-72,283 (-5%)	60,088 (4%)	66,645 (9%)	3,058 (0%)	13,527 (2%)	12,306 (2%)	-7,230 (-1%)	-28,663 (-5%)	-32,028 (-4%)	60,552(1%)



(5) 平成24年度「海洋センター利用者 施設別利用形態」(全国合計)

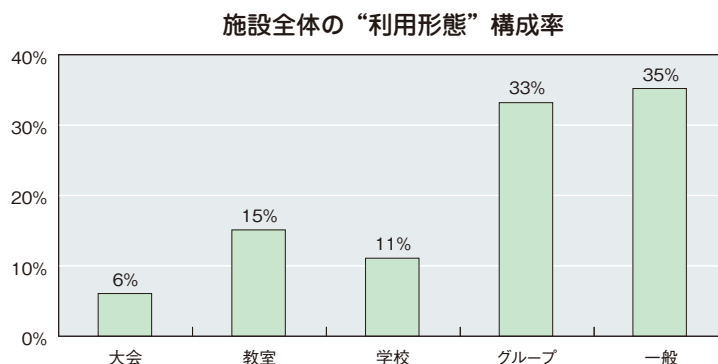
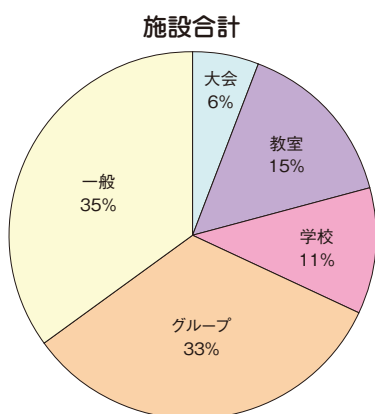
海洋センター利用者の傾向を“利用形態”別に見ると、「艇庫」は“学校利用”が多く、「温水プール」は“教室”と“一般利用”、「プール(温水以外)」は“学校”と“一般利用”、「体育館」では“グループ”の利用が多いなど、施設ごとの特徴が見られる。

また、各利用形態で最も利用構成率の高い施設は、“大会利用”が「体育館」、「教室利用」が「温水プール」、「学校利用」が「艇庫」、「グループ利用」が「体育館」、「一般利用」が「プール(温水以外)」となっており、例年同じ傾向が見られる。

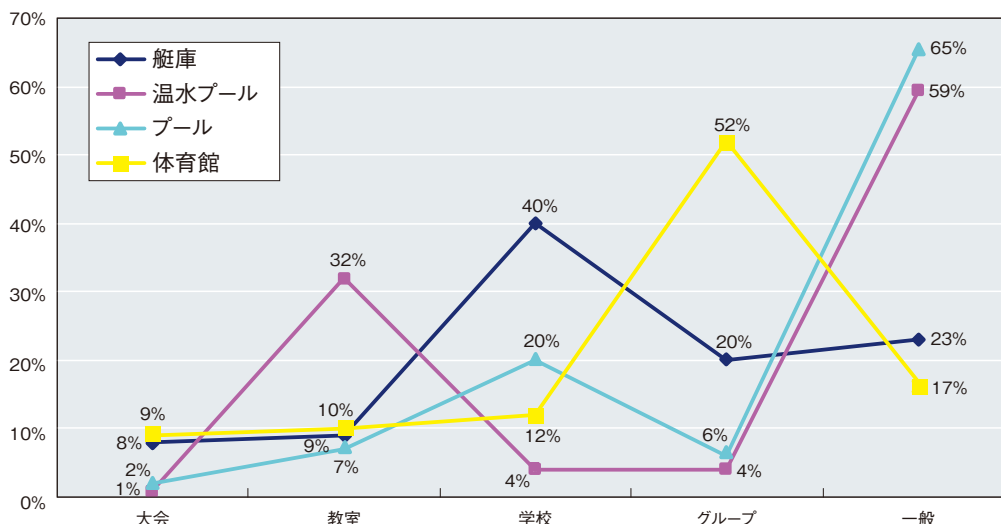
		大会	教室	学校	グループ	一般	合計
艇庫	人数	22,896	25,888	114,661	59,121	65,715	288,281
	比率	8%	9%	40%	20%	23%	100%
温水プール	人数	22,152	874,243	121,212	112,220	1,608,954	2,738,781
	比率	1%	32%	4%	4%	59%	100%
プール	人数	18,869	93,888	245,607	79,177	822,670	1,260,211
	比率	2%	7%	20%	6%	65%	100%
体育館	人数	566,511	580,721	695,166	3,104,051	1,053,527	5,999,976
	比率	9%	10%	12%	52%	17%	100%
合計	人数	630,428	1,574,740	1,176,646	3,354,569	3,550,866	10,287,249
	比率	6%	15%	11%	33%	35%	100%

※利用形態データ：プール多目的フロアの利用データを体育館に含め集計しているため、施設別利用人数と数値が異なる

☆☆☆☆☆☆ 施設別利用形態グラフ ☆☆☆☆☆☆



“利用形態”構成率の施設別比較



(6) 平成24年度「海洋センター施設別・利用形態別利用人数」(ベスト10)

平成25年4月4日集計
施設数は閉鎖を除く(単位:人)

利用形態	順位	艇庫			温水プール			プール			体育館 307ヵ所		
		センター名	県名	利用人数	センター名	県名	利用人数	センター名	県名	利用人数	センター名	県名	利用人数
大会	1	花巻市東和	岩手県	7,170	富山市八尾	富山県	7,643	伯耆町岸本	鳥取県	1,130	上郡町	兵庫県	19,972
	2	砺波市	富山県	1,935	府中市	広島県	1,098	周防大島町	山口県	752	岩見沢市栗沢	北海道	13,356
	3	豊後高田市真玉	大分県	1,862	日置市東市来	鹿児島県	1,080	淡路市東浦	兵庫県	680	石狩市	北海道	10,482
	4	野洲市中主	滋賀県	1,500	四万十町窪川	高知県	893	美作市作東	岡山県	630	田布施町	山口県	9,691
	5	砂川市	北海道	1,063	大紀町大内山	三重県	660	睦沢町	千葉県	600	岩泉町	岩手県	9,667
	6	滝川市	北海道	1,012	岩泉町	岩手県	625	薩摩川内市樋脇	鹿児島県	560	吉見町	埼玉県	8,840
	7	七尾市	石川県	742	阿久根市	鹿児島県	600	田村市滝根	福島県	514	小野町	福島県	8,776
	8	阿賀町津川	新潟県	723	西尾市一色	愛知県	566	小野町	福島県	511	瀬戸内市邑久	岡山県	8,272
	9	加美町中新田	宮城県	707	玉村町	群馬県	479	久米島町仲里	沖縄県	500	中津川市付知	岐阜県	7,981
	10	大台町	三重県	700	袋井市袋井	静岡県	451	安芸高田市高宮	広島県	454	東川町	北海道	7,777
教室	1	室蘭市	北海道	2,249	袋井市袋井	静岡県	50,392	堺市美原	大阪府	4,289	上郡町	兵庫県	22,056
	2	美郷町邑智	島根県	1,880	芦屋市	兵庫県	48,614	美郷町邑智	島根県	4,089	菟野町	三重県	21,124
	3	太良町	佐賀県	1,716	芳賀町	栃木県	43,234	鹿島市	佐賀県	2,806	豊岡市出石	兵庫県	16,167
	4	能代市	秋田県	814	府中市	広島県	42,629	鹿屋市串良	鹿児島県	2,164	雲南市加茂	島根県	15,398
	5	三豊市高瀬	香川県	804	猪名川町	兵庫県	41,815	常陸太田市水府	茨城県	1,906	南アルプス市白根	山梨県	15,314
	6	大町市	長野県	647	玉村町	群馬県	35,079	蔵王町	宮城県	1,630	南あわじ市南淡	兵庫県	14,179
	7	倉吉市関金	鳥取県	643	朝倉市甘木	福岡県	33,133	尾道市瀬戸田	広島県	1,452	穴粟市波賀	兵庫県	12,273
	8	朝倉市甘木	福岡県	616	浜松市天竜	静岡県	32,912	香美町香住	兵庫県	1,433	甲賀市甲賀	滋賀県	11,757
	9	府中市	広島県	547	高島市高島	滋賀県	29,141	雲南市加茂	島根県	1,407	石狩市	北海道	10,981
	10	いちき串木野市	鹿児島県	463	富山市八尾	富山県	29,070	甲斐市敷島	山梨県	1,391	安芸高田市美土里	広島県	9,929
学校	1	本部町	沖縄県	23,558	西尾市一色	愛知県	7,905	山形村	長野県	8,803	白馬村	長野県	35,139
	2	滝川市	北海道	12,685	那須烏山市南那須	栃木県	6,098	軽米町	岩手県	6,349	奥州市前沢	岩手県	19,155
	3	宮津市	京都府	12,469	小美玉市小川	茨城県	5,404	高山市国府	岐阜県	5,342	東川町	北海道	18,678
	4	加美町中新田	宮城県	8,146	芳賀町	栃木県	5,128	瀬戸内市長船	岡山県	5,088	広川町	和歌山県	17,790
	5	阿賀町津川	新潟県	5,060	東川町	北海道	5,004	氷見市	富山県	4,481	日田市中津江	大分県	17,365
	6	近江八幡市安土	滋賀県	4,937	名護市	沖縄県	4,746	新城市作手	愛知県	4,359	宮津市	京都府	16,167
	7	豊後高田市真玉	大分県	4,724	燕市	新潟県	3,856	巨理町	宮城県	4,325	野洲市中主	滋賀県	15,305
	8	呉市蒲刈	広島県	4,413	鷹栖町	北海道	3,071	阿南市那賀川	徳島県	4,084	玉名市岱明	熊本県	15,229
	9	三豊市高瀬	香川県	4,199	富山市八尾	富山県	2,938	長和町和田	長野県	4,059	平戸市生月	長崎県	14,596
	10	胎内市中条	新潟県	4,161	岩泉町	岩手県	2,883	本宮市白沢	福島県	4,047	浦臼町	北海道	12,879
グループ	1	阿賀町津川	新潟県	5,015	阿久根市	鹿児島県	12,717	掛川市大東	静岡県	3,839	徳島市	徳島県	76,211
	2	神崎市	佐賀県	4,465	みやき町北茂安	佐賀県	11,341	宮津市	京都府	3,589	鶴ヶ島市	埼玉県	51,148
	3	室蘭市	北海道	3,964	富山市八尾	富山県	8,361	神河町神崎	兵庫県	3,131	石狩市	北海道	48,078
	4	香取市小見川	千葉県	3,497	上富良野町	北海道	7,569	南関町	熊本県	3,035	松伏町	埼玉県	41,123
	5	本部町	沖縄県	2,827	燕市	新潟県	5,828	宮崎市田野	宮崎県	2,917	時津町	長崎県	40,677
	6	滝川市	北海道	2,614	四万十町窪川	高知県	5,419	南島原市加津佐	長崎県	2,751	能代市	秋田県	39,351
	7	京丹波町和知	京都府	2,306	志摩市浜島	三重県	5,065	坂町	広島県	2,584	高松市国分寺	香川県	34,191
	8	砂川市	北海道	2,075	西尾市一色	愛知県	4,069	田布施町	山口県	2,571	可児市	岐阜県	32,493
	9	野洲市中主	滋賀県	1,987	美幌町	北海道	3,849	富加町	岐阜県	2,417	いすみ市岬	千葉県	31,408
	10	鳥取市	鳥取県	1,638	高島市今津	滋賀県	3,559	津山市加茂	岡山県	2,025	愛南町御荘	愛媛県	30,205
一般	1	本部町	沖縄県	29,375	坂井市丸岡	福井県	92,771	磐田市竜洋	静岡県	27,100	久喜市栗橋	埼玉県	44,306
	2	花巻市東和	岩手県	3,791	芦屋市	兵庫県	79,556	堺市美原	大阪府	14,667	仙台市泉	宮城県	30,726
	3	松江市松江	島根県	3,501	白山市鶴来	石川県	74,234	南房総市千倉	千葉県	11,590	御前崎市	静岡県	29,534
	4	美浜町	福井県	3,146	白岡市	埼玉県	63,726	浅口市鴨方	岡山県	11,396	可児市	岐阜県	25,336
	5	与論町	鹿児島県	3,004	豊川市小坂井	愛知県	56,293	徳島市	徳島県	11,069	南アルプス市白根	山梨県	22,925
	6	滝川市	北海道	2,163	芳賀町	栃木県	54,536	新潟市新津	新潟県	10,258	嵐山町	埼玉県	21,361
	7	美郷町邑智	島根県	2,145	井原市井原	岡山県	47,938	いちき串木野市	鹿児島県	9,012	長島町	鹿児島県	19,599
	8	西ノ島町	島根県	1,917	明和町	群馬県	47,541	あさぎり町阿田	熊本県	8,735	幸手市	埼玉県	18,960
	9	佐世保市小佐々	長崎県	1,586	袋井市袋井	静岡県	43,950	熊本市城南	熊本県	8,263	鶴ヶ島市	埼玉県	17,979
	10	いなべ市大安	三重県	1,012	日置市東市来	鹿児島県	42,638	可児市	岐阜県	7,513	小野町	福島県	16,437

5. 「本部町B&G海洋センター」の活動

「本部町 B&G 海洋センター」

★★★★ 海洋ウエルネス・リゾート事業の拠点 B&G財団事業の活動拠点として公益事業を拡大 ★★★★★

B&G財団が平成14年に無償譲渡した“本部町B&G海洋センター”では、イルカによる健康増進のための施設をはじめ“文化交流館”や“ウエルネスセンター”を整備し、平成16年度から本格的な「海洋ウエルネス事業」をスタートさせた。

従来からの“マリンスポーツ体験”に加え、“沖縄伝統文化の交流体験”、また本部町から指定管理を受けている（財）健康科学財団のノウハウを活かした、ウエルネスをテーマとする「ドルフィンアシステッドセラピー」や「タラソセラピー」といった“海洋健康療法”や「グランドゴルフ大会」や「こどもエコクラブ」といった“社会貢献活動”などの公益事業の拡大に力が注がれている。平成24年度の主な活動は次のとおり。



全室オーシャンビューの宿泊棟



ウエルネスセンター（上）
宿泊棟正面（左）

〈海健康増進プログラム等の提供〉

- 「発達障害児に対するドルフィンアシステッドセラピー（DAT）」事業
イルカ療法の各種プログラムを34回実施。

〈地域の健康増進活動〉

- 「グランドゴルフ大会」 延べ280人が参加
- 「こどもエコクラブ活動」（環境省支援事業）
回数：10回
クラブメンバー人数：34人
内容：テーマ「知ろう!触れよう!身近な自然!」

海を中心とした自然体験を安全に楽しく過ごすことを焦点にあて、水辺の安全活動、海浜区域のクリーンアップなど月1回開催した。今年度の壁新聞に応募したところ、今年度も沖縄県代表として選ばれ年3月24日に開催された「こどもエコクラブ全国フェスティバル2012」に参加し、「全国こどもエコクラブ大賞」を受賞した。



全国こどもエコクラブ大賞を受賞!

〈マリンスポーツ普及活動〉

マリンスポーツの提供	年間延べ利用人数 51,977人
水中観測船の提供	年間延べ利用人数 13,476人
マリンスポーツ大会	「もとぶ元気村杯青少年水泳大会」24団体 336人
イルカプログラム	年間延べ利用人数 34,439人

〈もとぶ文化交流館〉

もとぶ文化交流館では、サンゴの風鈴作りや陶芸作品作りなど沖縄独特の文化・工芸体験ができる。
年間延べ利用人数：24,067人



Tシャツへのサンゴ染め



ローソクづくり

〈ウエルネスセンター〉

国民健康保険事業の一環として、地域住民への「水中ウォーキング教室」や「特定高齢者介護予防教室」、「健康教室」を実施。
年間延べ参加人数：366人



料理体験



親子ふれあいキャンプ

〈海洋センター利用者〉

施設	24年度	23年度
艇庫	55,760人	57,050人
屋内プール	6,751人	9,971人

※H24年度の艇庫利用人数55,760人は海洋センター全国第1位

〈海洋クラブの活動〉

活動日数	活動人数	活動内容等
166日	1,588人	各種マリンスポーツ、水泳ほか



修学旅行団体やB&G財団事業などを通じて
全国の青少年に水泳やマリンスポーツ、イルカプログラムなどを提供



イルカプログラム

屋内プールで「水辺の安全」を学ぶ

水中観測船で沖縄の海やサンゴを観察

第2 海洋クラブの運営・活動状況

1. 海洋クラブの活動状況

全国278カ所（H24年度末）のB&G海洋クラブは、海洋センター（自治体）や民間の海洋性レクリエーション愛好者組織によって運営されており、国内に限らず、韓国の釜山市、ニュージーランドのロトルア市と、その輪は海外にも広がっている。

地元の海や川、湖沼等の水面で、子どもから大人までがカヌーやヨットなどの海洋性スポーツを楽しみ、B&G財団の基本理念である「海洋性レクリエーション活動を通じた青少年の健全育成」を推進している。

～ 活動日数の増加により活動人数増加 ～

平成24年度は、全ての「B&G海洋クラブの努力目標」として掲げた「活動日数の増加」「活動人数の増加」について大幅な増加が達成された。

「活動日数」については、平成14年度以降はじめて1万日を突破。

「活動人数」については、平成16年度以来9年ぶりに20万人を突破した。

目標達成の原動力は「活動日数の増加」であり、「活動人数の増加」に直結している。

また、オフシーズンの活動や陸上プログラムの増加が、B&G海洋クラブの新しい展開につながったと考えられる。

～ 海洋クラブ員減少にも歯止め ～

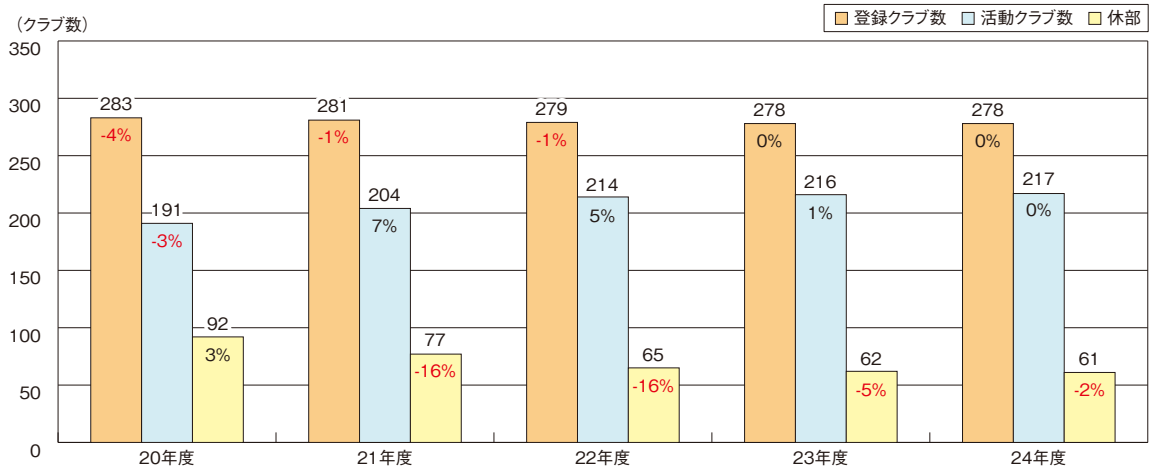
クラブ員の人数はこれまで減少傾向が続いていたが、「B&G海洋クラブの努力目標」として掲げた「クラブ員数の増加」の影響もあってか減少に歯止めがかかり、昨年の7,253人から9,073人へと盛り返しを見せた。

各海洋クラブでは「水辺の安全教室」などの開催回数が非常に増えており、「体験会」等の実施による積極的なクラブ員募集がなされたものと考えられる。

(1) 海洋クラブ数

海洋クラブ数の推移

		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
登録クラブ	カ所数	283	281	279	278	278
	増減数（率）	-13（-4%）	-2（-1%）	-2（-1%）	-1（-0.4%）	0（0%）
活動クラブ	カ所数	191	204	214	216	217
	増減数（率）	-6（-3%）	13（7%）	10（5%）	2（1%）	1（0%）
休部または未報告	カ所数	92	77	65	62	61
	増減数（率）	3（3%）	-15（-16%）	-12（-16%）	-3（-4%）	-1（-2%）

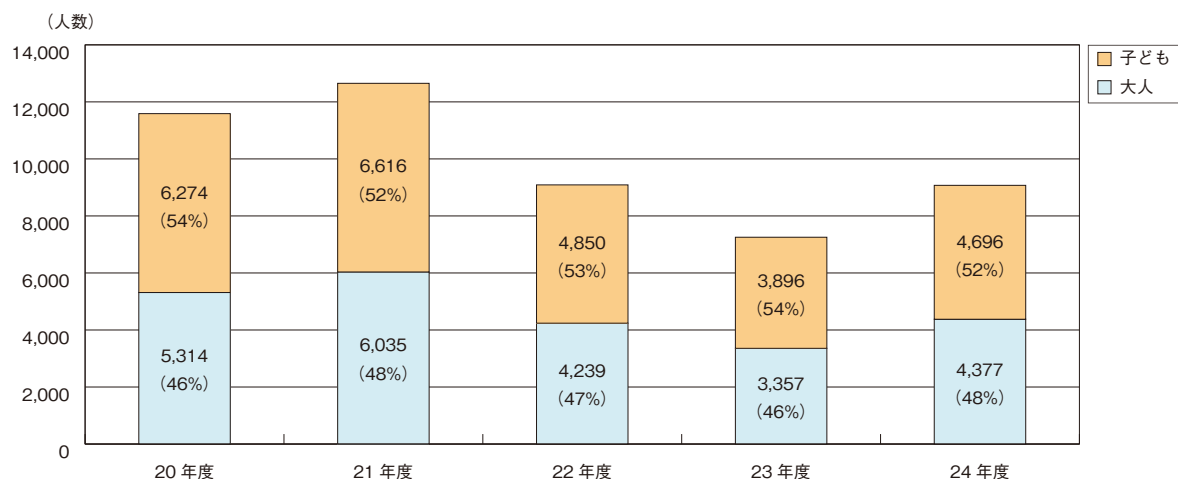


(2) 海洋クラブ員数

※大人：高校生以上

海洋クラブ員数の推移

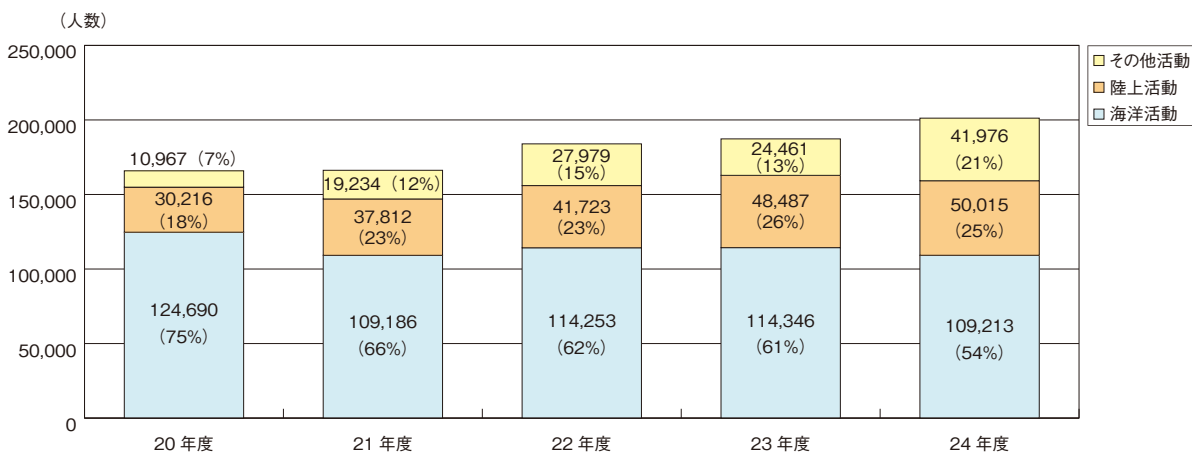
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
大人（構成率）	5,314 (46%)	6,035 (48%)	4,239 (47%)	3,357 (46%)	4,377 (48%)
子ども（構成率）	6,274 (54%)	6,616 (52%)	4,850 (53%)	3,896 (54%)	4,696 (52%)
合計	11,588	12,651	9,089	7,253	9,073
増減数（増減率）	-1,325 (-10%)	1,063 (9%)	-3,562 (-28%)	-1,836 (-20%)	1,820 (25%)



(3) 海洋クラブ活動人数

海洋クラブ年間活動人数の推移

		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
海洋活動	人数	124,690	109,186	114,253	114,346	109,213
	増減数(率)	9,054 (8.0%)	-15,504 (-12%)	5,067 (5%)	93 (0%)	-5,133 (-4%)
陸上活動	人数	30,216	37,812	41,723	48,487	50,015
	増減数(率)	-7,128 (-19%)	7,596 (25%)	3,911 (10%)	6,764 (16%)	1,528 (3%)
その他の活動	人数	10,967	19,234	27,979	24,461	41,976
	増減数(率)	1,653 (18%)	8,267 (75%)	8,745 (45%)	-3,518 (-13%)	17,515 (72%)
合計	人数	165,873	166,232	183,955	187,294	201,204
	増減数(率)	3,579 (2%)	359 (0.2%)	17,723 (11%)	3,339 (2%)	13,811 (7%)

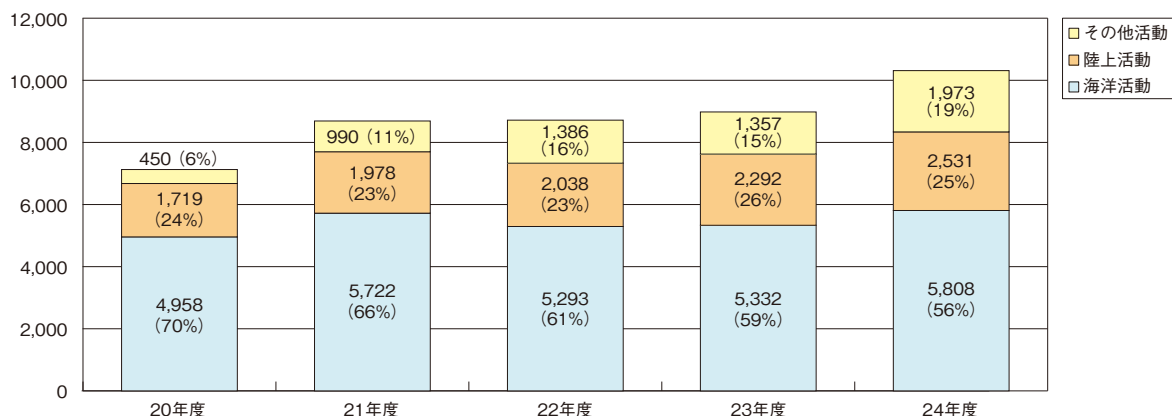


(4) 海洋クラブ活動日数

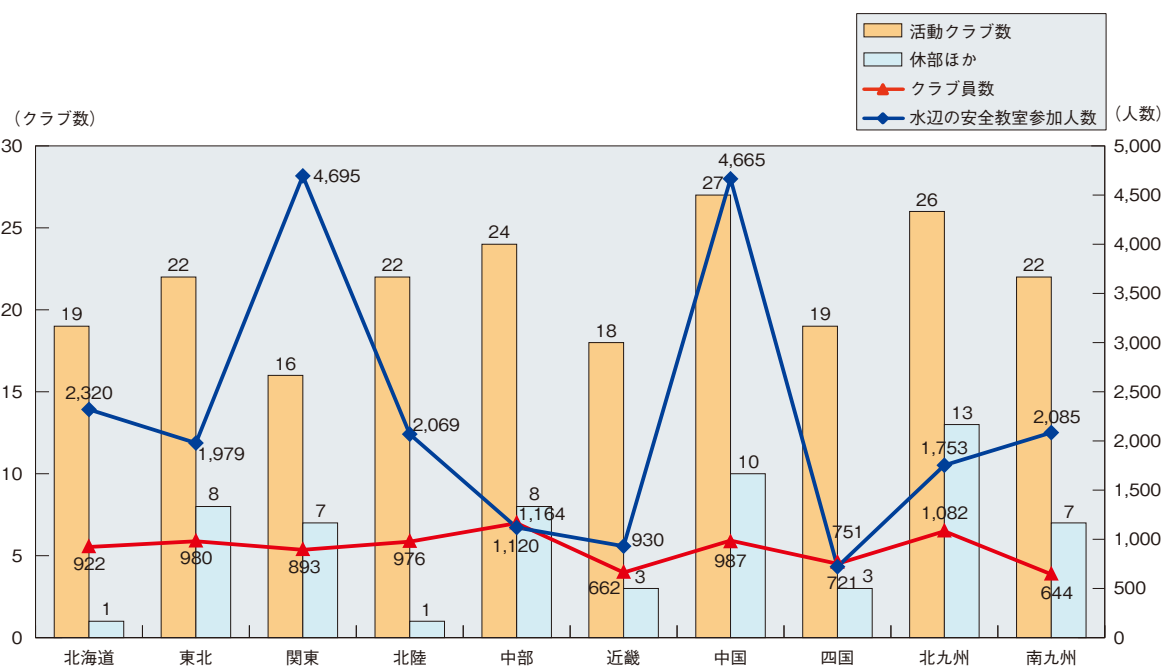
海洋クラブ年間活動日数の推移

		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
海洋活動	日数	4,958	5,722	5,293	5,332	5,808
	増減数(率)	17 (0.3%)	764 (15%)	-429 (-7%)	39 (0.1%)	476 (9%)
陸上活動	日数	1,719	1,978	2,038	2,292	2,531
	増減数(率)	-358 (-17%)	259 (15%)	60 (3%)	254 (12%)	239 (10%)
その他の活動	日数	450	990	1,386	1,357	1,973
	増減数(率)	-87 (-16%)	540 (120%)	396 (40%)	-29 (-2%)	616 (45%)
合計	日数	7,127	8,690	8,717	8,981	10,312
	増減数(率)	-428 (-6%)	1,563 (17%)	27 (0.3%)	264 (3%)	1,326 (15%)

(日数) ※ グラフ内の%は各年度の活動稼働日数(海洋・陸上・その他)の構成比率



(5) ブロック別海洋クラブデータ



2. 海洋クラブ評価

B&G財団では、海洋クラブの活動を継続的、効率的、公正に支援するため、平成15年度から「海洋クラブ評価」を実施し公表している。

(評価方法)

海洋クラブの運営・活動状況のほか、財団事業の活用、大会・会議への参加状況、海洋クラブの広報、「B&Gコンパス」の活用状況などの評価基準による。

(評価対象期間)

前年度の実績を基に評価を行い、年度はじめに各海洋クラブに公表する。

(評価の種類と財団支援等)

評価	点数範囲 (50点満点)	財団支援・指導等
特A	45点以上	舟艇器材追加・再配備など、評価に応じた財団支援を行う
A	38点～44点	
B	25点～37点	
C	13点～24点	
D	0点～12点	休部や活動が停滞している海洋クラブに対して、今後の活動促進のための協議を行う
E	休部・廃部検討	

海洋クラブ評価基準 (概略)

評価項目と配点	評価の対象	
クラブの活動状況 (18点)	① 活動状況 (活動日数)	
	クラブ組織	② 指導者・運営組織 ③ クラブ員
	④ 新規会員の募集	
	⑤ クラブ員以外を対象とする事業	
	⑥ クラブHPの開設	
活動の周知とPR (12点)	インターネットの活用 (B&Gコンパスの利用度)	⑦ B&Gコンパスの利用
	⑧ 広報活動への取組み状況	
	⑨ 書類の提出状況 (海洋クラブ活動状況資料など必須の報告資料)	
	⑩ 財団主催事業への参加	
財団への協力 (10点)	教育長・責任者 海洋センター・海洋クラブ活性化会議への参加 各種大会、各種講習会、クルーズ、セミナー、その他	
	⑪ 財団支援事業の活用、実施	
その他加点 (上限10点)	⑫ 大会への参加・活躍	
	⑬ 他センター、他クラブとの交流事業の開催	
	⑭ 学校教育との連携	
	⑮ 地域活動への貢献	
	⑯ その他特別加点	
合計50点		

(表彰)

評価が「特A」「A」ランクの優良海洋クラブの表彰を行っている。

平成23年度「海洋クラブ評価」の優良海洋クラブ70クラブを「教育長・責任者 海洋センター・海洋クラブ活性化会議」で表彰した。
(詳細は51頁)



近畿ブロックの会議で特A海洋クラブを表彰
受賞者：左から伊丹クラブ(兵庫県)の藤田氏、
家島クラブ(兵庫県)の関谷氏、
和歌浦クラブ(和歌山県)の中村氏

平成25年度「海洋クラブ評価」(H24年度実績)

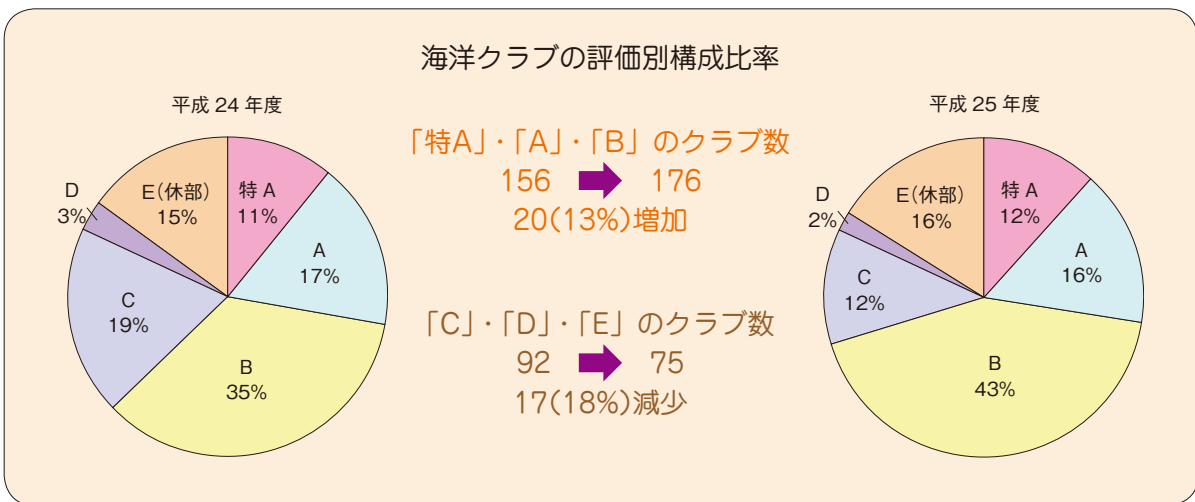
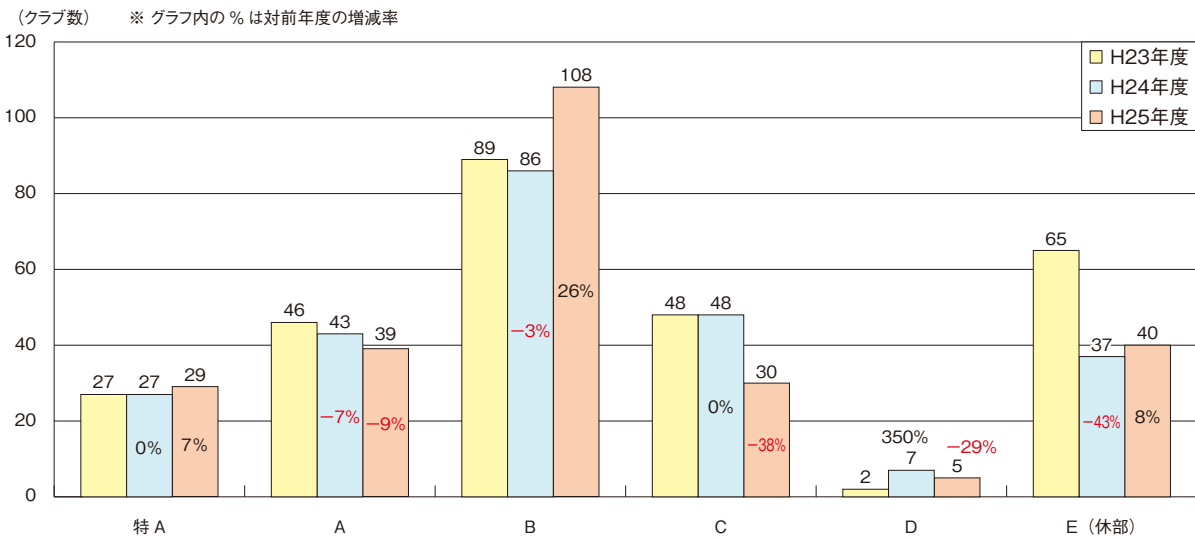
～ B評価以上の海洋クラブが全体の70%以上へ増加 ～

活動低迷傾向のD評価およびC評価のクラブが、合算数で20クラブも大幅減少し、B評価へと向上しており、全体の底上げが図られたことが見て取れる。

ただし、休部クラブ数は37クラブから40クラブへと若干数増えており、長期休部のクラブの問題と合わせ、対応を要する状況にある。

海洋クラブの評価の推移 (3年間比較)

年度	特A	A	B	C	D	E (休部)	合計
H23年度	27	46	89	48	2	65	277
H24年度	27	43	86	48	7	37	248
増減数(率)	0 (0%)	-3 (-7%)	-3 (-3%)	0 (0%)	5 (250%)	-28 (-43%)	
H25年度	29	39	108	30	5	40	251
増減数(率)	2 (7%)	-4 (-9%)	22 (26%)	-18 (-38%)	-2 (-29%)	3 (8%)	



3. 平成24年度 海洋クラブ活動人数（ベスト50）

順位	海洋スポーツ				陸上スポーツ				その他の活動（水泳他）			
	クラブ名	県名	活動日数	活動人数	クラブ名	県名	活動日数	活動人数	クラブ名	県名	活動日数	活動人数
1	虹の松原	佐賀県	325	11,905	やまなし	山梨県	302	5,190	尾上	青森県	295	9,213
2	やまなし	山梨県	279	4,856	松江	島根県	144	4,896	積丹	北海道	14	4,280
3	神埼	佐賀県	281	4,774	尾上	青森県	226	4,834	三隅	島根県	153	2,154
4	あわら	福井県	94	4,239	虹の松原	佐賀県	106	4,170	美幌	北海道	47	1,863
5	兵庫ジュニア	兵庫県	182	3,796	湯布院	大分県	81	3,844	本部	沖縄県	160	1,525
6	伊丹	兵庫県	120	3,672	小見川	千葉県	309	3,206	加茂	岡山県	84	1,442
7	福岡ジュニアヨット	福岡県	120	3,533	神埼	佐賀県	101	3,181	串良	鹿児島県	51	1,435
8	小見川	千葉県	311	2,867	天瀬	大分県	99	2,469	舟形	山形県	22	1,244
9	砺波	富山県	31	2,577	上市	富山県	68	1,659	大佐	岡山県	30	1,084
10	和知	京都府	149	2,515	家島	兵庫県	68	1,186	松任はまなす	石川県	64	1,010
11	池田	香川県	121	2,481	福野	富山県	102	1,168	新潟	新潟県	76	1,002
12	鹿屋	鹿児島県	84	2,123	舟形	山形県	56	1,015	上市	富山県	73	912
13	釜山	韓国	113	2,117	作手	愛知県	44	999	福野	富山県	31	718
14	高松	香川県	66	1,903	大山	大分県	51	852	鷹栖	北海道	11	583
15	別府	大分県	117	1,798	豊津	福岡県	24	802	豊津	福岡県	20	478
16	相良	静岡県	60	1,693	三隅	島根県	101	791	天瀬	大分県	24	473
17	和歌浦	和歌山県	73	1,655	あわら	福井県	29	762	建部	岡山県	8	389
18	瀬戸内	岡山県	43	1,504	砥用	熊本県	48	758	埴	福島県	23	379
19	津屋崎	福岡県	103	1,359	新篠津	北海道	96	744	大山	大分県	21	360
20	松山	愛媛県	60	1,329	美幌	北海道	24	704	ななお	石川県	9	353
21	滝川	北海道	70	1,282	竹野	兵庫県	42	530	宮崎シーライオン	宮崎県	22	314
22	砂川	北海道	15	1,157	ななお	石川県	21	413	犀川	福岡県	8	283
23	なごや	愛知県	63	1,152	真玉	大分県	2	408	奈義	岡山県	6	278
24	大安	三重県	27	1,139	白石島	岡山県	32	406	米山	宮城県	7	272
25	小平	北海道	41	1,131	新潟	新潟県	20	372	福岡ジュニアヨット	福岡県	11	262
26	中田	宮城県	99	1,080	北房	岡山県	46	362	池田	香川県	32	261
27	ハウステンボス町ジュニア	長崎県	88	1,030	福山	広島県	8	327	愛別	北海道	9	260
28	高瀬	香川県	41	1,025	矢掛	岡山県	22	294	国見	大分県	8	244
29	大町	長野県	30	942	大山田	三重県	12	213	浅井	滋賀県	8	216
30	大島	山口県	38	855	川辺	岐阜県	31	190	蒲郡	愛知県	10	215
31	桜江	島根県	33	679	由岐	徳島県	15	183	古平	北海道	3	213
32	宮崎シーライオン	宮崎県	23	671	鹿屋	鹿児島県	10	180	大島	山口県	13	213
33	時津	長崎県	91	587	瀬戸内	岡山県	11	179	滝川	北海道	4	211
34	江の島	神奈川県	27	570	蔵之元	鹿児島県	2	170	家島	兵庫県	9	208
35	生月	長崎県	56	550	愛別	北海道	7	169	大三島	愛媛県	7	206
36	ななお	石川県	24	533	米山	宮城県	4	156	東北	青森県	8	200
37	小野	福島県	11	523	雄和	秋田県	6	145	砥用	熊本県	26	196
38	旭	愛知県	26	517	大島	山口県	8	139	富来	石川県	10	195
39	頸城	新潟県	26	507	熊石	北海道	6	129	勝山	福井県	13	188
40	松江	島根県	28	504	御荘	愛媛県	8	115	杵築	大分県	7	188
41	犀川	福岡県	10	501	奈義	岡山県	2	104	八郎潟	秋田県	12	182
42	穂波	福岡県	29	495	建部	岡山県	1	100	たいない	新潟県	7	178
43	勝連	沖縄県	8	495	那賀町	徳島県	1	100	竹野	兵庫県	14	176
44	横芝光	千葉県	34	490	八千代	広島県	21	96	砺波	富山県	11	172
45	中新田	宮城県	22	485	富来	石川県	3	80	小樽	北海道	9	160
46	黒瀬	広島県	10	484	勝山	福井県	2	80	熊石	北海道	13	159
47	新潟	新潟県	47	477	大三島	愛媛県	3	80	室蘭	北海道	8	148
48	鷹栖	北海道	13	476	かけはし	石川県	24	72	葉山	神奈川県	5	146
49	能代	秋田県	21	447	埴	福島県	1	71	御荘	愛媛県	9	144
50	鳥取	鳥取県	108	432	蒲郡	愛知県	3	58	別府	大分県	3	144

4. 新規海洋クラブ紹介

B&G新居浜海洋クラブ（愛媛県）

楽しさを教えるだけでなく、スポーツとしてのセーリング技術やルールを習得させ、生涯続けていくことを目指します

B&G新居浜海洋クラブは、マリンパーク新居浜を拠点とし、現在はジュニアクラスのオブティミスト級のセーリングを中心として活動しています。

瀬戸内の自然の中で、子ども達に楽しく安全にセーリングを体験してもらいながら、ヨットの操船技術の向上にも力を注いでいます。

今後も体験会の開催や地域における活動の中で、セーリングの楽しさを多くの子ども達に伝え、生涯海に親んでもらえるような活動を展開していきたいと考えています。

まだまだ若いクラブですが、今後も他クラブの方々と交流を深め情報交換をし、活動の場を広げていきたいと思っております。

B&G財団の皆様、並びに全国のB&G海洋クラブの皆様、今後とも新居浜海洋クラブをよろしくお願ひします。



代表
本田 龍朗 氏



B&G長洲海洋クラブ（熊本県）

カヌーやヨットを楽しみながら、社会性・自立性・創造性を育て、子どもたちに自信を持たせてあげたい

B&G長洲海洋クラブは有明海に面しており、対岸の雲仙普賢岳を眺めながらカヌーやヨットで海沿いにある造船工場の巨大タンカーにも近づけるといいう貴重な体験をしながら活動しています。

夏には海上保安部、九州看護福祉大学短艇部の協力の基に、海辺の安全教室を実施しています。

また近隣海洋センターとの交流も行っており、毎年にごやかに活動しています。今後、徐々にクラブ員も増やし、大会にも参加していきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。



代表
清末 岳史 氏



B&G恵那海洋クラブ（岐阜県）

子どもたちに水の知識を伝え、より一層深めてもらい 水に親しめるクラブ運営を目指します

B&G恵那海洋クラブは、阿木川ダム湖を拠点として、カヌーを主とし活動しています。まだクラブの規模としては小さいですが、体験活動をしてみて競技に興味を持つ子どもたちも多く、年々活気づいています。

また、阿木川湖湖面からの眺めが非常によく、豊かな自然の中で活動することにより、観察力や集中力を身に付けることができます。

今後はクラブ員の拡大を狙い、広報活動や出張カヌー教室など、市民に周知して頂けるよう活動を続けていきたいと考えています。



代表
大嶋 卯巳 氏



平成24年度 B&G海洋クラブ 努力目標・行動指針

海洋クラブで5つの目標に取り組みましょう。

1. 活動日を3日増やそう！

他クラブと連携し「合同練習会」「水辺の安全教室」「イベント」等を開催しましょう。

2. クラブ員を3人増やそう！

ホームページ、ブログ等を活用するなど、積極的にクラブ員募集をしましょう。

3. 「水辺の安全教室」を年3回実施しよう！

「水の事故ゼロ運動」の“年間参加者6万人”の活動を目指しましょう。

4. B&G全国大会の3大会に出場しよう！

「B&G OP級ヨット大会（東・西日本大会）」「B&G杯全国少年少女カヌー大会」
「B&G 全国ジュニア水泳競技大会」を目標に練習しましょう。

5. B&G財団の会議に出席しよう！

他クラブや財団との連携、交流、情報交換を図る重要な「教育長・責任者 海洋センター・海洋クラブ活性化会議」には、必ず出席しましょう。

海洋クラブの子どもたちは5つの行動を身につけましょう。

1. 自分から進んであいさつしよう！

2. 自分のことは自分でしよう！

3. モノを大切にしよう！

4. 時間・ルールを守ろう！

5. 何事にも積極的に挑戦しよう！

第3 海洋センター・ブロック連絡協議会の運営・活動状況

1. ブロック連絡協議会の活動状況

B&G財団では、平成の大合併を機に、財団と自治体相互の理解促進および連携を強化するため、県やブロックの全国組織づくりに着手。以後、北海道を皮切りに各ブロックが立ち上がり、平成18年度に10ブロックの連絡協議会が設立され、全国のネットワークが完成した。

現在では、自治体の合併による広域圏での情報交換はもとより、各ブロック傘下の県連絡協議会をはじめ海洋センター・海洋クラブとの連携によるブロックスポーツ大会や各種交流事業、指導者研修会、さらには財団が推進する各種ソフト事業を自主開催するなど、「B&Gプラン」推進の中核となる組織として重要な役割を担っている。

～ ブロック連絡協議会の活性化には自治体首長・教育長の積極的な参加が不可欠 ～

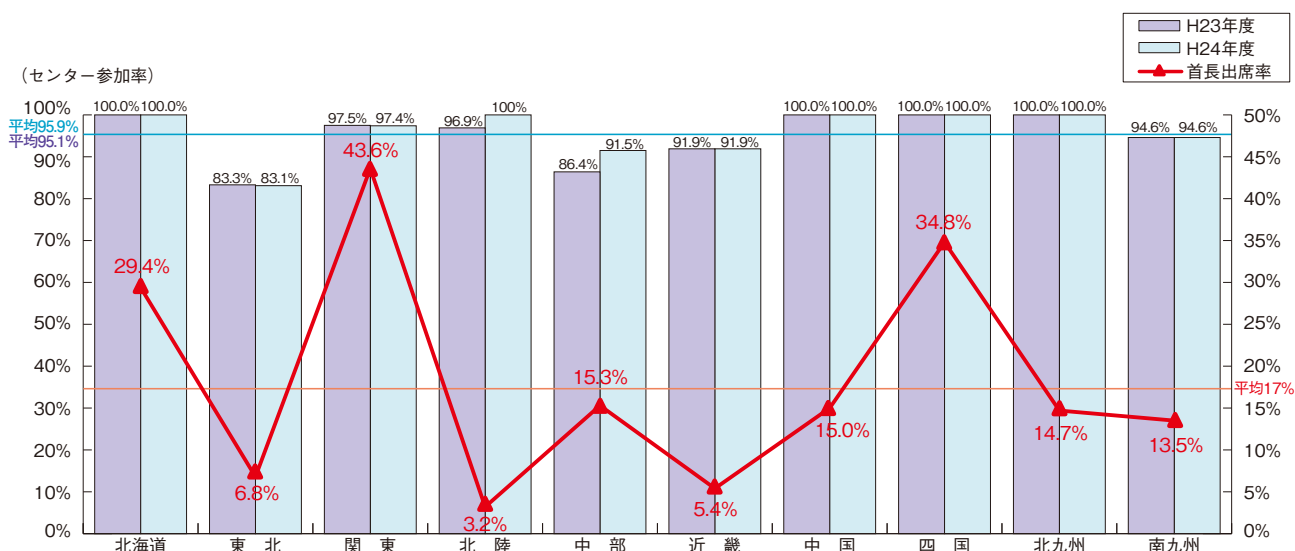
ブロック連絡協議会の活動が活性化し発展するためには、市町村長や教育長など行政（教育行政）のトップの理解が特に重要になる。平成24年度の「ブロック連絡協議会総会」（同連協主催）には、自治体執行部である首長をはじめ副首長や教育長が全10ブロック合わせて152人出席（前年度：138人）するなど、ブロック連絡協議会の重要性が自治体や海洋センターに浸透されている。

平成24年度のブロック連絡協議会の全般的な活動状況を総括すると、“ブロックスポーツ大会・交流会”をはじめ、“指導員研修会”や“親子ふれあいキャンプ”などを積極的に実施。各事業とも年々参加者が増加傾向にあるといえる。

(1) 「ブロック連絡協議会総会」への海洋センター参加率

「ブロック連絡協議会総会」への海洋センターの参加率は、全国平均で見るとH23年度の95%からH24年度の96%へと1ポイント増加。また、H24年度は、北海道・北陸・中国・四国・北九州の5ブロックで出席率100%となった。首長の出席率では、関東ブロックの43.6%が最も高く、次いで四国ブロック（34.8%）、北海道ブロック（29.4%）の順になっている。

区分	北海道	東北	関東	北陸	中部	近畿	中国	四国	北九州	南九州	
H23参加率	100%	83.3%	97.5%	96.9%	86.4%	91.9%	100%	100%	100%	94.6%	
H24参加率	100%	83.1%	97.4%	100%	91.5%	91.9%	100%	100%	100%	94.6%	
H24出席者	首長 (出席率)	10人 29.4%	4人 6.8%	17人 43.6%	1人 3.2%	9人 15.3%	2人 5.4%	6人 15.0%	8人 34.8%	5人 14.7%	5人 13.5%
	副首長	3人	0人	5人	1人	8人	1人	5人	2人	1人	5人
	教育長	12人	1人	2人	7人	10人	1人	6人	7人	2人	6人



(2)「ブロック連絡協議会」運営費等の状況

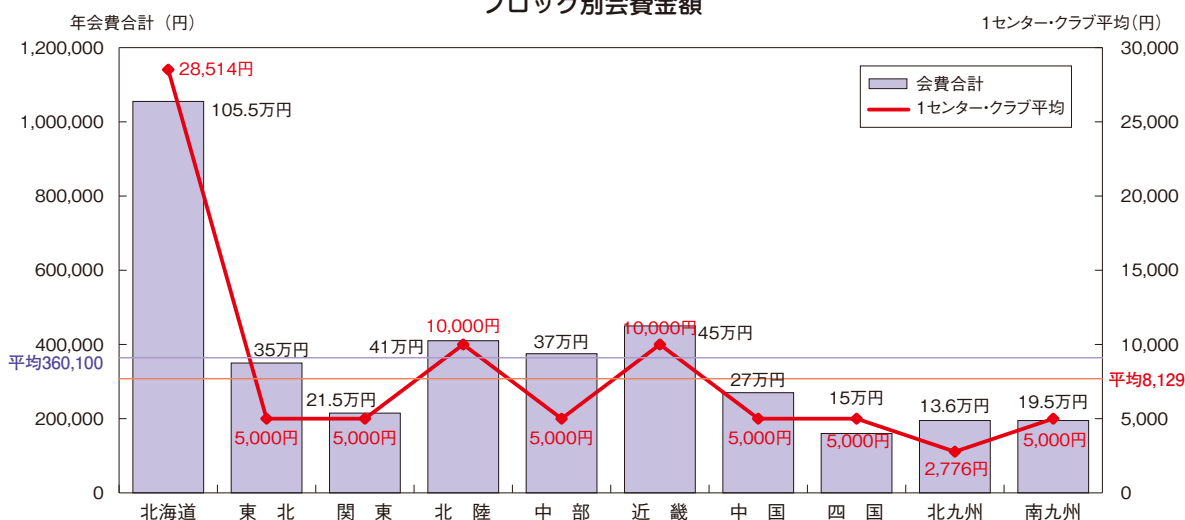
ア. 会費

ブロック連絡協議会の運営費となる会費の状況は次のとおり。

会費合計（単位：千円）

区分	北海道	東北	関東	北陸	中部	近畿	中国	四国	北九州	南九州
会費合計	1,055	350	215	410	375	450	270	160	195	195
自治体数	34	59	39	31	59	37	40	23	34	37
センター数	36	68	43	40	74	45	54	28	48	39
クラブ数	1	2	—	—	—	—	—	4	—	—
1センター・クラブ平均	28,514円	5,000円	5,000円	10,000円	5,000円	10,000円	5,000円	5,000円	2,776円	5,000円

ブロック別会費金額



イ.「活動助成金」の活用状況

B&G財団では、ブロック連絡協議会の活性化のため活動助成金を交付している。H24年度の活動助成金限度額に対する活用率の高いブロックは北海道（99.6%）、中国（88.9%）、近畿（82.4%）、となっている。

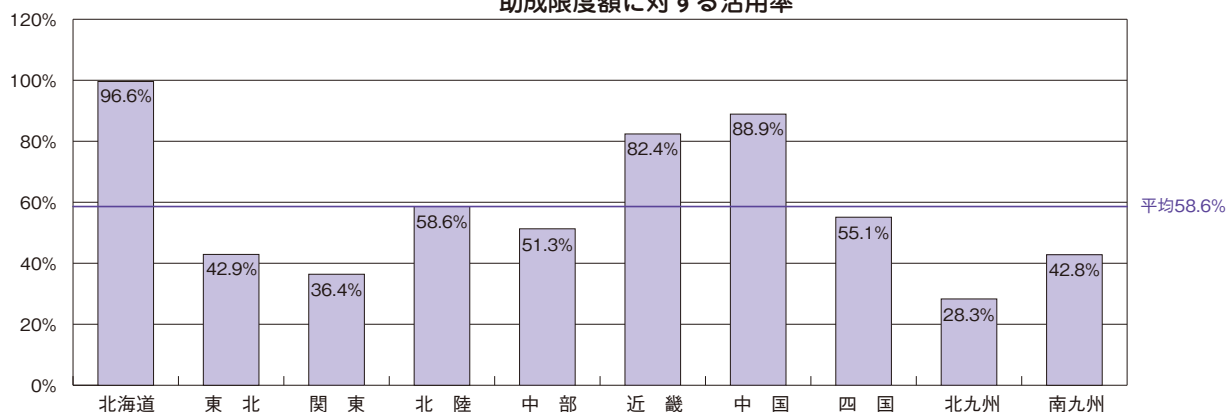
ブロック連絡協議会に対する活動助成の上限

事業数：年間4事業、助成金額：80万円、助成率：80%

助成事業総額（単位千円）

区分	北海道	東北	関東	北陸	中部	近畿	中国	四国	北九州	南九州
実施事業数	2	4	3	2	2	3	4	3	4	4
助成金額	797	343	291	469	410	659	711	441	226	342
助成限度額に対する活用率	99.6%	42.9%	36.4%	58.6%	51.3%	82.4%	88.9%	55.1%	28.3%	42.8%

助成限度額に対する活用率



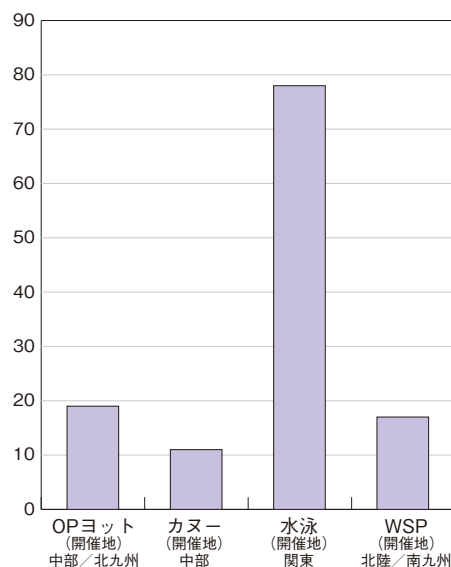
(3) 「B&G全国スポーツ大会」参加状況

B&G全国スポーツ大会等に対する海洋センター・海洋クラブの参加数は、前年度より12カ所増加した。

ブロック別 全国大会参加状況（センター・クラブ数）

ブロック	OPヨット	カヌー	水泳	WSP	合計
北海道	0	0	1	0	1
東北	0	0	5	0	2
関東	1	2	26	0	29
北陸	0	1	9	11	21
中部	4	2	11	0	17
近畿	4	1	10	0	15
中国	2	2	10	0	14
四国	2	0	5	0	7
北九州	6	3	1	1	11
南九州	0	0	0	5	5
合計	19	11	78	17	125

大会別参加センター・クラブ数

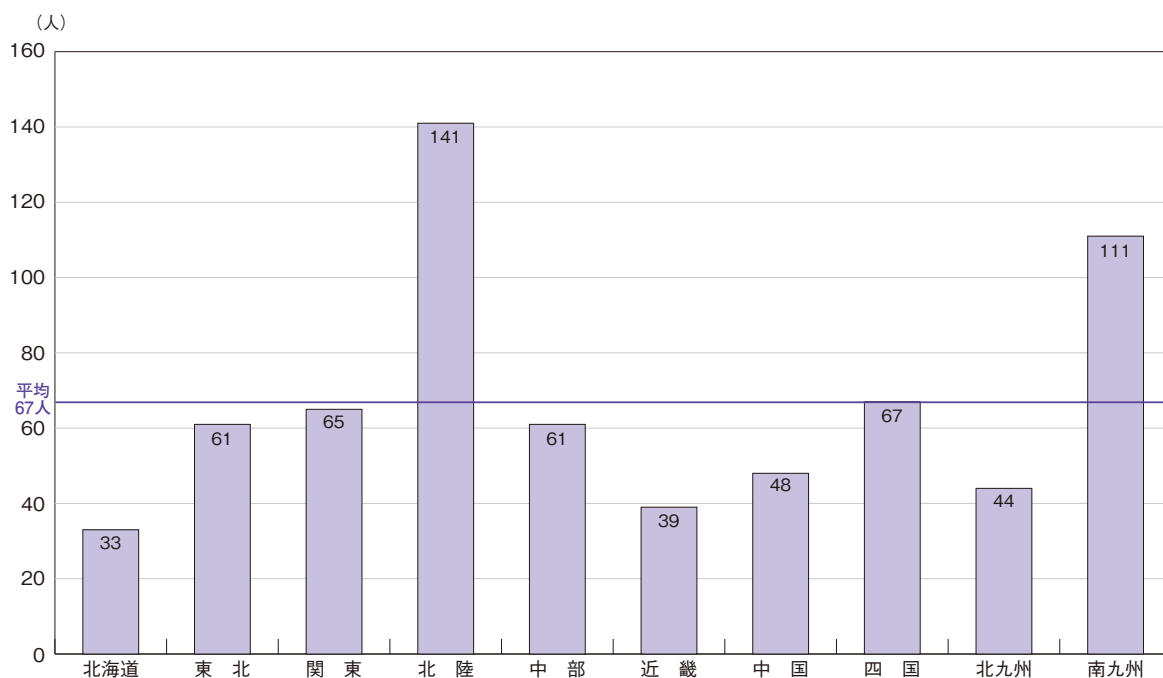


(4) 「親と子のふれあいキャンプ」参加状況

自然体験を通じて親子の絆を強めるため、各ブロック年間3回の実施を推進している。

	北海道	東北	関東	北陸	中部	近畿	中国	四国	北九州	南九州
実施回数	3回	3回	3回	3回	3回	3回	3回	3回	3回	3回
参加親子	15組	17組	12組	12組	25組	18組	15組	23組	18組	35組
参加者人数	33人	61人	65人	141人	61人	39人	48人	67人	44人	111人

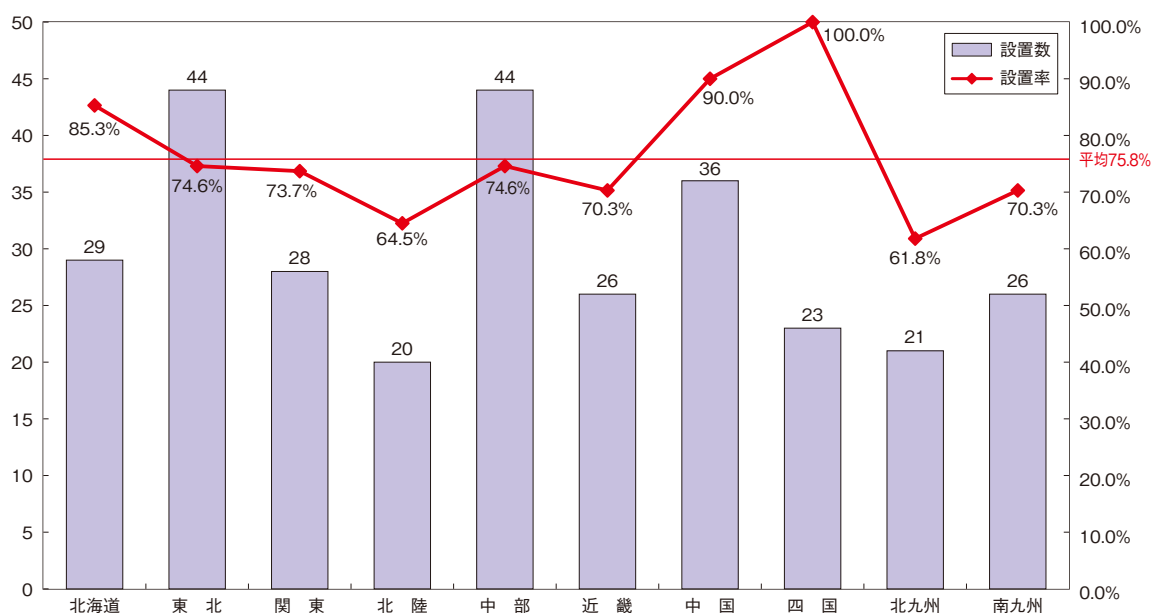
ブロック別参加者数



(5) ブロック別「指導者会」設置状況

平成24年度は、新たに38カ所（50海洋センター）の指導者会が登録され、現在の指導者会の登録総数は354カ所（354海洋センター・297自治体）で、全海洋センター所在自治体に対する設置率は75.8%である。

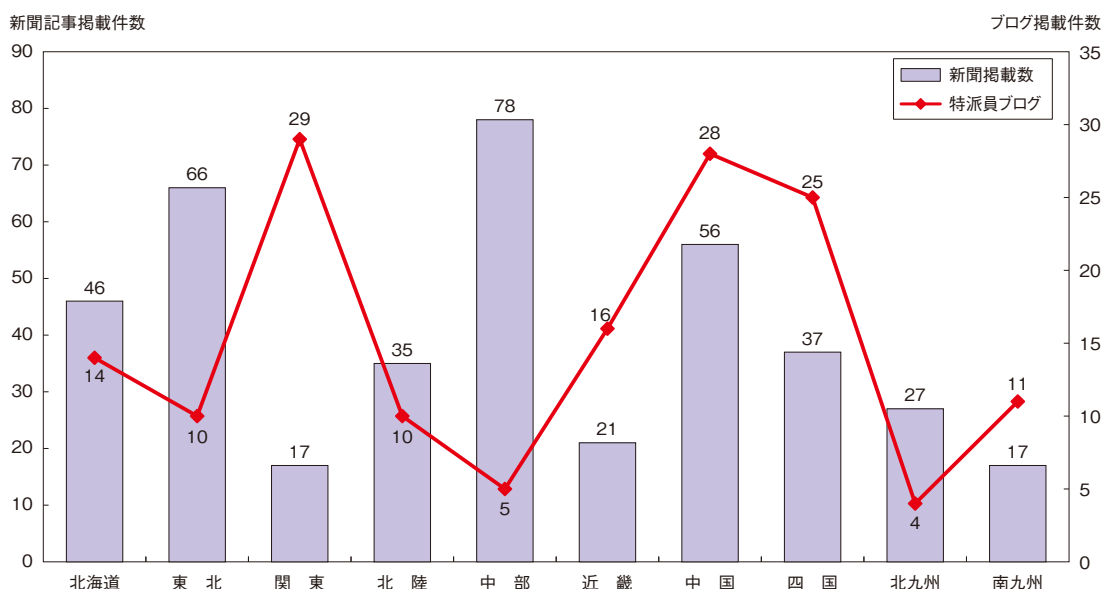
	北海道	東北	関東	北陸	中部	近畿	中国	四国	北九州	南九州
設置自治体数	29	44	28	20	44	26	36	23	21	26
自治体数	34	59	38	31	59	37	40	23	34	37
設置率	85.3%	74.6%	73.7%	64.5%	74.6%	70.3%	90.0%	100.0%	61.8%	70.3%



(6) 広報活動状況（B&G特派員）

平成19年度から各ブロックの広報活動を行う“B&G特派員”制度がスタートしたことにより、各ブロック内の海洋センターや海洋クラブの活動がB&Gブログや新聞等に掲載されるなど、広報活動が活発になっている。

「ブロック別 広報実績」（新聞記事掲載件数・BG特派員ブログ掲載件数）



※ 新聞記事掲載件数：H24年度B&G広報大賞」新聞掲載記事件数（主な記事）

2. 利用人数

(1) 平成24年度「海洋センター利用人数」のブロック別傾向

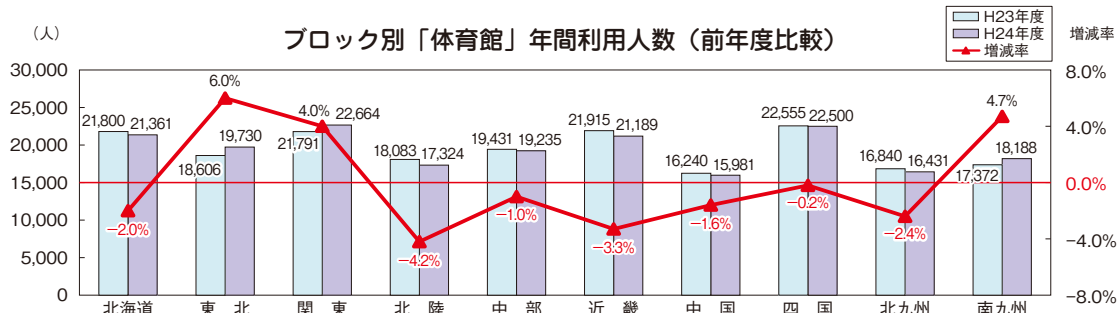
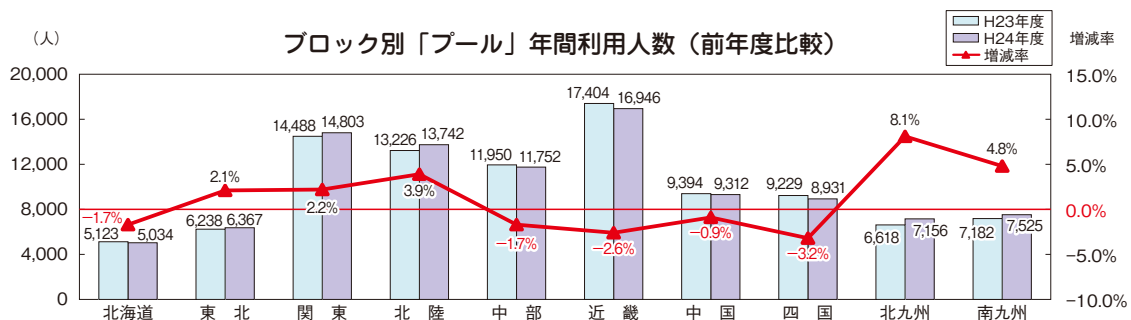
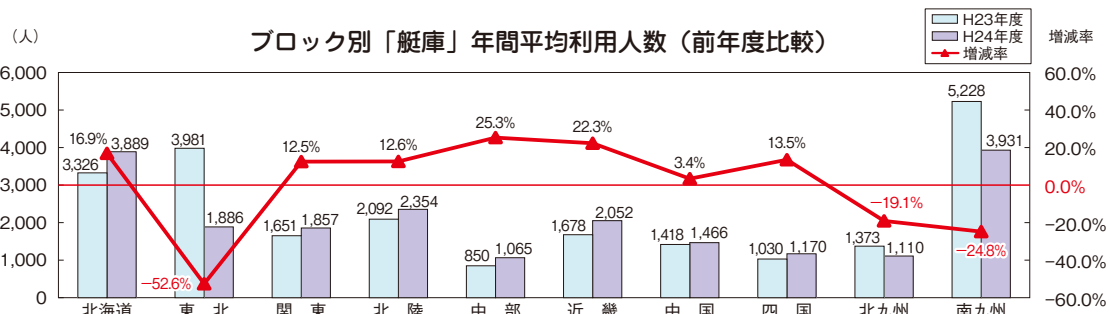
平成24年度の海洋センター利用人数について、施設別の年間平均利用人数の高い上位ブロックは次のとおり。

“年間平均利用人数”および“対前年度増加率”上位3ブロック

施設	年間平均利用人数			対前年度増減率		
艇庫	南九州	北海道	北陸	中部	近畿	北海道
プール	近畿	関東	北陸	北九州	南九州	北陸
体育館	関東	四国	北海道	東北	南九州	関東

※平均は1施設の年間平均 ブロック別 施設別 年間平均利用人数（前年度比較）

ブロック	艇庫			プール			体育館			合計		
	利用人数		増減率	利用人数		増減率	利用人数		増減率	利用人数		増減率
	H23年度	H24年度		H23年度	H24年度		H23年度	H24年度		H23年度	H24年度	
北海道	3,326	3,889	16.9%	5,123	5,034	-1.7%	21,800	21,361	-2.0%	30,248	30,284	0.1%
東北	3,981	1,886	-52.6%	6,238	6,367	2.1%	18,606	19,730	6.0%	28,825	27,983	-2.9%
関東	1,651	1,857	12.5%	14,488	14,803	2.2%	21,791	22,664	4.0%	37,930	39,324	3.7%
北陸	2,092	2,354	12.6%	13,226	13,742	3.9%	18,083	17,324	-4.2%	33,401	33,420	0.1%
中部	850	1,065	25.3%	11,950	11,752	-1.7%	19,431	19,235	-1.0%	32,231	32,053	-0.6%
近畿	1,678	2,052	22.3%	17,404	16,946	-2.6%	21,915	21,189	-3.3%	40,997	40,187	-2.0%
中国	1,418	1,466	3.4%	9,394	9,312	-0.9%	16,240	15,981	-1.6%	27,052	26,758	-1.1%
四国	1,030	1,170	13.5%	9,229	8,931	-3.2%	22,555	22,500	-0.2%	32,814	32,601	-0.6%
北九州	1,373	1,110	-19.1%	6,618	7,156	8.1%	16,840	16,431	-2.4%	24,831	24,697	-0.5%
南九州	5,228	3,931	-24.8%	7,182	7,525	4.8%	17,372	18,188	4.7%	29,782	29,644	-0.5%
全国平均	2,245	2,016	-10.2%	10,165	10,275	1.1%	19,162	19,162	0.0%	12,160	12,131	-0.2%



(2) 平成24年度「海洋センター利用形態」のブロック別傾向

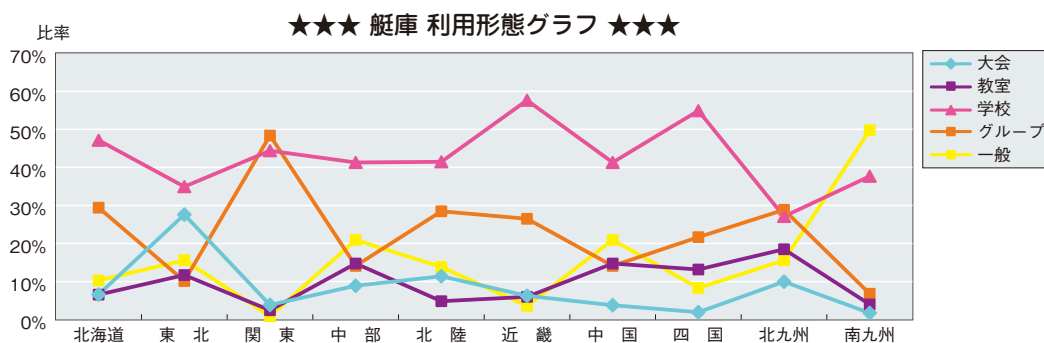
平成24年度の海洋センター利用人数について、施設ごとの各利用形態で最も高い利用傾向にあるブロックは次のとおり。

施設別・利用形態別“利用率”の最も高いブロック

施設	大会	教室	学校	グループ	一般
艇庫	東北 (28%)	南九州 (19%)	近畿 (58%)	関東 (48%)	南九州 (50%)
温水プール	北陸 (2%)	近畿 (45%)	北海道 (23%)	北海道 (16%)	四国 (70%)
プール	中国 (3%)	近畿 (10%)	東北 (32%)	南九州 (12%)	南九州 (72%)
体育館	北海道 (13%)	近畿 (19%)	北九州 (18%)	四国 (62%)	関東 (25%)

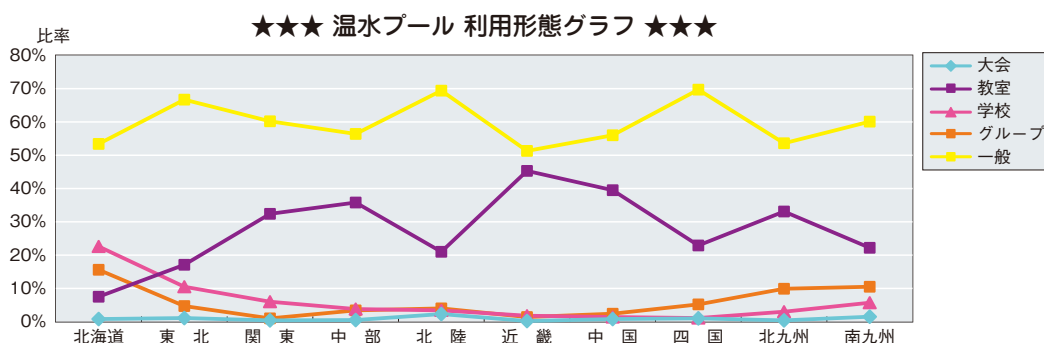
ア. 艇庫

ブロック	大会	教室	学校	グループ	一般	合計
北海道	6.6%	6.6%	47.1%	29.4%	10.3%	100%
東北	27.6%	11.7%	34.9%	10.1%	15.6%	100%
関東	3.9%	2.5%	44.4%	48.4%	0.9%	100%
中部	8.9%	14.7%	41.3%	14.1%	20.9%	100%
北陸	11.4%	4.8%	41.5%	28.5%	13.8%	100%
近畿	6.3%	6.0%	57.6%	26.5%	3.6%	100%
中国	3.8%	6.0%	41.3%	14.1%	20.9%	100%
四国	1.9%	14.7%	54.9%	21.7%	8.3%	100%
北九州	10.0%	13.2%	27.1%	28.9%	15.6%	100%
南九州	1.7%	18.5%	37.7%	6.8%	49.8%	100%
合計	7.9%	4.0%	39.8%	20.5%	22.8%	100%



イ. 温水プール

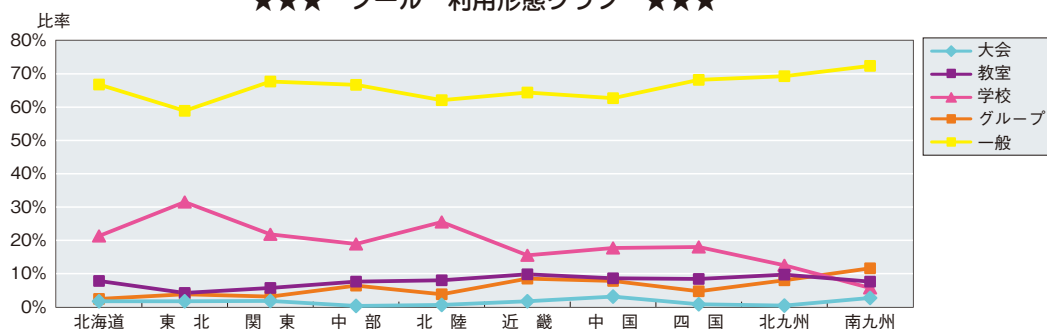
ブロック	大会	教室	学校	グループ	一般	合計
北海道	0.8%	7.5%	22.6%	15.6%	53.4%	100%
東北	1.1%	17.1%	10.5%	4.7%	66.7%	100%
関東	0.4%	32.4%	6.0%	1.0%	60.2%	100%
中部	0.5%	35.8%	3.8%	3.4%	56.4%	100%
北陸	2.3%	21.0%	3.4%	4.0%	69.4%	100%
近畿	0.2%	45.3%	1.8%	1.4%	51.3%	100%
中国	0.8%	39.5%	1.4%	2.4%	56.0%	100%
四国	1.0%	22.9%	1.1%	5.2%	69.7%	100%
北九州	0.4%	33.1%	3.0%	9.9%	53.6%	100%
南九州	1.5%	22.2%	5.7%	10.5%	60.1%	100%
合計	0.8%	31.9%	4.4%	4.1%	58.7%	100%



ウ. プール（上屋付および屋外プール）

ブロック	大会	教室	学校	グループ	一般	合計
北海道	1.7%	7.8%	21.3%	2.4%	66.8%	100%
東北	1.7%	4.2%	31.5%	3.8%	58.9%	100%
関東	1.8%	5.7%	21.8%	3.1%	67.7%	100%
中部	0.3%	7.6%	18.9%	6.4%	66.7%	100%
北陸	0.6%	8.0%	25.5%	3.8%	62.1%	100%
近畿	1.7%	9.8%	15.5%	8.5%	64.4%	100%
中国	3.1%	8.6%	17.7%	7.8%	62.7%	100%
四国	0.8%	8.4%	18.0%	4.7%	68.2%	100%
北九州	0.4%	9.7%	12.5%	8.0%	69.3%	100%
南九州	2.7%	7.6%	5.7%	11.6%	72.4%	100%
合計	1.5%	7.5%	19.5%	6.3%	65.3%	100%

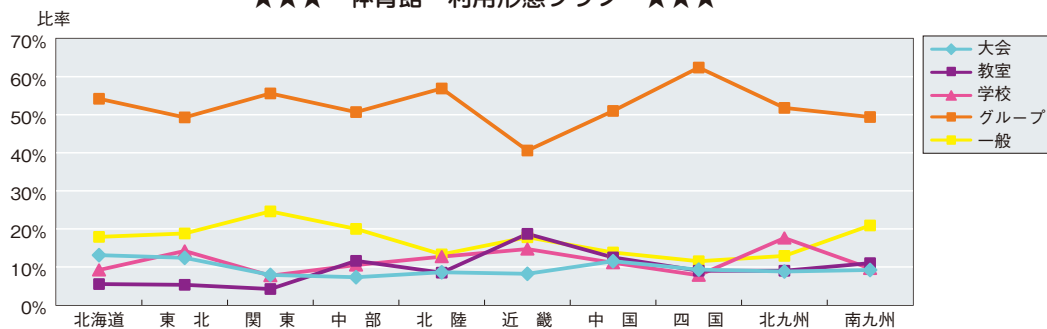
★★★ プール 利用形態グラフ ★★★



エ. 体育館

ブロック	大会	教室	学校	グループ	一般	合計
北海道	13.1%	5.5%	9.2%	54.2%	17.9%	100%
東北	12.4%	5.3%	14.2%	49.3%	18.8%	100%
関東	7.9%	4.2%	7.7%	55.6%	24.6%	100%
中部	7.3%	11.6%	10.5%	50.7%	20.0%	100%
北陸	8.6%	8.5%	12.7%	56.9%	13.3%	100%
近畿	8.2%	18.7%	14.7%	40.6%	17.8%	100%
中国	11.5%	12.5%	11.1%	51.0%	13.8%	100%
四国	9.3%	9.0%	7.8%	62.4%	11.5%	100%
北九州	8.8%	9.0%	17.6%	51.8%	12.9%	100%
南九州	9.2%	11.0%	9.6%	49.4%	20.9%	100%
合計	9.4%	9.7%	11.6%	51.7%	17.6%	100%

★★★ 体育館 利用形態グラフ ★★★



3. 評価の傾向

(1) 平成24年度「年間評価」のブロック別傾向

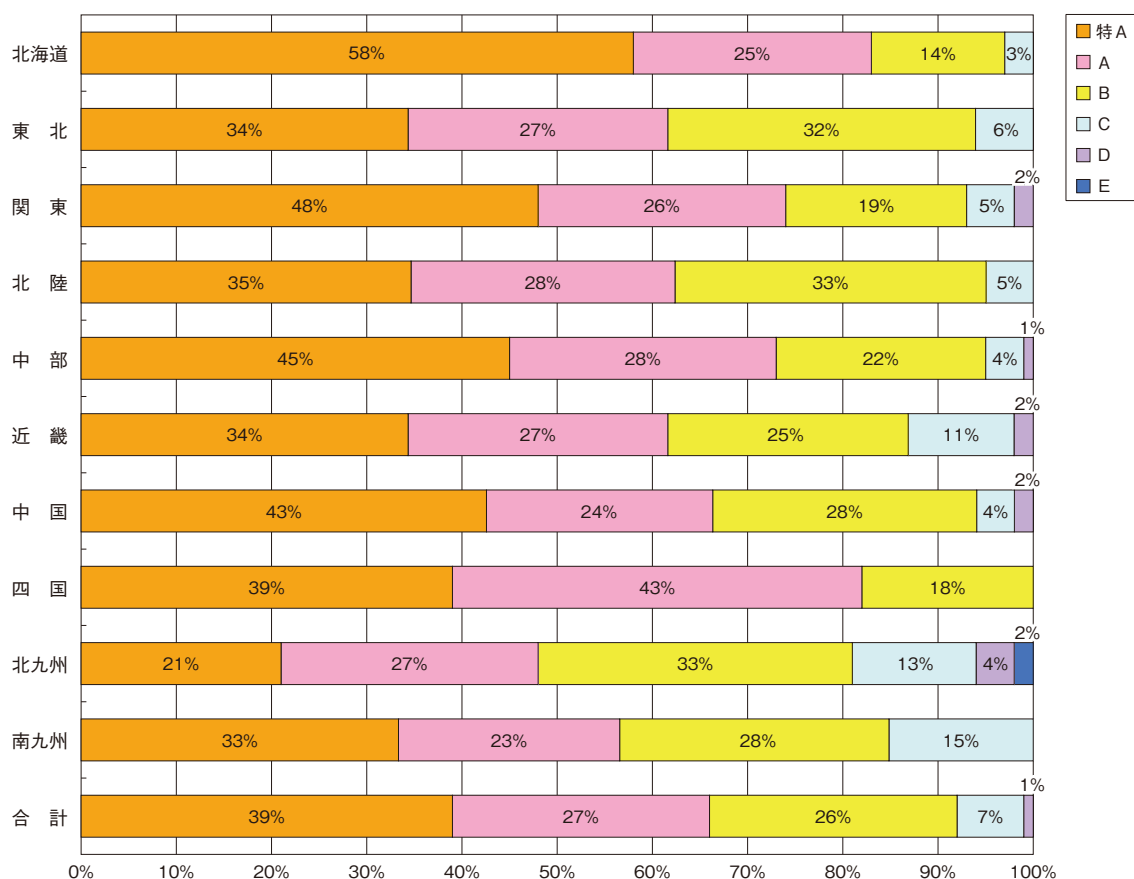
ア. 各評価の構成比率の傾向

各評価の割合（構成比率）をブロック別に見ると、優良海洋センター（A評価以上）の構成比率が高い上位ブロックは、北海道（83%）、四国（82%）、関東（74%）となっている。

ブロック別・評価別 一覧（平成25年4月度評価） ※ %はブロック内の評価割合

ブロック名	特A	評価 比率	A	評価 比率	B	評価 比率	C	評価 比率	D	評価 比率	E	評価 比率	合計
北海道	21	58%	9	25%	5	14%	1	3%	0	0%	0	0%	36
東北	21	34%	17	27%	20	32%	4	6%	0	0%	0	0%	62
関東	20	48%	11	26%	8	19%	2	5%	1	2%	0	0%	42
北陸	14	35%	11	28%	13	33%	2	5%	0	0%	0	0%	40
中部	33	45%	21	28%	16	22%	3	4%	1	1%	0	0%	74
近畿	15	34%	12	27%	11	25%	5	11%	1	2%	0	0%	44
中国	23	43%	13	24%	15	28%	2	4%	1	2%	0	0%	54
四国	11	39%	12	43%	5	18%	0	0%	0	0%	0	0%	28
北九州	10	21%	13	27%	16	33%	6	13%	2	4%	1	2%	48
南九州	13	33%	9	23%	11	28%	6	15%	0	0%	0	0%	39
合計	181	39%	128	27%	120	26%	31	7%	6	1%	1	0%	467

大震災被災センター7カ所を除く

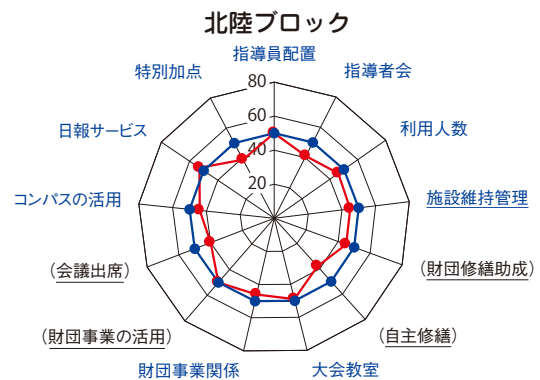
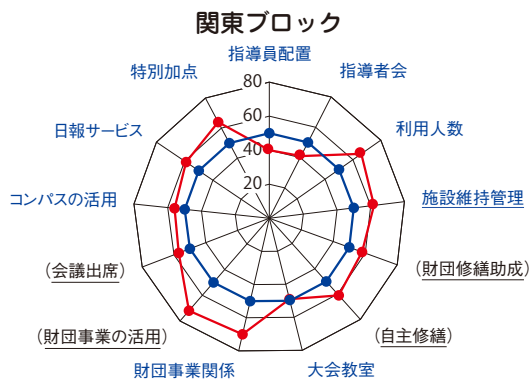
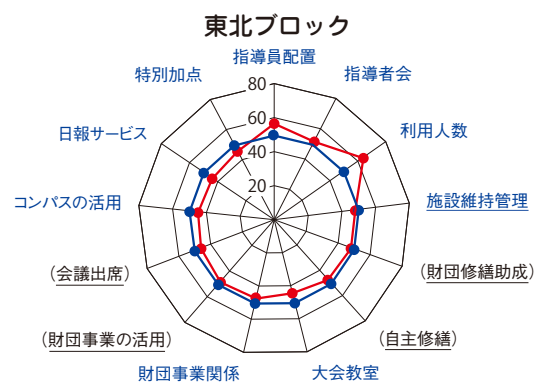
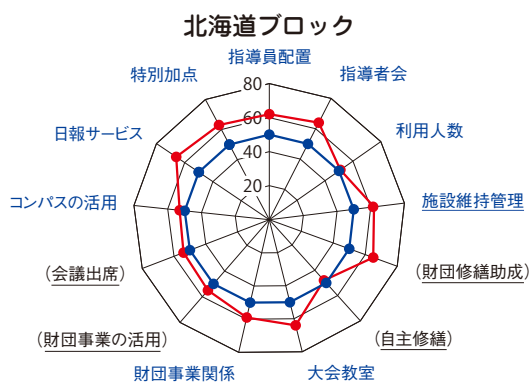


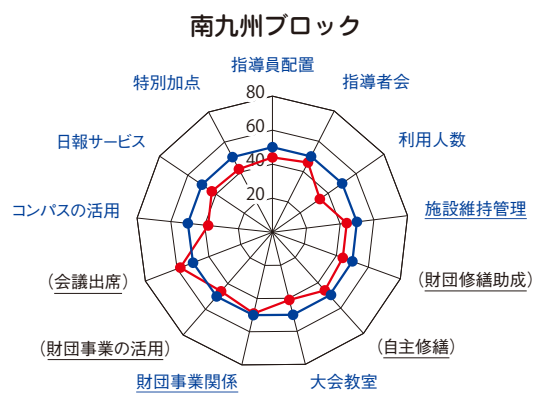
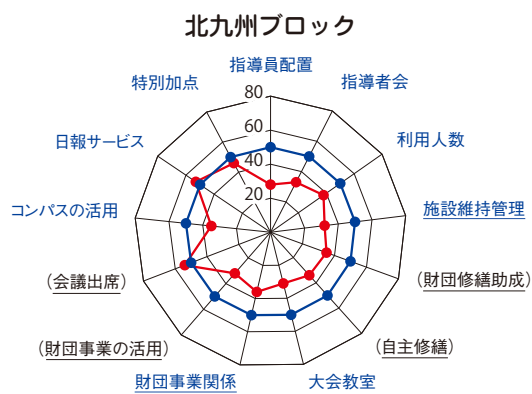
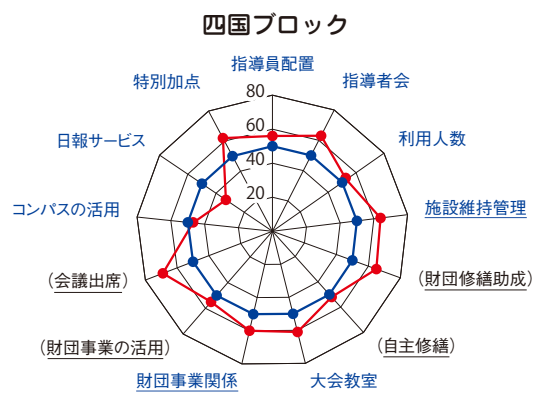
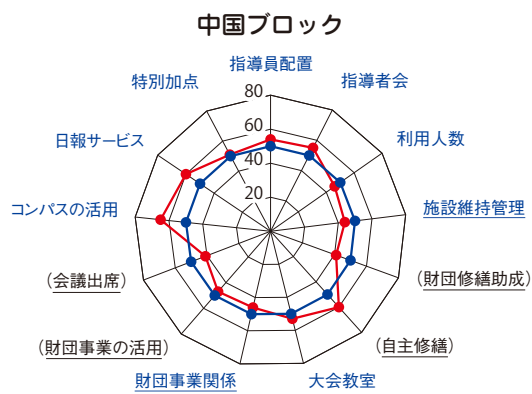
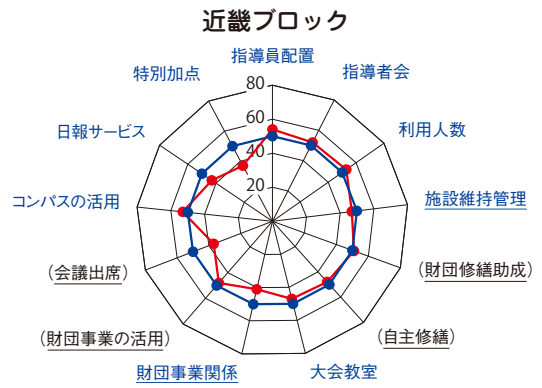
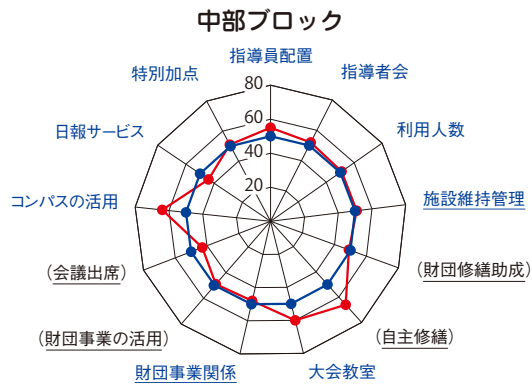
イ. 評価項目の傾向（レーダーチャート）

次のグラフ（レーダーチャート）は、“ブロック内海洋センターの各評価点の平均値”を“当該ブロックの各評価点”として、“全海洋センターの各評価点の平均値”との偏差を表したもので、青線が全海洋センターの平均値（50）、赤線が各ブロックの偏差値を示している。

なお、グラフ上の「施設維持管理」の評価内訳として“財団修繕助成”と“自主修繕”を、また「財団事業関係」の評価内訳として“財団事業の活用”と“会議出席”の偏差値を参考に記載した。

評価項目	評価値の上位3ブロック（H24）			評価値の上位3ブロック（H23）		
全評価項目の合計	北海道	関東	四国	北海道	中国	四国
指導員配置	北海道	東北	四国	北海道	中部	四国
指導者会	北海道	四国	中国	四国	関東	北海道
利用人数	関東	東北	四国	北海道	東北	中国
施設維持管理	四国	関東	北海道	北海道	関東	四国
大会教室	北海道	四国	中部	中国	北海道	中部
財団事業関係	関東	四国	北海道	関東	北海道	四国
B&Gコンパスの活用	中国	中部	関東	中部	中国	北海道
日報サービス	北海道	中国	関東	中国	北海道	中部
特別加算	関東	北海道	四国	北海道	四国	関東

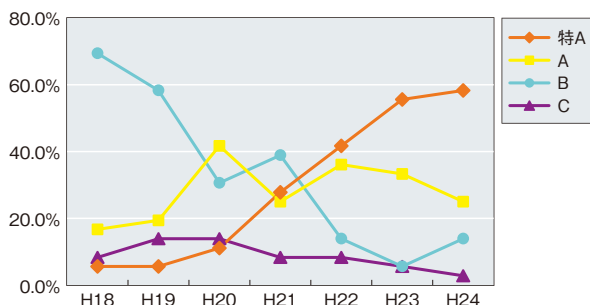




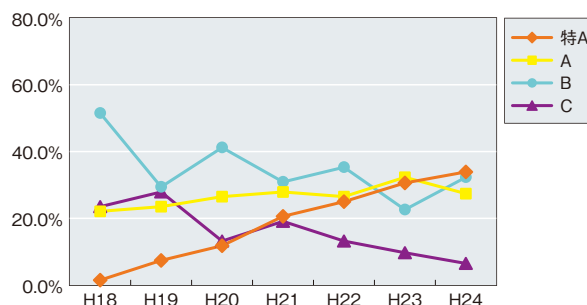
(2) ブロック別「海洋センター年間評価」の推移（過去7年間）

※グラフは、特A・A・B・Cの海洋センター数の各ブロック内の比率

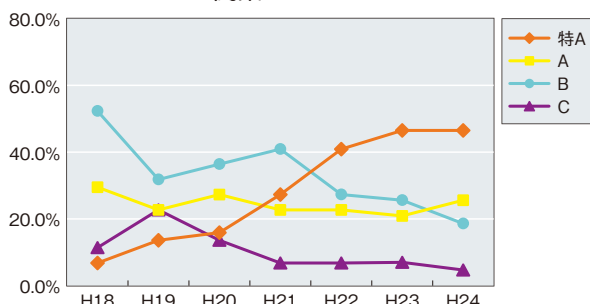
北海道ブロック



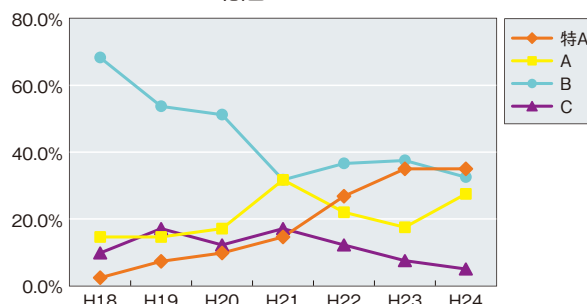
東北ブロック



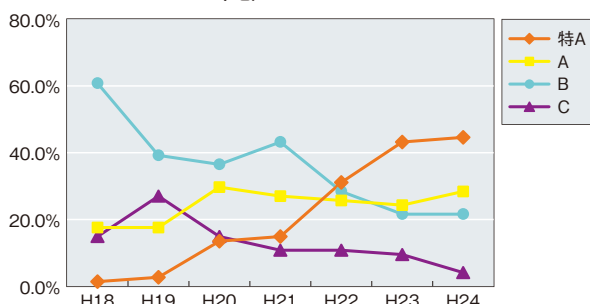
関東ブロック



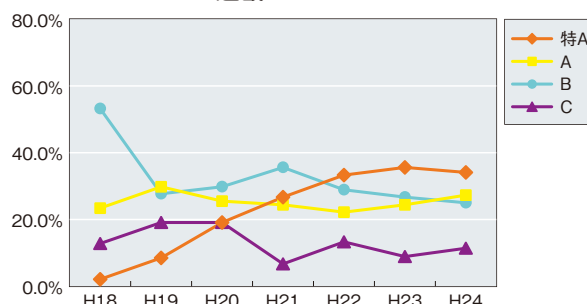
北陸ブロック



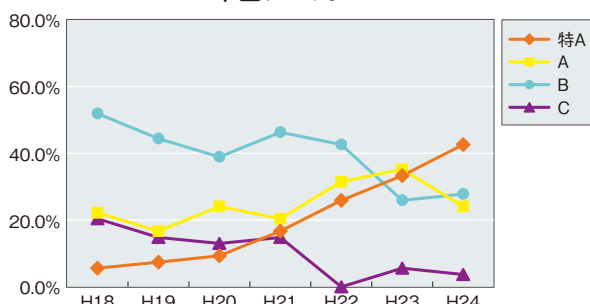
中部ブロック



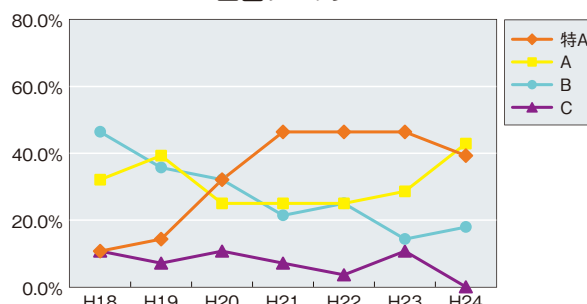
近畿ブロック



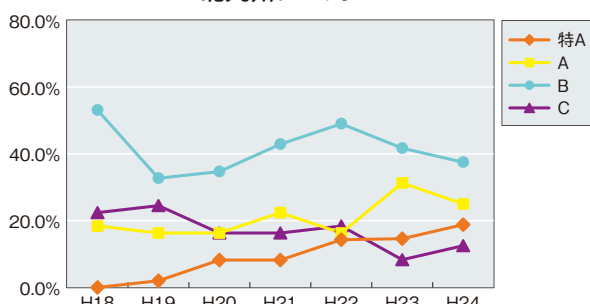
中国ブロック



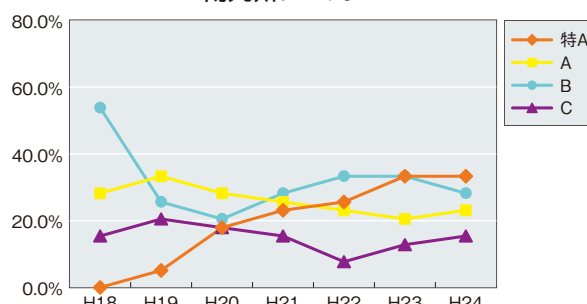
四国ブロック



北九州ブロック

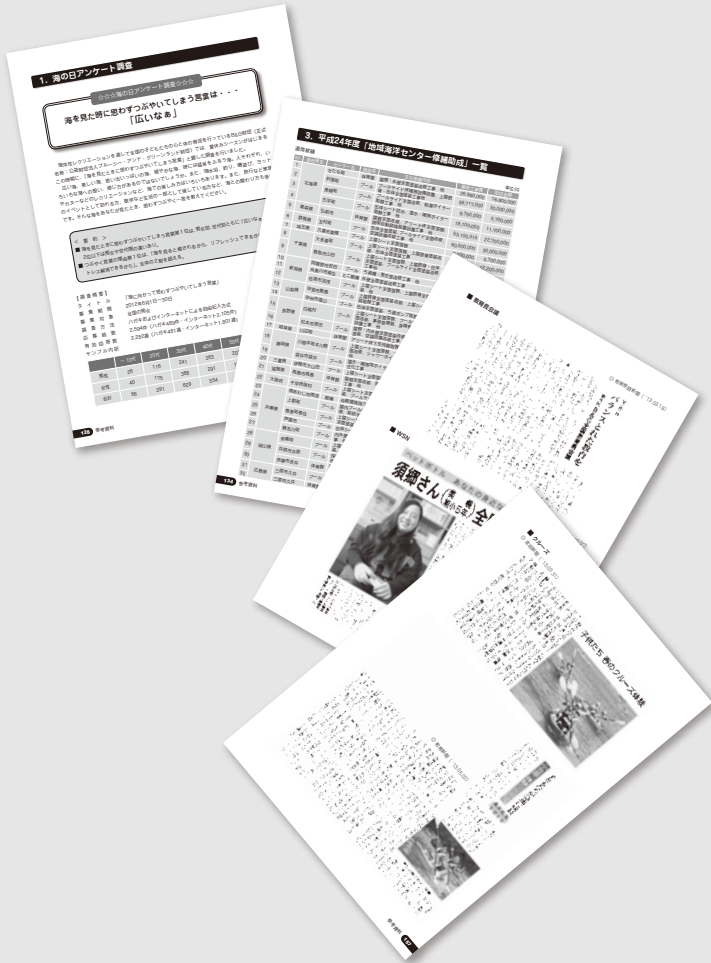


南九州ブロック



第3章 参考資料編

平成24年度の事業実施に伴う詳細な実績情報等(数値データ、新聞掲載記事等を含む)を参考資料として掲載する。



1. 海の日アンケート調査

☆☆☆海の日アンケート調査☆☆☆

海を見た時に思わずつぶやいてしまう言葉は・・・ 「広いなあ」

海洋性レクリエーションを通して全国の子どもたちの心と体の育成を行っているB&G財団（正式名称：公益財団法人ブルーシー・アンド・グリーンランド財団）では、夏休みシーズンがはじまるこの時期に、「海を見たときに思わずつぶやいてしまう言葉」と題した調査を行いました。

広い海、美しい海、思い出いっぱいの海、穏やかな海、時には猛威をふるう海。人それぞれ、いろいろな海への想い、感じ方があるのではないのでしょうか。また、海水浴、釣り、磯遊び、ヨットやカヌーなどのレクリエーションなど、海での楽しみ方はいろいろあります。また、旅行など家族のイベントとして訪れる方、散歩など生活の一部として接している方など、海との関わり方も多様です。そんな海をあなたが見たとき、思わずつぶやく一言を教えてください。

< 要 約 >

- 海を見たときに思わずつぶやいてしまう言葉第1位は、男女別、世代別ともに「広いなあ」。2位以下は男女や世代間の違いあり。
- つぶやく言葉の理由第1位は、「海を見ると癒されるから、リフレッシュできるから、ストレス解消できるから」で全体の2割を超える。

【調査概要】

タイトル	「海に向かって思わずつぶやいてしまう言葉」
募集期間	2012年6月1日～30日
募集対象	全国の男女
調査方法	ハガキおよびインターネットによる自由記入方式
応募総数	2,594件（ハガキ489件・インターネット2,105件）
有効回答数	2,282通（ハガキ481通・インターネット1,801通）
サンプル内訳	

（単位：人）

	～10代	20代	30代	40代	50代	60代～	合計
男性	26	116	241	263	203	210	1,059
女性	40	175	388	291	172	157	1,223
合計	66	291	629	554	375	367	2,282

【総合ベストテン】 N=2,282

順位	つぶやいてしまう言葉	得票	(%)
1	広いなあ	419	(18.4%)
2	きれい	171	(7.5%)
3	海だ!	143	(6.3%)
4	気持ちいい	141	(6.2%)
5	わー、おーなどの感嘆の声	127	(5.6%)
6	バカヤロー	115	(5.0%)
7	泳ぎたい	59	(2.6%)
8	いいな	49	(2.1%)
9	釣りしたい	41	(1.8%)
10	夏だ!	30	(1.3%)

	男性 N=1,059				女性 N=1,059		
	つぶやいてしまう言葉	得票	(%)		つぶやいてしまう言葉	得票	(%)
1	広いなあ	203	(19.2%)	1	広いなあ	216	(17.7%)
2	バカヤロー	67	(6.3%)	2	きれい	130	(10.6%)
3	気持ちいい	55	(5.2%)	3	海だ!	92	(7.5%)
4	海だ!	51	(4.8%)	4	気持ちいい	86	(7.0%)
5	わー、おーなどの感嘆の声	48	(4.5%)	5	わー、おーなどの感嘆の声	79	(6.5%)
6	きれい	41	(3.9%)	6	バカヤロー	48	(3.9%)
7	釣りしたい	31	(2.9%)	7	泳ぎたい	29	(2.4%)
8	泳ぎたい	30	(2.8%)	8	いいな	28	(2.3%)
9	いいな	21	(2.0%)	9	ありがとう	20	(1.6%)
10	青い!	12	(1.1%)	10	夏だ!	19	(1.6%)

アンケート集計では、海を見たときの直感がそのまま言葉になっているものが上位にランクされました。総合1位となったつぶやきは「広いなあ」で全体の2割近くを占めました。男女別、世代別ともに1位総合1位となっています。その理由は「そのまま、感じたまま」などの直感的な理由を挙げる方や「海なし県なので、海を見るとその壮大さに圧倒される」というものなど、様々な理由が挙げられています。当財団が2000年に調査した「21世紀に残したい海の歌」でも童謡の「海」は1位(18.8%)となっていることから、この歌の歌詞がそのまま海のイメージとなっている方も多くいるようです。

2位は「きれい」がランクされました。夏の海はまぶしい太陽の光でキラキラと輝いている、そのようなイメージを持っている方が「きれい」を挙げているようです。また、「鳥取の海はエメラルドグリーンでとてもきれい」「国道51号線の夏海バイパスから見える大洗の海が最高!」「鎌倉のトンネルを抜けて見える海の景色が好き」など具体的に地元の海の素晴らしさを挙げる方もいました。

なお、男女別の集計で見ると男性の2位は「バカヤロー」で「きれい」は6位となっており、女性は「きれい」が2位で「バカヤロー」は6位)と、男女で順位が入れ替わる結果となりました。また、女性では「ありがとう」という言葉がランクインするなど、男女間の違いが出た結果となりました。

3位の「海だ!」は、「海が大好きだから」や「海を見るとテンションが上がり思わず出てしまう」といった理由で選んだ人が多いようです。東京都の女性は「山では、山だー!とは叫ばないですが、海を見ると興奮して、海だー!と叫んでしまいます」とその不思議さについて言及しています。海は、波の音や潮の香り、海風など人間の五感をフルに刺激します。そのような海特有の刺激が、気分を高揚させ「海だ!」と声を出させてしまうのでしょうか。

このほか、「気持ちいい」(4位)や「わー」や「おー」などの感嘆の声(5位)、「泳ぎたい」(8位)などがランクインしました。海を見たときの直感がそのまま言葉になっているものが上位になっていました。

6位の「バカヤロー」については、「昔見た青春ドラマを思い出して」と応える方がいる一方、「ストレス発散のため」とする方もいます。また、東日本大震災で甚大な被害をもたらした津波に対して「バカヤロー」といいたいと答える方もおり、その理由は多様でした。

【つぶやいてしまう理由ベスト5】

順位	つぶやいてしまう理由(要素)	得票(%)
1	海を見ると癒される、リフレッシュできる、ストレス解消ができるから	533(23.4%)
2	海を見ると昔を思い出すから	143(6.3%)
3	海を見ると外国など遠い地に想いをはせるから	93(4.1%)
4	釣りが好きだから	58(2.5%)
5	海を見ると震災や津波を思い出すから	52(2.3%)

次につぶやいてしまう理由も要約し集計してみました。1位となったのは「癒される、リフレッシュできる、ストレス解消ができる」で2割を超える方がつぶやく理由として回答しています。癒しのポイントは、海の持つ広さ、波の音、潮の香りなど人それぞれですが、多くの方が海から元気をもらっていることを実感しているようです。

2位は「昔を思い出すから」となりました。「バカヤロー」とつぶやく方のなかには、若かりし青春時代を思い出すと答えています。また、子供のころ遊んだ海辺や遠い郷里について思い出し「ただいま」とつぶやく方もいました。

3位となった「外国など遠い地に想いをはせるから」では、遠くまで広がる海、丸い水平線を見て、「広いなあ」、「この向こうに何があるんだろう!!」「地球は丸いんだなー」などとつぶやくようです。

【つぶやいてしまうことば 年代別ベスト5】

■10代以下(N=66)

	つぶやいてしまう言葉	得票(%)
1	広いなあ	9(13.6%)
2	きれい	7(10.6%)
	わー、おーなどの感嘆の声	7(10.6%)
3	海だ!	3(4.5%)
	泳ぎたい	3(4.5%)

■20代以下(N=291)

	つぶやいてしまう言葉	得票(%)
1	広いなあ	45(15.5%)
2	きれい	34(11.7%)
3	バカヤロー	19(6.5%)
4	海だ!	14(4.8%)
5	わー、おーなどの感嘆の声	12(4.1%)

■30代以下(N=629)

	つぶやいてしまう言葉	得票(%)
1	広いなあ	106(16.9%)
2	きれい	51(8.1%)
3	海だ!	48(7.6%)
4	わー、おーなどの感嘆の声	41(6.5%)
	気持ちいい	41(6.5%)

■40代以下(N=554)

	つぶやいてしまう言葉	得票(%)
1	広いなあ	86(15.5%)
2	気持ちいい	49(8.8%)
3	わー、おーなどの感嘆の声	41(7.4%)
4	バカヤロー	38(6.9%)
5	海だ!	35(6.3%)

■50代以下 (N=375)

	つぶやいてしまう言葉	得票 (%)
1	広いなあ	69 (18.4%)
2	気持ちいい	27 (7.2%)
	きれい	27 (7.2%)
4	バカヤロー	25 (6.7%)
5	海だ!	19 (5.1%)

■60代以下 (N=367)

	つぶやいてしまう言葉	得票 (%)
1	広いなあ	86(23.4%)
2	きれい	49(13.4%)
3	気持ちいい	41(11.2%)
4	バカヤロー	38(10.4%)
5	ありがとう	35(9.5%)

世代別で比較すると、「バカヤロー」と「ありがとう」に特徴が見られました。「バカヤロー」については、10代と30代の世代にはランクインしていません。特に30代は働き盛り世代なので、他の世代のようにランクインしてもおかしくありませんが、なぜか30代だけはベスト5に入っていない。これは30代がストレスをためるよりも楽しみを見つけ発散することに長けているということなののでしょうか。また、60代になると初めて「ありがとう」がランクインしてきます。人生経験が長くなるにつれ感謝の気持ちが強く現れるからなののでしょうか。

東日本大震災の津波とそれに続く福島原発事故により、海のイメージが少なからず悪化したものと考えていましたが、今回のアンケート集計から、多くの方が海のレジャーや波や風の自然現象、丸い水平線や沈む夕日に代表される雄大さ壮大さなど、海の恩恵について理解し、海にプラスのイメージを持っていることが分かりました。

私たちに大きな影響を与える海を次の世代にもいいイメージで引き継いでいけるよう、美しく豊かな海を守ることが、求められているのではないのでしょうか。

【印象に残った回答】

- ・「やっぱり、青いな青い」奈良県10代男性
僕の名前が、碧い海をイメージしてつけたと親に聞いたので、そうつぶやいてしまいます。
- ・「幸せだった日を返せ」福島県20代女性
東日本大震災の津波と原発の事故によって、いわき市の海岸は、すっかり景色を変えてしまいました。海へのドライブは、気分転換とデートに最高だったのに。いろいろな意味で、何もなかったかのような静かな海を見ると、怒りがわいてしまいます。自然とは、すごい力を持っていて、人間は無力です。でも、本当は、海が大好きなんです。
- ・「私の悩みなんてちっぽけだあああ!!!」鹿児島県30代女性
海の広さに比べると私の悩みがミジンコのように小さく感じるから。
- ・「明日からも頑張って仕事するぞ!」広島県40代男性
海を見ると元気が出てきます。いくら仕事でまわっていても、明日からまた頑張ろうという気力が湧いてきます。
- ・「ごめんなさい」愛知県50代男性
身近にある海は、自分の小中学生の頃に比べ汚くゴミも多い。私が直接汚した訳ではないが、申し訳ない気がする。
- ・「父ちゃん、大きい川だね」神奈川県60代女性
昭和30年頃の当時、45歳の私が今は亡き父と一緒に江ノ島にて思わずつぶやいた一言とのこと。その頃は裏を流れる小さな川しか知らず、初めて見る海を認識できず驚いて発した言葉です。今でもその話をする父の顔を思い出します。

2. B&G財団役員一覧

H25.3.31現在

1. 理事

(敬称略)

役職	氏名	現職等
会長	梶田 功	一般社団法人全国モーターボート競走施行者協議会 会長(前) 大阪府 箕面市長(元)
理事長	広渡 英治	
常務理事	大島 康雄	
	古山 透	
	吉田 哲朗	
理事	重 由美子	アトランタオリンピック470級ヨット銀メダリスト
	高良 文雄	沖縄県 本部町長
	中村 真衣	株式会社ジェイエスエス スイミングアドバイザー シドニーオリンピック100m背泳ぎ銀メダリスト
	船越 眞	BOAT RACE 振興会 常務理事
	山中 健	兵庫県 芦屋市長
監事	篠原 通夫	篠原会計事務所 公認会計士・税理士
	西本 克己	株式会社東京ピー・エム・シー 代表取締役社長

(非常勤役員は五十音順)

2. 評議員

(敬称略)

役職	氏名	現職
議長	小高 幹雄	BOAT RACE 振興会 会長
評議員	遠藤 容弘	公益財団法人 日本ゲートボール連合 専務理事
	岸 ユキ	女優
	工藤 祐直	B&G全国サミット 副会長 B&G全国町村長会議・B&G全国指導者会 会長 青森県 南部町長
	小峯 力	特定非営利活動法人 日本ライフセービング協会 理事長 流通経済大学 スポーツ健康科学部 教授
	今 義男	海洋政策研究財団 理事長
	谷川 真理	タレント 流通経済大学 客員教授
	西嶋 泰義	大分県 佐伯市長
	皆川 浩二	一般財団法人 日本モーターボート競走会 会長
	吉田 和夫	B&G全国サミット・B&G全国市長会議 会長 新潟県 胎内市長

(議長を除く評議員は五十音順)

3. B&G全国サミット

(敬称略)

役職	氏名	現職
会長	吉田 和夫	新潟県 胎内市長、B&G財団評議員、B&G全国市長会議 会長
副会長	宇井 成一	千葉県 香取市長、海洋センター施設整備委員
	岡田 泰昌	奈良県 曾爾村長
	工藤 祐直	青森県 南部町長、B&G財団評議員 B&G全国町村長会議・B&G全国指導者会 会長
	五軒家 憲次	徳島県 海陽町長
	竹内 功	鳥取県 鳥取市長

(副会長は五十音順)

4. B&G全国市長会議

(敬称略)

役職	氏名	現職
会長	吉田 和夫	新潟県 胎内市長、B&G財団評議員、B&G全国サミット 会長
副会長	宇井 成一	千葉県 香取市長、海洋センター施設整備委員
	竹内 功	鳥取県 鳥取市長

(副会長は五十音順)

5. B&G全国町村長会議

(敬称略)

役職	氏名	現職
会長	工藤 祐直	青森県 南部町長、B&G財団評議員、B&G全国指導者会 会長
副会長	岡田 泰昌	奈良県 曾爾村長
	五軒家 憲次	徳島県 海陽町長

(副会長は五十音順)

6. B&G全国教育長会議

(敬称略)

役職	氏名	現職
会長	池澤 進	栃木県 那須烏山市教育長
副会長	川上 一郎	高知県 津野町教育長
	熊坂 伸子	岩手県 普代村教育長

(副会長は五十音順)

7. B&G全国指導者会

(敬称略)

役職	氏名	現職
会長	工藤 祐直	青森県 南部町長、B&G財団評議員、B&G全国サミット 副会長 B&G全国町村長会議 会長
副会長	金久 博	徳島県 阿南市産業部 野球のまち推進課 課長補佐
	川島 正光	埼玉県 久喜市栗橋総合支所 環境経済課課長補佐

(副会長は五十音順)

8. 海洋センター施設整備委員会

(敬称略)

役職	氏名	現職
委員長	小池 保夫	一般財団法人日本モーターボート競走会 理事長
委員	宇井 成一	千葉県 香取市長
	大西 英輔	オオニシアーキテクト 代表取締役
	小林 元一	株式会社松田平田設計 大阪事務所副所長
	田久保 雅己	日本マリッジジャーナリスト会議 (MJC) 会長 株式会社 舵社 常務取締役
	田畑 誠一	鹿児島県 いちき串木野市長
	広瀬 秀貴	BOAT RACE 振興会 常務理事

(委員は五十音順)

9. 助成事業審査委員会

(敬称略)

役職	氏名	現職
委員長	福永 達夫	社団法人 日本モーターボート選手会 会長 (前)
委員	東 正樹	公益財団法人 日本レクリエーション協会 専門委員
	岩浅 嘉仁	徳島県 阿南市長
	大口 秀和	三重県 志摩市長
	小早川 ゆり	日本体育大学 運動方法水泳研究室 教授
	山岸 敬幸	慶應義塾大学 医学部小児科 専任講師
	善岡 雅文	北海道 砂川市長

(委員は五十音順)

3. 平成24年度「地域海洋センター修繕助成」一覧

通常修繕

単位:円

No.	道府県名	センター名	施設名	主な修繕内容	最終工事費	助成金額
1	北海道	せたな町	体育館	屋根・外壁全面塗装改修工事 他	26,980,000	16,900,000
2		斜里町	プール	プールサイド床暖房設備設置、上屋鉄骨・缶体全面塗装工事他	56,717,000	30,000,000
3		美幌町	プール	プールサイド全面改修、給湯ボイラー取替工事 他	9,750,000	5,700,000
4		古平町	プール	缶体シート防水、温水・暖房ボイラー取替工事 他	18,100,000	11,700,000
5	青森県	弘前市	体育館	屋根全面改修、アリーナ床全面張替、照明自動昇降装置設置工事 他	53,100,315	22,700,000
6	群馬県	玉村町	プール	缶体全面塗装、プールサイド全面改修、空調設備改修工事 他	60,500,000	30,000,000
7	埼玉県	久喜市栗橋	プール	上屋シート全面張替	9,200,000	5,700,000
8	千葉県	大多喜町	プール	上屋シート全面張替、上屋鉄骨塗装改修、缶体全面塗装工事	19,400,000	12,200,000
9		香取市山田	プール	上屋シート全面張替、上屋鉄骨・缶体全面塗装、プールサイド全面塗装改修工事他	22,948,000	12,600,000
10	新潟県	阿賀野市安田	プール	ろ過機・更衣室改修工事 他	4,350,000	2,700,000
11		糸魚川市能生	ミニ艇庫	外壁全面塗装改修工事	6,800,000	3,400,000
12		佐渡市羽茂	プール	上屋シート全面張替、上屋鉄骨全面塗装 他	13,450,000	8,000,000
13	山梨県	甲斐市敷島	プール	上屋鉄骨全面塗装改修、上屋シート金具取替工事	7,780,000	4,100,000
14		甲州市塩山	プール	缶体全面塗装、ろ過ポンプ取替工事	3,390,000	2,200,000
15	長野県	白馬村	プール	上屋シート全面張替、プールサイド全面改修、事務室増築、身障者スロープ設置工事 他	75,000,000	30,000,000
16		松本市波田	プール	屋根・内外壁全面塗装改修、缶体全面塗装、空調設備改修工事 他	50,234,000	30,000,000
17	岐阜県	川辺町	体育館	アリーナ床下支持脚取替工事	3,680,000	2,300,000
18	静岡県	川根本町本川根	プール	上屋シート全面張替、プールサイド全面改修、シャワーボイラー取替工事 他	37,500,000	19,800,000
19		袋井市袋井	プール	温水・暖房用ボイラー取替、トイレ洋式化工事	9,300,000	5,500,000
20	三重県	伊賀市大山田	プール	上屋シート全面張替工事	9,800,000	6,100,000
21	滋賀県	高島市高島	体育館	屋根全面改修、照明自動昇降装置設置工事 他	18,556,200	12,900,000
22	大阪府	千早赤阪村	プール	上屋シート全面張替、上屋鉄骨全面塗装、プールサイド改修工事 他	31,496,000	19,800,000
23	兵庫県	南あわじ市南淡	艇庫	舟艇揚降用クレーン取替工事	3,980,000	2,300,000
24		上郡町	プール	屋内プール内壁改修、鉄骨改修、床暖房、給排水設備改修工事 他	18,995,000	12,300,000
25		香美町香住	プール	上屋シート全面張替、上屋鉄骨・缶体全面塗装改修工事	29,850,000	19,400,000
26		芦屋市	プール	缶体シート防水工事	4,970,000	3,200,000
27	岡山県	猪名川町	プール	内外壁塗装改修、機械設備全面改修工事 他	54,500,000	30,000,000
28		奈義町	プール	上屋シート全面張替、上屋鉄骨全面塗装、プールサイド全面改修工事 他	31,336,000	19,700,000
29		井原市井原	プール	採暖室改修、空調設備全面改修工事 他	22,000,000	11,500,000
30	広島県	赤磐市吉井	体育館	屋根・外壁全面改修、温水ボイラー取替工事 他	62,139,000	30,000,000
31		三原市久井	プール	プールサイド全面改修、ろ過機取替、管理棟全面改修工事 他	23,304,762	9,300,000
32		三原市久井	体育館	アリーナ天井補強	2,393,000	900,000

単位：円

No.	道府県名	センター名	施設名	主な修繕内容	最終工事費	助成金額
33	愛媛県	今治市吉海	艇庫	屋根・外壁全面塗装改修、シャッター取替工事 他	10,476,000	6,200,000
34		今治市吉海	体育館	屋根・外壁全面塗装改修工事他	40,450,000	24,200,000
35		松山市中島	体育館	多目的トイレ設置工事	3,870,720	2,500,000
36		愛南町御荘	プール	屋根固定化、ボイラー・ろ過機取替工事 他	92,700,000	23,200,000
37	高知県	香美市香北	プール	上屋鉄骨全面塗装改修、プールサイド改修、缶体全面塗装工事 他	25,980,000	14,200,000
38		四万十町窪川	体育館	外壁全面塗装、照明自動昇降装置設置工事 他	22,420,000	13,700,000
39	福岡県	久留米市三潁	プール	上屋シート全面張替、缶体全面塗装、缶体底板張替、ろ過機取替、機械設備全面改修工事 他	82,635,000	30,000,000
40		川崎町	プール	上屋シート全面張替、上屋鉄骨塗装改修工事	10,590,000	5,600,000
41	長崎県	平戸市生月	プール	上屋鉄骨全面塗装改修、缶体全面塗装、シャワーボイラー取替工事 他	18,640,000	12,100,000
42	熊本県	長洲町	体育館	更衣室改修、トイレ洋式化工事	2,975,000	1,900,000
43	鹿児島県	長島町	艇庫	シャッター全面改修工事	4,270,000	2,500,000
44		日置市東市来	体育館	屋根、外壁全面塗装改修工事他	30,800,000	19,400,000
45		与論町	プール	プール温水化（温水ボイラー・ろ過機新設）、上屋シートおよび上屋鉄骨改修工事	46,000,000	28,700,000
45 施設（22 道県 43 自治体 43 センター）					1,193,305,997	617,100,000

災害復旧修繕（東日本大震災）

単位：円

No.	道府県名	センター名	施設名	主な修繕内容	最終工事費	助成金額
1	福島県	本宮市白沢	プール	上屋シート全面張替、上屋鉄骨全塗装改修工事 他	19,996,000	13,000,000
2	沖縄県	伊江村	プール	上屋シート全面張替	3,256,560	2,300,000
2 施設（2 県 2 自治体 1 センター）					23,252,560	15,300,000

平成 24 年度「修繕助成金」合計

単位：円

修繕種別		施設数	最終工事費	助成金額
通常修繕	艇庫	4 施設	25,526,000	14,400,000
	プール	30 施設	900,415,762	455,300,000
	体育館	11 施設	267,364,235	147,400,000
	合計	45 施設	1,193,305,997	617,100,000
災害復旧修繕（東日本大震災・竜巻）		2 施設	23,252,560	15,300,000
総合計		47 施設	1,216,558,557	632,400,000

4. 平成24年度「舟艇等の追加・再配備」一覧

単位：円

No.	(セ):センター (ク):クラブ	道府県名	配備内容	配備区分	数量	配備金額	財団負担額	
1	室蘭(セ)	北海道	レスキューチューブ	追加	1個	19,950	12,950	
2	滝川(セ)		救命胴衣 小:S	再	30着	215,124	143,124	
3	砂川(セ)		救命胴衣 大:M	再	5着	43,654	28,654	
			救命胴衣 小:S	再	5着	35,254	23,254	
4	剣淵(セ)		救命胴衣 大:L	再	5着	43,654	28,654	
			救命胴衣 小:S	再	20着	141,016	93,016	
			FRP 1人乗カヌー	再	2艇	363,216	180,000	
5	女満別(ク)		救命胴衣 小:S	再	10着	70,508	46,508	
6	小平(セ)		救命胴衣 大:L	再	10着	87,308	57,308	
			救命胴衣 大:M	再	5着	43,654	28,654	
			救命胴衣 小:S	再	15着	105,762	69,762	
			レスキューチューブ	追加	1個	18,900	11,900	
7	鶴田(セ)		青森県	救命胴衣 大:M	再	20着	174,616	114,616
8	弘前(セ)			救命胴衣 大:L	再	10着	87,308	57,308
9	柳津(セ)	福島県	ゴムポート	再	1艇	246,446	166,446	
			船外機(9.8馬力)	再	1機	174,825	114,825	
			救命胴衣 大:L	再	5着	43,654	28,654	
			救命胴衣 大:M	再	5着	43,654	28,654	
			救命胴衣 小:S	再	10着	70,508	46,508	
10	江の島(ク)	神奈川県	レスキューチューブ	追加	1個	18,375	13,375	
			スローライン	追加	3個	19,287	14,287	
11	福野(ク)	富山県	ゴムポート	再	1艇	246,446	166,446	
12	砺波(セ)		レスキューチューブ	追加	1個	18,375	11,375	
13	上市(ク)		救命胴衣 小:S	再	10着	70,508	46,508	
14	穴水(セ)	石川県	救命胴衣 大:M	再	5着	43,654	28,654	
			救命胴衣 小:S	再	15着	105,762	69,762	
15	富来(ク)	福井県	ゴムポート	追加	1艇	246,446	166,446	
16	高浜(セ)		船外機(9.8馬力)	追加	1機	174,825	114,825	
17	飯島(セ)	長野県	救命胴衣 小:S	再	10着	70,508	46,508	
18	八百津(セ)	岐阜県	スローライン	追加	3個	18,981	11,981	
19	菰野(セ)	三重県	救命胴衣 大:L	再	15着	130,962	85,962	
			救命胴衣 大:M	再	15着	130,962	85,962	
			レスキューチューブ	追加	1個	18,375	11,375	
20	あいおい(ク)	兵庫県	救命胴衣 大:L	追加	5着	43,654	33,654	
			救命胴衣 小:S	追加	5着	35,254	26,254	
			レスキューチューブ	追加	1個	18,375	13,375	
			スローライン	追加	3個	18,981	13,981	
21	南あわじ市南淡(セ)		救命胴衣 大:L	再	5着	43,654	28,654	
			救命胴衣 大:M	再	5着	43,654	28,654	
			救命胴衣 小:S	再	5着	35,254	23,254	
			スローライン	追加	3個	18,981	11,981	

No.	(セ):センター (ク):クラブ	県名	配備内容	配備区分	数量	配備金額	財団負担額
22	伊丹(ク)	兵庫県	救命胴衣 大:M	再	5着	43,654	33,654
			救命胴衣 小:S	再	5着	35,254	26,254
23	倉吉市関金(セ)	鳥取県	船外機(5馬力)	追加	1機	120,750	60,000
24	美作市作東(セ)	岡山県	救命胴衣 小:S	再	10着	70,508	46,508
25	府中市(セ)	広島県	救命胴衣 大:L	再	5着	43,654	28,654
			救命胴衣 小:S	再	5着	35,254	23,254
			レスキューチューブ	追加	1個	18,375	11,375
			スローライン	追加	3個	18,981	11,981
			シットオントップカヌー	追加	1艇	101,000	50,000
26	愛南町御荘(セ)	香川県	救命胴衣 大:L	追加	5着	43,916	33,916
			救命胴衣 大:M	追加	5着	43,917	33,917
27	今治市吉海(セ)	愛媛県	B&Gカヌー	再	2艇	319,200	150,000
28	津屋崎(ク)	福岡県	ゴムボート	追加	1艇	204,750	154,750
			船外機(9.8馬力)	追加	1機	174,825	134,825
29	築上町築城(セ)	福岡県	救命胴衣 小:S	再	15着	105,762	69,762
			B&Gカヌー	再	2艇	329,700	160,000
30	太良町(セ)	佐賀県	救命胴衣 小:S	再	10着	70,508	46,508
31	時津町(セ)	長崎県	船外機(15馬力)	再	1機	350,000	170,000
32	南島原市加津佐(セ)		救命胴衣 大:L	再	5着	43,654	28,654
			救命胴衣 大:M	再	5着	43,654	28,654
			救命胴衣 小:S	再	15着	105,762	69,762
33	竹田市直入(セ)	大分県	救命胴衣 小:S	再	10着	70,508	46,508
34	美里町砥用(セ)	熊本県	ゴムボート	再	1艇	246,446	166,446
			船外機(9.8馬力)	再	1機	174,825	114,825
35	津奈木町(セ)	熊本県	レスキューチューブ	追加	1個	19,110	12,110
36	天城町(セ)	鹿児島県	救命胴衣 大:L	再	5着	44,310	29,310
			救命胴衣 大:M	再	5着	44,310	29,310
			救命胴衣 小:S	再	10着	71,821	47,821
			レスキューチューブ	追加	1個	21,210	14,210
			スローライン	追加	3個	18,981	11,981
37	川内(ク)	鹿児島県	救命胴衣 大:L	再	5着	45,439	35,439
38	薩摩(ク)	鹿児島県	救命胴衣 大:L	再	10着	87,308	57,308
			救命胴衣 大:M	再	10着	87,308	57,308
			レスキューチューブ	追加	1個	19,110	12,110
			スローライン	追加	3個	18,981	11,981
			レスキューチューブ	追加	1個	21,210	14,210
39	伊江村(セ)	沖縄県	レスキューチューブ	追加	1個	21,210	14,210
			スローライン	追加	3個	18,981	11,981
合 計						7,250,174	4,592,308

5. 平成24年度「活動助成金」一覧

【ブロック連絡協議会に対する助成】

単位：円

No.	ブロック名	事業名	参加者人数	事業費総額	助成額
1	北海道	北海道ブロック連絡協議会 総会	56	97,277	77,000
2		B&G スポーツ大会北海道大会	665	1,193,736	720,000
3	東北	東北ブロック連絡協議会 総会および指導員交流会	80	77,510	62,000
4		B&G 親と子のふれあいキャンプ in 能代	31	38,671	29,000
5		B&G 親と子のふれあいキャンプ in 笹谷	43	121,328	90,000
6		B&G ニューススポーツフェスティバル	180	216,585	162,000
7	関東	関東ブロック連絡協議会 総会	69	103,800	74,000
8		関東ブロック B&G 地域海洋センター連絡協議会交流会	119	529,766	171,000
9		B&G 親と子のふれあいキャンプ in 栃木	28	161,008	46,000
10	北陸	北陸ブロック連絡協議会 総会	70	137,250	109,000
11		北陸ブロック B&G スポーツ交流大会	230	662,404	360,000
12	中部	中部ブロック連絡協議会 総会	125	99,045	79,000
13		中部ブロック連絡協議会 スポーツ交流大会	65	694,920	331,000
14	近畿	近畿ブロック地域海洋センター連絡協議会スポーツ交流大会	100	1,759,881	542,000
15		B&G 親と子のふれあいキャンプ in 家島	15	147,793	90,000
16		B&G 親と子のふれあいキャンプ	43	74,378	27,000
17	中国	中国ブロック連絡協議会 総会	80	146,569	92,000
18		中国ブロック 親子キャンプ事業	192	892,942	250,000
19		中国ブロック会長杯水泳交流会	250	127,061	95,000
20		B&G スポーツ大会 中国ブロック大会	270	366,275	274,000
21	四国	B&G 四国ブロックマリンスポーツ交流大会	120	827,045	325,000
22		四国ブロック指導者研修会	55	71,350	53,000
23		四国ブロック連絡協議会 総会	80	368,040	63,000
24	北九州	北九州ブロック連絡協議会 総会	42	39,000	31,000
25		親と子のふれあいキャンプ in 佐世保	25	70,092	45,000
26		親と子のふれあいキャンプ in 杵築	25	71,500	50,000
27		北九州ブロック交流大会	150	134,420	100,000
28	南九州	南九州ブロック連絡協議会 総会	70	218,004	104,000
29		親子ふれあいキャンプ in 美里町	40	108,850	49,000
30		親子ふれあいキャンプ in 本部町	14	47,128	34,000
31		南九州ブロック B&G スポーツ大会	240	207,560	155,000
合計			3,572	9,811,188	4,689,000

【道府県連絡協議会に対する助成】

単位：円

No.	ブロック名	事業名	参加者人数	事業費総額	助成額
1	北海道	B&G 全国ジュニア水泳競技大会への参加	8	888,130	315,000
2		リーダー・指導員・所長研修会	105	273,339	105,000
3		B&G 親と子のふれあいキャンプ	16	50,000	22,000
4	青森県	第3回 B&G スポーツ大会 青森県大会	250	362,579	163,000
5	山形県	マリンスポーツ&クリーンフェスティバル	80	60,084	27,000
6	福島県	第27回 B&G スポーツ大会福島県大会	230	173,985	78,000
7		B&G 全国ジュニア水泳競技大会への参加	48	347,485	156,000
8		指導者講習会	30	88,340	39,000
9	宮城県	宮城ニュースポーツスポーツフェスティバル	124	96,175	43,000
10		宮城マリンスポーツフェスティバル	155	476,102	214,000
11		指導者研修会	105	19,252	8,000

No.	ブロック名	事業名	参加者人数	事業費総額	助成額
12	茨城県	B&G 全国ジュニア水泳競技大会への参加	88	306,810	138,000
13		B&G スポーツ大会 茨城県大会	350	156,793	70,000
14	栃木県	第 19 回 栃木連絡協議会交流会	100	50,944	22,000
15		B&G 全国ジュニア水泳競技大会への参加参加	29	207,900	93,000
16	群馬県	B&G 全国ジュニア水泳競技大会群馬県予選会	45	24,281	10,000
17		B&G 全国ジュニア水泳競技大会への参加	19	145,513	65,000
18	埼玉県	関東ブロック交流会への参加	19	3,600	1,000
19		関東ブロック交流会への参加	25	107,220	48,000
20	千葉県	第 28 回 埼玉県 B&G スポーツ大会	225	168,190	75,000
21		B&G スポーツ大会 千葉県大会	200	172,160	77,000
22	新潟県	新潟県 B&G スポーツ交流大会	220	129,977	58,000
23		北陸ブロック B&G スポーツ交流大会への参加	33	31,621	14,000
24	富山県	B&G 全国ジュニア水泳競技大会への参加参加	7	96,820	43,000
25		第 24 回 B&G マリーナフェスティバル	1620	1,108,370	498,000
26	石川県	海洋体験セミナー・クルーズ送迎	22	421,320	57,000
27		富山県 B&G 水泳交流大会	220	399,201	179,000
28	石川県	石川県 B&G スポーツ交流会	45	127,012	57,000
29		石川県 B&G 海洋性レクリエーション大会	60	141,616	63,000
30	山梨県	石川県 B&G 指導者研修会	32	43,809	19,000
31		中部ブロック連絡協議会交流大会への参加	12	28,138	12,000
32	岐阜県	マリンスポーツフェスティバル	380	304,350	136,000
33		岐阜県 B&G スポーツ大会	220	132,220	59,000
34	静岡県	静岡県 B&G スポーツ大会	270	369,983	140,000
35		指導者研修会	20	79,977	34,000
36	愛知県	指導員研修会	6	68,000	30,000
37		キッズ・マリンフェスティバル	50	63,174	28,000
38	三重県	B&G 全三重県交流水泳大会	210	437,165	144,000
39		実務者研修	40	101,536	45,000
40	滋賀県	B&G 三重県交流剣道泳大会	180	151,035	67,000
41		リーダー養成研修会	40	17,739	6,000
42	大阪府	体験セミナー・体験クルーズ送迎	22	32,770	16,000
43		マリンスポーツ体験会 in びわ湖	40	289,600	128,000
44	兵庫県	B&G 全国ジュニア水泳競技大会への参加	42	1,918,420	759,000
45		第 33 回 B&G スポーツ大会兵庫県大会	185	262,248	118,000
46	鳥取県	指導者研修会	25	6,679	3,000
47		第 33 回 B&G スポーツ大会鳥取県大会	120	174,231	78,000
48	島根県	B&G 全国ジュニア水泳競技大会への参加	23	819,040	368,000
49		第 33 回 B&G スポーツ大会島根県大会	145	176,467	79,000
50	岡山県	第 33 回 B&G スポーツ大会岡山県大会	250	595,528	297,000
51		指導者研修会	30	50,336	25,000
52	広島県	B&G 全国ジュニア水泳競技大会への参加	34	1,232,030	616,000
53		B&G スポーツ大会 広島県大会	310	282,435	126,000
54	山口県	B&G 全国ジュニア水泳競技大会への参加	22	508,450	228,000
55		B&G スポーツ大会中国ブロック大会への参加	44	63,925	22,000
56	徳島県	B&G スポーツ大会山口県大会	130	47,470	21,000
57		徳島県 B&G スポーツ大会 (カヌースクール・大会)	50	223,152	111,000
58	香川県	B&G 親と子のふれあいキャンプ in 小豆島	33	148,185	66,000
59		第 29 回香川県 B&G マリンスポーツ大会	100	217,740	53,000
60	愛媛県	B&G 四国ブロックマリンスポーツ交流大会への参加	12	190,400	85,000
61		第 33 回愛媛県 B&G スポーツ大会	240	313,348	141,000

単位：円

No.	ブロック名	事業名	参加者人数	事業費総額	助成額
62	高知県	第20回高知県B&Gスポーツ大会	100	5,000	2,000
63		全国ジュニア水泳競技大会への参加	11	635,700	294,000
64	福岡県	B&Gスポーツ大会 福岡県大会	40	331,741	149,000
65	佐賀県	B&Gクリーンフェスティバル in 太良	180	279,736	139,000
66	長崎県	B&Gスポーツ長崎県大会	245	233,939	105,000
67	熊本県	熊本県B&Gスポーツ大会	365	343,829	148,000
68	大分県	大分県B&Gマリンスポーツ大会	230	88,429	39,000
69		ウォータースポーツ南日本大会への参加	22	539,000	242,000
70	宮崎県	海洋スポーツ普及大会・B&G親子ふれあいキャンプ	58	188,779	84,000
71	鹿児島県	B&Gスポーツ鹿児島県大会	210	252,662	113,000
72		リーダー養成研修会	37	31,480	9,000
73	沖縄県	B&Gマリンスポーツ沖縄県大会	180	153,957	76,000
合計			9,473	19,086,651	8,198,000

【指導者会に対する助成】

単位：円

No.	ブロック名	事業名	参加者人数	事業費総額	助成額
1	六戸町指導者会（青森県）	水の事故ゼロろくのへ探検隊	43	281,428	212,000
2	川崎町指導者会（宮城県）	川崎町2012水辺の安全教室	804	518,000	300,000
3		さくら回廊カヌー体験会	40	331,741	149,000
4	小野町指導者会（福島県）	海洋性レクリエーション指導者講習会	180	279,736	139,000
5		上屋付プールでカヌー講習会	245	233,939	105,000
6	塙町指導者会（福島県）	目指せ日本一！全国ジュニア水泳大会出場選手育成事業	365	343,829	148,000
7		カヌーで川下り！	230	88,429	39,000
8	石岡市指導者会（茨城県）	水の安全教室	22	539,000	242,000
9	胎内市指導者会（新潟県）	B&G海洋体験クルーズ 送迎	58	188,779	84,000
10		ふれあいパークゴルフ交流会	210	252,662	113,000
11	南砺市福野指導者会（富山県）	第3回グラウンドゴルフ交流会	40	331,741	149,000
12		ちゃれんじスイミング	180	279,736	139,000
13	高岡市福岡指導者会（富山県）	B&Gクリーンフェスティバル in 五位ダム	245	233,939	105,000
14		海上カヌーツーリング	365	343,829	148,000
15		B&Gマリン体験 in 和田川ダム	230	88,429	39,000
16	七尾市指導者会（石川県）	全国ウォータースポーツ北日本大会 in ななお	40	331,741	149,000
17	穴水町指導者会（石川県）	B&G海洋体験クルーズ 送迎	180	279,736	139,000
18	西尾市一色指導者会（愛知県）	B&G全国ジュニア水泳競技大会への参加	245	233,939	105,000
19	可児市指導者会（岐阜県）	カヌー・マリンスポーツ体験	365	343,829	148,000
20	中津川市付知指導者会（岐阜県）	小学生カヌー教室	230	88,429	39,000
21		親子で着衣泳	40	331,741	149,000
22		指導者会転倒防止プログラム	180	279,736	139,000
23	恵那市指導者会（岐阜県）	B&G全国ジュニア水泳競技大会への参加	245	233,939	105,000
24		B&G全国少年少女カヌー大会への参加	365	343,829	148,000
25	志摩市浜島指導者会（三重県）	B&G全国ジュニア水泳競技大会への参加	230	88,429	39,000
26		指導員研修会への参加	40	331,741	149,000
27	松坂市飯高指導者会（三重県）	B&G全国ジュニア水泳競技大会への参加	180	279,736	139,000
28	桑名市長島指導者会（三重県）	指導員研修会への参加	245	233,939	105,000
29	高島市今津指導者会（滋賀県）	スポーツチャレンジフェスティバル	365	343,829	148,000
30	高島市今津指導者会（滋賀県）	ウォータースポーツプロジェクト in 今津	230	88,429	39,000
31	南あわじ市南淡指導者会（兵庫県）	B&G海洋体験セミナー 送迎	37	31,480	9,000

単位：円

No.	ブロック名	事業名	参加者人数	事業費総額	助成額
32	家島クラブ指導者会（兵庫県）	B&G 家島海洋クラブ指導者スキルアップ講習会	180	153,957	76,000
33	猪名川町指導者会（兵庫県）	ヨット乗船体験会	70	153,816	120,000
34	備前市吉永指導者会（岡山県）	第8回備前市民スポーツフェスティバル	320	97,118	77,000
35		海の月間 B&G スポーツ普及大会	120	81,879	65,000
36	周防大島町指導者会（山口県）	レベルアップ研修会への参加	1	24,486	18,000
37		帆船研修会への参加	2	26,780	20,000
38	牟岐町指導者会（徳島県）	B&G 全国ジュニア水泳競技大会への参加	6	59,300	44,000
39	大三島指導者会（愛媛県）	B&G 海洋体験クルーズ 送迎	1	70,400	52,000
40	朝倉市甘木指導者会（福岡県）	B&G 全国ジュニア水泳競技大会への参加	11	429,060	300,000
41	飯塚市穂波指導者会（福岡県）	B&G 全国少年少女カヌー大会への参加	7	406,800	300,000
42	宇城市三角指導者会（熊本県）	海洋性レクリエーション普及活動	510	80,755	52,000
43	玉名市岱明指導者会（熊本県）	全国ウォータースポーツ南日本大会への参加	4	127,330	86,000
44	湯前町指導者会（熊本県）	全国ウォータースポーツ南日本大会への参加	6	315,000	236,000
45	長島町指導者会（鹿児島県）	ふるさと学舎 in 獅子島	40	325,589	225,000
合計			2,935	6,059,517	4,306,000

【海洋センターに対する助成】

単位：円

No.	ブロック名	事業名	参加者人数	事業費総額	助成額
1	鷹栖町（北海道）	第6回 B&G 財団会長杯争奪全国パークゴルフオープン大会	350	642,950	281,000
2	亘理町（宮城県）	幼児運動プログラム「モデルセンター」講習会への参加	1	30,970	13,000
3		転倒・寝たきり予防プログラム「モデルセンター」講習会への参加	1	30,570	13,000
4	小野町（福島県）	夏休み短期水泳教室	280	110,712	54,000
5		小野町小学生水泳教室	647	171,682	82,000
6		B&G 杯グラウンドゴルフ大会	290	132,930	66,000
7	塙町（福島県）	第25回塙町 B&G 海洋センター水泳大会	438	279,783	138,000
8		第3回塙町 B&G 海洋センター室内グラウンドゴルフ大会	65	328,600	162,000
9	芳賀町（栃木県）	第3回水中運動会	83	27,870	12,000
10	御宿町（千葉県）	御宿町 B&G リズム体操教室 発表会	286	93,221	41,000
11	大多喜町（千葉県）	B&G 全国ジュニア水泳競技大会への参加	7	16,790	7,000
12	鋸南町（千葉県）	B&G 全国ジュニア水泳競技大会への参加	33	267,650	120,000
13	横芝光町横芝（千葉県）	B&G 全国ジュニア水泳競技大会への参加	3	9,210	4,000
14	横芝光町光（千葉県）	B&G 全国ジュニア水泳競技大会への参加	3	23,400	10,000
15	胎内市中条（新潟県）	B&G 海洋体験セミナー 送迎	3	42,600	19,000
16		全国ウォータースポーツ北日本大会への参加	11	27,000	10,000
17		B&G 海洋体験セミナー 送迎	4	46,140	20,000
18	糸魚川市能生（新潟県）	B&G 指導者研修会への参加	1	29,580	13,000
19		B&G 海洋体験クルーズ 送迎	3	39,160	17,000
20	富山市大山（富山県）	B&G 全国ジュニア水泳競技大会への参加	42	686,850	300,000
21	穴水町（石川県）	第2回 B&G 財団会長杯争奪「穴水町グラウンドゴルフ」大会	147	204,718	102,000
22	志賀町富来（石川県）	B&G 全国ジュニア水泳競技大会への参加	25	677,890	300,000
23	白山市鶴来（石川県）	B&G 全国ジュニア水泳競技大会への参加	17	401,000	180,000
24	山梨市牧丘（山梨県）	山梨市初心者向け小学生水泳教室	37	100,000	45,000
25	白馬村（長野県）	プールリニューアルオープン記念事業	390	246,792	87,000
26	飯島町（長野県）	海の日記念海洋スポーツ体験会	114	35,700	16,000
27		海洋スポーツ普及会	64	77,840	30,000

単位：円

No.	ブロック名	事業名	参加者人数	事業費総額	助成額
28	八百津町（岐阜県）	B&G 全国ジュニア水泳競技大会への参加	7	121,420	53,000
29	中津川市加子母（岐阜県）	B&G 全国ジュニア水泳競技大会への参加	3	51,024	22,000
30	袋井市（静岡県）	B&G 全国ジュニア水泳競技大会への参加	23	204,730	92,000
31	松崎町（静岡県）	B&G 杯グラウンドゴルフ大会	135	49,076	14,000
32	いなべ市大安（三重県）	B&G 全国ジュニア水泳競技大会への参加	8	66,028	29,000
33	大紀町大内山（三重県）	B&G 全国ジュニア水泳競技大会への参加	7	422,800	190,000
34	志摩市浜島（三重県）	三重県スポーツ交流水泳大会への参加	33	77,400	34,000
35	桑名市長島（三重県）	B&G 全国ジュニア水泳競技大会への参加	33	584,750	263,000
36	高島市高島（滋賀県）	B&G 全国ジュニア水泳競技大会への参加	19	489,582	150,000
37		伊江村高島市青少年スポーツ相互交流事業	10	174,151	78,000
38	高島市今津（滋賀県）	B&G 全国ジュニア水泳競技大会への参加	16	426,496	150,000
39	野洲市中主（滋賀県）	リニューアルオープン記念 中村真衣水泳教室	150	466,773	120,000
40	養父市おおや（兵庫県）	「水中歩行」「水辺の安全教室」	19	56,683	25,000
41	香美町香住（兵庫県）	指導員研修会への参加	1	40,680	18,000
42		幼児運動プログラム「モデルセンター」講習会への参加	1	43,820	19,000
43	猪名川町（兵庫県）	兵庫県水泳大会への参加	33	81,750	36,000
44	新温泉町浜坂（兵庫県）	び〜ちふゑすた・いん・しんおんせん	1600	1,228,246	265,000
45	北栄町北条（鳥取県）	自然体験セミナー in 隠岐	30	320,149	111,000
46	矢掛町（岡山県）	町民水泳大会・学童水泳記録会	225	352,616	157,000
47	瀬戸内市長船（岡山県）	プールでOPヨット・カヌー体験教室	53	32,951	14,000
48		修繕工事完成記念式典	411	193,300	86,000
49	府中市（広島県）	開所 35 年記念事業	170	196,006	86,000
50		海の日記念事業 海洋性スポーツ普及大会	65	31,280	14,000
51		B&G 健康まつり	40	50,243	22,000
52	周防大島町（山口県）	B&G プールで OP ヨット体験会	28	100,445	36,000
53		B&G カヌー教室	80	92,772	41,000
54	海陽町海南（徳島県）	B&G 全国ジュニア水泳競技大会への参加	12	360,000	162,000
55	牟岐町（徳島県）	リニューアルオープン記念事業	168	390,183	148,000
56	阿南市（徳島県）	B&G 全国ジュニア水泳競技大会への参加	12	28,000	12,000
57	愛南町御荘（愛媛県）	指導員研修会への参加	1	44,340	19,000
58		転倒・寝たきり予防プログラム「モデルセンター」講習会への参加	1	42,000	18,000
59		B&G 全国ジュニア水泳競技大会への参加	11	388,800	174,000
60	香美市香北（高知県）	香北指導員研修会	8	79,600	35,000
61		ヨット & カヌー体験教室	30	30,150	13,000
62	宗像市玄海（福岡県）	OPヨット大会 in KATSURAHAMA	140	1,233,704	406,000
63	柳川市大和（福岡県）	B&G 杯全国少年少女カヌー大会への参加	2	113,720	51,000
64	宮若市宮田（福岡県）	宮若市カヌー教室	24	47,920	21,000
65	南島原市西有家（長崎県）	クリーンアクション	33	21,120	9,000
66		干潟体験	22	61,320	23,000
67	与論町（鹿児島県）	Y oron B&G C up	30	72,109	32,000
68		教育長・責任者海洋センター海洋クラブ活性化会議への参加	1	24,000	10,000
69		カヌーで百合ヶ浜上陸体験会	35	168,500	75,000
70	笠利町（鹿児島県）	全国ウォータースポーツ南日本大会への参加	12	450,000	202,000
71	長島町（鹿児島県）	カヌー教室・カヌー長島海峡横断大会	90	469,190	211,000
72	阿久根市（鹿児島県）	第 28 回海の子カーニバル	100	260,581	117,000
合 計			7,277	15,022,016	6,005,000

【海洋クラブに対する助成】

単位：円

No.	ブロック名	事業名	参加者人数	事業費総額	助成額
1	室蘭（北海道）	プールでOPヨット体験会	33	204,475	163,000
2		ウォータースポーツプロジェクト	63	82,200	61,000
3	瀬棚（北海道）	プールでOPヨット体験会	15	45,145	33,000
4		カヌー川下り体験	20	19,240	14,000
5	平田（山形県）	日本海カヌーツーリング及びカヌー教室	55	97,428	51,000
6	小野（福島県）	ダム湖祭体験教室	213	60,163	41,000
7		海洋クラブ交流会	63	52,015	37,000
8		こまち湖健康ウォーク・マラソン大会時カヌー教室	218	65,540	49,000
9	塙（福島県）	ライフジャケット浮遊体験	45	61,000	48,000
10	香取市小見川（千葉県）	B&G 杯全国少年少女カヌー大会への参加	9	117,900	91,000
11	江の島（神奈川県）	親と子の「海のレクリエーション教室」	329	468,910	300,000
12	葉山（神奈川県）	親子海の安全教室	45	160,977	128,000
13		着衣泳教室	46	207,161	164,000
14	たいない（新潟県）	水辺の安全プログラムを取り入れた海洋性レクリエーション事業	100	317,410	238,000
15	福野（富山県）	桂湖カヌーツーリング	40	138,491	110,000
16		カヌーとヨットの体験会	110	175,123	140,000
17	金沢（石川県）	カヌー体験教室	120	376,285	300,000
18	松任はまなす（石川県）	サバイバルキャンプ・カヌー合宿	25	62,549	46,000
19		ヨット・カヌー試乗会	135	313,880	234,000
20	富来（石川県）	B&G 富来海洋クラブ 交流キャンプ	45	375,544	281,000
21	かけはし（石川県）	B&G 杯全国少年少女カヌー大会への参加	15	272,638	218,000
22	穴水（石川県）	親子ふれあいキャンプ（里山里海自然体験）in 穴水	35	155,619	115,000
23	八百津町（岐阜県）	B&G・OP級ヨット東日本大会への参加	7	20,060	15,000
24	掛川（静岡県）	プールでマリンスポーツ体験会	23	112,813	84,000
25		B&G・OP級ヨット東日本大会への参加	11	3,740	2,000
26		B&G 杯全国少年少女カヌー大会への参加	11	22,150	16,000
27	なごや（愛知県）	B&G・OP級ヨット東日本大会への参加	15	140,000	105,000
28	小島（三重県）	ヨット・カヌー体験会	180	73,804	59,000
29	和歌浦（和歌山県）	プールでOPPIヨット体験会	58	60,080	45,000
30	和知（京都府）	B&G 杯全国少年少女カヌー大会への参加	11	307,350	230,000
31	兵庫ジュニア（兵庫県）	B&G 兵庫オータムレガッタ	85	204,658	103,000
32		B&G・OP級ヨット西日本大会への参加	6	292,783	193,000
33	伊丹（兵庫県）	ヨット王様デイキャンプ	45	322,245	250,000
34		瑞ヶ池無料開放ヨット体験会	220	67,152	50,000
35	家島（兵庫県）	水辺のインタープリテーション教室	40	86,445	64,000
36		B&G 杯全国少年少女カヌー大会への参加	6	147,140	110,000
37	あいおい（兵庫県）	水に賢い子どもを育む年間型活動プログラム	90	308,960	136,000
38	三隅（島根県）	水の事故ゼロ in 三隅「ほべカヌーツーリング & モーターボート遊覧」	25	62,549	46,000
39		水の事故ゼロ in 三隅～ビーチクリーンカヌー体験教室～	135	313,880	234,000
40		水の事故ゼロ in 三隅「さくらカヌー教室」	45	375,544	281,000
41	松江（島根県）	B&G 海洋体験クルーズ 送迎	15	272,638	218,000
42	奈義（岡山県）	奈義海洋クラブ 海の学習	35	155,619	115,000
43		奈義海洋クラブ 海への探検	7	20,060	15,000
44	大島（山口県）	B&G 海洋体験クルーズ 送迎	23	112,813	84,000
45		B&G・OP級ヨット西日本大会への参加	11	3,740	2,000
46	池田（香川県）	第5回 オリーブの島 B&G シーカヤックフェスティバル in 小豆島	11	22,150	16,000
47	高松（香川県）	ジュニアヨット体験教室	38	103,953	70,000
48		B&G・OP級ヨット西日本大会への参加	13	227,947	170,000

単位：円

No.	ブロック名	事業名	参加者人数	事業費総額	助成額
49	松山（愛媛県）	B&G・OP 級ヨット西日本大会への参加	7	121,420	53,000
50	大三島（愛媛県）	マリンスポーツ体験会 & クリーンキャンペーン in 与吉ヶ浜	3	51,024	22,000
51	吉海（愛媛県）	B&G クリーンキャンペーン & マリンレク体験 in よしうみ	23	204,730	92,000
52	由岐（徳島県）	サマーキャンプ	135	49,076	14,000
53	津屋崎（福岡県）	夏休み親子ヨット体験会	8	66,028	29,000
54		B&G・OP 級ヨット西日本大会への参加	7	422,800	190,000
55	みやこ町豊津（福岡県）	海洋性スポーツレクリエーション体験会	33	77,400	34,000
56	福岡ジュニアヨット（福岡県）	上海・釜山・福岡ジュニアヨット大会	33	584,750	263,000
57		B&G・OP 級ヨット西日本大会への参加	19	489,582	150,000
58	神埼（佐賀県）	第 21 回神崎市 B&G カヌーポロ大会	10	174,151	78,000
59	ハウステンボス町ジュニア（長崎県）	B&G・OP 級ヨット西日本大会への参加	16	426,496	150,000
60	宇土三角（熊本県）	全国ウォータースポーツ南日本大会への参加	150	466,773	120,000
61	別府（大分県）	B&G 別府クリスマス合宿	19	56,683	25,000
62		上海・釜山・福岡ジュニアヨット大会	1	40,680	18,000
63	与論（鹿児島県）	春のヨロン海洋クラブ入会キャンペーン	1	43,820	19,000
64		カイトランドボーディング体験会	33	81,750	36,000
65	鹿屋（鹿児島県）	サンゴの健康診断 ヨロン島コーラルチェック	1600	1,228,246	265,000
66		マリンスポーツ体験会	30	320,149	111,000
67	第 19 回鹿屋カップオープンヨットレース	225	352,616	157,000	
68	蔵之元（鹿児島県）	親子ふれあい海レク交流会	53	32,951	14,000
合 計			3,997	12,031,555	8,295,000

平成 24 年度「活動助成金」合計

単位：円

区分	事業数	参加者人数（人）	事業費総額（円）	助成金額（円）
ブロック連絡協議会	31	3,572	9,811,188	4,689,000
道府県連絡協議会	73	9,473	19,086,651	8,198,000
海洋センター	72	7,277	15,022,016	6,005,000
海洋クラブ	68	3,988	12,031,555	8,295,000
指導者会	45	2,866	6,059,517	4,306,000
総合計	289	27,176	62,010,927	31,493,000

6. 「B & G指導者会」 県別一覽

H25.3.31現在

道府県	No.	市町村	道府県	No.	市町村	道府県	No.	市町村	道府県	No.	市町村
北海道	1	滝川市	栃木県	1	芳賀町	愛知県	3	新城市作手	山口県	2	田布施町
	2	新篠津村		2	那須烏山市南那須		4	清須市春日		3	岩国市美和
	3	せたな町		3	下野市国分寺		5	豊川市小坂井		4	長門市日置
	4	大樹町	1	明和町	1	菟野町	1	徳島市			
	5	厚岸町	2	玉村町	2	伊賀市大山田	2	美波町由岐			
	6	鷹栖町	3	みなかみ町新治	3	桑名市長島	3	牟岐町			
	7	美幌町	1	久喜市栗橋	4	松阪市飯高	4	阿南市阿南			
	8	愛別町	2	松伏町	5	伊勢市御園	5	那賀町驚敷			
	9	剣淵町	3	吉見町	6	熊野市紀和	6	阿南市那賀川			
	10	小平町	4	幸手市	7	志摩市志摩	7	東みよし町三加茂			
	11	古平町	5	嵐山町	8	いなべ市大安	8	海陽町海南			
	12	芦別市	6	白岡市	9	志摩市浜島	1	小豆島町内海			
	13	大空町女満別	1	南房総市千倉	10	亀山市関	2	三木町			
	14	遠別町	2	横芝光町横芝	11	大台町	3	三豊市財田			
	15	東川町	3	大多喜町	1	大紀町大内山	4	三豊市高瀬			
	16	浦白町	4	御宿町	1	米原市山東	5	高松市国分寺			
	17	沼田町	5	香取市小見川	2	高島市今津	6	綾川町綾上			
	18	砂川市	6	鋸南町	3	野洲市中主	7	さぬき市津田			
	19	下川町	7	長南町	4	高島市高島	8	さぬき市寒川			
	20	斜里町	8	横芝光町光	5	米原市伊吹	1	今治市大三島			
	21	積丹町	9	香取市栗源	6	多賀町	2	今治市吉海			
	22	名寄市	10	成田市大栄	1	宮津市	3	愛媛町御荘			
	23	室蘭市	11	香取市山田	2	南丹市園部	4	今治市朝倉			
	24	苫前町	1	佐渡市小水	3	南丹市八木	5	松山市中島			
	25	東神楽町	2	阿賀野市安田	4	京丹波町瑞穂	6	久万高原町久万			
	26	和寒町	3	糸魚川市能生	5	京丹波町和知	7	鬼北町広見			
	27	大空町東藻琴	4	胎内市中条	1	千早赤阪村	8	西条市丹原			
	28	北竜町	5	燕市	2	堺市美原	1	津野町東津野			
	29	枝幸町歌登	6	長岡市和島	3	能勢町	2	四万十町窪川			
	30	石狩市	7	新潟市中之口	1	南あわじ市南淡	3	香美市香北			
青森県	1	六戸町	8	新潟市味方	2	姫路市家島	4	東洋町			
	2	東北町	9	新潟市新津	3	上郡町	1	みやま市高田			
	3	鶴田町	10	佐渡市羽茂	4	神河町神崎	2	みやこ町犀川			
	4	南部町名川	11	長岡市越路	5	香美町香住	3	川崎町			
	5	弘前市	12	南魚沼市大和	6	戸屋市	4	朝倉市甘木			
	6	五所川原市市浦	1	高岡市福岡	7	猪名川町	5	飯塚市穂波			
	7	平川市尾上	2	南砺市福野	8	穴粟市千種	6	宗像市玄海			
	8	中泊町中里	3	砺波市	9	豊岡市出石	7	築上町築城			
	9	五所川原市金木	4	富山市八尾	10	新温泉町浜坂	8	久留米市三瀬			
	10	七戸町	1	白山市鶴来	11	養父市おおや	9	みやこ町豊津			
	11	平内町	2	七尾市	12	市川町	10	みやま市瀬高			
	12	弘前市岩木	3	穴水町	13	穴粟市波賀	11	福智町金山			
岩手県	1	八幡平市松尾	4	志賀町富来	1	山添村	12	築上町椎田			
	2	大槌町	1	あわら市金津	2	曾禰村	1	鹿島市			
	3	普代村	2	大野市	1	串本町	2	江北町			
	4	久慈市山形	3	勝山市	2	広川町	3	太良町			
	5	陸前高田市	4	高浜町	1	鳥取市鳥取	1	佐世保市小佐々			
	6	山田町	5	若狭町三方	2	北栄町北条	2	平戸市生月			
	7	洋野町種市	1	南ア芦pus市白根	3	伯耆町岸本	3	時津町			
	8	一関市東山	2	甲斐市敷島	4	倉吉市関金	4	五島市岐宿			
	9	大船渡市三陸	3	甲州市勝沼	5	鳥取市佐治	5	南島原市加津佐			
	10	盛岡市玉山	4	山梨市牧丘	6	鳥取市気高	6	南島原市西有家			
	11	奥州市前沢	5	甲州市塩山	7	鳥取市鹿野	1	国東市武蔵			
	12	花巻市東和	6	甲斐市双葉	1	出雲市平田	2	日田市中津江			
宮城県	1	登米市中田	7	中央市玉穂	2	浜田市三隅	3	日田市大山			
	2	川崎町	8	富士河口湖町上九一色	3	西ノ島町	4	杵築市			
	3	栗原市築館	1	大町市	4	雲南市加茂	5	中津市耶馬溪			
	4	仙台市泉	2	富士見町	5	江津市桜江	1	津奈木町			
	5	蔵王町	3	白馬村	6	松江市穴道	2	湯前町			
	6	亘理町	4	松本市四賀	7	松江市松江	3	宇城市三角			
	7	大郷町	5	松本市波田	8	美郷町邑智	4	南関町			
	8	石巻市雄勝	6	伊那市高遠	1	岡山市建部	5	長洲町			
	9	大崎市松山	7	長和町和田	2	和気町佐伯	6	南阿蘇村白水			
	10	登米市米山	8	飯島町	3	瀬戸内市長船	7	美里町砥用			
	11	登米市迫	9	飯綱町牟礼	4	矢掛町	8	玉名市岱明			
秋田県	1	能代市	10	飯綱町三水	5	奈義町	9	天草市新和			
	2	由利本荘市由利	1	可児市	6	赤磐市吉井	10	あさぎ町町免田			
	3	湯上市天王	2	恵那市明智	7	浅口市寄島	1	与論町			
	4	八郎潟町	3	八百津町	8	井原市井原	2	鹿屋市串良			
	5	にかほ市金浦	4	中津川市加子母	9	美作市作東	3	志布志市有明			
	6	男鹿市	5	中津川市付知	10	津山市加茂	4	南九州市知覧			
	7	由利本荘市大内	6	富加町	11	備前市吉永	5	天城町			
	8	湯上市飯田川	7	川辺町	12	笠岡市	6	日置市東市来			
	9	にかほ市象潟	8	高山市国府	13	井原市美星	7	さつま町			
山形県	1	酒田市平田	9	御嵩町	16	瀬戸内市邑久	8	いちき串木野市			
	2	舟形町	10	高山市清見	17	真庭市蒜山	9	長島町			
福島県	1	小野町	11	中津川市福岡	18	真庭市北房	10	阿久根市			
	2	石川町	12	恵那市山岡	19	浅口市鶴方	11	湧水町栗野			
	3	塙町	1	掛川市掛川	20	鏡野町	12	霧島市牧園			
	4	柳津町	2	松崎町	1	府中市	13	南さつま市坊津			
	5	田村市滝根	3	牧之原市相良	2	三次市吉舎	14	奄美市笠利			
茨城県	1	笠間市岩間	4	川根本町本川根	3	呉市蒲刈	1	本部町			
	2	行方市玉造	5	袋井市浅羽	4	東広島市黒瀬	2	名護市			
	3	石岡市	6	浜松市三ヶ日	5	三原市久井	合計	354ヵ所			
	4	八千代町	7	浜松市天竜	6	尾道市瀬戸田					
	5	常陸太田市水府	8	袋井市袋井	7	尾道市向島					
	6	北茨城市	9	掛川市大東	8	北広島町大朝					
	7	五霞町	10	掛川市大須賀	9	北広島町芸北					
	8	小美玉市玉里	1	東栄町	10	東広島市安芸津					
	9	小美玉市小川	2	西尾市一色	山口県	1	周防大島町				

7. 「B&G人材バンク」登録者一覧

H25.3.31現在

特別講師

(敬称略)

No.	所属	氏名	種目 / 資格
1	B&G 財団 テクニカルアドバイザー	小松 一憲	ヨット
2	B&G 虹の松原海洋クラブ	重 由美子	ヨット
3	B&G 財団	持田 雅誠	カヌー
4	株式会社ジェイエスエス スイミングアドバイザー	中村 真衣	水泳
5	総合子供の遊び情報研究室 代表	東 正樹	レクリエーション
6	株式会社 アチーブメント	谷川 真理	ジョギング・ウォーキング
7	自然教育研究センター	古瀬 浩史	水プロ
8	筑波大学 大学院 教授	山口 香	柔道
9	(財) 講道館道場	眞喜志 慶治	柔道
10	(財) 全日本剣道道場連盟	太田 忠徳	剣道
11	(財) 全日本剣道道場連盟	豊村 東盛	剣道
12	Y J 空手アカデミー	長谷川 行光	空手
13	(財) 全日本空手道連盟	若井 敦子	空手
14	オーシャンファミリー	海野 義明	水プロ

海洋性レクリエーション

(敬称略)

No.	所属	氏名	種目 / 資格
1	石川県 七尾市	岩本 榮三郎	ヨット・カヌー / AD・AQ
2	岡山県 岡山市建部	依田 伸一郎	カヌー / AD
3	広島県 呉市蒲刈	沖 孝博	カヌー / AD
4	北海道 室蘭市	松苗 幸希	ヨット・カヌー / AD
5	大分県 中津市耶馬溪	中村 大悟	水上スキー / AD
6	福岡県 朝倉市甘木	古賀 博隆	水泳 / AD・AQ
7	富山県 富山市八尾	伊藤 実花	カヌー / AQ
8	石川県 志賀町富来	谷場 宣彦	水泳 / AQ
9	静岡県 掛川市	野中 直美	カヌー / AD
10	三重県 桑名市長島	浅野 智彦	水泳 / AQ
11	岡山県 井原市井原	和田 修一	水泳 / AQ
12	沖縄県 本部町	小浜 直重	マリン (ヨット・カヌー・他) / AD
13	大分県 別府海洋クラブ	濱本 徹夫	ヨット
14	群馬県 明和町	石川 春夫	水泳 / AQ
15	鹿児島県 日置市東市来	小森田 弘憲	水泳 / AQ
16	沖縄県 名護市	大平 淳一	水泳 / AQ

※ AD:アドバンスト・インストラクター ※ AQ:アクア・インストラクター

野外体験プログラム

(敬称略)

No.	所属	氏名	種目 / 資格
1	北海道 石狩市	草島 猛	AQ
2	埼玉県 久喜市栗橋	川島 正光	AD・AQ
3	島根県 雲南市加茂	原 恵介	AQ
4	北海道 大樹町	大門 英人	AD
5	宮城県 登米市迫	千葉 桂志	AD
6	茨城県 石岡市	白戸 重行	AD・AQ
7	石川県 穴水町	和田出 勝則	AD
8	岐阜県 恵那市山岡	大島 聡	IN
9	和歌山県 串本町	太田 陽介	AQ
10	香川県 小豆島町内海	高橋 良雄	AQ
11	佐賀県 神埼市	徳永 将秀	AD
12	鹿児島県 天城町	杉山 肇	AD

※IN:インストラクター

転倒・寝たきり予防プログラム

(敬称略)

No.	所属	氏名	種目 / 資格
1	青森県 南部町名川	上田 隆昭	AQ
2	青森県 南部町名川	磯川 由美子	保健師 / AD
3	埼玉県 久喜市栗橋	川島 正光	AD
4	滋賀県 長浜市浅井	伏木 文秀	AD
5	兵庫県 上郡町	種継 武	AD
6	兵庫県 丹波市山南	大嶋 学	AD
7	兵庫県 丹波市山南	堂本 かよ子	運動指導
8	兵庫県 丹波市山南	遠藤 美弥子	保健師
9	高知県 津野町東津野	吉村 伸一	AQ
10	高知県 津野町東津野	池 香	保健師
11	B&G 財団	大関 真理子	運動指導
12	山梨県 南アルプス市白根	橋本 篤幸	AD
13	島根県 雲南市加茂	原 恵介	AQ
14	鹿児島県 さつま町	永江 寿好	LE
15	北海道 積丹町	丹場 康雄	AQ

※LE：リーダー

フロアリズム運動プログラム

(敬称略)

No.	所属	氏名	種目 / 資格
1	千葉県 御宿町	高田 誠	AQ
2	千葉県 いすみ市岬	吉野 万智子	運動指導
3	長野県 松本市波田	平林 紀子	AQ
4	愛知県 西尾市一色	神谷 法子	LE
5	三重県 伊賀市大山田	秋山 稔美	体育指導員
6	福岡県 みやこ町豊津	進 由樹子	LE
7	B&G 財団	大関 真理子	運動指導
8	北海道 滝川市	鈴木 博之	AD
9	兵庫県 香美町香住	木原 弘一郎	AQ
10	島根県 雲南市加茂	大谷 麻美	LE

アクアリズム運動プログラム

(敬称略)

No.	所属	氏名	種目 / 資格
1	群馬県 玉村町	関 昭紀	AD AQ
2	静岡県 川根本町本川根	望月 克規	AD
3	長野県 松本市波田	平林 紀子	AQ
4	長野県 松本市波田	川村 真理	A Q L E
5	愛知県 西尾市一色	神谷 法子	AQ
6	島根県 松江市宍道	持田 典子	L E
7	島根県 松江市宍道	吉川 周治	AQ
8	B&G 財団	大関 真理子	運動指導
9	千葉県 横芝光町光	大川 秀行	AQ
10	高知県 四万十町窪川	竹内 浩子	AQ
11	北海道 鷹栖町	大内 義崇	AD
12	秋田県 にかほ市象潟	齊藤 徹	AQ

8. 平成24年度 AD・AQ養成研修 参加者一覧

【アドバンスト・インストラクター養成研修参加者】

(敬称略)

No.	県名	センター名	氏名	性別	No.	県名	センター名	氏名	性別
1	北海道	大空町東藻琴	白尾 聡	男性	22	三重県	伊賀市阿山	界外 洋平	男性
2	青森県	平川市尾上	赤平 勇人	男性	23	三重県	伊勢市御園	奥野 翔平	男性
3	宮城県	大郷町	大友 志郎	男性	24	滋賀県	高島市今津	三浦 将亮	男性
4	秋田県	潟上市飯田川	三浦 洋幸	男性	25	岡山県	邑久	高祖 拓磨	男性
5	山形県	舟形町	工藤 宏之	男性	26	岡山県	和気町佐伯	實末 佳正	男性
6	山形県	酒田市平田	石黒 貴仁	男性	27	岡山県	奈義町	芦田 孝弘	男性
7	茨城県	行方市玉造	村上 宗久	男性	28	岡山県	津山市加茂	田原 寛之	男性
8	栃木県	那須烏山市南那須	中山 崇	男性	29	岡山県	矢掛町	田中 基紀	男性
9	埼玉県	久喜市栗橋	糺谷 哲史	男性	30	広島県	呉市蒲刈	福本 剛	男性
10	東京都	B&G 財団	鈴木 昭正	男性	31	山口県	周防大島町	木嶋 勇人	男性
11	東京都	B&G 財団	山口 雄介	男性	32	愛媛県	松山市中島	村上 周平	男性
12	東京都	B&G 財団	木村 康幸	男性	33	高知県	四万十町窪川	藤田 昌伸	男性
13	東京都	B&G 財団	中島 博臣	男性	34	福岡県	朝倉市甘木	藤尾 信孝	男性
14	福井県	大野市	鈴木 翔太	男性	35	福岡県	久留米市三潞	田中 祐一	男性
15	富山県	上市町	山本 英希	男性	36	熊本県	津奈木町	村上 修司	男性
16	岐阜県	御嵩町	小池 誠治	男性	37	大分県	杵築市	岩尾 雅弘	男性
17	岐阜県	川辺町	木下 宙	男性	38	鹿児島県	天城町	川口 泰樹	男性
18	岐阜県	八百津町	後藤 雅之	男性	39	鹿児島県	南さつま市坊津	現王園仁志	男性
19	静岡県	川根本町本川根	大城 正幸	男性	40	鹿児島県	さつま町	諏訪 隆明	男性
20	静岡県	牧之原市相良	曾根 由多	男性	41	鹿児島県	いちき串木野市串木野	原田 太	男性
21	愛知県	新城市作手	松井 康宏	男性					

【アクア・インストラクター養成研修参加者名簿】

(敬称略)

No.	県名	センター名	氏名	性別	No.	県名	センター名	氏名	性別
1	北海道	苫前町	石田 尚克	男性	20	長野県	下条村	熊谷 優也	男性
2	北海道	斜里町	吉田 結貴	男性	21	長野県	山形村	太田 浩輔	男性
3	青森県	南部町名川	工藤 司	男性	22	静岡県	袋井	罇 拓也	男性
4	岩手県	奥州市前沢	高橋 浩也	男性	23	静岡県	浜松市三ヶ日	白井 寛樹	男性
5	宮城県	蔵王町	佐藤 寛大	男性	24	栃木県	鹿沼市粟野	澁江 隆宏	男性
6	秋田県	男鹿市	大淵 辰臣	男性	25	兵庫県	芦屋	橋本 貴	男性
7	秋田県	三種町八竜	関 公司	男性	26	岡山県	美星	橋本 啓玄	男性
8	茨城県	北茨城市	磯辺 寛人	男性	27	愛媛県	鬼北町広見	楠目 匠	男性
9	茨城県	北茨城市	渡邊 真佑	男性	28	高知県	津野町東津野	戸田 博久	男性
10	栃木県	芳賀町	大高 祐一	男性	29	長崎県	五島市	小倉 正蔵	男性
11	千葉県	成田市	藤崎 達哉	男性	30	長崎県	壱岐市勝本	山田 武範	男性
12	千葉県	大多喜町	鈴木 健司	男性	31	大分県	由布市	浦田 真之	男性
13	千葉県	御宿町	伊藤 大輔	男性	32	大分県	中津市耶馬溪	山本 雄一	男性
14	新潟県	阿賀野市安田	渡辺 哲	男性	33	鹿児島県	阿久根市	川邊 啓一	男性
15	新潟県	燕市	佐藤 雅之	男性	34	鹿児島県	与論町	眞田 量美	女性
16	富山県	南砺市	穴田 啓太	男性	35	沖縄県	本部町	玉村 誠	男性
17	富山県	高岡市福岡	南 可梨	女性	36	沖縄県	名護市	金城 貴乃	女性
18	福井県	勝山市	木下 裕基	男性	37	沖縄県	久米島町仲里	大城 健太	男性
19	福井県	若狭町三方	山田 光基	男性	38	沖縄県	伊江村	並里織璃江	女性

【インストラクター養成研修参加者名簿】

(敬称略)

No.	県名	センター名	氏名	性別	No.	県名	センター名	氏名	性別
1	鹿児島県	与論	光 俊樹	男性	2	島根県	浜田市三隅	出合 翔	男性

9. 平成24年度「B&G全国大会」等参加一覧

ア. 「2012B&G 全国ジュニア水泳競技大会」

No.	道県名 (人数)	海洋センター名	選手合計	No.	道県名 (人数)	海洋センター名	選手合計
1	北海道 (9)	斜里町	9	40	石川県 (29)	白山市鶴来	13
2	青森県 (4)	平川市尾上	3	41		志賀町富来	16
3		六戸町	1	42	静岡県 (10)	袋井市袋井	10
4	福島県 (14)	石川町	3	43	長野県 (2)	松本市波田	2
5		塙町	8	44	岐阜県 (12)	中津川市加子母	2
6		本宮市白沢	3	45		恵那市山岡	6
7		石岡市	4	46		八百津町	4
8	茨城県 (49)	常陸太田市水府	3	47	愛知県 (4)	西尾市一色	4
9		北茨城市	7	48	三重県 (33)	松阪市飯高	2
10		笠間市岩間	14	49		桑名市長島	18
11		かすみがうら市千代田	3	50		大紀町大内山	5
12		行方市玉造	4	51		いなべ市大安	1
13		小美玉市玉里	13	52		志摩市浜島	7
14		五霞町	1	53	滋賀県 (29)	高島市高島	15
15		栃木県 (17)	下野市国分寺	1	54	高島市今津	14
16	さくら市喜連川		1	55	宍粟市波賀	10	
17	芳賀町		13	56	姫路市家島	5	
18	那須塩原市塩原		2	57	香美町香住	2	
19	群馬県 (13)	板倉町	4	58	兵庫県 (70)	猪名川町	8
20		玉村町	2	59	上郡町	16	
21		みなかみ町新治	7	60	南あわじ市南淡	17	
22	埼玉県 (43)	白岡市	7	61	島根県 (13)	神河町神崎	11
23		嵐山町	8	62	豊岡市竹野	1	
24		吉見町	2	63	松江市宍道	6	
25		久喜市栗橋	4	64	浜田市三隅	7	
26		松伏町	13	65	井原市井原	11	
27		鶴ヶ島市	9	66	津山市加茂	4	
28	千葉県 (33)	横芝光町横芝	1	67	岡山県 (28)	鏡野町	11
29		横芝光町光	1	68	赤磐市吉井	1	
30		御宿町	3	69	矢掛町	1	
31		大多喜町	4	70	府中市	6	
32		鋸南町	24	71	広島県 (17)	坂町	7
33	富山県 (43)	高岡市福岡	7	72	呉市蒲刈	4	
34		南砺市福野	2	73	阿南市	1	
35		富山市八尾	13	74	徳島県 (7)	海陽町海南	5
36		氷見市	11	75	牟岐町	1	
37		砺波市	5	76	愛媛県 (9)	愛南町御荘	9
38		上市町	5	77	高知県 (8)	四万十町窪川	8
39	新潟県 (4)	燕市	4	78	福岡県 (8)	朝倉市甘木	8
合計 25 道県連絡協議会				78 海洋センター 508 人			

イ. 「B&G 杯全国少年少女カヌー大会 2012」

No.	海洋センター・海洋クラブ名	県名	人数	No.	海洋センター・海洋クラブ名	県名	人数
1	B&G 香取市小見川海洋クラブ	千葉県	3	7	鳥取ジュニアレーシングカヌークラブ (倉吉市関金 B&G 海洋センター)	鳥取県	5
2	B&G かけはし海洋クラブ	石川県	12	8	B&G 和知ジュニアカヌークラブ	京都府	8
3	上九一色カヌークラブ	山梨県	6	9	八千代カヌークラブ (安芸高田市八千代 B&G 海洋センター)	広島県	1
4	B&G 恵那海洋クラブ	岐阜県	3	10	柳川市大和 B&G 海洋センター	福岡県	1
5	B&G 掛川海洋クラブ	静岡県	1	11	B&G 穂波海洋クラブだいが支部	福岡県	7
6	B&G 家島海洋クラブ	兵庫県	2	12	B&G 真玉海洋クラブ	大分県	3
合計				12 チーム 52 人			

ウ. 「2012B&G OP 級ヨット大会」

東日本大会（開催地：愛知県蒲郡市 海陽ヨットハーバー）

No.	海洋センター・海洋クラブ名	県名	出場クラス別人数			合計
			A	B	C	
1	B&G 掛川海洋クラブ	静岡県			1	1
2	B&G 八百津海洋クラブ	岐阜県			1	1
3	B&G 川辺海洋クラブ	岐阜県			3	3
4	B&G なごや海洋クラブ	愛知県	4	4	5	13
5	B&G 大安海洋クラブ	三重県			1	1
6	B&G 伊丹海洋クラブ	兵庫県		1	2	3
7	B&G 兵庫ジュニア海洋クラブ	兵庫県	2			2
8	B&G 和歌浦海洋クラブ	和歌山県	6	1		7
合 計			12	6	13	31

西日本大会（大分県別府市 北浜ヨットハーバー）

No.	海洋センター・海洋クラブ名	県名	出場クラス別人数			合計
			A	B	C	
1	B&G 兵庫ジュニア海洋クラブ	兵庫県	3	3	1	7
2	B&G 鳥取海洋クラブ	鳥取県	2			2
3	B&G 大島海洋クラブ	山口県	1		1	2
4	B&G 高松海洋クラブ	香川県	5	1	2	8
5	B&G 松山海洋クラブ	愛媛県	1	6	3	10
6	B&G 福岡ジュニアヨット海洋クラブ	福岡県	5	4	1	10
7	B&G 津屋崎海洋クラブ	福岡県		2	6	8
8	B&G ハウステンボス町ジュニア海洋クラブ	長崎県	6			6
9	B&G 虹の松原海洋クラブ	佐賀県	3	0		3
10	B&G 別府海洋クラブ	大分県	5	2	1	8
11	B&G 杵築海洋クラブ	大分県			5	5
12	B&G 釜山海洋クラブ	韓国	3			3
合 計			34	18	20	72

エ. 「全国ウォータースポーツ大会」

第3回全国ウォータースポーツ北日本大会

開催地：石川県 七尾市

No.	県名	参加自治体	参加組数	参加人数
1	新潟県	上越市	1組	2人
2		胎内市	2組	4人
3		阿賀町	1組	2人
4	富山県	富山市	2組	4人
5		南砺市	1組	2人
6		氷見市	2組	4人
7		高岡市	2組	4人
8		小矢部市	1組	2人
9	石川県	七尾市	29組	58人
10		白山市	1組	2人
11		中能登町	6組	12人
合 計			48組	96人

第3回全国ウォータースポーツ南日本大会

開催地：鹿児島県 天城町

No.	県名	参加自治体	参加組数	参加人数
1	熊本県	湯前町	3組	6人
2		玉名市	2組	4人
3		宇城市	2組	4人
4	大分県	佐伯市	5組	10人
5	鹿児島県	奄美市	7組	14人
6		天城町	18組	36人
合 計			48組	74人

10. 平成24年度 海洋センター現況調査地ほか

ア. 海洋センター現況調査地（45ヶ所）

No.	視察先	調査日	調査目的
1	普代村（岩手県）	4月18日・20日	優良海洋センター視察および植生調査
2	与論町（鹿児島県）	4月11日・20日	優良海洋センター視察および植生調査
3	石川町（福島県）	4月25日	プール廃止に係る視察
4	上越市頸城（新潟県）	4月26日	優良海洋センター視察
5	上越市安塚（新潟県）	4月26日	優良海洋センター視察
6	本宮市白沢（福島県）	4月26日	プールの災害修繕申請に係る状況確認
7	松山市中島（愛媛県）	5月11日	優良海洋センター視察
8	掛川市掛川（静岡県）	5月15日	優良海洋センター視察（修繕助成完了確認）
9	袋井市袋井（静岡県）	5月15日	優良海洋センター視察（修繕助成完了確認）
10	美作市作東（岡山県）	5月19日	優良海洋センター視察
11	瀬戸内市長船（岡山県）	5月19日	優良海洋センター視察（修繕助成完了確認）
12	熊本市（熊本県）	5月24日	熊本県連協総会出席
13	朝倉市甘木（福岡県）	5月24日	優良海洋センター視察
14	あさぎり市（熊本県）	5月25日	「評価C」海洋センター運営状況調査
15	湯前町（熊本県）	5月25日	優良海洋センター視察
16	仙台市泉（宮城県）	5月26日	プール休止状況の確認
17	普代村（岩手県）	6月13日・27日	優良海洋センター視察および植生調査
18	大潟村（秋田県）	6月21日・22日	東北ブロック連協幹事会議出席
19	苫前町（北海道）	7月19日	優良海洋センター視察および植生調査
20	宇都宮市（栃木県）	7月21日・22日	関東ブロック連協交流会出席
21	穴水町（石川県）	7月30日	優良海洋センター視察
22	苫前町（北海道）	8月6日	優良海洋センター視察および植生調査
23	徳島市（徳島県）	8月9日	優良海洋センター視察および植生調査
24	美作市作東（岡山県）	8月9日	優良海洋センター視察および植生調査
25	今治市（愛媛県）	8月10日	四国ブロック連協スポーツ交流大会出席
26	徳島市（徳島県）	8月11日・12日	市長表敬訪問、優良海洋センター視察
27	長洲町（熊本県）	8月21日・22日	優良海洋センター視察・南九州ブロック連協スポーツ大会出席
28	徳島市（徳島県）	9月12日	優良海洋センター視察および植生調査
29	美作市作東（岡山県）	9月12日	優良海洋センター視察および植生調査
30	剣淵町（北海道）	10月26日	優良海洋センター視察
31	一関市藤沢（岩手県）	10月30日	優良海洋センター視察
32	一関市東山（岩手県）	10月30日	優良海洋センター視察
33	久万高原町（愛媛県）	10月30日	優良海洋センター視察
34	西条市丹原（愛媛県）	10月30日	優良海洋センター視察
35	越前町朝日（福井県）	11月8日	プール上屋鉄骨撤去の状況確認
36	高岡市福野（富山県）	11月8日	優良海洋センター視察
37	美作市作東（岡山県）	11月8日	優良海洋センター視察（植樹事業確認を含む）
38	大野市（福井県）	11月9日	優良海洋センター視察
39	浜松市天竜（静岡県）	11月15日	優良海洋センター視察
40	浜松市三ヶ日（静岡県）	11月15日	優良海洋センター視察
41	恵那市山岡（岐阜県）	11月15日	優良海洋センター視察・クラブ状況調査
42	野洲市中主（滋賀県）	11月15日	優良海洋センター視察（修繕助成完了確認）
43	大潟村（秋田県）	11月16日・17日	東北ブロック連協交流会出席
44	時津町（長崎県）	11月22日	優良海洋センター視察
45	宇城市三角（熊本県）	11月22日	優良海洋センター視察

イ. 平成 24 年度 修繕助成決定書授与式 (27ヶ所)

※修繕助成金額が 1,000 万円以上となる自治体

No.	実施箇所	実施日	主な出席者
1	四万十町 (高知県)	4月12日	四万十町長、副町長、教育長 他
2	与論町 (鹿児島県)	4月12日	与論町長、副町長、教育長 他
3	香美市 (高知県)	4月13日	香美市長、教育長 他
4	千早赤坂村 (大阪府)	4月18日	千早赤坂村長、副村長、教育長 他
5	香取市 (千葉県)	4月20日	香取市長、副市長、教育長 他
6	玉村町 (群馬県)	4月20日	玉村町長、副町長 他
7	三原市 (広島県)	4月24日	三原市長、教育長 他
8	井原市 (岡山県)	4月25日	井原市長、副市長 他
9	弘前市 (青森県)	4月27日	弘前市長、教育部長 他
10	古平町 (北海道)	5月9日	古平町長、副町長、教育長 他
11	猪名川町 (兵庫県)	5月9日	猪名川町長、副町長、教育部長 他
12	せたな町 (北海道)	5月10日	せたな町、教育長 他
13	愛南町 (愛媛県)	5月11日	愛南町長、副町長、教育長 他
14	今治市 (愛媛県)	5月11日	今治市長、教育長 他
15	高島市 (滋賀県)	5月15日	高島市長、副市長、教育長 他
16	上郡町 (兵庫県)	5月16日	上郡町長 他
17	赤穂市 (岡山県)	5月17日	赤穂市長 他
18	奈義町 (岡山県)	5月17日	奈義町長、副町長、教育長 他
19	日置市 (鹿児島県)	5月23日	日置市長 他
20	川根本町 (静岡県)	5月24日	川根本町長、議会副議長 他
21	松本市 (長野県)	5月31日	松本市長、教育部長 他
22	白馬村 (長野県)	6月1日	白馬村長、副村長、教育長 他
23	久留米市 (福岡県)	6月4日	久留米市長、教育長 他
24	香美町 (兵庫県)	6月7日	香美町長、副町長、教育長 他
25	斜里町 (北海道)	6月18日	斜里町長、副町長、教育長 他
26	大多喜町 (千葉県)	6月27日	大多喜町長、副町長、教育長 他
27	平戸市 (長崎県)	9月3日	平戸市長、教育長 他

ウ. リニューアルオープン式典 (11ヶ所)

No.	実施箇所	実施日	主な出席者
1	那須烏山市南那須 (栃木県)	5月12日	H23通常修繕・那須烏山市長、教育長、市議会議員、中村真衣氏他
2	瀬戸内市長船 (岡山県)	6月19日	H23通常修繕・瀬戸内市長、教育長 他
3	野洲市中主 (滋賀県)	6月23日	H23通常修繕・野洲市長、教育長、市議会議員、中村真衣氏他
4	牟岐町 (徳島県)	7月6日	H23通常修繕・牟岐町長、教育長、町議会議員、源 純夏氏他
5	本宮市白沢 (福島県)	7月24日	H24災害修繕・本宮市長、教育長、市議会副議長、中村真衣氏他
6	白馬村 (長野県)	7月25日	H24通常修繕・白馬村長、教育長 他
7	四万十町窪川 (高知県)	11月18日	H23通常修繕・四万十町長、教育長、町議会議員、朝日健太郎氏他
8	玉村町 (群馬県)	3月2日	H24通常修繕・玉村町長、副町長、教育長、町議会議員、中村真衣氏他
9	愛南町御荘 (愛媛県)	3月2日	H24通常修繕・愛南町長、副町長、教育長、町議会議員 他
10	日置市東市来 (鹿児島県)	3月10日	H24通常修繕・日置市長、副市長、教育長 他
11	弘前市 (青森県)	3月23日	H24通常修繕・弘前市長、副市長、教育長 他

■ サミット

◎ 読売新聞（'13.02.01）

震災復興（テーマ）
サミットに600人
マリンスポーツなどを通じて青少年らの健全育成を支援するブルーシー・アンド・グリーンランド（B&G）財団は31日、東京都港区で「第5回B&G全国サミット」を開いた。45道府県の334自治体から首長ら約600人が参加。東日本大震災の被災自治体の首長らが復興に向けた取り組みなどを報告した。

津波被害を受けた岩手県洋野町の日当博治副町長は「忌まわしい大震災に屈することなく、豊かな地域づくりのため復興していく」と決意を述べた。原発事故からの復興を目指す福島県本宮市の高松義行市長は、全国の自治体が福島県からの避難者を受け入れていることに謝意を表明し、「安心して暮らせる町として再生するため、復興に向けて全力で取り組む。福島はまだまだ元気だ」と語った。

■ 災害応援協定

B&G財団 小野、柳津、塙、石川
施設設置

4町が災害時応援協定



（柳津町・塙町・石川町・小野町）災害時における相互応援に関する協定調印式

相互に避難先確保

ブルーシー・アンド・グリーンランド（B&G）財団の海洋センターなどが立地する小野、柳津、塙、石川四町は五日、災害時の相互応援協定を締結した。

小野町役場で行われた調印式に四町の町長が出席。協定書に署名し、取り交わした。穴戸良三小野、井関庄一柳津、菊池基文塙、加納武夫石川の各町長、財団の広渡英治理事長

調印式に臨んだ（左から）菊池、井関、広渡、穴戸、加納の各氏

調印式に出席した（左から）小野町長、柳津町長、塙町長、石川町長、B&G財団の広渡英治理事長

調印式に出席した（左から）小野町長、柳津町長、塙町長、石川町長、B&G財団の広渡英治理事長

調印式に出席した（左から）小野町長、柳津町長、塙町長、石川町長、B&G財団の広渡英治理事長

◎ 福島民報（'13.03.07）

第5回B&G全国サミット開く

全国の首長が一堂に

復興と地域の活性化めざす

ブルーシー・アンド・グリーンランド財団（B&G財団）が主催する「第5回B&G全国サミット」が31日、東京都港区の笹川記念館において開かれた。全国の自治体から首長ら約600人が参加した。B&G財団の代表として、冒頭、笹川会長は「冒頭、笹川会長は主催者を代表して、「二昨課題となっている。当財団は今年創立40周年を迎える。「スポーツ・健康・人づくりのため、引き続き」理解と協力を賜りたい」と挨拶。続いて、日本の笹川陽平会長が最近の中間の問題な



笹川会長

り、津波の怖さや避難方法など、過去の学習が喫緊の課題となっている。当財団は今年創立40周年を迎える。「スポーツ・健康・人づくりのため、引き続き」理解と協力を賜りたい」と挨拶。続いて、日本の笹川陽平会長が最近の中間の問題な



第5回B&G全国サミット

1. 海洋センターとの連携
1. 施設の運営と管理
1. 積極的な事業の推進
1. 情報・ノウハウの共有
1. 「水の事故ゼロ運動」の推進
1. 「東日本大震災」の復興・復興

（岩手県洋野町・水上町長）▽「震災からの復興への道」（福島県本宮市・高松市長）▽「新しい里創生によるまちづくり」（三重県志摩市・大口市長）▽「海洋性スポーツの普及振興とポートピアの基金を活用した地域の活性化」（長崎県時津市長・吉田町長）の報告

大村選手には同財団から功労者表彰が贈られた。



大村さん（右）

（岩手県洋野町・水上町長）▽「震災からの復興への道」（福島県本宮市・高松市長）▽「新しい里創生によるまちづくり」（三重県志摩市・大口市長）▽「海洋性スポーツの普及振興とポートピアの基金を活用した地域の活性化」（長崎県時津市長・吉田町長）の報告

大村選手には同財団から功労者表彰が贈られた。

続いて第5回「B&G全国サミット」共同宣言「海洋センターとの連携、施設の運営と管理、積極的な事業の推進、情報・ノウハウの共有、「水の事故ゼロ運動」の推進、「東日本大震災」の復興・復興」を確認した。

議事終了後はB&G広

◎ 海上の友（'13.02.11）

■ 修繕助成

◎ 福島民友 ('12.05.25)

海洋センターの
修繕費用を助成

本宮市にB&G財団

ブルーシー・アンド・グリーンアイランド(B&G)財団は、上屋付きプールの本宮市白沢B&G海洋センターの修繕費用1999万円のうち、災害復旧修繕と



高松市長に通知書を手渡し
広渡理事長

して1390万円を助成した。同財団の広渡英治理事長は16日、東京で高松義行本宮市長に助成決定通知書を手渡した。

本宮市は昨年、震災で学校のプールが壊れ、原発事故の影響で、市内小、中学校の水泳授業を市内の屋内プールで行ってきた。本年度も一部学校は引き続き屋内プールを利用するため、同センタープールの改修工事を行う。同センターは1993(平成5)年から利用しているが、老朽化して補修が必要だった。

◎ 読売新聞 ('12.07.26)

指導者メダリスト
水泳教室中村さん



本宮市の屋内プール「白沢B&G海洋センター」が改修工事を終えて再オープンし、24日、記念にシドニー五輪水泳メダリストの中村真衣さん(33)による水泳教室が行われた。写真。市内の小学生約30人が参加、約1時間、バタ足などの基礎から指導を受けた。同市立和田小6年、石橋優衣さん(11)は「すごい人なのに、教え方が丁寧で優しい。おかげで上達したと思う」と話していた。中村さんは「大変な時期ですが、子供たちには、どんどん泳いで元気になってほしい」と話した。

中村さんは、シドニー五輪女子100メートル背泳ぎで銀メダル、同400メートルフリーで銅メダルを獲得。新潟県長岡市出身で、8年前の中越地震で被災し

◎ 静岡新聞 ('12.05.25)

町営プール修繕
2120万円を助成

川根本町にB&G財団

川根本町営の体育施設「町本川根B&G海洋センター」(同町東藤川)のプールの修繕費として、東京都ブルーシー・アンド・グリーンランド(B&G)財団は同町に、2120万円を助成する。24



大島常務理事(中央)から決定書を受け取った佐藤町長(左)＝川根本町役場

日、同町役場で助成決定書授与式を行った。財団の大島康雄常務理事が、佐藤公敏町長に決定書を手渡した。センターは財団が1983年に建設し、87年から今年1月に約4千万円をかけて全面改修する。

知・徳・体

バランスとれた教育を

第9回 B & G 全国教育長会議

「B & G 海洋センター」をテーマに、44名の教育者を含む83名の教育関係者が参加した。

会議では、明星大学の高橋史朗教授が「内向き思考の日本人」というタイトルの講演を行った。高橋教授は、道徳心をつかさどる脳の部分の成長には臨界期があるという研究結果があり、臨界期までに自己抑制力を身につけられないことが、現在のいじめの原因のひとつであるとし、「脳科学の研究」に裏付けられた適切な教育が必要」と話した。

今回は、「子どもたちに今、求められる力」を知育・徳育・体育、バランスのとれた教育から」と話した。

また、自由討議「体罰を考える」では、学校現場やスポーツ指導における体罰について、全教育長が討議。B & G 全国教育長会議の池澤進会長（栃木県那須烏山市教育委員会教育長）が、「教育者や保護者が同じ土俵に立つて、教育の理念、体罰の定義を検討する時期が来たと思う。全国一斉調査の結果を生かして、暴力による教育の根絶を目指す」と締めくくった。

続く総会では、地域と学校の連携強化や海洋性レクリエーション事業の推進、親子・家族の絆の推進などを謳った「B & G プランを推進する提言」が採択され、閉会した。

ペットボトル あなたの身近な 救助隊！

須郷さん(美幌小5年) 全国最優秀



「水の事故ゼロ運動」標語

【美幌】水難事故死の撲滅を目指す「水の事故ゼロ運動」標語のコンクールで、旭小5年の須郷美聖さん(11)の作品が全国2

訓練体験から発想

作品は「ペットボトルの浮力があるという。あなたの身近な救助隊！」。ふたを閉めた2リットの空きペットボトルは、大人1人を使った救命訓練に取り入れれば呼吸できるだけの体験から作品が思いついた。

作品は「ペットボトルの浮力があるという。あなたの身近な救助隊！」。ふたを閉めた2リットの空きペットボトルは、大人1人を使った救命訓練に取り入れれば呼吸できるだけの体験から作品が思いついた。

生を対象に募集し、2月末に審査結果を発表した。WSNは、ペットボトルが命を救う、という知恵が世の中に広がる作品と絶賛している。今後、同団体のホームページからダウンロードできるカレンダーに掲載するなどして、活用するという。須郷さんは「少年団のメンバー全員が、コンクールに応募するから、標語をつくった。ペットボトルが役に立つことをぜひ知ってほしい」と話している。ペットボトルが水の事故から命を救うことを簡潔にうたった標語で最優秀賞を受賞した須郷さん

491点の応募の中で最優秀賞を受賞した。須郷さんは「川などで溺れて亡くなる事故をニュースで知り、心が痛んでいた。入賞は考えてもいなかったと驚いている。(大口弘明)

未来の普代へ命の森



自然災害から普代小を守る森を育てようと、一生懸命に植樹に取り組む子どもたち

普代村は7日、同村学園の普代小で植樹祭を行った。公益財団法人B&G財団が進める海を守る植樹教育事業の一環で、自然災害から同校を守る森をこころ、園内外で植樹・森林再生活動を行っている横浜国立大名誉教授の宮脇昭さん(84)の指導で、参加者約300人が普代の未来につながる森づくりに取り組んだ。

津波に備え 1880本植樹

1880本の苗木を植樹した。植樹後、苗を保護するための開闢なぐらを敷き詰めた。普代中の大田倫太郎君(2年)は「未来の人の役に立つてくれればいい」と思いながら植えた。津波災害にも強い森になってほしい」と願った。植樹教育事業は全国約20カ所で育苗を実施しており、実際の植樹は普代村が初めて。宮脇さんは「この森はいつか必ず来る津波から命を守り、木材として地域経済とも共生する森になる。森づくりのノウハウを手に世界に発信したい」と語った。

海の環境 守るのは森

苦前の川沿い 386本を植樹

【苫前】古丹別川沿いの自然観察空間、水辺の楽校で9月22日、「海を守る植樹教育事業」が行われ、小学生から大人まで約140人がミスナラなどの苗木を植えた。(小塚由記夫)

海の環境を守る森の役割を学ぶことを目的に、スコップで穴を掘り、ポットから取り出した苗木を、グリーンランド財団などが共催した。植樹したのは、ミスナラやイタヤカエデ、ヤチダモ、ハルニシなど14種類を願っていた。



丁寧に苗木を植える参加者

児童、大人ら140人 ■「長生きを」

苗木を植える子どもたち(徳島市で)



自生種の森育てよう 植樹祭

小学生ら苗木

徳島に自生する木々を植えて、森になるように育てようと、徳島市論田町の市立青少年交流プラザで25日、「植樹祭」(徳島市体育振興公社主催)が開かれ、親子連れら約120人が参加した。植樹されたのは、眉山などに生える「アラカシ」35本や徳島市の木に制定されている「ホルトノキ」25本など計19種類600本。参加した地元の小学生ドッジボールチームやその保護者らは、約200平方メートルの範囲に約1時間かけて苗木を植えていった。

同市北田宮の市千松小5年大石明日香さん(10)は「大人になってから、今日植えた木がどのように成長したか見に来たい」と笑顔を見せていた。

子供たち 春のクルーズ体験



春休みの子供たちが洋上での生活を通し、海や船などを学ぶ「B&G体験クルーズ」（B&G財団主催）を実施した客船「ふじ丸」が30日、中央区の晴海埠頭に入港、小笠原諸島を巡る6日間の日程を終えた。同クルーズは昭和51年、「体験航海」として始まり、これまで5万8千人が乗船しているが、「ふじ丸」の廃船に伴い、今回が最後のクルーズとなった。

春休みの子供たちが洋上から招待された14人を含む全国の小学4年生から中学生までの488人。寄港した父島では、シュノーケルやシーカヤック体験、写真、ホエールウォッチングなど、世界自然遺産に登録された美しい海で、一足早い東京の夏を楽しんだ。

高松市から参加した小学4年、平池哉太君は「海がすくすくきれいで住みたくなかった。北海道の友達もできたら、機会があればまた参加したい」と話していた。

子どもたちが急速に成長 航海を終える

小笠原「体験クルーズ」

海洋レクリエーションクルーズが、3月25日を通じた子どもの健全育成を目指すB&G財団に

から30日にかけて、東京・晴海埠頭と小笠原諸島康さんの寄稿してくれ

よる平成24年度の「体験父島との往復5泊6日間

の航海として実施された。同クルーズはこれが最終。往復約2千キロにおよぶ航海での共同生活を経て大きく成長していく様子を、同行した日本財団広報チームの宇田川貴康さんが寄稿してくれ



美しい海でカヌー体験

けを重視している。船酔い気味の状況でエチケツト袋を手に団長や船長の講話を必死に聞く子どもの姿は印象的だ。

クルーズの復路では、子どもたちが成長した姿を目にすることができた。部屋内では互いに声をかけあいながら、次の行動や忘れものなどを確認する思いやりの姿も見られるようになった。

「体験クルーズ」は、昭和53年にスタートした前身の事業「少年の船」以来、37年間にわたって継続されてきたもの。子どもたちに船内や島での各種体験活動などの機会を提供し、海、船、海洋環境に対する認識を深めるとともに、集団生活による社会性の育成などを目指す。これまでに延べ5万8千人以上の小・中学生らが参加している。

ラストクルーズには、全国から小・中学生476人が参加。平成元年の就航以来、利用されてきた客船「ふじ丸」が6月に引退する中で、小笠原への体験クルーズとして最終航海となった。

出港地の晴海埠頭から寄港地の小笠原諸島父島までは約1日半。航海中は船内でイルカやクジラなど海洋生物の生態に関する講座や、デッキから東京湾やアホドリが生息する島島などの観察学習なども行った。父島ではカヌーやホエールウォッチング、シュノーケリングにトレッキングなど、「東洋のガラパゴス」として特殊な生態系を持つ小笠原諸島の大自然に守って行動できるように触れ、多くを学んだ。

子どもたちに、日常生活で得られない自然体験の機会を提供するのが目的だが、教育研修事業として、集団生活上のルール指導なども大事にしている。船上、島での活動時の時間厳守は徹底され、集合に1分でも遅れると厳しい指導が行われる。重度の場合を除き、子どもが船酔しても全プログラムに参加させるなど、単なるエコツアーズとは異なる研修としての位置付けを再認識できた。

最終日の朝の集いでは全員が5分前に集合。5泊6日の集団生活を通して、子どもたちは規律を守って行動できるようになった。逃げ場のない洋上に監視の目が行き届いた船内。こうした「甘えが一切許されない」環境が、子どもたちの急速な成長に一役買っていたようだ。

圧倒的な大自然の中でアクティビティと洋上での研修。2つの貴重な体験を通して、多くの子どもたちを心身両面で成長させてきたクルーズの意義を、今回の同行で再認識できた。

風つかめ 海原に汗



風を受け、コース取りでせめぎ合う選手たち―蒲郡市沖の三河湾で

蒲郡 子どもヨット東日本大会

子どもたちが一人乗り小型ヨットで競つ「B&G」OP級ヨット大会(東日本大会)が十四、十五の両日、蒲郡市の海陽ヨットハーバー周辺であった。OP級は「オープンミスト・インギー」と呼ばれる全長二・三呎の小型艇を使い、ヨットの入門編に位置付けられている。一部開元を含む中学生までの選手九十七人が複数回のレースに挑み、着順ポイント制で競った。

十五日は蒸し暑い天候の中、子どもたちは風を読み、懸命に帆と舵を操っていた。

上級者のAクラスの上位入賞者は、八月に神奈川県で開かれる吉田のOP級セーリング選手権大会に出場する。

(細井卓也)

◇上位成績者 Aクラス ①木曾源(江の島ヨットクラブジュニア) ②倉橋直輝(海陽海洋クラブ) ③玉山裕登(丸玉セーリングクラブ) V Bクラス ①大西海斗(三重県ヨット連盟ジュニアヨットクラブ) ②山田大夢(海陽海洋クラブ) ③須田英実子(琵琶湖ジュニアヨットクラブ) V Cクラス ①須田智也(琵琶湖ジュニアヨットクラブ) ②岡田爽良(横浜市民YHYC) ③蜂須賀啓介(B&Gなちや海洋クラブ) 伊藤誠雪(琵琶湖ジュニアヨットクラブ)



「B&G杯全国少年少女カヌー大会2012」(日本カヌー連盟、フルシー・アンド・グリーンランド財団主催)が28、29の両日、富士河口湖町の精進湖で開かれている。写真。

県内外のカヌークラブ32団体から122人の小学生が出場。200分のタイムを競うカヤックのシングルとペアなど、男女別の10種目で熱戦を繰り広げている。選手は湖畔から力いっぱいパドルを動か

カヌー10種目で小学生122人熱戦 精進湖で全国大会開幕

していた。28日は各種目の予選、29日は決勝を行う。

◆ジュニア水泳兵庫連覇

海で水泳などに取り組む子供たちが参加する「B&G全国ジュニア水泳競技大会」(ブルーシー・アンド・グリーンランド財団主催、読売新聞東京本社など後援)が18日、東京都江東区の東京辰巳国際水泳場で開かれた。13回目の今回は25道県から小中学生508人が出場。個人やリレーなど30種目で競技が行われ、16の大会新記録が生まれ、道県対抗では、男子が兵庫、女子は埼玉が優勝。男女総合は2年連続で兵庫が制した。大会の合間には、シドニー五輪女子100分背泳ぎ銀メダリスト中村真衣さん(33)が講師になり、ダイナミックな泳ぎを披露、子供たちが熱心に見入った。



持田さん(左)が子どもたちを指導する様子

目指せ金メダル

元五輪選手カヌー指導 飯塚の児童らスキルアップ

飯塚市の市立大分小と市立筑穂中の児童、生徒を中心とした「飯塚たいふカヌークラブ」のメンバーが20人が24、25日、同小近くの池などで、カヌーのアドラント五輪元日本代表選手持田の指導を受けた。

同クラブなどの小学1年〜中学3年の15人、皆川正吉監督(76)らコーチ陣5人が参加した。ため池で行われた実技講習では、持田さんが「右肩を上げて、パドルを抜く時は早く」「背中の筋肉も使って」などとアドバイス。子どもたちのパドルさばきを撮影したビデオを使って、個別の課題

も指摘した。同クラブの選手らは、財団が主催した7月の全国大会で、個人戦や団体戦を制した。五輪選手を輩出することが目標で、皆川監督は「フォーム改造などのハイレベルな指導や指導上の理論が参考になった。子どもたちと一緒に、さら上のレベルを目指したい」と話していた。

「世界の泳ぎ」学ぶ

小中学生メダリストらから

「泳ぎの五輪メダリスト1人キャンプ(家島)」が指導する水泳教室B&G海洋センター(2012 B&Gドリ)が、このほど、姫路市家島町真備であった。県内の小中学生37人が2日間わたって「世界の泳ぎ」を学んだ。教室は海洋スポーツの選手育成を目的に、B&G財団(東京都港区)が毎年開催。今年は兵庫県が会場となった。シドニー五輪競泳女子100メートル泳ぎメダリストの中村真衣さんら人が指導に訪れた。

プールでは、中村さんがキックやターンなど技術を手ほどき。実際に泳いで見せ、小中学生らは歓声を上げていた。また、講義では中村さんが「泳ぎは、中村さんが挫折を乗り越えて夢をつかんだ自らの経験



中村さん(中央)から指導を受ける子どもたち=姫路市家島B&G海洋センター(同センター提供)

セーリングの技 小中生に

松山 五輪代表コーチが指導



①風をつかみ練習に取り組む選手②練習を見守る小松一憲コーチ③2日、堀江海岸沖

ロンドン五輪セーリング日本代表の小松一憲(64)が小中学生選手を指導する「ドリームキャンプ」(B&G財団主催)が1、2の両日、松山市の堀江海岸であった。キャンプには、B&G松山海洋クラブなどに所属する約20人が参加。日は微風の中、レ

感じ。みんなと海に出るのが楽しいと思えるように指導してほしい」と期待していた。7月のOP級西日本大会Bクラスで優勝した中川晃君(10)は「西条市神拝小5年」は「微風での乗り方やスタートの仕方が分かった。支援者がいて、いい選手が出てくるムードを

の大槻多恵美さん(10)は「セーリングを傾ける角度を教えてもらった。楽しみながら競技を続

けたい」と、笑顔を見せた。(酒井俊宏)

(大森 武)

B&G全国指導者会
活動方針・活動目標
(平成25年～平成27年)

活動方針

未来を担う子どもたちのために“育てよう生きる力” “とどけよう笑顔と元気”

B&G全国指導者会会員は、「未来を担う子どもたちのために」を基軸とし、“育てよう生きる力” “とどけよう笑顔と元気”の行動指針のもと、指導者としての経験や高度な技術、指導力を活かし、日本全国での「自然体験活動」や「水辺の安全教育」の推進、未来を担う子どもたちのために“育てよう生きる力” “とどけよう笑顔と元気”の実現に向け、会員が一致団結し、青少年の健全育成に努めることを活動方針とする。

活動目標

1. 組織力の強化・地域社会との連携

- 全国指導者会の組織基盤を確立し、B&G地域指導者会の100%設置を達成する
- 地域との連携を強化し、地域住民の健康づくりに貢献する

2. 生きる力を育てる自然体験活動等のさらなる実践

- 自然や水とふれあう中から、子どもたちに生きる力を気付かせる
- 自然体験活動等や水辺の安全教育を通じて、親子等の交流の場を提供する

3. 海洋センター等の有効活用・活動の活性化

- 海洋センターを始めとする施設を活用し、利用者拡大、活動を活性化させる

4. 指導者の資質向上

- 最新技術や知識を常に取り入れるアンテナを持ち、自己研鑽に励む
- レベルアップ研修会等を活用し、指導力を向上させ、実践に活かす

5. 指導者会の情報ネットワーク構築

- B&Gと連携し、より強固な指導者会の情報ネットワークを築く

6. 有益な情報発信と活動の周知

- 会報「かわら版」を発行し、メディア・会員等に有益な情報を発信する
- 各種媒体を使い、全国指導者会・B&G指導員の活動を周知する

7. 全国指導者会シンボルマークの普及と活用

- 新たに決まったシンボルマークを有効活用し、普及に努める

第9回「B&G全国教育長会議」の提言

昨年に引き続き、東日本大震災の復旧・復興に向け、一致団結して協力することが出席者一同の拍手により承認された。

「B&Gプランを推進する提言」

1. 自然体験を実践する「指導員の養成」と「B&G指導者会の設立」

環境教育も指導できる「B&G指導員」を積極的に養成し、また、多くの人材・指導者を必要とする自然体験活動を促進するため「B&G指導者会」設立を推進しよう。

1. 地域と学校との連携強化

地域の自然や、子供たちの知性と感性を育む、学校と連携した事業や、B&Gプール・学校プールで、安全教育「着衣泳」「カヌー・ヨット教室」を推進しよう。

1. 海洋性レクリエーション事業の推進

海洋基本法にも謳われている「国民の海洋への理解促進」に繋がる海洋性レクリエーション事業の推進のため、海・自然の体験、集団生活から自立心や協調性を学ぶ体験事業へ積極的に参加しよう。

1. 親子・家族の絆の推進

自然に親しみ親と子が共に汗をかき、協力して達成感を得る“親子ふれあいキャンプ”など、親と子の絆を深める事業を推進しよう。

1. 海洋センター・クラブの活用

自然体験活動、安全教育などを実践する拠点である、「海洋センター・海洋クラブ」を活用し、子供や地域の住民が参加できるように、活動を積極的に支援しよう。

1. 「水の事故ゼロ運動」の推進

日本全国での“自然体験活動”と“水の安全教育”の更なる推進のため、市町村が一致団結し、未来を担う青少年の健全育成に努める。

2013年2月15日

第9回 B&G全国教育長会議」

B&G財団は、全国の海洋センター所在市町村、B&G海洋センター・B&G海洋クラブ
B&G指導者会 とのネットワークを活用して青少年の健全育成、幼児から高齢者まで
地域住民の皆様の健康づくりに取り組んでいます。



第5回「B&G全国サミット」共同宣言

1. 海洋センターとの連携

B&G財団と全国 392 市町村との連携をさらに深め、一丸となって“B&Gプラン”
＝スポーツ・健康・人づくり＝を推進する。

1. 施設の運営と管理

市町村合併の有無にかかわらず、今後も“B&Gプラン”の趣旨に則り、全ての施設
について善良なる維持・管理に努め、運営にあたっては“B&G指導員”を適切に配
置する。また、その推進のため“B&G指導者会”を設立し、その活用を図る。

1. 積極的な事業の推進

“B&Gプラン”の理念を再認識するとともに、B&G財団が実施する新たなソフト事業
を最大限に活用し、青少年の健全育成と地域住民の健康づくりを積極的に推進する。

1. 情報・ノウハウの共有

海洋センターの情報・ノウハウを共有し、コンパスと人的ネットワーク、そしてブロッ
ク連絡協議会を通じて地域交流の促進、及び地域海洋センターの活性化を図る。

1. 「水の事故ゼロ運動」の推進

日本全国での“自然体験活動”と“水の安全教育”の更なる推進のため、市町村長
が一致団結し、未来を担う青少年の健全育成に努める。

1. 「東日本大震災」の復旧・復興

日本一の「健康・人づくり」のネットワークを活用し、今後とも各種の支援活動を継
続するとともに、B&G「日本元気復活事業」などを通じ、被災地に元気と希望を
提供する。

2013年1月31日

海洋センター所在市町村長一同

平成24年度 B&G財団 活動実績報告書

発行日: 平成25年7月1日 2,200

編集・制作: 公益財団法人 ブルーシー・アンド・グリーンランド財団

〒105-8480 東京都港区虎ノ門3-4-10 虎ノ門35森ビル9F

TEL 03-6402-5310(代表) FAX 03-6402-5315

URL. <http://www.bgf.or.jp/>